RasterLink Pro 5 IP

ソフトウェア RIP

ラスターリンクプロ 5 IP

リファレンスガイド

UJF シリーズ編
JF シリーズ編
JFX シリーズ編

UV インクジェットプリンタ "UJF シリーズ"、"JF シリーズ"、"JFX シリーズ" 用の RasterLinkPro5 IP の機能について説明しています。

株式会社ミマキエンジニアリング

Version 2.0
D202034-20

マニュアルの種類と使い方

本装置には、次の説明書が付属しています。

インストールガイド

RasterLinkPro5 SG/RasterLinkPro5 IP/RasterLinkPro5 TA のインストール方法と RasterLinkPro5 の設定方法を説明します。

ネットワーク接続ガイド

RasterLinkPro5 へネットワーク接続するための設定方法を説明します。(マニュアル CD に PDF で保存されています)

リファレンスガイド

プリンタ共通編と各プリンタ編に分かれて機能および操作方法など、RasterLinkPro5 SG/RasterLinkPro5 IP/RasterLinkPro5 TA を使用していく上で必要な設定項目について説明しています。

お使いのプリンタに合わせたリファレンスガイドをお読みください。(マニュアル CD に PDF で保存されています)

今読んでいる取扱説明書です。

ファームウェアアップデート取扱説明書

ミマキ製プリンタのファームウェアをアップデートするソフトウェア使用方法について説明します。
(マニュアル CD に PDF で保存されています)

ご注意

- 本書の一部、または全部を無断で記載したり、複写することは固くお断りいたします。
- 本書の内容に関しまして、将来予告無しに変更することがあります。
- 本ソフトウェアの改良変更等により、仕様面において本書の記載事項とが一部異なる場合があります。ご了承ください。
- 本ソフトウェアを他のディスクにコピーしたり（バックアップを目的とする場合を除く）、実行する以外の目的でメモリにロードすることを固く禁じます。
- 株式会社ミマキエンジニアリングの保証規定に定めるものを除き、本製品の使用または使用不能から生ずるいかなる損害（逸失利益、間接損害、特別損害またはその他の金銭的損害を含み、これらに限定しない）に関して一切の責任を負わないものとします。また、株式会社ミマキエンジニアリングに損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。一例として、本製品を使用してのメディア（ワーク）等の損失、メディアを使用して作成された物によって生じた間接的な損失等の責任負担もしないものとします。

Adobe, Adobe ロゴ , Photoshop, Illustrator および PostScript は、アドビシステムズ社の商標です。

Apple, Macintosh, Power Macintosh, Mac OS, Mac OSX は , Apple, Inc, の登録商標です。

Microsoft, Windows, Windows 2000, Windows XP, Windows Vista , Windows 7, Windows 8, Windows 8.1 は、Microsoft Corporation の米国ならびにその他の国での登録商標または商標です。

本書で記載する「カラーコレクション」の DIC カラーは、DIC カラーガイドに基づくデータで作成しました。DIC 及び DIC カラーガイドは大日本インキ化学工業株式会社の登録商標です。

PC MACLAN は Miramar Systems, Inc. の米国における登録商標です。

使用されているすべての Corel の商標は、カナダ、アメリカ合衆国およびその他の国の Corel Corporation およびその関連会社の商標または登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、および商品名は、各社の商標または登録商標です。

この取扱説明書について

本書は、UV Inkjet Printer UJF シリーズ、JF シリーズ、JFX シリーズに作図するための “RasterLinkPro5 IP” の取り扱いについて説明しています。

本文中の表記について

メニューに表示される項目は、“ フルカラー ” のように “” で囲っています。
ダイアログに表示されているボタンは、設定終了 のように □ で囲っています。

マークについて

(重要!) 操作を行う上で、注意する点を説明しています。

知っていると便利な事について説明しています。

関連した内容の参照ページを示しています。

用語について

ジョブ : RasterLinkPro5 IP が取り扱う印刷ファイルのことを “ ジョブ ” と称します。
Adobe Illustrator などのアプリケーションソフトウェアから出力した各種フォーマットの入力データを RasterLinkPro5 IP にスプールすると RasterLinkPro5 IP に登録され、ジョブになります。

幅： RasterLinkPro5 IP の設定画面で表示する “ 幅 ” とは、プリンタのヘッドが動く方向（Y 方向）を指します。

送り： RasterLinkPro5 IP の設定画面で表示する “ 送り ” とは、プリンタのテーブルが動く方向（X 方向）を指します。

目　次

マニュアルの種類と使い方 2

ご注意 3

この取扱説明書について 4

本文中の表記について 4
マークについて 4
用語について 4

ジョブの編集 10

画像編集 10

画像編集画面 10
サムネイルリスト 11
複数ジョブの入れ替え 12
レイアウトプレビュー 13
画像を拡大 / 縮小する（スケール） 14
倍率を指定して拡大／縮小して印刷 14
画像のサイズを指定して拡大／縮小して印刷 15
画像の幅方向と送り方向の比率を変えて印刷 15
印刷データの向きを変えて印刷（回転） 16
ミラー印刷（ミラー） 17
メディア上の任意の位置に印刷（移動） 18
数値を指定して移動する 18
マウスで自由な位置に配置 18
キーボードによる画像の移動 19
印刷データを複数印刷（コピー） 20
コピー間隔 21
余白指定 21
ピッチ指定 21
配置方法とネストの関係について 22
トリミング印刷（トリミング） 23
カットラインを印刷する（カットライン） 24
トンボを印刷する 25
印刷時に位置合わせをする（トンボ : UJF-605C） 26
トンボの位置を取得する 26
トンボを基準位置に配置する 27
パネリング印刷（パネリング） 28
印刷情報ラベル印刷 30

タイリング編集 31
タイリング印刷の流れ 32
タイリング設定画面 33
タイリングプレビュー 34
レイアウト設定画面 35
レイアウトプレビュー 35
タイル設定の前に画像編集をする 36
ワークの設定をする 37
ワークサイズの設定 37
ワークの移動 38
タイルを分割する 39
タイルを等間隔に分割する 39
タイルの間隔を個別に指定する 40
タイルの分割間隔を調整する 41
キーボードによる分割位置の微調整 42
タイルのオプションを設定する 44
タイルの重ね代を設定する 44
重なり部分のマーク（コーナーマーク）を設定する 46
画像の境界線を印刷（分割線を点線で印刷） 47
タイルごとにタイル番号を印刷（タイル番号印刷） 48
タイルのカット線を印刷（カットライン印刷） 49
タイルの印刷順序を設定する 50
タイルを順次印刷する 50
印刷するタイルを自由に指定する 51
タイルをレイアウトする 53
偶数列を反転させる 53
任意の場所に配置する 54
メディアの中央に配置する 55
タイルを自由な位置に移動する 56
タイリング設定の終了 57
タイルを印刷する 58
複数のジョブを一度に印刷する（グループ化） 60
面付け 60
合成 60
面付けの指定方法 61
“ ジョブ一覧 ” 上で面付けする 61
ジョブの編集中に面付けするジョブを追加する 63
面付けの解除 65
面付けジョブ編集中の面付け解除 66
面付けに固有の機能（配置 － 整列） 67
画像を整列する（画像が複数ある場合） 67
画像を整列する（画像が 1 つの場合） 68
合成の指定方法 69
合成した複数ジョブの出力順設定 70
合成に固有の機能 71
画像を重ね合わせる (整列) 71
UJF-706/3042(FX)/3042HG で複数のジョブを合成印刷する場合 73

カラー編集 78

カラーマッチングの設定を行う 78
カラー調整を編集する 80
カラー調整セットを作成する 81
カラー調整セットを削除する 82
カラー調整セットを更新する 82
インク濃度の調整 83
　全てのインク濃度を調整する 83
　イラスト部分、イメージ部分のインク濃度を調整する 84
より詳細にカラー調整をするには（インクカーブ）........ 85
　バージョン 1.0、2.0 のデバイスプロファイル 85
　バージョン 3.0 のデバイスプロファイル 86
インクカーブを調整する 87
キーボードによるインクカーブの設定 90
K-CMY 比率調整 92

色置換 93

色置換の方法 93
　スポットカラー名に対して色置換する 93
　CMYK に対して色置換する 94
　グラデーションに対して色置換する 94
　CMYK どれか 1 色を複数のインクへ色置換する 94
色置換画像の作成方法 95
　色置換可能な画像の条件 95
　スポットカラーの作成 95
色置換画面 98
　スポットカラー 98
　グラデーション 100
　単色 101
色置換セットの作成 102
色置換セットの更新 103
色置換セットの選択 104
色置換セットの削除 104
スポットカラー・CMYK カラーの置換 105
　置換する元の色を指定 105
　置換する元の色の選択を解除 105
　置換後のインク情報の作成 106
　置換後のインク情報の削除 110
表示の切り替え 111
　置換情報一覧 111
　プレビュー 112
　スウォッチライブラリを作成する 112
グラデーション置換をするには 113
　色置換できるグラデーションの制約 113
　グラデーション置換の設定 114
単色の置換 115

原稿の色を取得する（色取得）.. 116
色取得の流れ 116
色取得 117
クリアコートを色置換で使うには.. 120
カラーコレクション.. 121
DIC カラーガイドに近似させて印刷する...................................... 121
PANTONE カラーチップに近似させて印刷する.................................. 126
PANTONE カラーコレクション.. 131
特色調整 132
ハイライト部を特色で強調する... 132
特色版を自動的に作成する（自動特色版合成）.................................. 134
自動特色版合成例 135
合成順例 135
クリア版を自動的に作成する... 136
自動クリア版合成例 137
インクリミットを編集する... 138
特色調整セットを作成する 138
特色調整セットを削除する 139
特色調整セットを更新する 139
インクカーブを調整する... 140
特色版補正機能... 141
印刷条件の編集 143
プロファイルの絞込み表示... 146
[印刷モード] サブメニュー 147
[UV モード] サブメニュー 150
[プロファイル情報] サブメニュー.. 152
[キャリブレーション] サブメニュー 153
作図領域の編集 154
[作図領域] メニュー.. 154
プリントエリアビュー... 156
[有効作図範囲] サブメニュー 158
JF シリーズ、JFX シリーズ、UJF-605C....................................... 158
UJF-605R 160
[原点] サブメニュー 162
キーボードによる原点の移動 163
[配置方法] サブメニュー 164
作図領域定義ファイルの登録... 166
作図領域定義ファイルを作成する 166
作図領域定義ファイルの更新 166
作図領域定義ファイルの選択... 167
作図領域定義ファイルの削除... 167

複数ページのジョブ 168

メインウィンドウについて 168

“ジョブエディタ” について 168

ジョブの編集（画像編集） 169

出力ページの決定 169
移動 169
トリミング 170
整列 170
コピー 171

ノズルリカバリ（JFX シリーズ） 172

ノズルリカバリとは 172

使い方 172

(1) 不良ノズルチェックパターンの印刷→不良ノズルの目視確認 172
(2) 不良ノズル情報の入力 174
(3) ノズルリカバリ印刷 175

条件管理について 176

[ホットフォルダ] サブメニュー 178

[画像編集] サブメニュー 179

[カラー編集] サブメニュー 180

[印刷条件] サブメニュー 181

[作図領域] サブメニュー 182

条件管理ウィンドウを表示する 183

条件セットの新規作成 183

条件の設定値を変更する 184

条件をジョブに適用する 186

[ホットフォルダ] サブメニュー 188

ホットフォルダとプリンタドライバの作成 188
PC MACLAN の自動設定について 190
ホットフォルダとプリンタドライバの削除 190
PC MACLAN の設定解除について 191

プリンタステータス表示機能 192

出力ポートが IEEE1394、USB2.0 の場合 192

“一般” 情報 192
“インク” 情報 193
“バージョン” 情報 194

出力ポートが IEEE1394、USB2.0 以外の場合 195

“インク” 情報 195

付録 196

色取得機能と対応スキャナについて 196

対応スキャナ 196
スキャナドライバの設定内容 197

索引 200

ジョブの編集

ジョブの編集方法を説明します。

ジョブを編集するには、“ジョブエディタ”を開きます。“ジョブエディタ”の開き方は、リファレンスガイド プリンタ共通編をご覧ください。

画像編集

画像の大きさ、出力位置などを指定します。

画像編集画面

サムネイルリスト

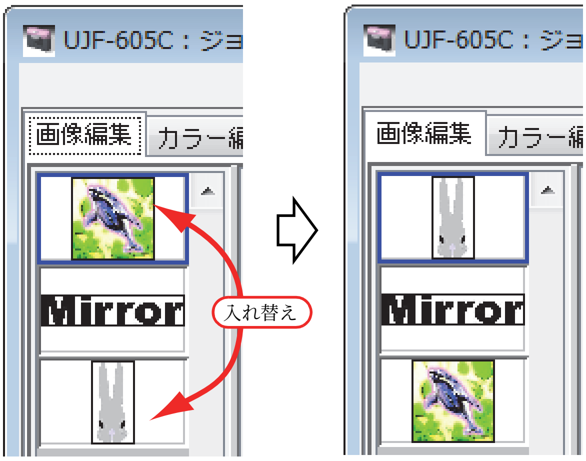
編集対象のジョブをサムネイル画像で一覧表示します。

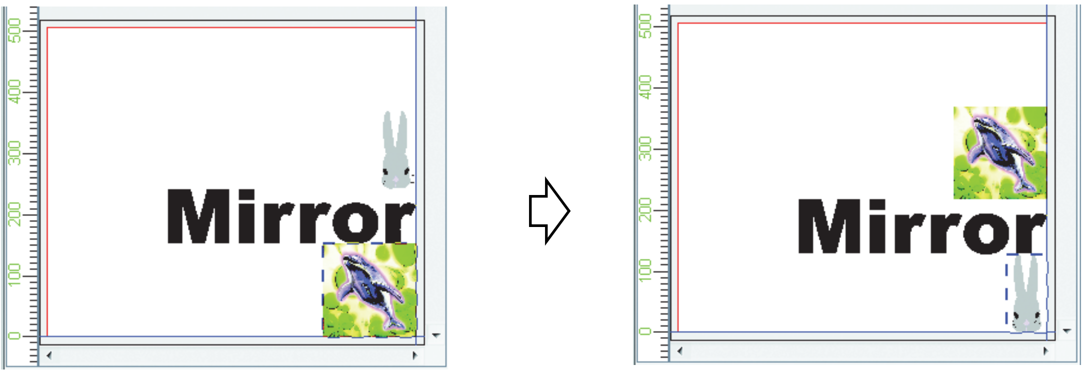
画像編集を行っても、サムネイルの画像は更新しません。

画像をクリックすることで、選択ジョブを切り替えることができます。
Ctrl キーを押しながらジョブをクリックすると、複数ジョブを選択できます。
サムネイル以外の場所をクリックすると、全ジョブの選択を解除します。

複数ジョブの入れ替え

順番を変更するには、変更したいジョブのサムネイルを選択し、ドラッグアンドドロップして順番を入れ替えます。



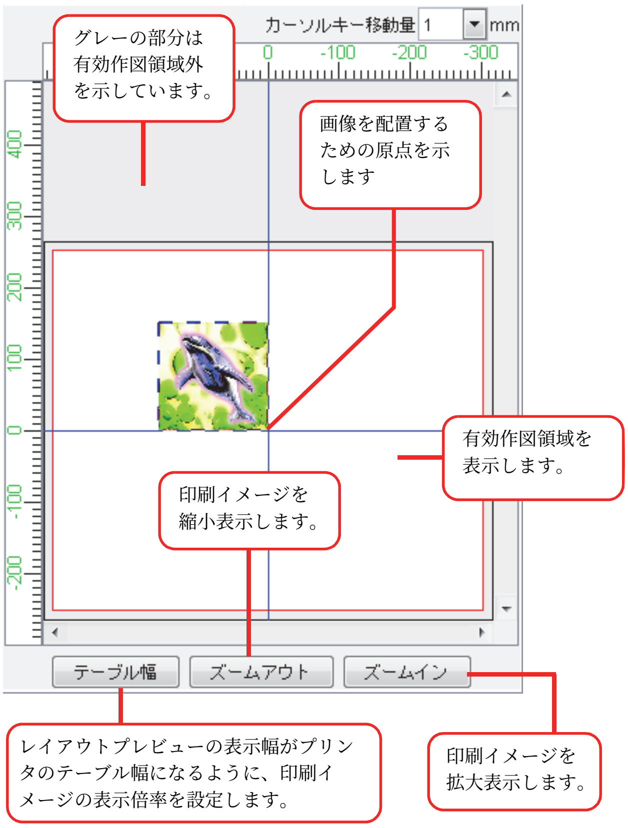


再配置した際のレイアウトプレビュー

レイアウトプレビュー

編集した画像の印刷イメージを表示します。

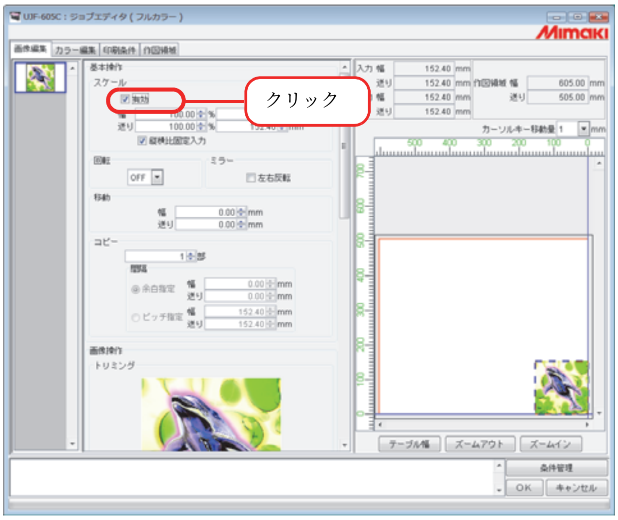
画像をクリックするとジョブを選択できます。
Ctrl キーを押しながらジョブをクリックすると、複数のジョブを選択できます。
画像が配置されていない場所をクリックすると、全ジョブの選択を解除します。



画像を拡大 / 縮小する（スケール）

画像の拡大 / 縮小を行う機能です。

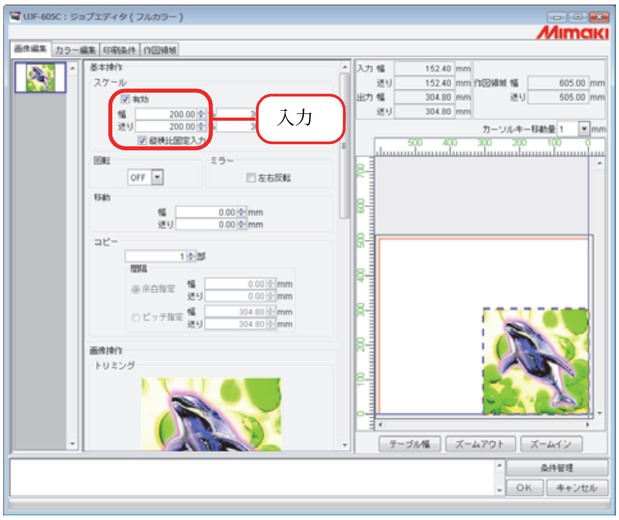
“ 有効 ” をチェックしていない場合、アプリケーションソフトウェアで作成したデータの大きさで印刷します。



倍率を指定して拡大／縮小して印刷

“ 幅 ” と “ 送り ” に倍率を入力します。

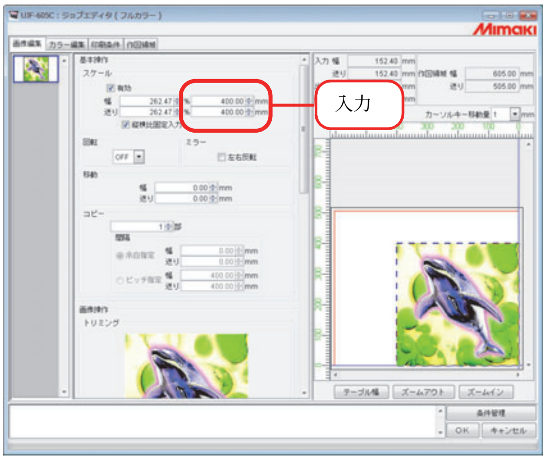
- 数値入力ボックス上で右クリックすると、上下矢印ボタンの増減量を設定できます。またキーボードの［↑］［↓］キーで、入力値の増減ができます。
- “ 縦横比固定入力 ” を有効にしておくと、どちらか一方の数値を入力したとき、他方を同じ比率で自動調整します。
- 100% に設定すると、アプリケーションソフトウェアで作成した画像の大きさで印刷します。



画像のサイズを指定して拡大／縮小して印刷

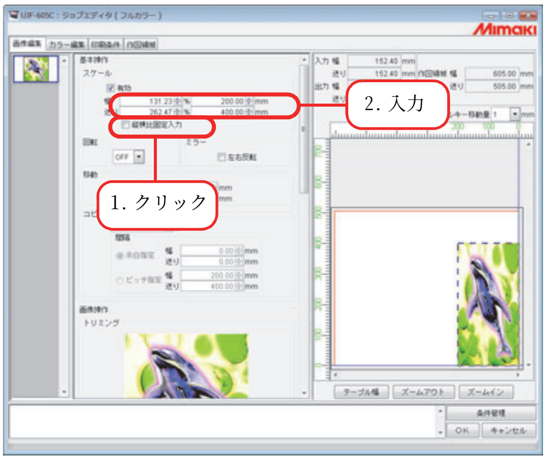
“ 幅 ” と “ 送り ” に画像のサイズを入力します。

- 縦横比固定入力 ” を有効にしておくと、どちらか一方の数値を入力したとき、他方を同じ比率で自動調整します。
- サイズの単位はオプション設定で変更することができます。(リファレンスガイド プリンタ共通編 P.98)



画像の幅方向と送り方向の比率を変えて印刷

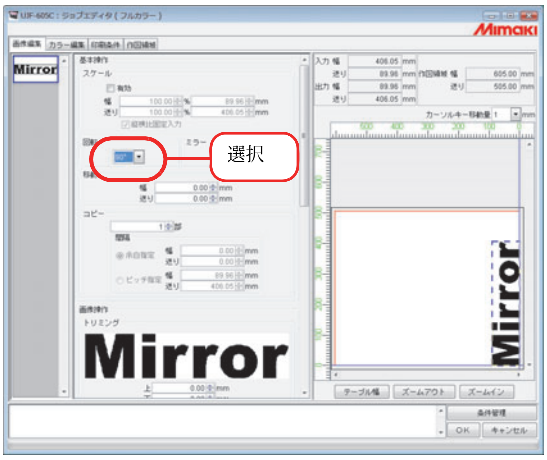
“ 縦横比固定入力 ” をクリックしてチェックを外します。
幅方向と送り方向の倍率または数値を設定します。



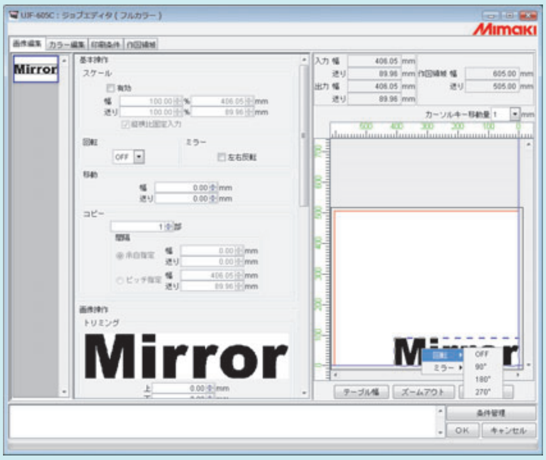
印刷データの向きを変えて印刷(回転)

画像を回転させる角度を設定します。

回転角度を選択します。



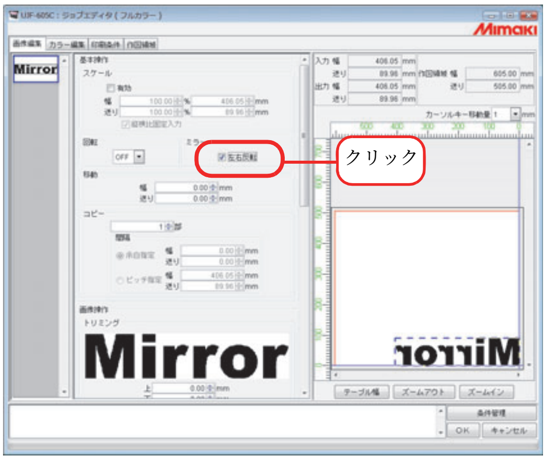
回転は次の方法でもできます。
回転処理するジョブを選択し、レイアウトプレビュー上で右クリックします。
ポップアップメニューから回転角度を選択します。



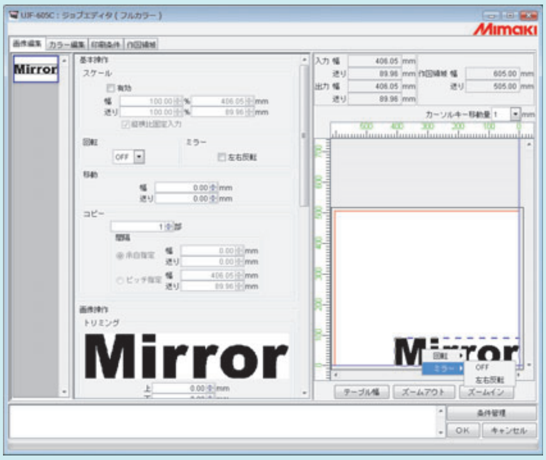
ミラー印刷(ミラー)

画像を鏡に映したように印刷します。
ミラー処理は、作成した画像の幅方向にかかります。

“左右反転”をチェックします。



ミラーは次の方法でもできます。
ミラー処理するジョブを選択し、レイアウトプレビュー上で右クリックします。
ポップアップメニューから“ 左右反転 ”を選択します。



メディア上の任意の位置に印刷（移動）

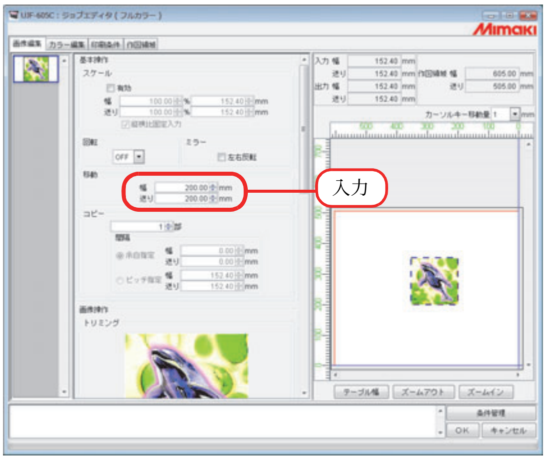
画像をメディア上の任意の位置に移動して印刷します。

> **重要!**
> 有効作図エリアから画像の一部がはみ出している場合、はみ出している部分は印刷されません。
> 有効作図エリアから画像が完全にはみ出している場合、設定を保存できません。

> 印刷モード画面で距離補正（☞ P.148）を設定している場合、送り方向の移動量も補正されます。

数値を指定して移動する

“ 幅 ”、“ 送り ” に移動量を入力します。

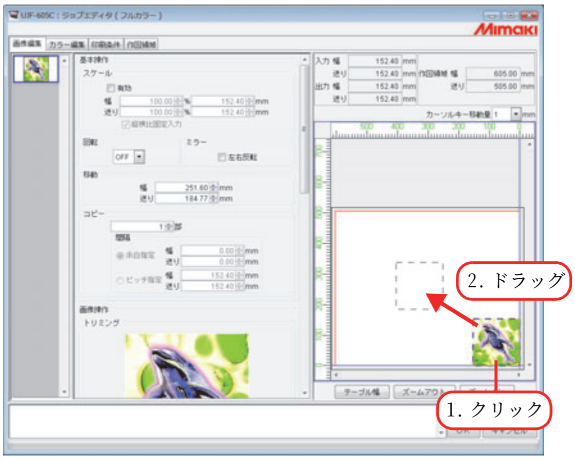


マウスで自由な位置に配置

レイアウトプレビューの画像をマウスでドラッグすると、自由な位置に配置することができます。

レイアウトプレビューの画像をクリックし、ジョブを選択します。

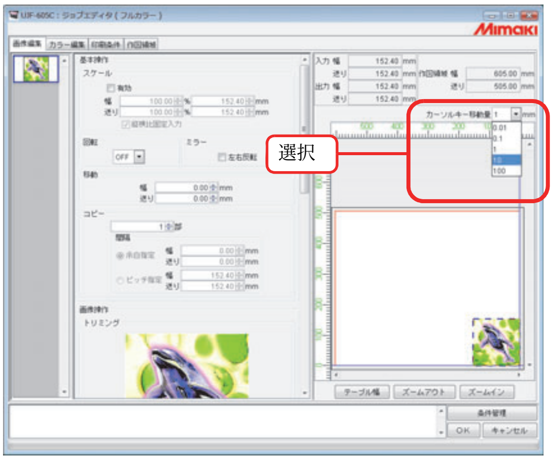
選択された画像は、青い点線で囲まれます。
移動する位置までドラッグします。



キーボードによる画像の移動

キーボードの矢印キーを押すことで、画像を移動することができます。

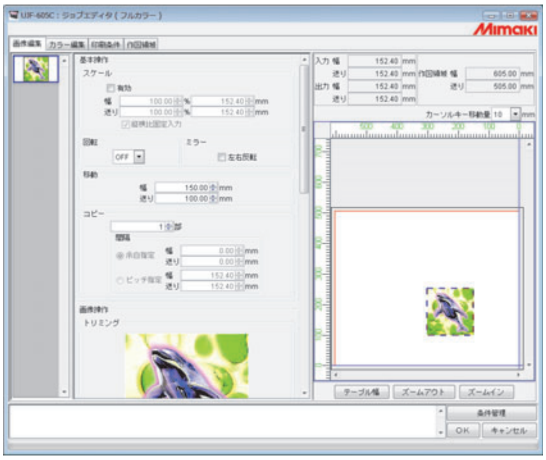
1 “カーソルキー移動量”でキーボードの矢印キーを押したときの移動量を選択します。



2 レイアウトプレビューの画像をクリックし、ジョブを選択します。

レイアウトプレビューが青い矩形で囲まれます。
キーボードの Tab キーを数回押してもレイアウトプレビューを選択できます。

レイアウトプレビューが選択された状態でキーボードの矢印キーを押し、画像を移動します。



印刷データを複数印刷(コピー)

同一画像を複数印刷します。

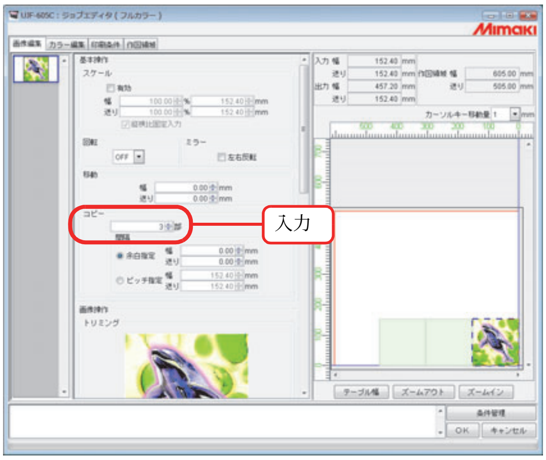
コピーは、画像をメディアの送り方向にコピーします。

幅方向に画像の印刷が可能なスペースがある場合、幅方向にも画像をコピー（ネスティング）します。

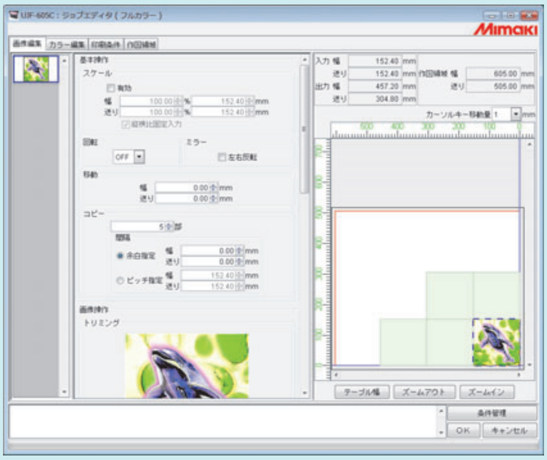
間隔を設定すると、画像と画像の間に空白を設けます。

重 要! 複数のジョブを同時に編集している、または“ パネリング ”を設定している場合、コピーの設定はできません。

コピー数を入力します。



コピーした画像は、自動的にネスティングします。



重 要! ネストする枚数は、現在のコピー間隔設定値、移動設定値および作図領域設定によって決まります。

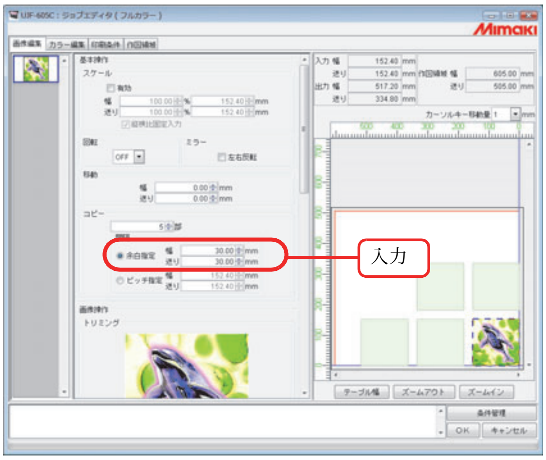
コピー間隔

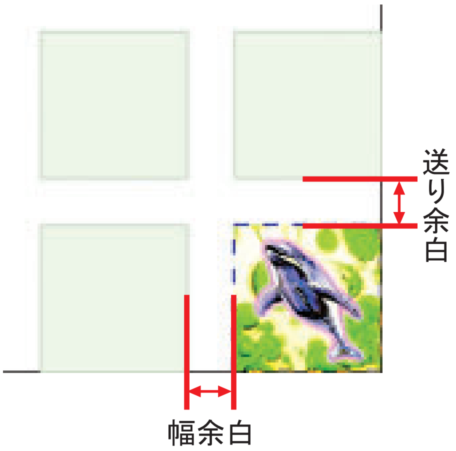
コピーを設定して印刷すると、隣り合う画像の境界が判りづらくなります。
隣り合う画像の境界が判るように間隔を設けます。

> 印刷モード画面で距離補正（☞P.148）を設定している場合、送り方向の移動量も補正されます。

余白指定

“ 余白指定 ” を選択し、幅方向と送り方向の間隔量を入力します。

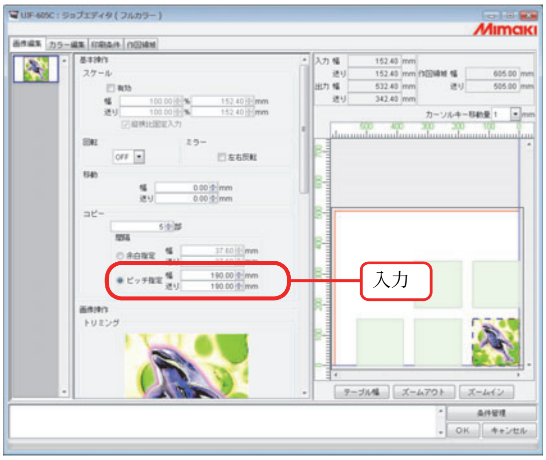


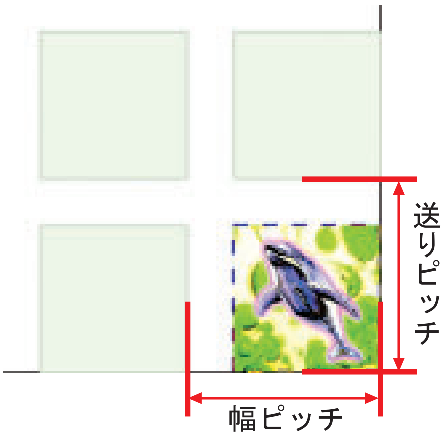


> **重 要 !**
> 画像によってはRIP 処理の際、画像の境界に空白部分が挿入される場合があります。
> このような画像の場合、余白を “ 0 ” に設定しても、RIP 処理で挿入された空白が画像と画像の間に入ります。

ピッチ指定

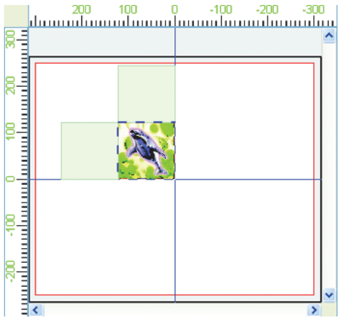
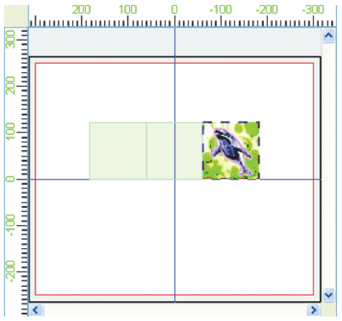
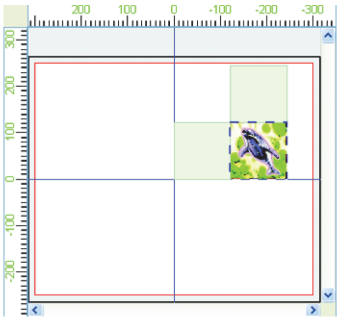
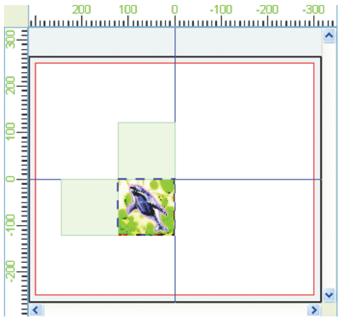
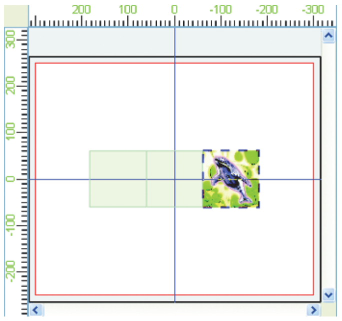
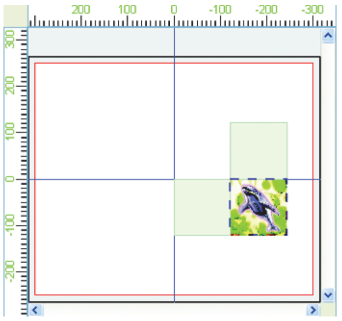
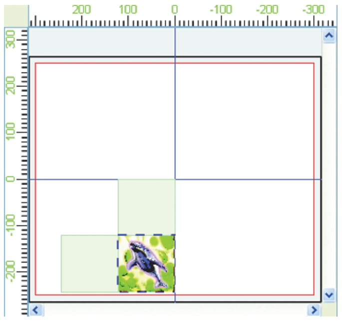
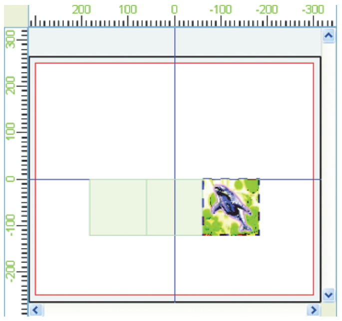
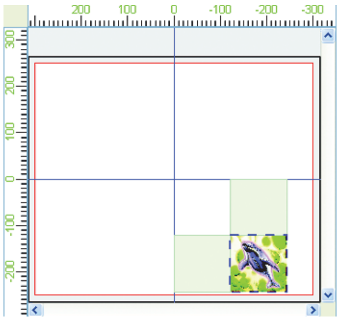
“ ピッチ指定 ” を選択し、幅方向と送り方向のピッチ量を入力します。





配置方法とネストの関係について

ネストの枚数と配置方法は、配置方法（☞P.164）の設定によって異なります。
詳細は、下の表を参照してください。

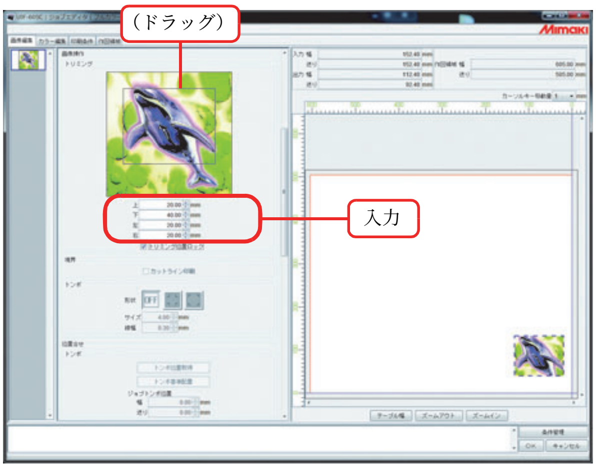
送り方向＼幅方向	先端合せ	中央合せ	後端合せ
先端合せ			
中央合せ			
後端合せ			

トリミング印刷(トリミング)

画像を印刷する範囲を調整します。

“上”“下”“左”“右”にトリミング量を入力します。

表示画像の中をドラッグしても、トリミングの範囲を設定できます。
[トリミング位置ロック] を ON にするとトリミングの原点がロックされて表示されます。
(Roll-to-Roll プリンタ、面付けジョブ、合成ジョブ、複数ページジョブ時は表示されません。)



各トリミング量に“0”を入力するか、設定画像をクリックするとトリミングを解除します。

重要!

スケール、回転はトリミングされた後の画像に適用されます。このため、スケール、回転を変更しても、トリミングの位置は変わりません。また、トリミングの値は、スケール適用前の原寸で表示します。

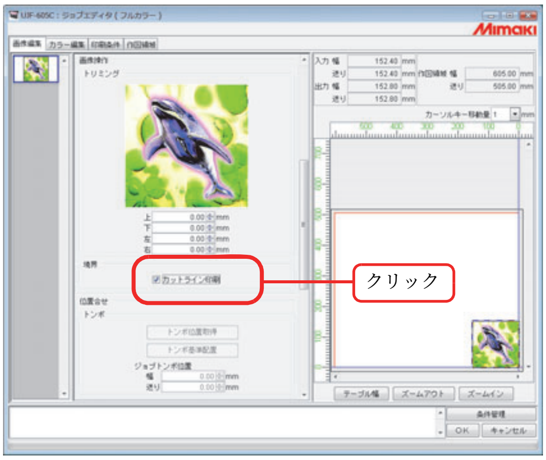
カットラインを印刷する（カットライン）

画像の周囲にカットラインを印刷します。

重要！

- “ パネリング ” を設定している場合、“ カットライン印刷 ” の設定はできません。
- “ カットライン印刷 ” をチェックした状態で “ パネリング ” の設定をすると、“ カットライン印刷 ” のチェックが外れます。
- “ カットライン印刷 ” をチェックした状態で “ トンボ ” の “ 形状 ” にOFF以外を選択すると、“ カットライン印刷 ” のチェックが外れます。

“ カットライン印刷 ” をチェックします。



カットライン印刷 ” をチェックすると、出力サイズにはカットラインを含めたサイズを表示します。

トンボを印刷する

重 要!

- “ パネリング ” または “ ラベルを付加する ” を設定している場合、“ トンボ ” の設定はできません。“ トンボ ” をチェックした状態で “ パネリング ” または “ ラベルを付加する ” の設定をすると、“ トンボ ” の設定が OFF になります。
- “ トンボ ” の “ 形状 ” で OFF 以外を設定した状態で “ カットライン印刷 ” をチェックすると、“ トンボ ” の “ 形状 ” が OFF になります。

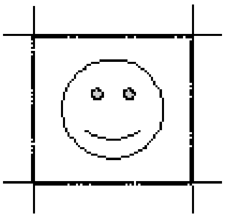
画像の外側にカッティング用のトンボを印刷します。

本システムで印刷した画像を、カッティングプロッタなどでカットする場合に使用します。カッティングプロッタはトンボを読み取ることで、画像の正確な位置とサイズを検出することができます。

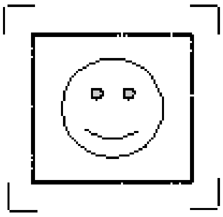
画像の外側に付加するトンボの印刷仕様は次の通りです。

線幅　　　：0.3 ～ 1.0 mm

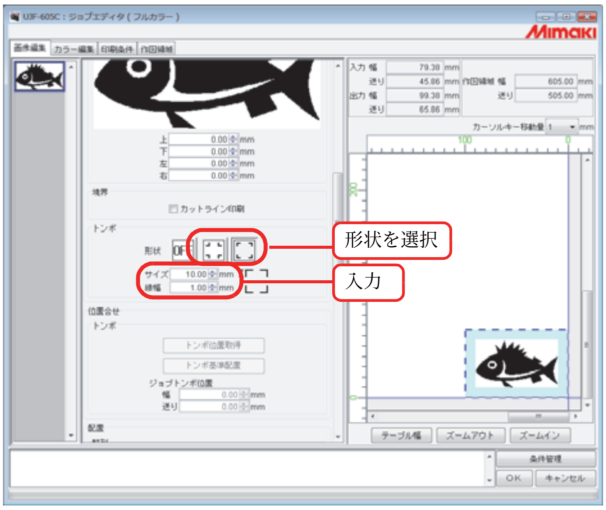
トンボ長さ：4.0 ～ 40.0 mm



外トンボ



内トンボ



印刷時に位置合わせをする(トンボ ： UJF-605C)

プリンタからトンボの設定位置を取得し、プリントデータの配置位置を正確に指定できます。

重 要 !

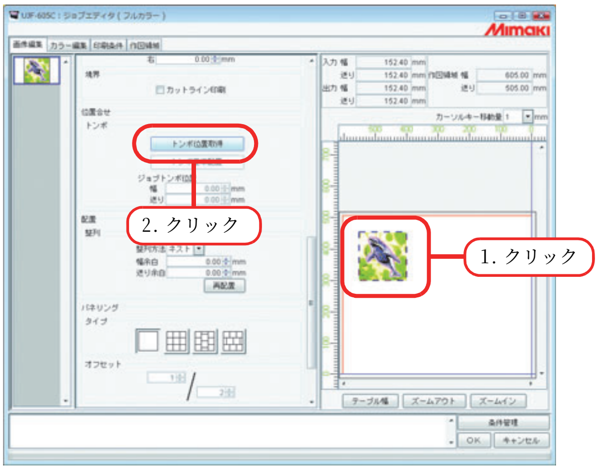
- トンボ位置は、プリンタであらかじめ検出しておきます。
- ジョブを選択していない場合、複数のジョブを選択している場合や、コピーを 2 部以上設定している場合、 トンボ位置取得 ボタンをクリックできません。
- プリンタでトンボケンシュツをしていない場合、初期値として右下 [P1 (0,0)] がトンボ位置になります。
- トンボ位置の各設定は、トンボの位置を取得したときのみ有効です。
- トンボの位置を取得できない場合、以下のことを確認してください。
  ①プリンタの電源が入っている
  ② PC とプリンタが IEEE1394 で接続してある

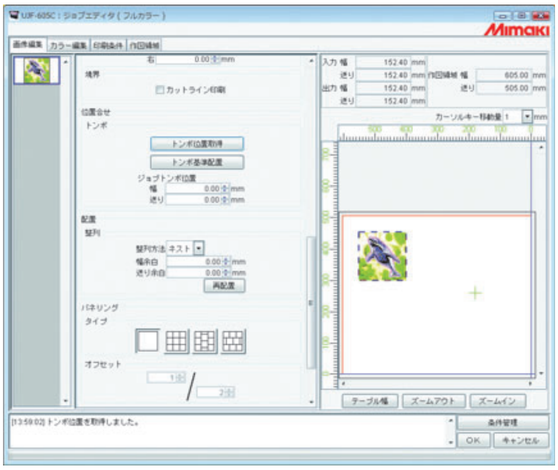
トンボの位置を取得する

画像をクリックします。

トンボ位置取得 ボタンをクリックします。

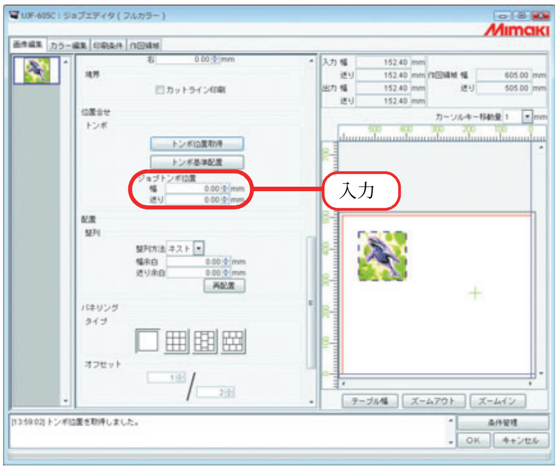
トンボの位置を取得し、レイアウトプレビューに表示します。





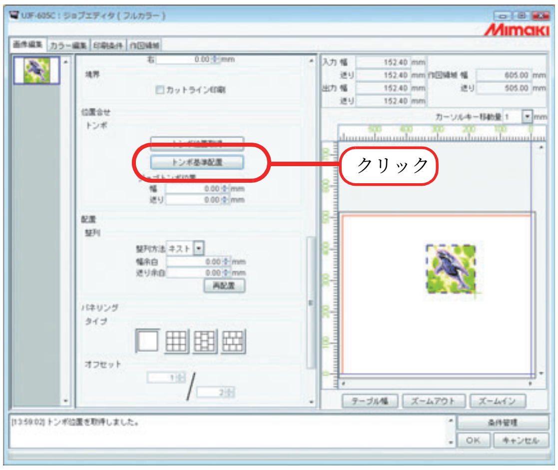
トンボを基準位置に配置する

1 ジョブの画像右下から画像のトンボ位置までの長さを入力します。



2 トンボ基準配置 ボタンをクリックします。

ジョブの右下をトンボ位置に配置します。ジョブトンボ位置を設定してある場合は、設定された位置をトンボ位置に配置します。



プリンタで、トンボ位置が変更された場合、再度 トンボ位置取得 ボタンをクリックし、トンボ位置を取得し直してください。

重 要！

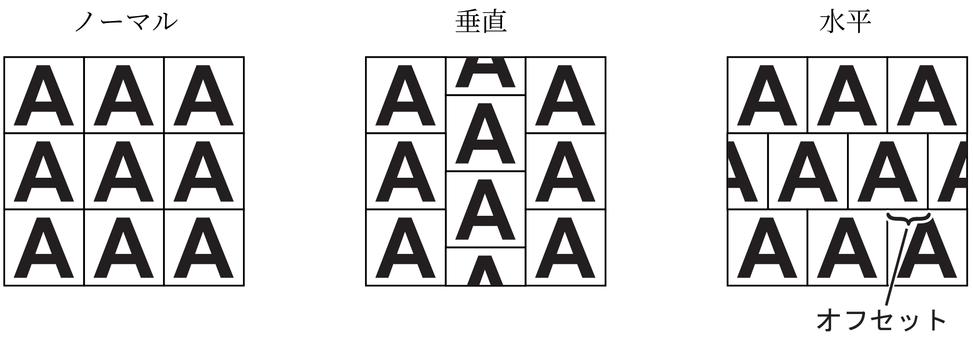
- ジョブの画像右下からのトンボの位置は、ジョブを作成したアプリケーションにて正確に求めて下さい。
- プレビュー画像は解像度が低いため、ジョブにトンボをつけたにもかかわらずプレビューに表示されない場合があります。この場合にも、アプリケーションにて求めたトンボ位置を入力すれば、印刷時には正しい位置にトンボが印字されます。
- 検出可能なトンボの形状は、プリンタのマニュアルを参照してください。

パネリング印刷(パネリング)

画像を以下の 3 種類に配置して印刷します。

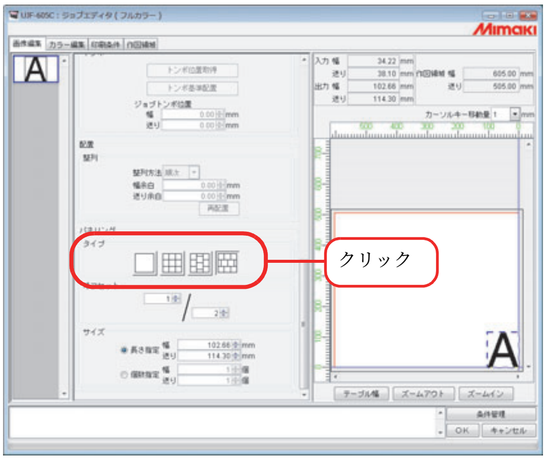
重 要!

- 複数のジョブを同時に編集している、複数ページのジョブ、“ コピー ” を設定している場合、“ パネリング ” の設定はできません。
- “ パネリング ” を設定している場合、“ RIP& 印刷 ” はできません。

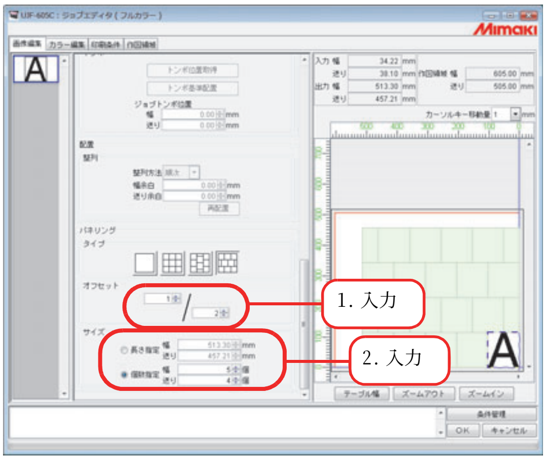


1 パネリングのタイプを選択します。

いずれかのタイプを選択すると、パネリング機能が有効になります。



2 画像を配置するオフセット量を数値指定します。



オフセットとは、配置する画像のズレ量のことです。

> **重 要 !** オフセットは、パネリングのタイプが " 垂直 "" 水平 " の場合有効です。

画像の繰り返し長を指定します。

● 長さ指定

幅方向・送り方向に指定した長さいっぱいに画像を繰り返し印刷します。

● 個数指定

幅方向・送り方向に指定した個数の画像を繰り返し印刷します。

印刷情報ラベル印刷

ジョブの左上に印刷情報ラベルを付加して印刷します。

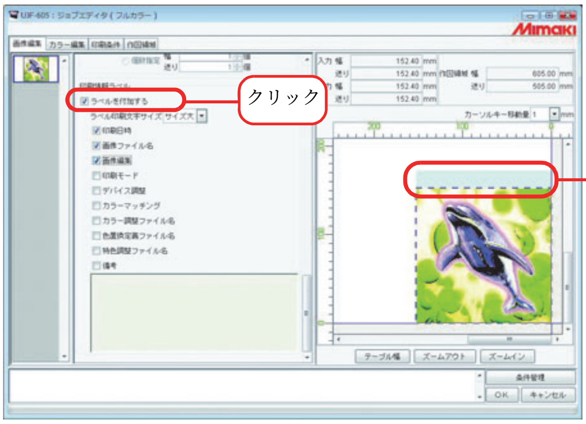
重 要!

- “ パネリング ” を設定している場合、“ 印刷情報ラベル ” の設定はできません。
  “ ラベルを付加する ” をチェックした状態で “ パネリング ” の設定をすると、“ ラベルを付加する ” のチェックが外れます。
- 画像の幅方向の長さが 25.4mm 以下の場合、印刷情報ラベルを付加して印刷することはできません。
  画像の幅方向の長さが短い場合、印刷情報のラベルが切れて印刷されることがあります。

“ ラベルを付加する ” をチェックします。

ラベルとして印刷したい項目をチェックします。

“ 備考 ” には、64 文字まで任意の文字を入力できます。



印刷情報ラベルの矩形が
表示されます。

“ ラベルを付加する ” をチェックすると、出力サイズには印刷情報ラベルを含めたサイズを表示します。

タイリング編集

> **重 要!** 以下のプリンタではタイリングできません。
> - UJF-605R

RasterLinkPro5 IP は、プリンタの有効作図範囲より大きなサイズの画像を印刷できます。

大きな画像を印刷するには、画像を複数に分割して印刷します。その分割した画像（タイル）を手作業で貼り合わせて元のサイズの画像にします。

タイリング編集では、タイルの分割とタイルの貼り合わせを容易にするための各種設定を行います。

タイリング印刷の流れ

タイリングの手順は以下のようになります。

タイルのサイズ設定

- イメージサイズ
- ワークサイズ
- 分割間隔

▼

オプション設定

必要に応じ、選択します。

- 重ね代
- コーナーマーク
- 分割線
- タイル番号
- カットライン

▼

印刷するタイルの設定

- “ 全部 ” または “ 指定 ”
- 印刷順序

▼

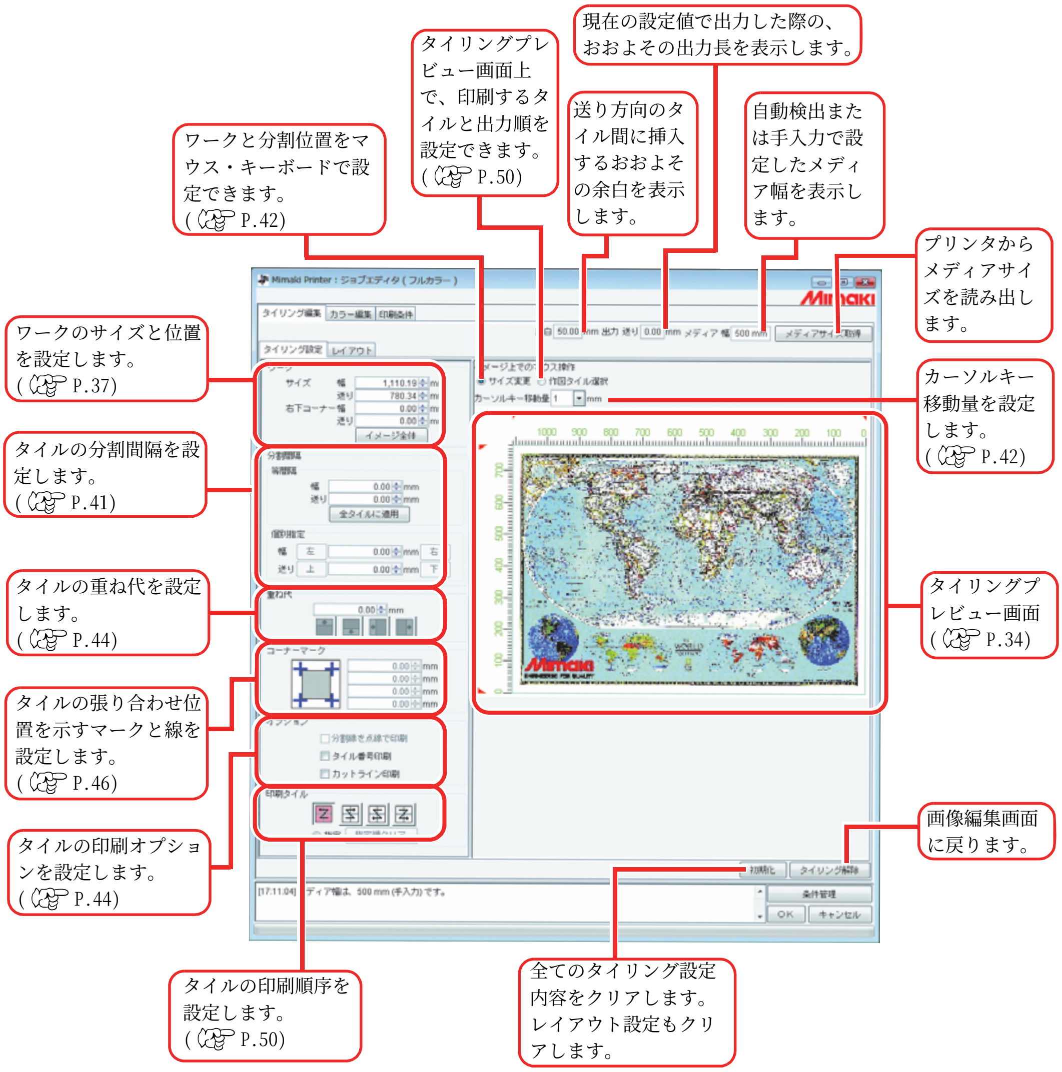
レイアウトの設定

- 任意に配置する
- 偶数列を反転する

▼

出力

タイリング設定画面


現在の設定値で出力した際の、おおよその出力長を表示します。
タイリングプレビュー画面上で、印刷するタイルと出力順を設定できます。(☞ P.50)
送り方向のタイル間に挿入するおおよその余白を表示します。
自動検出または手入力で設定したメディア幅を表示します。
ワークと分割位置をマウス・キーボードで設定できます。(☞ P.42)
プリンタからメディアサイズを読み出します。
ワークのサイズと位置を設定します。(☞ P.37)
カーソルキー移動量を設定します。(☞ P.42)
タイルの分割間隔を設定します。(☞ P.41)
タイルの重ね代を設定します。(☞ P.44)
タイリングプレビュー画面(☞ P.34)
タイルの張り合わせ位置を示すマークと線を設定します。(☞ P.46)
画像編集画面に戻ります。
タイルの印刷オプションを設定します。(☞ P.44)
タイルの印刷順序を設定します。(☞ P.50)
全てのタイリング設定内容をクリアします。レイアウト設定もクリアします。

タイリングプレビュー

分割マーク
分割マークをマウスでドラッグして、分割位置を微調整できます。
▽ マークは現在選択している分割線であることを示します。

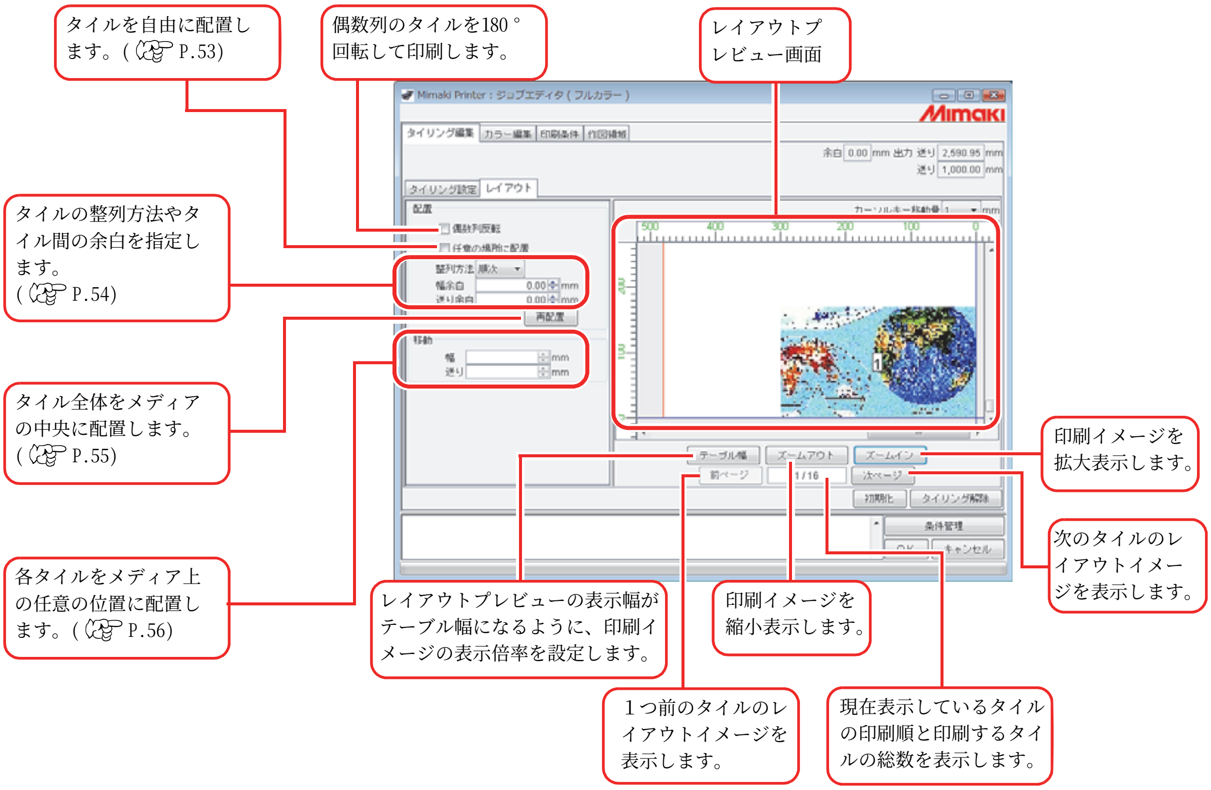
分割間隔
現在選択している分割間隔は、数字が四角で囲まれています。

ワーク枠の境界を示します。

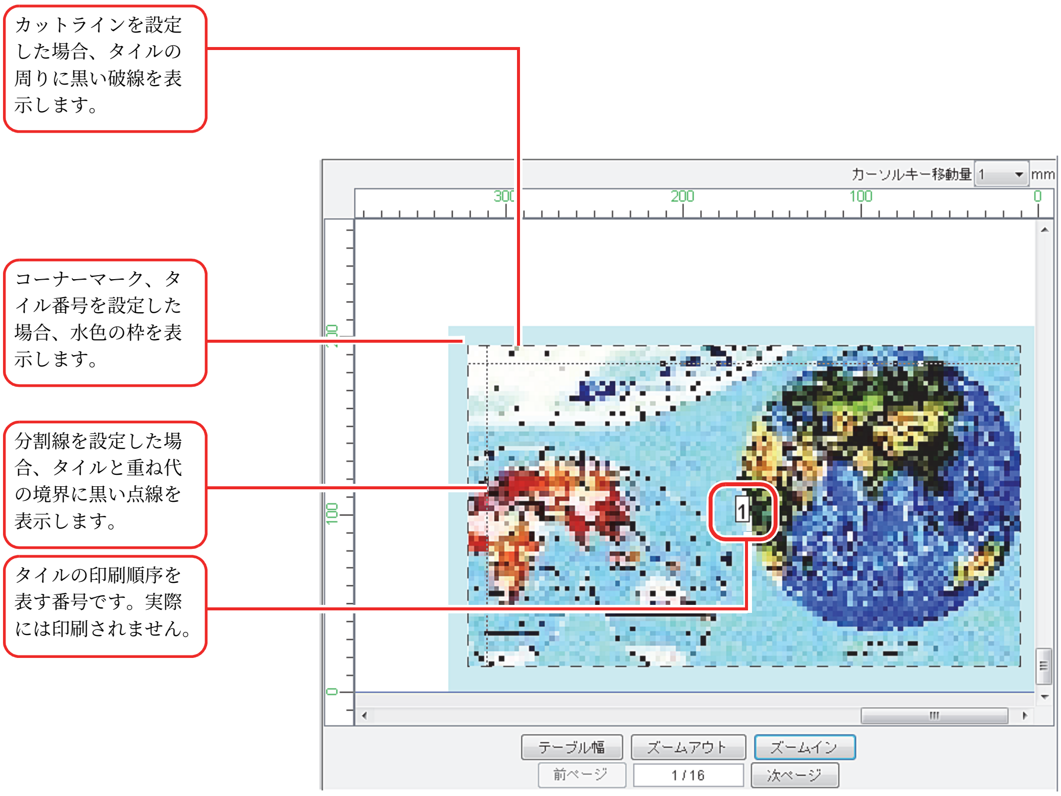
分割位置を表す分割線です。

ワーク枠
ワーク内をドラッグすると、ワークの位置を移動できます。

レイアウト設定画面



レイアウトプレビュー



タイル設定の前に画像編集をする

タイル設定の前に、あらかじめ画像サイズの変更、回転、ミラーの設定を行います。
画像編集が必要ない場合、手順 3 に進んでください。

1 “ ジョブエディタ ” を開きます。

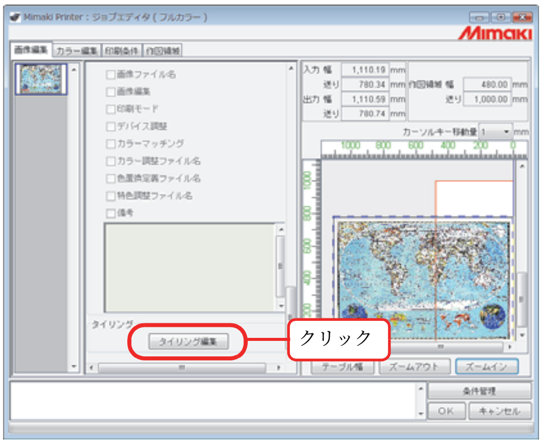
2 各種設定を行います。

“ スケール ”、“ 回転 ”、“ ミラー ” を設定します。

3 タイリングする画像の設定ができたら、 タイリング編集 をクリックします。

> **重 要 !** 複数ジョブを同時に編集している場合、あるいは複数ページのジョブ、“ コピー ”、“ トリミング ”、“ パネリング ” を設定している場合、タイリングの設定はできません。

画像編集の設定を変更する場合、タイリング編集タブ内の タイリング解除 をクリックします。



ワークの設定をする

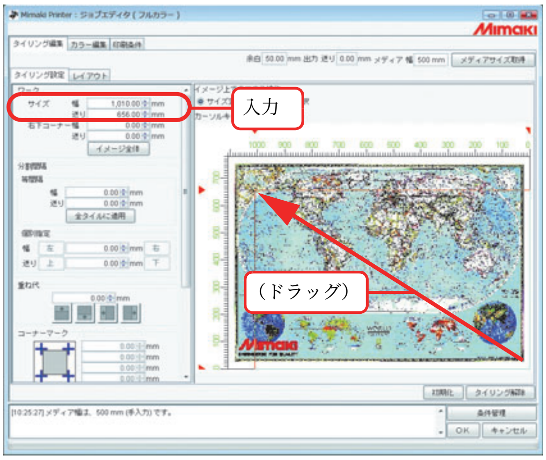
画像内のどの部分を印刷するか設定します。

ワークサイズの設定

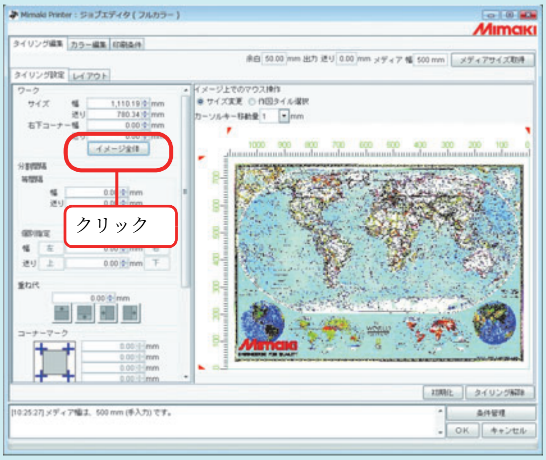
タイリングの作業領域をワークと呼びます。
ワークを設定しないと、タイリング設定を行うことができません。

ワークのサイズ（“ 幅 ”、“ 送り ”）を入力します。
　　タイリングプレビュー上に、ワークを赤い矩形で表示します。

- タイリングプレビューの右下隅からマウスでドラッグしても、ワークサイズを設定できます。
- ▼ はワークの境界を指しています。ワークの四隅をドラッグすると、サイズ変更できます。



［イメージ全体］をクリックすると、イメージ全体にワークを設定します。

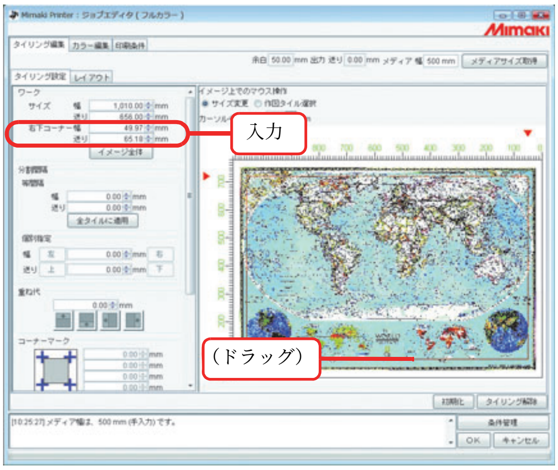


ワークの移動

印刷したいエリアにワークを移動します。

右下コーナー（“幅”、“送り”）を入力します。

> ワーク内をマウスでドラッグしてもワークを移動することができます。



タイルを分割する

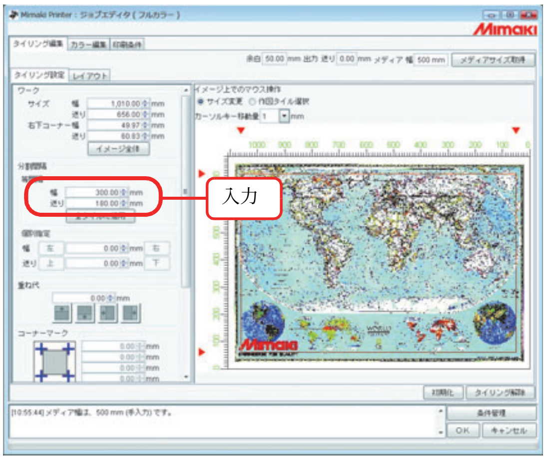
重 要!

- タイルの最小値は 25.4mm（1inch）です。これより小さい数値を入力すると、自動的に 25.4mm になります。
- 印刷できるタイルの最大数は 100 個です。
- 分割の最大数は、幅方向 30、送り方向 30 です。この数を超えた分割はできません。

タイルを等間隔に分割する

基準となる分割間隔を決めた後で微調整する場合、等間隔で設定します。

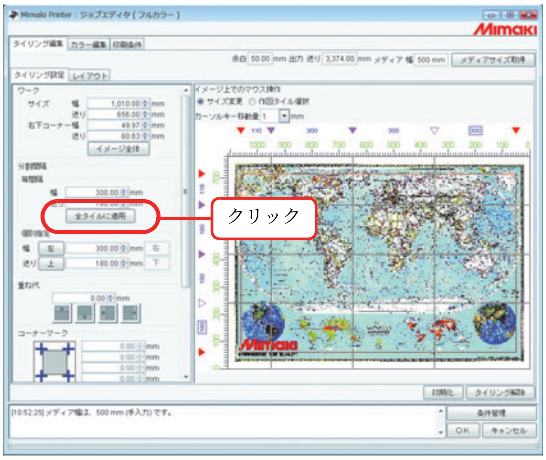
1 等間隔の " 幅 " と " 送り " に分割間隔の基準値を入力します。



2 全タイルに適用 をクリックします。

タイリングプレビューに分割線を表示します。

" 幅 " と " 送り " に 0 を入力して 全タイルに適用 をクリックすると、入力可能な最大値（有効作図範囲またはワークサイズの小さい方）になります。



重 要!

等間隔で分割した場合、一番左・上のタイルの分割間隔が 25.4mm 未満になる場合があります。この場合 OK をクリックしても、" 情報表示 " 欄にエラーを表示し設定を完了することができません。

該当タイルがタイリングプレビューで分からない場合､個別指定の 上 、下 、左 、右 をクリックし、分割間隔を表示させて確認します。そして「タイルの分割間隔を調整する（☞ P.41）」を参考に調整してください。

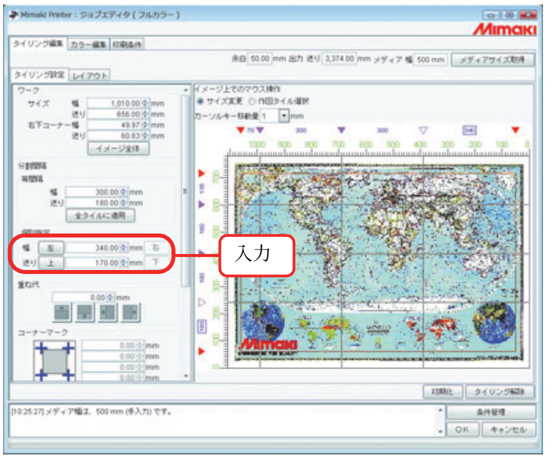
タイルの間隔を個別に指定する

分割間隔を直接入力する場合、個別指定で設定します。

1 個別指定の " 幅 " と " 送り " を入力します。

右端と下端の分割間隔が設定され、タイリングプレビューに分割線を表示します。

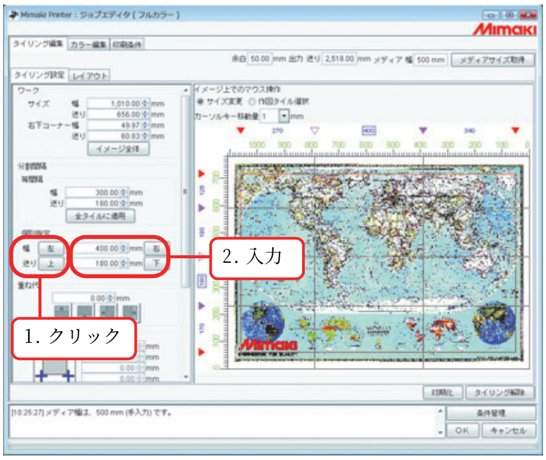
- 数値入力後の残りのタイルの分割間隔の初期値は、有効作図範囲になります。
- " 送り " が未入力の状態で " 幅 " を入力した場合
  " 送り " の初期値として自動的に入力可能な最大値（有効作図範囲またはワークサイズの小さい方）の送りサイズが入力されます。
- " 幅 " が未入力の状態で " 送り " を入力した場合
  " 幅 " の初期値として自動的に入力可能な最大値（有効作図範囲またはワークサイズの小さい方）の幅サイズが入力されます。



2 左（幅方向の設定）または 右（送り方向の設定）をクリックし、次の分割間隔を入力します。

タイリングプレビューに分割線を表示します。

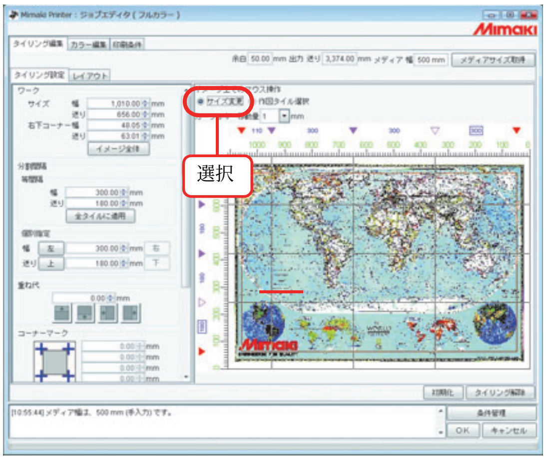
個別指定の際、各タイル間隔の連続入力ができます。一番右の分割間隔に " 幅 " を入力して ENTER キーを押すと、フォーカスが 左 ボタンへ移動します。もう一度 ENTER キーを押すと、フォーカスが数値入力部分に移動します。隣の分割間隔を入力します。
" 送り " についても同様です。



タイルの分割間隔を調整する

分割間隔の調整をします。調整の必要がない場合、「タイルのオプションを設定する（☞ P.44）」に進みます。

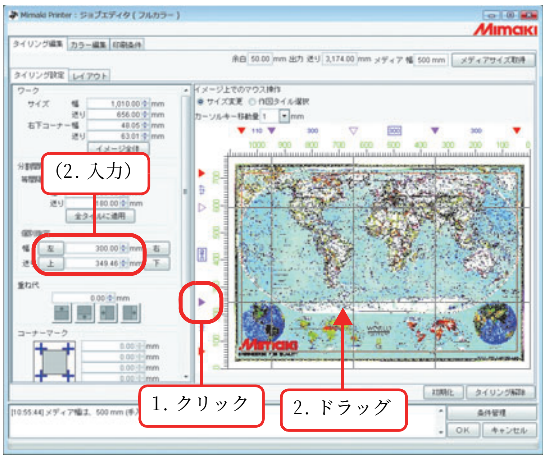
1 イメージ上でのマウス操作の、“サイズ変更”を選択します。



2 調整する分割マーク▼をクリックし、ドラッグします。

分割マークをクリックして選択すると白く反転します。
個別指定の“幅”“送り”に数値を入力しても調整できます。

- タイルの最小値は 25.4mm です。最小値に満たない数値を入力しても、自動的に 25.4mm になります。
- 調整可能な最大値は有効作図範囲またはワークサイズの小さい方です。最大値を超える数値を入力すると、自動的に最大値になります。
- 変更する分割線以外の分割線は、元の分割間隔を保持して一緒に移動します。



キーボードによる分割位置の微調整

分割線の位置は、ある程度マウスで調整できますが、キーボードを使うことにより微調整が可能です。

以下のキーを使用します。

- Tab キー　：“タイリング設定”ウィンドウの各設定項目を選択します。
  タイリングプレビューエリアを選択すると青い矩形で囲まれます。

送り方向への分割線移動：

- Q キー　：選択している分割線より上方向の分割線を選択します。
- A キー　：選択している分割線より下方向の分割線を選択します。
- ↑ キー　：選択している分割線を上方向へ移動します。
- ↓ キー　：選択している分割線を下方向へ移動します。

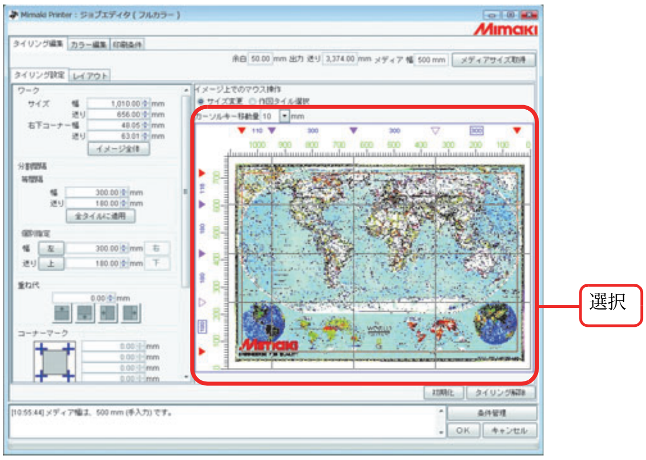
幅方向への分割線移動：

- Z キー　：選択している分割線より左方向の分割線を選択します。
- X キー　：選択している分割線より右方向の分割線を選択します。
- ← キー　：選択している分割線を左方向へ移動します。
- → キー　：選択している分割線を右方向へ移動します。

1 カーソルキーで移動するための移動量数値を設定します。

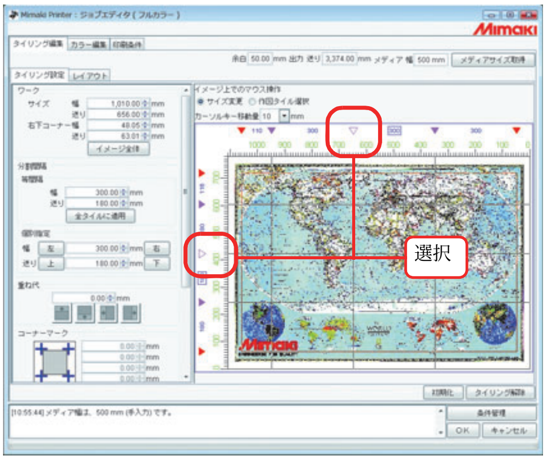
2 Tab キーを数回押し、タイリングプレビューエリアを選択します。

マウスでタイリングプレビューエリアをクリックしても同様です。
タイリングプレビューエリアが青い矩形で囲まれます。



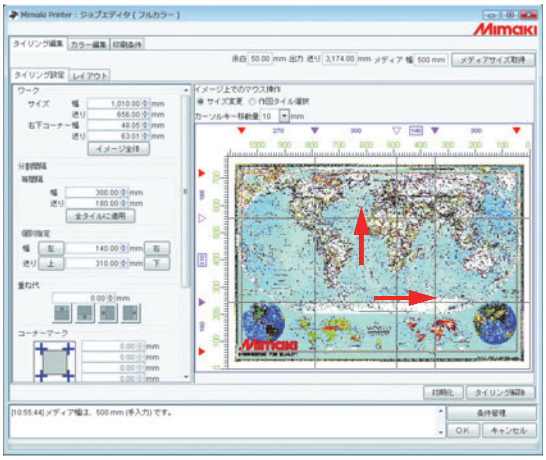
3 アルファベットキー Q A Z X を押して、移動したい分割線を選択します。

選択された分割線の分割マークは、白抜きの三角形に変わります。



4 矢印キー ↑ ↓ ← → を押して、分割線を移動します。

矢印キーを押すたびに、“ カーソルキー移動量 ” で指定したサイズで移動します。矢印キーを押し続けると、分割線が移動し続けます。



タイルのオプションを設定する

オプションでは、タイルを張り合わせる際に効果的な機能を設定します。
特に必要ない場合、「タイルの印刷順序を設定する（☞ P.50）」に進みます。

タイルの重ね代を設定する

タイルの重ね代の長さと重ね代を設ける位置を設定します。
重ね代の部分にも画像を印刷します。
重ね代は、上下左右それぞれに設定できます。
ただし、角や端の部分のタイルには重ね代を印刷しません。
重ね代はタイリングプレビューには表示しません。
レイアウトプレビューでは重ね代部分の画像を表示します。

タイル角

タイルの位置が右下隅のため、重ね代は右と下に設定されません。

タイル下端

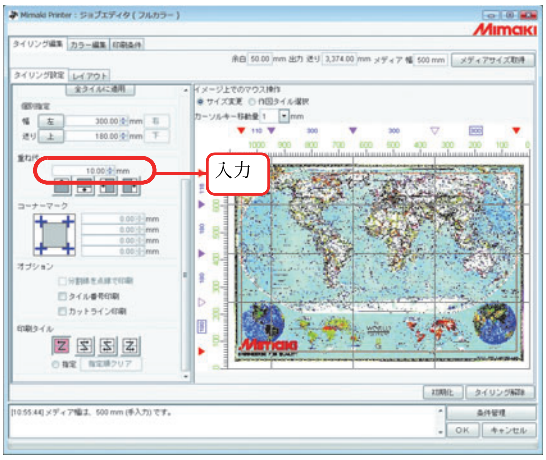
タイルの位置が下端のため、重ね代は下に設定されません。

タイル中央

タイルの位置が中央のため、重ね代は全てに設定されます。

> **重 要！**
> - 重ね代の最大値は 100mm、最小値は 5mm です。
> - 分割間隔と重ね代の合計が有効作図範囲を超える場合、有効作図範囲に収まるように分割間隔と重ね代を自動調整します。この場合、カットラインとコーナーマークを設定しても、一部しか印刷しない場合があります。

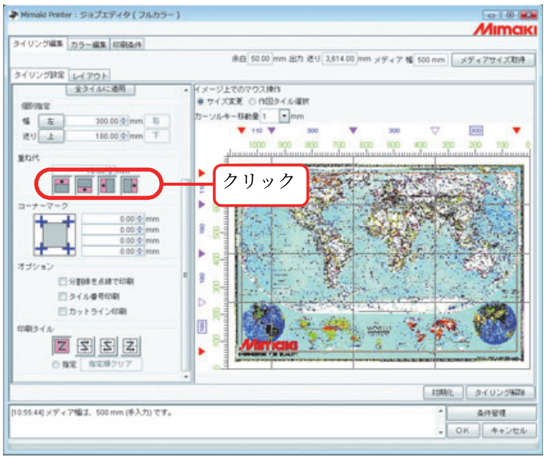
1 重ね代の長さを入力します。
重ね代の長さを入力すると、重ね代の位置を設定する項目が有効になります。



2 重ね代の設定位置を選択します。

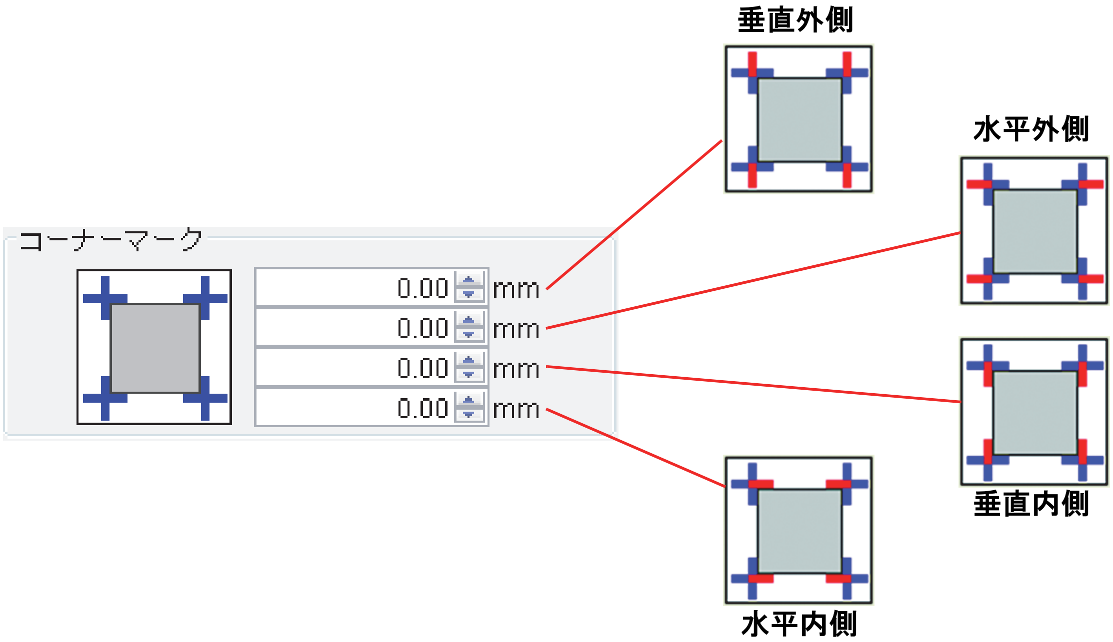
もう一度クリックすると、選択を解除します。

> **重要！** 重ね代の長さより小さいサイズのタイルが存在する場合、[OK] をクリックしても " 情報表示 " 欄にエラーを表示し設定を完了できません。
> 一番上と左の分割間隔を確認します。重ね代のサイズをタイルより小さくするか、タイルの分割間隔を調整します。

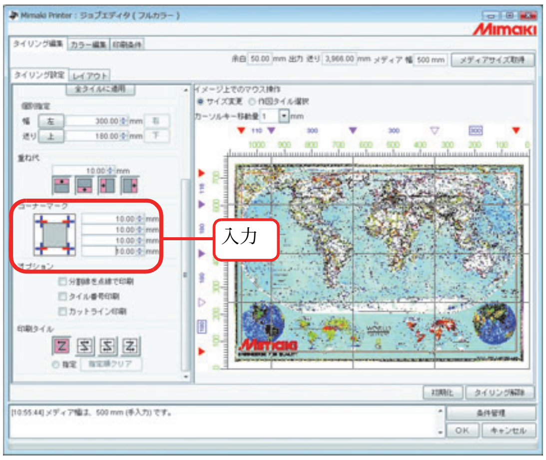


重なり部分のマーク（コーナーマーク）を設定する

タイルの張り合わせを容易にするためのマークを印刷します。
重ね代を設定していない場合、コーナーマークを付けることはできません。「タイルの重ね代を設定する（☞ P.44）」に戻って、重ね代の設定をしてください。
コーナーマークはタイリングプレビューには表示しません。
レイアウトプレビューでは水色の枠で表示します。



入力ボックスにマークの長さを入力します。
最大値は 100mm です。



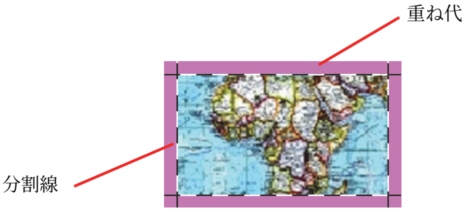
数値入力ボックスにカーソルを置くと、対応するマークの部分が赤くなります。
タイリングプレビュー上には表示しません。

4 箇所全てにコーナーマークを設定した場合

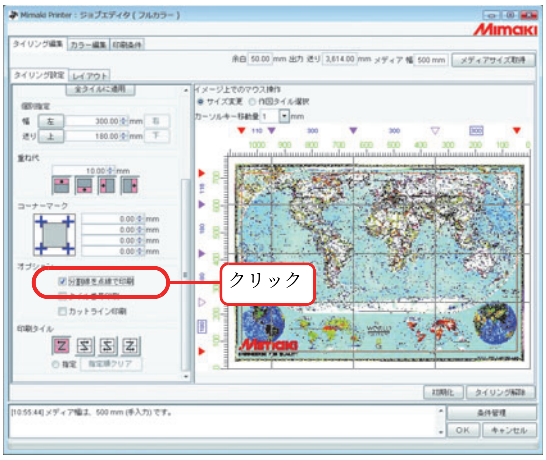
画像の境界線を印刷（分割線を点線で印刷）

タイルと重ね代の境界に、0.1mm 幅の白と黒の線を 50mm ずつ交互に引きます。
分割線は、タイリングプレビューには表示しません。
レイアウトプレビューでは、黒い点線で表示します。

> **重 要 !**　“ 重ね代 ” を設定していない場合、分割線を入れることはできません。



“ 分割線を点線で印刷 ” をチェックします。



タイルごとにタイル番号を印刷（タイル番号印刷）

作図したタイルが画像のどの部分に位置するかを示すために、各タイルの左下（重ね代がある場合は重ね代の外）にタイル番号を印刷します。

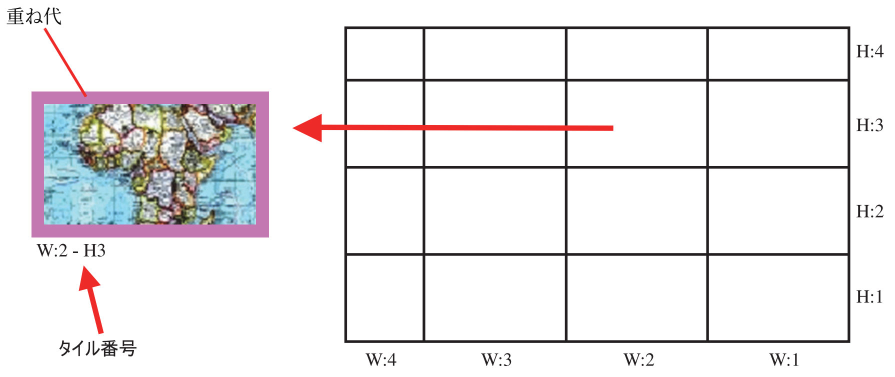
偶数列反転を設定している場合、タイル番号の位置も反転します。

“ タイル番号印刷 ” はタイリングプレビューには表示しません。

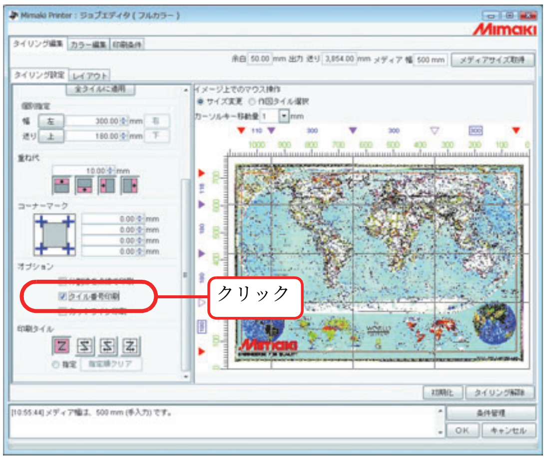
レイアウトプレビューでは水色の枠で表示します。

タイル番号のサイズは、高さ 15mm、幅は最大で 67.5mm です。

> **重 要 !** “ 作図タイル選択 ” 時の、タイリングプレビューに表示する数字とは異なります。



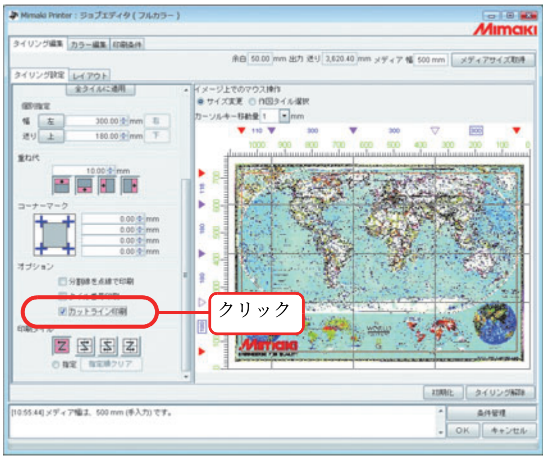
“ タイル番号印刷 ” をチェックします。



タイルのカット線を印刷(カットライン印刷)

印刷したメディアをタイルごとにカットする際、目安となる 100mm 間隔の黒い破線を印刷します。
カットラインは、重ね代を含むタイルの周りに印刷されます。
“カットライン印刷”はタイリングプレビューには表示しません。
レイアウトプレビューでは黒い点線で表示します。
画像編集の“カットライン印刷”がチェックしてある場合、既にチェックが入っています。

“カットライン印刷”をチェックします。



タイルの印刷順序を設定する

タイルを順次印刷する

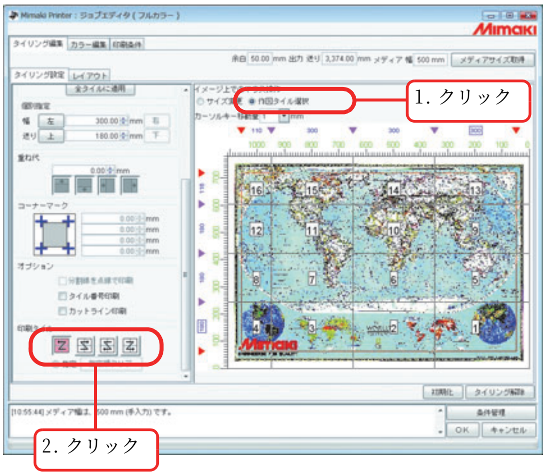
タイルの印刷順序を指定します。

印刷順序を自由に決めたい場合や指定したタイルのみを印刷したい場合、「印刷するタイルを自由に指定する（☞ P.51）」をご覧ください。

“ 作図タイル選択 ” をクリックします。

　　タイリングプレビューにタイルの印刷順序を示す番号を表示します。

印刷順序をどれか一つを選択します。



：図の 1 番から 16 番の順に印刷します。

：図の 4 番から 13 番の順に印刷します。

：図の 13 番から 4 番の順に印刷します。

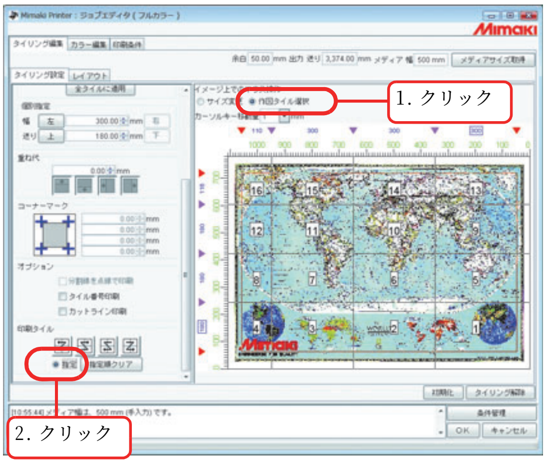
：図の 16 番から 1 番の順に印刷します。

印刷するタイルを自由に指定する

タイルの印刷順を自由に決める場合や、指定したタイルだけを印刷する場合に設定します。

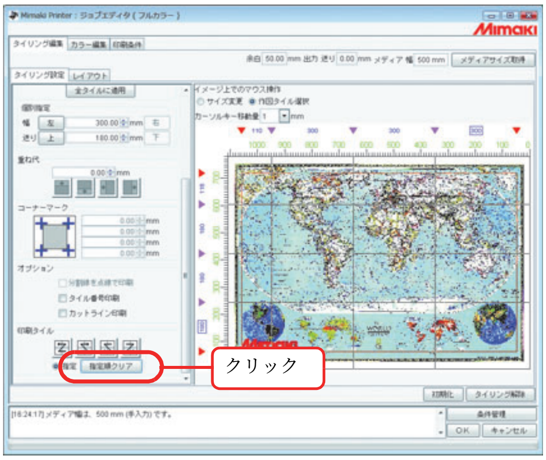
1 “ 作図タイル選択 ” をクリックします。

タイリングプレビューにタイルの印刷順序を示す番号を表示します。
印刷タイルの “ 指定 ” を選択します。
[指定順クリア] がアクティブになります。

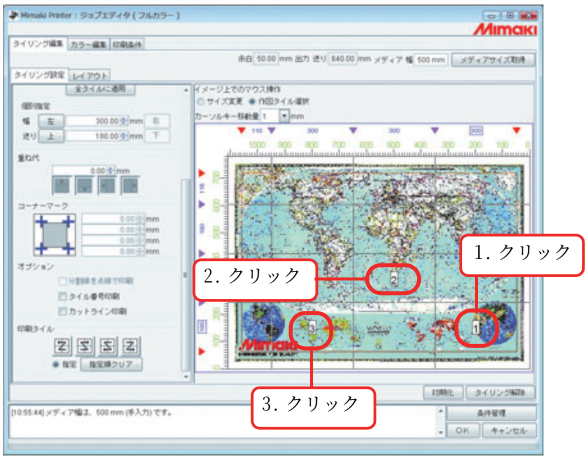


2 [指定順クリア] をクリックします。

印刷順序を示す数字が、タイリングプレビューから消えます。



3 タイリングプレビュー上で、印刷したいタイルを順番にクリックします。



印刷順序を間違えた場合、 指定順クリア をクリックし、最初から指定します。

重 要! 指定順クリア をクリックした後に印刷タイルを指定しない場合、 OK をクリックしても設定を完了できません。印刷タイルを指定してください。

タイルをレイアウトする

初期状態では、全てのタイルを、常にプリンタ原点位置に配置します。

> 重 要！
> 2 番目以降のタイルを印刷する場合、各タイルの印刷前に、プリンタ本体に新規メディアをセットしてください。新規メディアをセットしないで印刷すると、2 番目以降のタイルが印刷済みのタイルを上書きします。
> ☞「タイルを印刷する」（58 ページ）

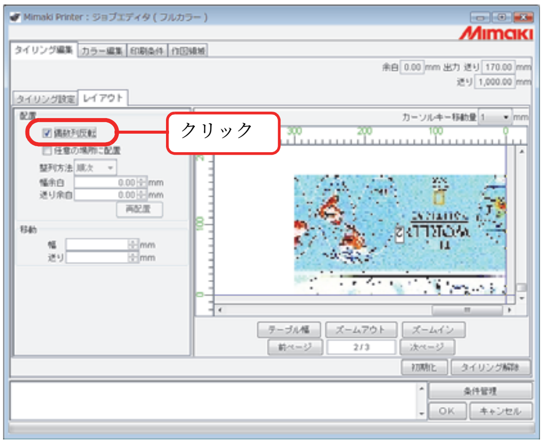
偶数列を反転させる

プリントしたときにタイルの左右で色の差が生じる場合、“ 偶数列反転 ” 機能が有効です。

> 重 要！
> 偶数列のタイルとは、タイリングプレビューの右端から見て偶数列にあるタイルのことです。

“ 偶数列反転 ” をクリックします。

レイアウトプレビューで反転したタイルを確認できます。

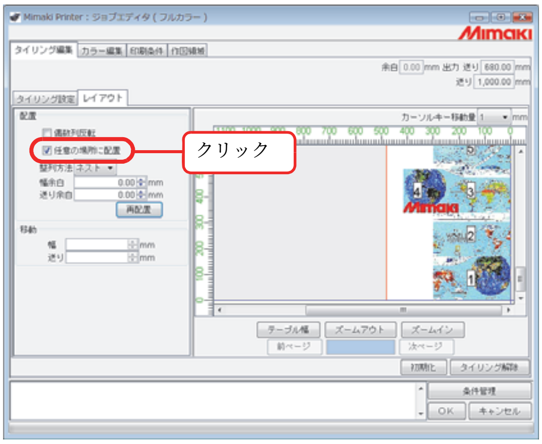


任意の場所に配置する

タイルの配置方法や余白を任意に設定できます。

> **重 要!**
>
> タイルのレイアウトには、「固定配置」と「任意配置」があります。
> - 「固定配置」ではタイル一枚ごとに RIP・印刷します。
> - 「任意配置」では全タイルを RIP してから全タイルを１回で印刷します。
> - 「任意配置」した場合、印刷を開始するまでの時間が長くなります。また出力指定した全タイルの RIP 済データを作成するため、ディスク容量に余裕が必要です。

1 “任意の場所に配置”をクリックします。



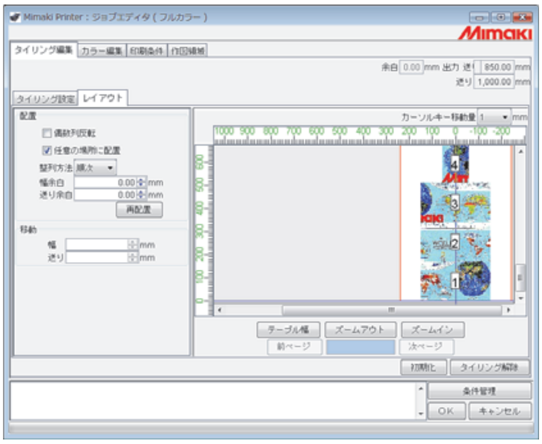
2 “整列方法”を選択します。

必要に応じ“幅余白”、“送り余白”を入力します。

［再配置］をクリックします。

メディアの中央に配置する

メディアの中央にタイルを配置することができます。
作図領域の原点、配置方法で、中央に設定します。
詳しくは「作図領域の編集」（☞ P.154）を参照してください。

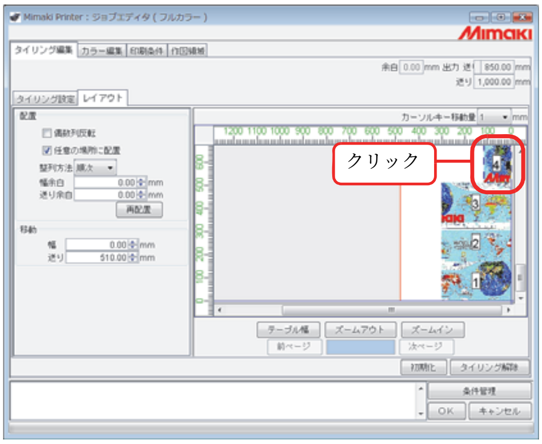


タイルを自由な位置に移動する

“ 任意の場所に配置 ” がチェックしてある場合、それぞれのタイルを自由な位置に移動することができます。

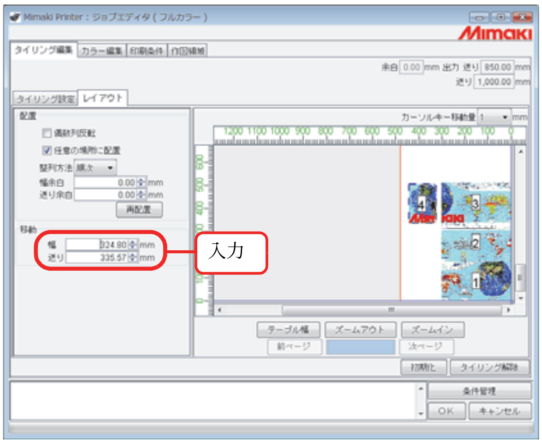
1 レイアウトプレビュー上で、移動したいタイルをクリックします。

クリックしたタイルが青い点線で囲まれ、移動の数値入力ボックスが入力可能になります。



2 移動の “ 幅 ”、“ 送り ” に移動量を入力します。

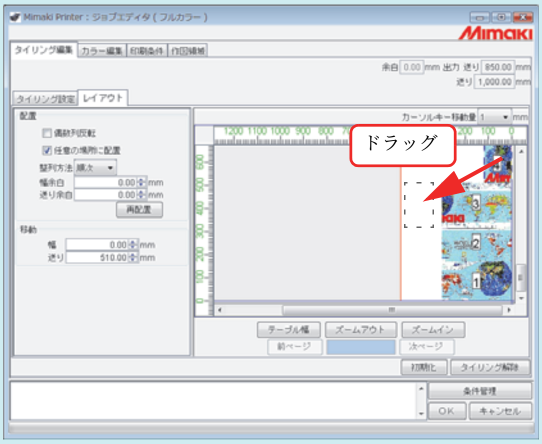
タイルが移動します。



重 要 !

- タイルが重なっている場合、 OK をクリックしても設定を完了できません。
- タイルが一枚でも作図領域から完全にはみ出ている場合、 OK をクリックしても設定を完了できません。はみ出たタイルはレイアウトし直すか、不要なタイルであれば印刷するタイルをタイリング設定で設定し直します。

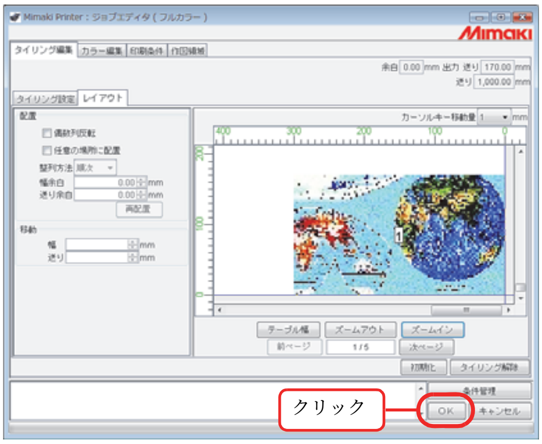
- ドラッグしてもタイルを移動することができます。
- 矢印キー [↑] [↓] [←] [→] でも、“ カーソルキー移動量 ” で指定した移動量で移動できます。



タイリング設定の終了

タイルの設定が終了したら、設定を保存します。

[OK] をクリックします。



重 要!

- [初期化] をクリックし、何も設定しないで [OK] をクリックすると設定を完了できません。
  タイリング設定を行ってください。
- [タイリング解除] をクリックして [OK] をクリックすると、タイリング機能は無効になります。（設定値は残ります。）

タイルを印刷する

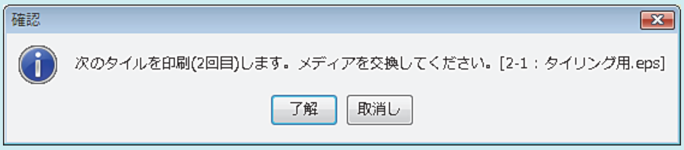
タイリングの印刷は、通常の印刷と同様に“RIP& 印刷 ”、“RIP 後印刷 ”、“RIP のみ ”、“ 印刷のみ ”（RIP 済データがある場合）を選択できます。

印刷方法は、リファレンスガイド　プリンタ共通編「出力する」を参照してください。

必要に応じ、以下の設定をします。

重要！

- 「任意配置」を設定している場合、“ RIP& 印刷 ” はできません。
- 「固定配置」（“ 任意の場所に配置 ” がチェックなし）の場合、２番目以降の各タイルの印刷前に確認ダイアログを表示します。［了解］ボタンをクリックする前に、プリンタ本体に新規メディアをセットしてください。
  ［了解］ボタンをクリックすると、２番目以降のタイルを印刷します。
  ［取消し］ボタンをクリックすると印刷を中止します。



RIP 済データ		説明
なし	残したい	RIP 済みデータを残すと、再印刷時の印刷時間を短縮できます。 ただしハードディスクを大量に使用するため、空き容量不足が生じる場合があります。 出力方法で “ RIP 後印刷 ” を選択します。 または “ オプション設定 ”（「リファレンスガイド　プリンタ共通編　オプション設定」(☞P.98）で、“ RIP& 印刷で RIP 済データを作成する ” をチェックし、“ RIP& 印刷 ” します。 再印刷する場合、“ 印刷のみ ” で印刷できます。
	不要	再印刷しない場合、RIP 済みデータは不要です。 “ オプション設定 ”（「リファレンスガイド　プリンタ共通編　オプション設定」(☞P.98 ）で、“ RIP& 印刷で RIP 済データを作成する ” のチェックを外し、“ RIP& 印刷 ” します。 または “ オプション設定 ”（「リファレンスガイド　プリンタ共通編　オプション設定」(☞P.98）で、“ 印刷後にジョブを削除する ” をチェックし、“ RIP 済データのみ削除する ” を選択します。その後 “ RIP 後印刷 ” します。

<table>
<tr><th rowspan="2">RIP 済
データ</th><th>設定値の変更</th><th rowspan="2">説明</th></tr>
<tr><th>印刷タイル</th></tr>
<tr><td rowspan="5">あり</td><td>変更なし</td><td rowspan="2">全てのタイルの RIP 済みデータが存在します。
“ 印刷のみ ” で印刷します。</td></tr>
<tr><td>全タイル印刷</td></tr>
<tr><td>変更なし</td><td rowspan="2">印刷するタイルを指定します。(「印刷するタイルを自由に指定する」(☞P.51)
“ 印刷のみ ” で印刷できます。</td></tr>
<tr><td>特定タイル印刷</td></tr>
<tr><td>変更あり</td><td>タイル設定を変更した場合、“ ジョブエディタ ” の [OK] をクリック時に RIP 済データを削除します。
“ RIP 後印刷 ” または “ RIP& 印刷 ” を実行すると、再 RIP します。

ただし、以下の設定変更では RIP 済データは削除されません。
・印刷タイル指定
・“ 任意の場所に配置 ” の ON/OFF
・“ 任意の場所に配置 ” が ON の場合の各タイルの印刷位置
・中央合わせの ON/OFF

全てのタイルを再 RIP する場合、“ RIP 済データの削除 ” を行ってから “ RIP& 印刷 ” または “ RIP 後印刷 ” を行います。</td></tr>
<tr><td>部分的
にあり</td><td></td><td>印刷タイルを指定して RIP している場合や印刷実行中に処理を中断した場合、RIP 済データ欄が “ 部分的にあり ” になります。どのタイルが RIP 済データかを調べるには、ジョブの “ プロパティ ” を表示します。(「リファレンスガイド プリンタ共通編 ジョブのプロパティ」(☞P.97) [実行結果] タブをクリックし、確認します。

再印刷する RIP 済データが全てそろっている（変更点がない）場合、“ 印刷のみ ” で印刷できます。

RIP が済んでいないタイルを同時に印刷する場合、“ RIP 後印刷 ” を選択します。
RIP 済のタイルは変更がなければ再 RIP しません。変更があった場合 “ ジョブエディタ ” の [OK] をクリック時に RIP 済データを削除します。ただし、変更内容によっては削除しません。(☞上記の「RIP 済みデータ欄 “ あり ” 、設定値の変更欄 “ 変更あり ”」)</td></tr>
</table>

複数のジョブを一度に印刷する（グループ化）

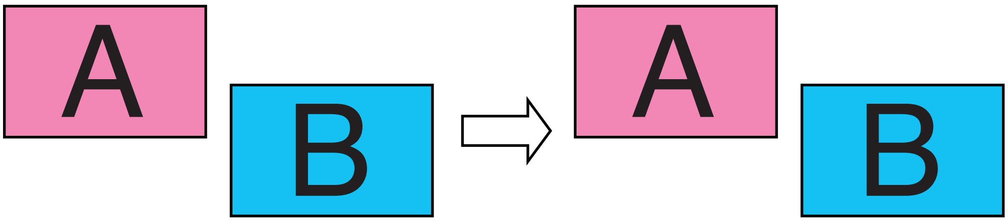
ジョブをグループ化することで、複数のジョブを同時に出力することができます。

> **重要！** 印刷条件が異なるジョブをグループ化する場合、印刷条件は、先頭ジョブの条件に合わせられます。

グループ化には 2 種類あります。

面付け

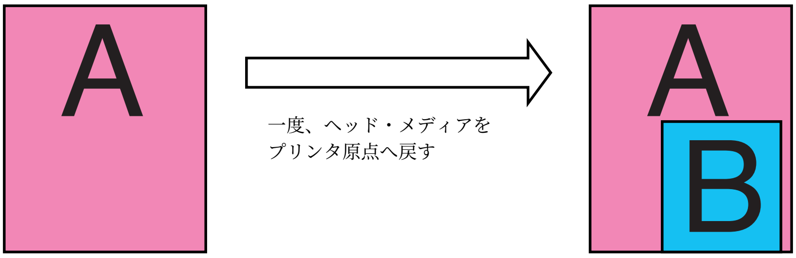
すべての画像は 1 回でまとめて印刷します。



A と B の画像が同時
に印刷される

合成

1 画像を出力後、ヘッド、メディアをプリンタ原点へ戻し、違う画像を印刷します。
そのため、先に印刷した画像に、重ねて印刷することが可能です。



画像 A を印刷

先に印刷した画像 A の上
に画像 B を重ねて印刷

> **重要！** UJF-706 で白単色またはクリアのみの画像とカラー画像を合成する場合、上記とは異なる印刷方法になります。詳しくは「UJF-706/3042(FX)/3042HG で複数のジョブを合成印刷する場合」（☞ P.73）をご覧ください。

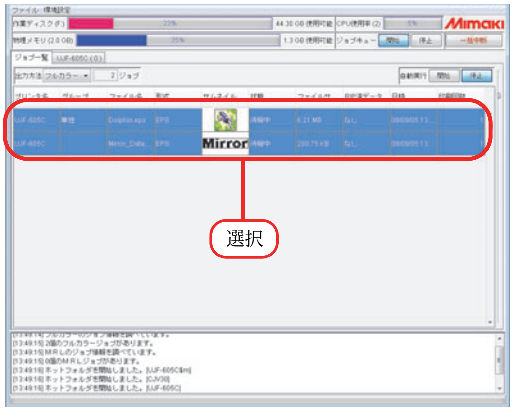
面付けの指定方法

> **重要!** 画像によっては、隙間なく配置しても画像と画像の間に空白部分が挿入される場合があります。

“ ジョブ一覧 ” 上で面付けする

> **重要!**
> - “ パネリング ” を設定しているジョブを面付けすることはできません。
> - コピーを 2 部以上設定しているジョブを面付けすることはできません。
> - “ 状態 ” が “ 待機中 ”、“ 印刷済 ”、“ 中断 ”、“ エラー ” 以外のジョブを面付けすることはできません。

1 “ ジョブ一覧 ” より複数のジョブを選択します。

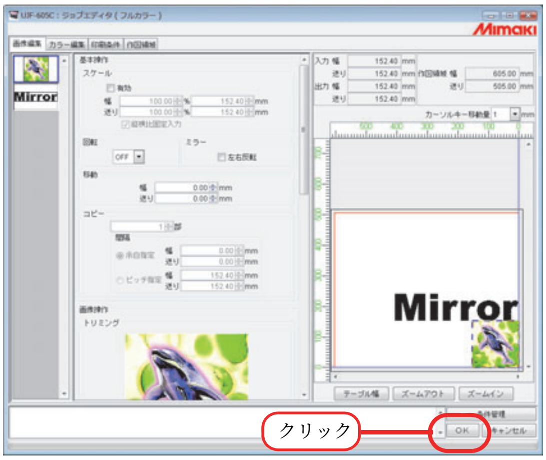


> - [Ctrl] キーを押しながらジョブをクリックすると、クリックしたジョブだけ選択できます。
> - [Shift] キーを押しながらジョブをクリックすると、最初に選択したジョブから次にクリックしたジョブまで全て選択します。

2 “ ジョブエディタ ” を開きます。

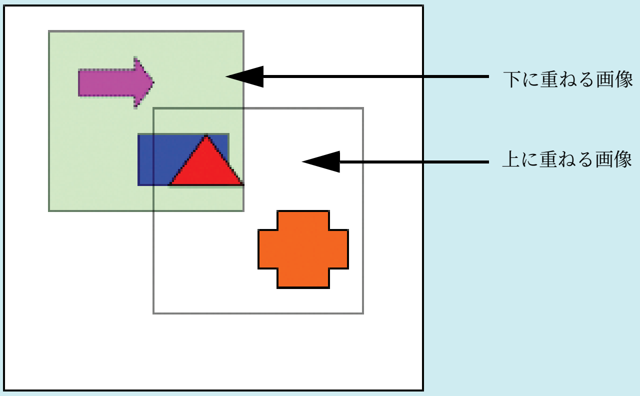
“ ジョブエディタ ” の開き方は、「リファレンスガイド プリンタ共通編」（☞ P.75）をご覧ください。

ジョブの編集を行い、[OK] ボタンをクリックします。



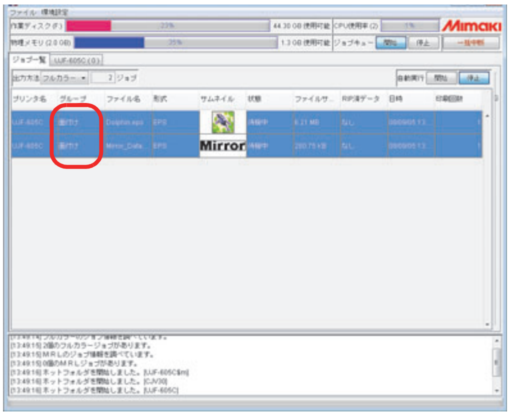
重要！

- 画像を重ねて配置する場合、サムネイルリストに表示されている一番上の画像から順番に、重ねて印刷します。
- 画像が重なっている部分は、上に配置する画像の有効画素が優先的に印刷されます。



重ねて印刷する例

3 “ジョブ一覧”の“グループ”に“面付け”と表示します。



面付けしたジョブを“ ジョブエディタ ”で開くと、面付け中のジョブ全てを“ ジョブエディタ ”に表示します。

ジョブの編集中に面付けするジョブを追加する

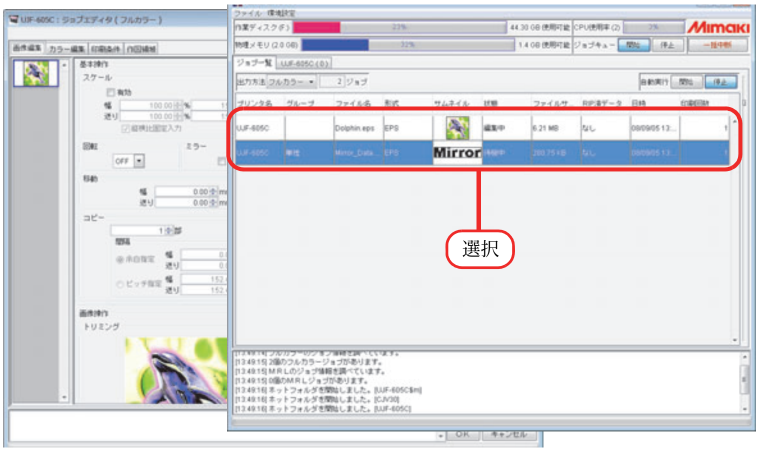
“ ジョブエディタ ” でジョブの編集中にも、面付けするジョブを追加できます。
“ ジョブ一覧 ” のジョブを “ ジョブエディタ ” に追加します。

> **重 要 !**
> - 現在編集中、または追加するジョブに “ パネリング ” 設定してある場合、ジョブの追加はできません。
> - 追加するジョブが “ 合成 ” の場合、ジョブの追加はできません。
> - 現在編集中または追加するジョブにコピーを 2 部以上設定している場合、ジョブの追加はできません。
> - “ 状態 ” が “ 待機中 ”、“ 印刷済 ”、“ 中断 ”、“ エラー ” 以外のジョブを追加することはできません。

1 “ ジョブエディタ ” を開いたまま追加するジョブを選択し、ダブルクリックします。

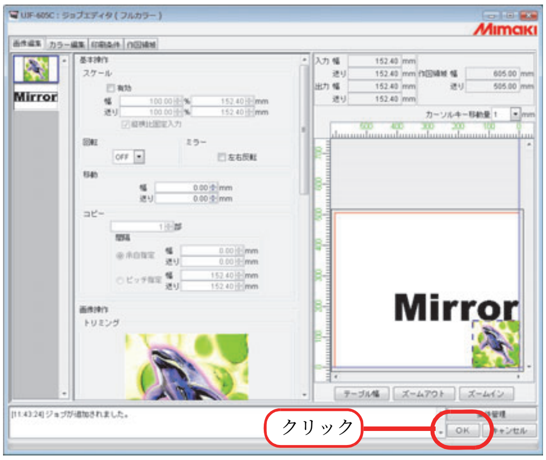
次の方法でもジョブを追加できます。

- 右クリックをして “ 編集 ” を選択する
- Ctrl キーを押しながら E キーを押す

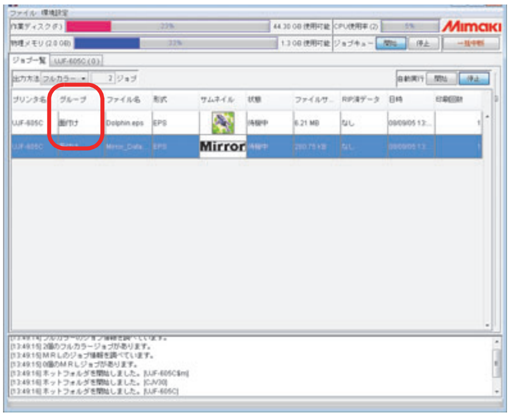


2 “ ジョブエディタ ” にジョブを追加しました。

ジョブの編集を行い、 OK ボタンをクリックします。



3 “ ジョブ一覧 ” の “ グループ ” に “ 面付け ” と表示します。



面付けしたジョブを“ ジョブエディタ ” で開くと、面付け中のジョブ全てを“ ジョブエディタ ” に表示します。

面付けの解除

面付けしたジョブは、面付けを解除することができます。

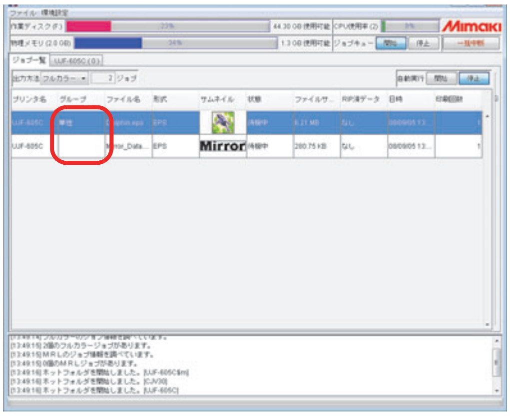
> **重 要!** “ 状態 ” が “ 待機中 ”、“ 印刷済 ”、“ 中断 ”、“ エラー ” 以外のジョブは、面付け解除できません。

1 面付けしているジョブを一つ選択します。

右クリックをして“グループ解除”を選択します。

または Ctrl キーを押しながら U キーを押します。

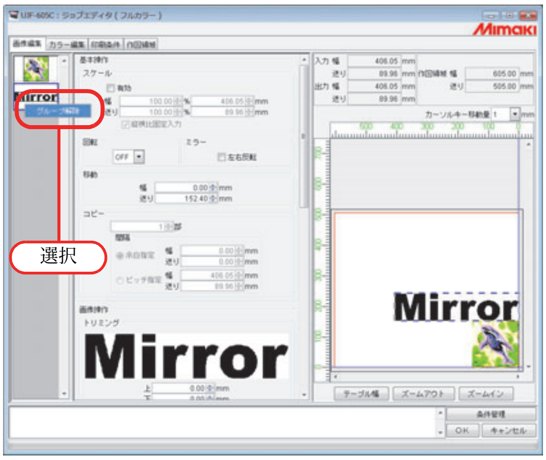
2 “ジョブ一覧”の“グループ”の“面付け”が解除されます。



面付けジョブ編集中の面付け解除

面付けしたジョブを編集中に、“ジョブエディタ”からジョブの面付けを解除することができます。

面付け解除したいジョブのサムネイルを右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。
ポップアップメニューの“グループ解除”を選択すると面付けが解除されます。



面付けに固有の機能（配置 － 整列）

画像を整列させます。

画像を整列する（画像が複数ある場合）

- 整列および余白の設定は、“ ジョブエディタ ” 共通の設定です。
- “ ジョブエディタ ” を起動すると前回の設定値を適用します。
- サムネイルリストで画像を整列する順番を設定できます。（☞P.11）

幅方向に整列（ネスト）

“ ネスト ” を選択します。

必要に応じて幅方向と送り方向の余白量を入力します。

この例では幅方向に 30mm の余白を設定しています。

再配置 ボタンをクリックします。

送り方向に整列（順次）

“ 順次 ” を選択します。

必要に応じて送り方向の余白量を入力します。

この例では送り方向に 50mm の余白を設定しています。

再配置 ボタンをクリックします。

画像を整列する（画像が１つの場合）

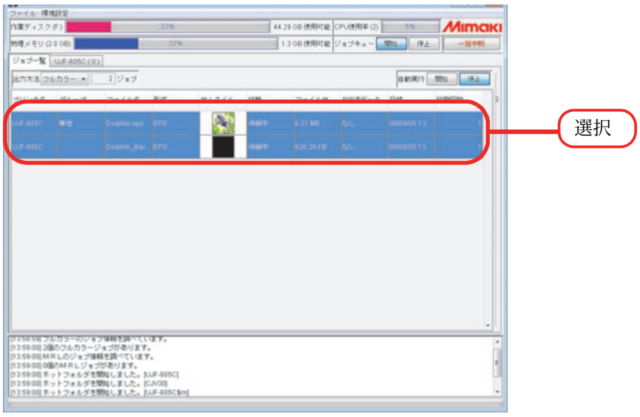
［再配置］ボタンをクリックすると、“整列方法”にかかわらず原点に合わせて配置します。
コピー部数が設定されているジョブでは、再配置できません。

合成の指定方法

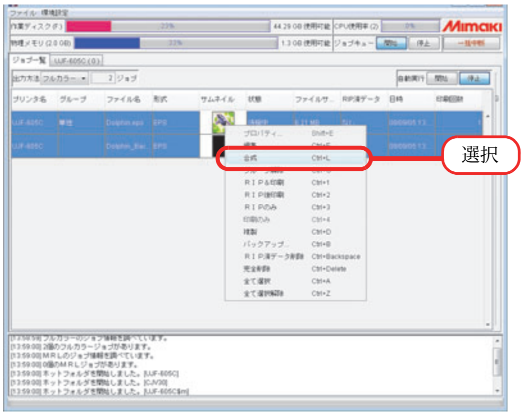
重 要！

- “ パネリング ” を設定しているジョブを合成することはできません。
- コピーを 2 部以上設定しているジョブを合成することはできません。
- “ 状態 ” が “ 待機中 ”、“ 印刷済 ”、“ 中断 ”、“ エラー ” 以外のジョブを合成することはできません。

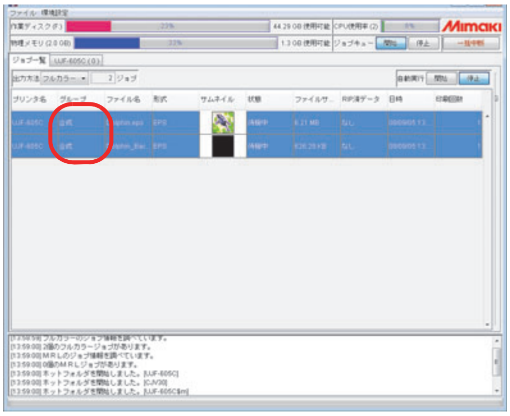
1 “ ジョブ一覧 ” から、同時に出力する画像を選択します。



2 マウスを右クリックし “ 合成 ” を選択します。
または Ctrl キーを押しながら L キーを押します。



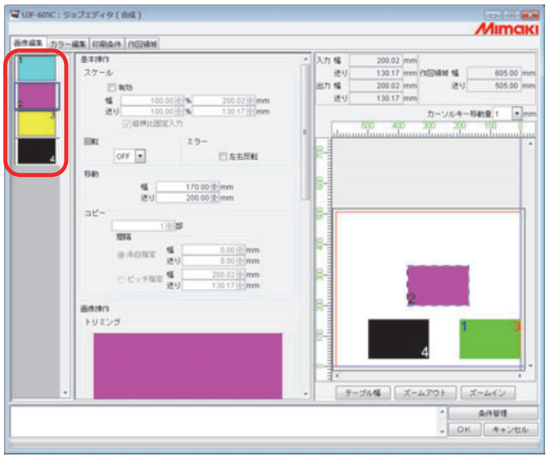
3 選択されているジョブの “ グループ ” 欄に “ 合成 ” と表示します。



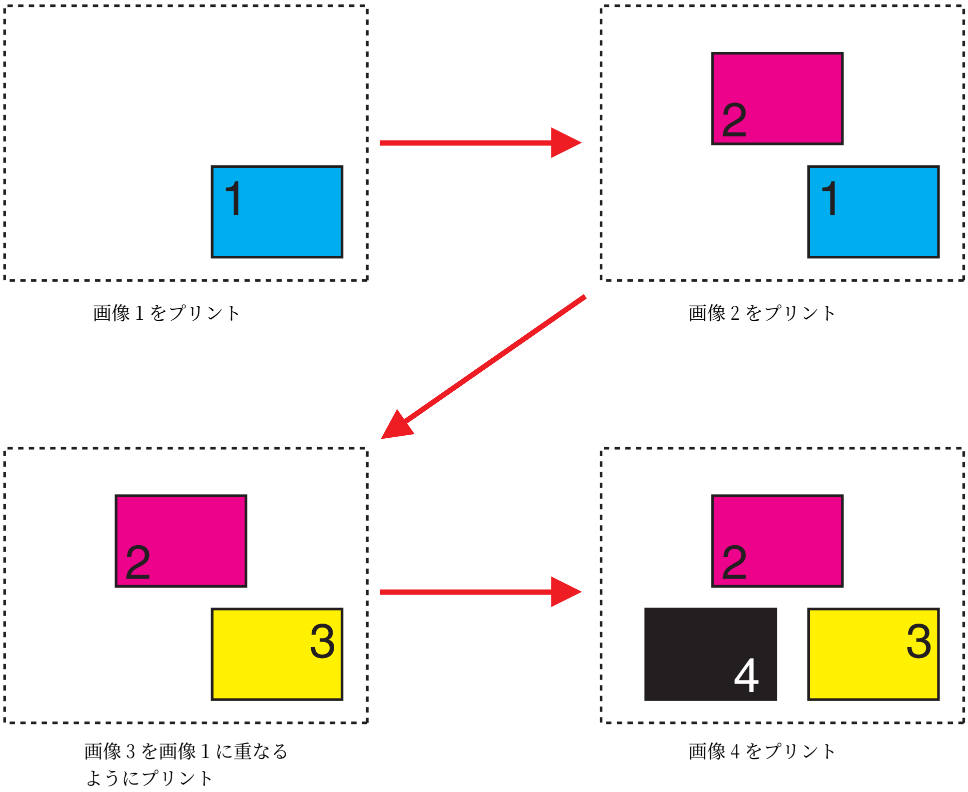
合成した複数ジョブの出力順設定

合成したジョブは、サムネイルリストの上から順に印刷していきます。

印刷順を変更する場合、変更したいジョブのサムネイルを選択し、ドラッグアンドドロップして順番を入れ替えます。



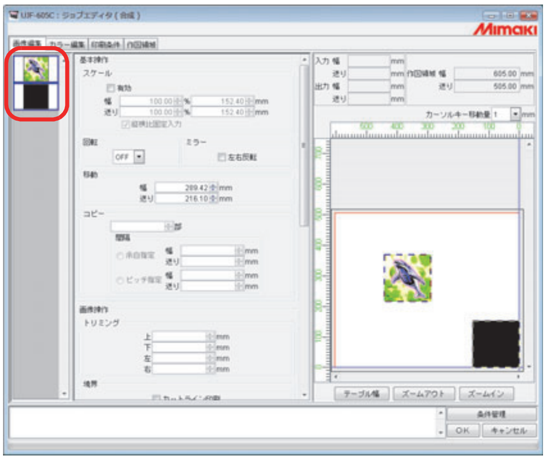
“ジョブエディタ”で上記のような設定をした場合、次の順で印刷します。(→の間に、ヘッドとメディアを一度プリンタ原点に戻します。)



合成に固有の機能

画像を重ね合わせる（整列）

1 重ね合わせたいジョブを、サムネイルリストから選択します。
またはレイアウトプレビュー上で選択します。



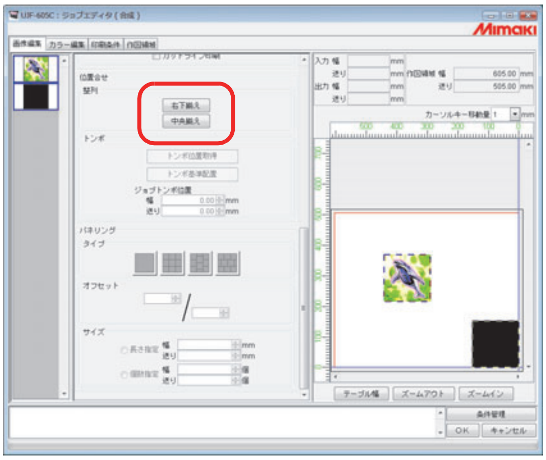
2 “位置合わせ”“整列”の 右下揃え または 中央揃え をクリックし、複数のジョブの位置合わせをします。

右下揃え

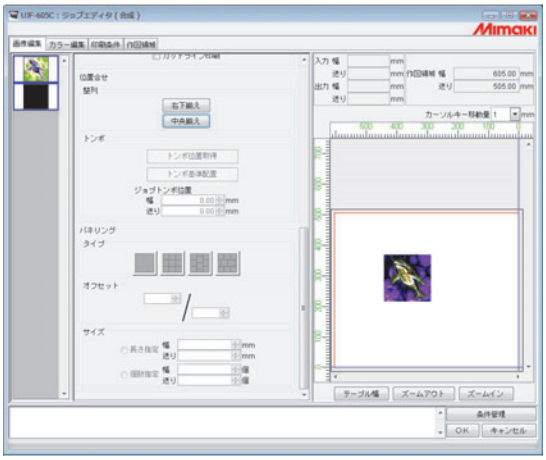
一番最初に選択した画像の右下に、他の画像の右下を合わせて移動します。

中央揃え

一番最初に選択した画像の中央に、他の画像の中央を合わせて移動します。



中央揃え を実行



UJF-706/3042(FX)/3042HG で複数のジョブを合成印刷する場合

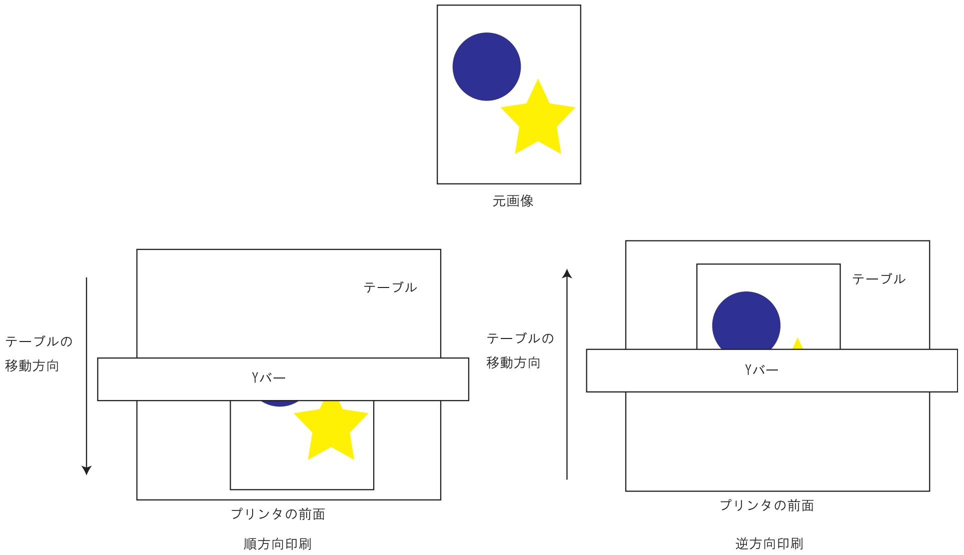
UJF-706/3042(FX)/3042HG で合成印刷を行う場合、以下のように、印刷方法は他のプリンタと異なります。

逆方向印刷

一般的なフラットベットプリンタは、テーブルの原点から印刷を開始しますが、UJF-706/3042(FX)/3042HG の場合、そのときの状況に合わせて、自動的に原点の逆方向から印刷を開始します。

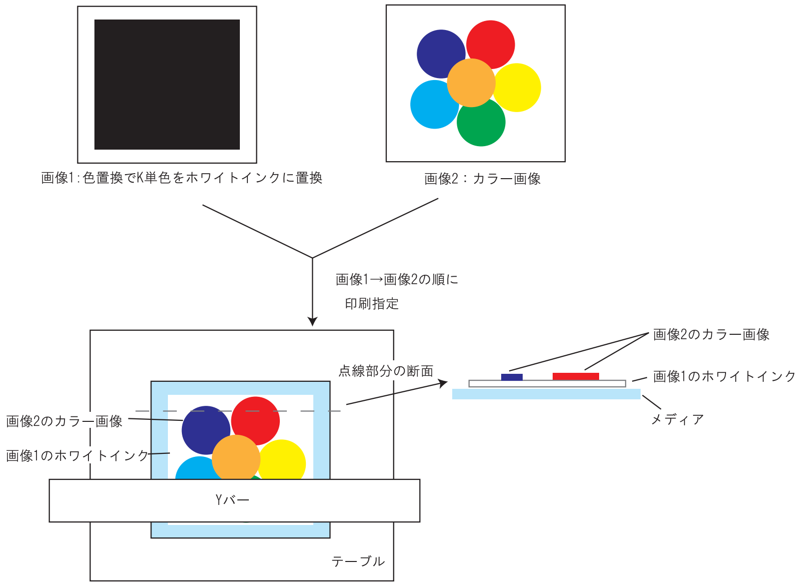
これには以下の利点があります。

- 複数の画像を合成した際、一度原点に戻ることなく印刷できる。
- 特色重ね印刷で、白→カラーが 1 回で印刷できる。



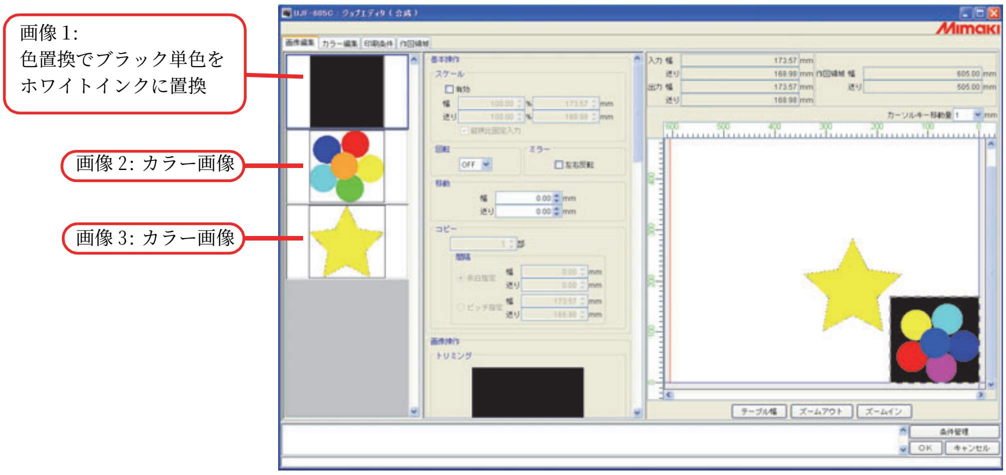
特色重ね印刷

UJF-706/3042(FX)/3042HG でホワイトインク単色またはクリアコートのみの画像とカラー画像を合成して出力する場合、”特色重ね印刷 ”が行えます。“特色重ね印刷 ”は、1 回の印刷で、ホワイトまたはクリアコートをカラー画像に重ねて印刷する方法です。ジョブの色置換設定（☞ P.93）により、自動的に特色重ね印刷を実行するため、特別な設定は必要ありません。

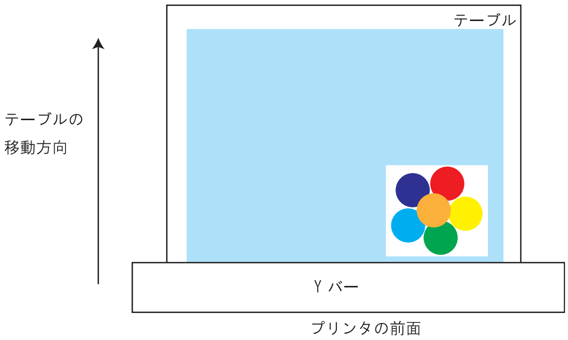


合成印刷するときの UJF-706/3042(FX)/3042HG の具体的な動作を説明します。

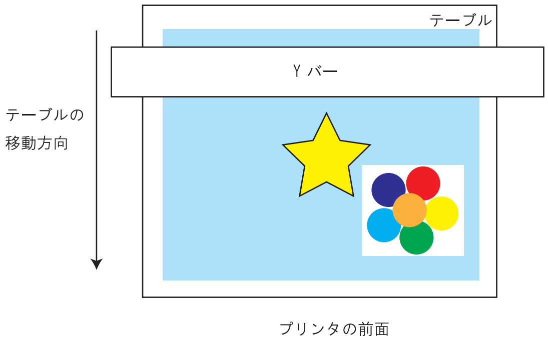
例 1　ホワイト単色とカラー画像の合成



1 画像 1 と画像 2 を逆方向で特色重ね印刷します。
（画像 1 のホワイトインクの上に画像 2 のカラー画像が印刷されます）



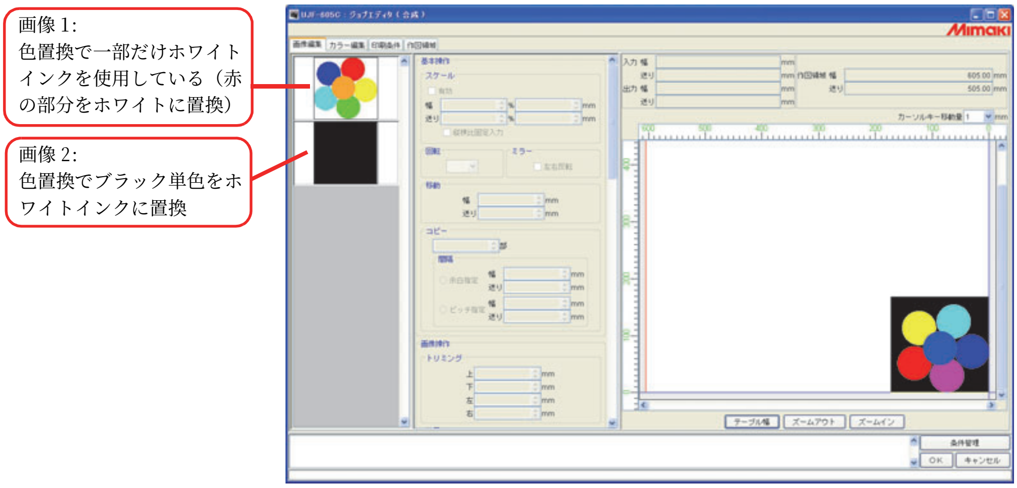
2 画像 3 を順方向で印刷します。



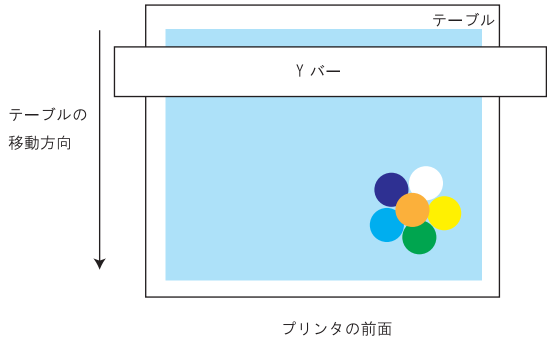
重 要！

- ホワイトインク単色の画像とカラー画像を特色重ね印刷する場合、重ね順により印刷方向は以下のようになります。
  ホワイト→カラー：逆方向
  カラー→ホワイト：順方向
- できる限りテーブルの移動を少なくし、時間が短縮されるように、印刷方向を制御します。

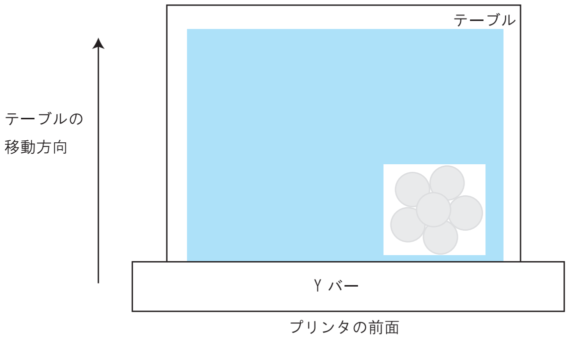
例 2　ホワイト単色と一部だけホワイトに色置換したカラー画像の合成



1 画像 1 を順方向で印刷します。

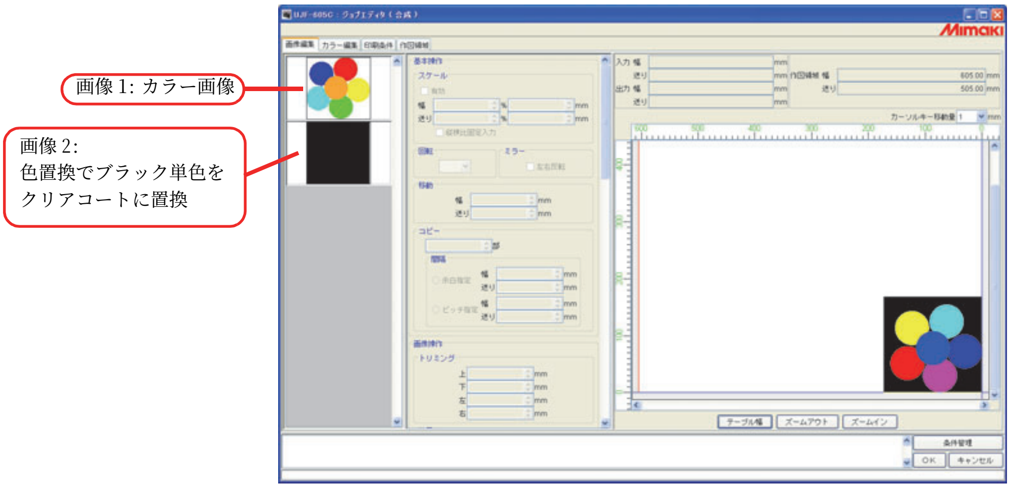


2 画像 2 を逆方向で印刷します。



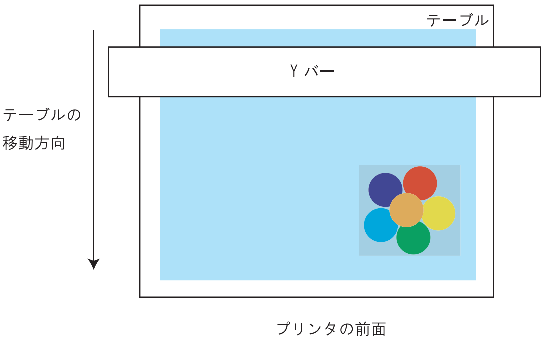
重 要！	ホワイトインク単色と合成する画像内に、ホワイトインクが使用されている場合、特色重ね印刷は行いません。

例 3　クリアコートのみとカラー画像の合成



印刷条件の UV モードサブメニューで“ クリアコート照射モード ”の“ マット調印刷 ”を選択（☞ P.150）

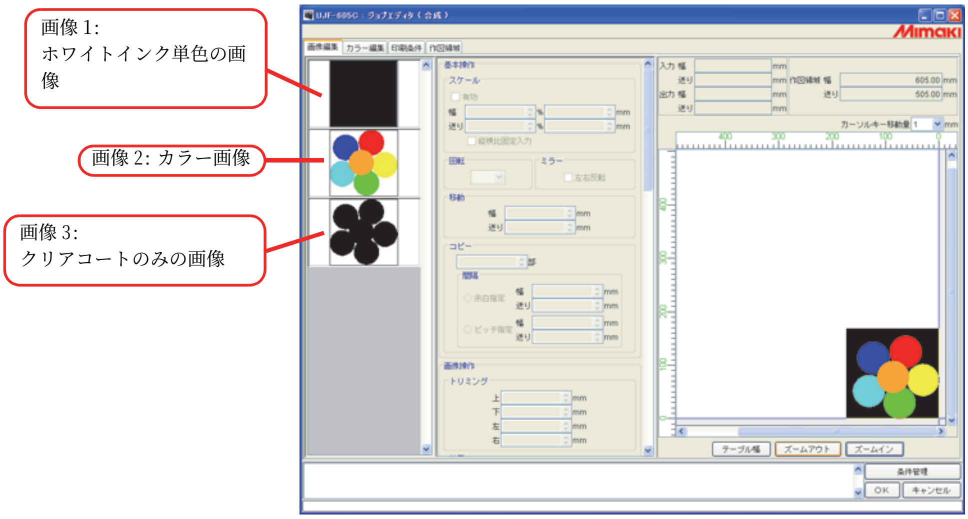
1 順方向で画像 1 と画像 2 を特色重ね印刷します。
（画像 1 のカラー画像の上に画像 2 のクリアコートが印刷されます）



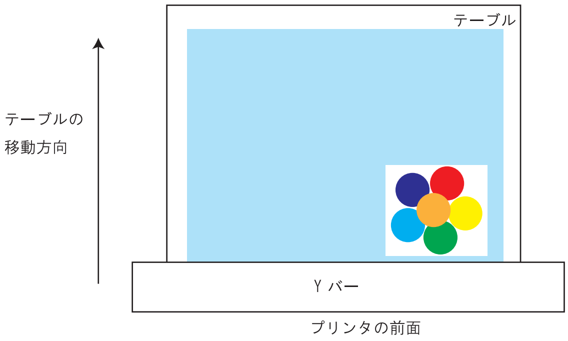
重 要!

- 印刷条件の“ UV モード ”-“ クリアコート照射モード ”で [マット調印刷] を指定している場合、カラー画像とクリアコートのみの画像を特色重ね印刷します。
- 印刷条件の“ UV モード ”-“ クリアコート照射モード ”で [圧盛り印刷] を指定している場合、1 回目のみ特色重ね印刷を行い、それ以後はクリア単独で印刷します。
- カラー画像とクリアコートのみの画像を特色重ね印刷する場合、“ クリアコート照射モード ”で指定した UV 照度を使用します。

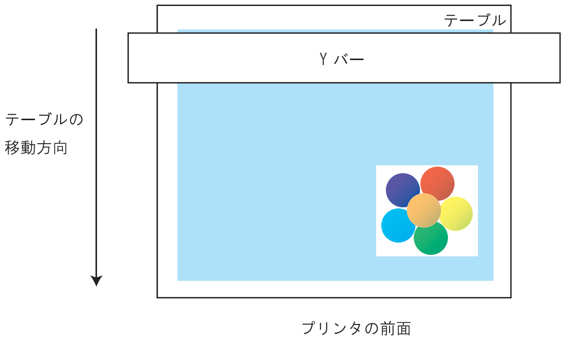
例 4　ホワイト単色、カラー、クリアコートのみの画像の合成



1 画像 1 と画像 2 を逆方向で特色重ね印刷します。
（画像 1 のホワイトインクの上に画像 2 のカラー画像が印刷されます）



2 画像 3 を順方向で印刷します。

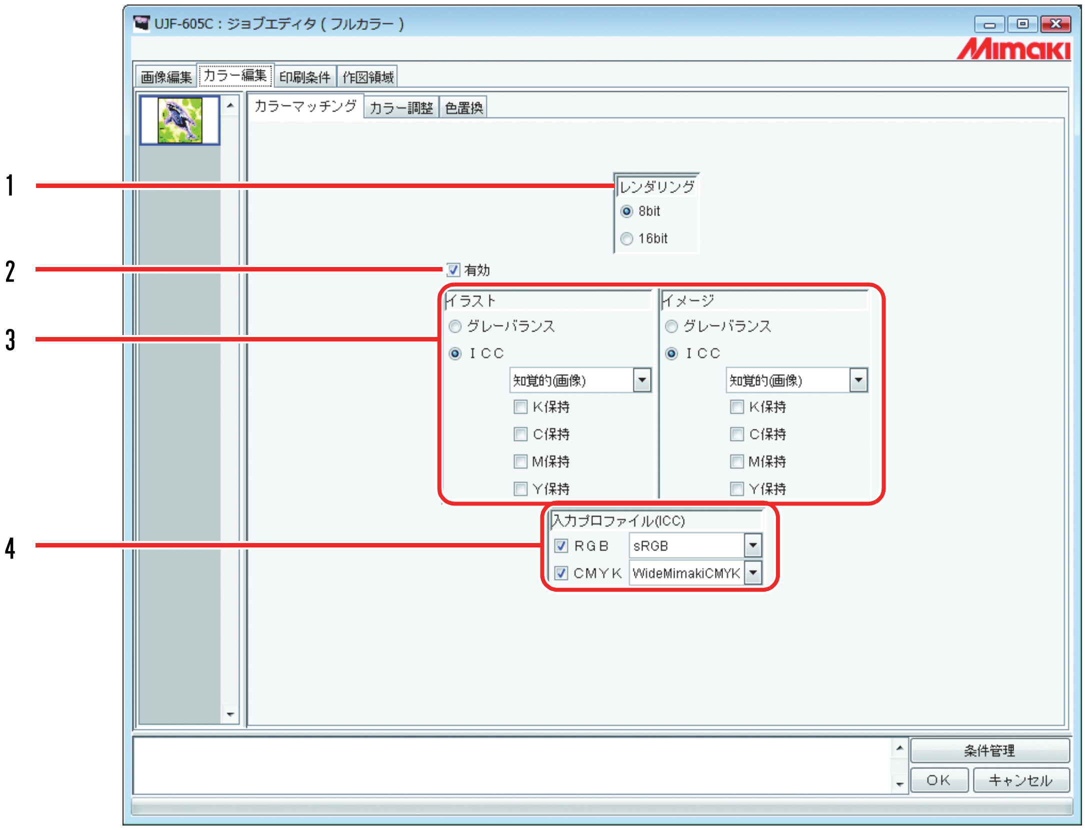


カラー編集

“ジョブエディタ”ウィンドウの“カラー編集”で、カラーマッチング方法等を指定します。
カラー編集を行うジョブを、左のサムネイル一覧から選択します。

重要!
- **ダイアログについて**
  このマニュアルは UJF-605C の画面を元に作成していますが、この章では説明に他機種の画面を使用している場合があります。
  ご使用のプリンタ名に置き換えてご覧ください。
- カラー編集はジョブごとに行います。複数のジョブを編集中の場合、サムネイルリストからカラー編集を行うジョブを選択して設定します。

カラーマッチングの設定を行う



1. レンダリング

印刷条件でバージョン 3.0 のデバイスプロファイルを選択するとレンダリング画面を表示します。

8bit:　従来と同様の画質で印刷します。

16bit:　グラデーションを滑らかに印刷します。

バージョン 2.0 のデバイスプロファイルを選択すると、レンダリング画面を表示しません。従来と同じ 8bit で印刷します（☞ P.143）。

2. 有効

カラーマッチング機能を有効にします。

“カラーマッチング”ページで設定した条件で作図します。

3. イラスト / イメージ

1ファイル内にあるイラスト部分とイメージ部分に対して別々にカラーマッチングを設定します。

グレーバランス：	CMYK データの場合有効です。 データで指定されたインク色に、指定以外のインクが混じらないようにして全体の色を合わせます。 カラーマッチングの精度は ICM より劣ります。 バージョン 2.0 のデバイスプロファイルから変換したバージョン 3.0 のデバイスプロファイルを印刷条件で選択している場合、グレーバランスは選択できません。
ICM ：	ICC プロファイルによるカラーマッチングを行います。 通常は、こちらを選択してください。
	知覚的（画像）　ジョブが写真の場合に適しています。画像全体の明るさが、入力画像により近くなるようにカラーマッチングします。
	彩度（グラフィック）　ジョブがイラストの場合に適しています。なるべく濃い色が出るようにカラーマッチングします。
	相対的な色域を維持　白色に対する印刷色の関係を、入力画像に近づけるようにカラーマッチングします。入力画像が基準としている白とメディアの色が異なる場合、印刷色はメディアの色で変わります。例えば、黄色味かかったメディアに印刷する場合は、入力画像より全体的に黄色味を帯びて印刷します。
	絶対的な色域を維持　メディアの色に影響されずに、入力画像に色を近づけるようにカラーマッチングします。入力画像の白とメディアの色が異なる場合、メディアの色を入力画像の白に近づけようとします。このため画像がない場所にもインクを吐出する場合があります。
K 保持、C 保持： M 保持、Y 保持	一次色のシアン、マゼンタ、イエロー、ブラックで作成されたデータはカラーマッチングを行わずに作図し、他のインクが混ざって印刷されるのを防ぎます。

4. 入力プロファイル（ICM）

データを作成したときのプロファイルを選択します。

チェックを外すと、グレーバランスモードになります。

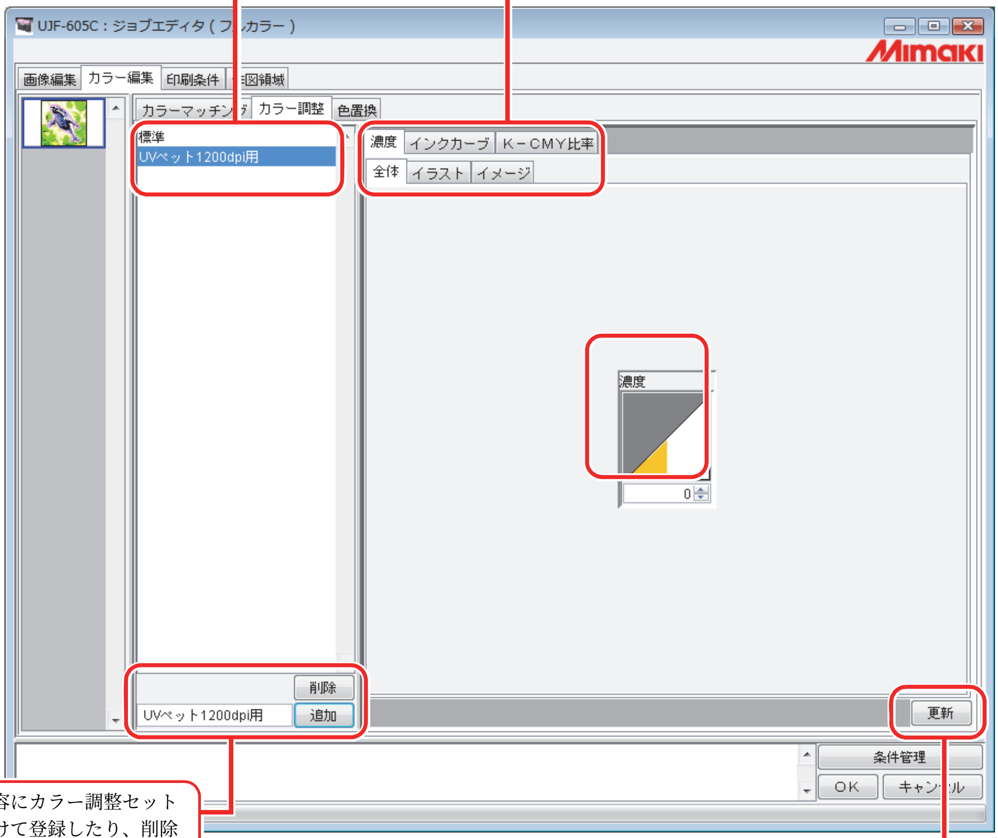
重要! 入力画像がスキャナーなどの特別なプロファイルを持っている場合、そのプロファイルを入力プロファイルに指定することで色の再現性がよくなる場合があります。
プロファイルは Profile Manager で登録する必要があります。

カラー調整を編集する

画像の色味を調整します。調整した値は、カラー調整セットとして登録できます。
“ カラー調整 ” で、各プロファイル毎にカラー調整セットを登録します。

カラー調整セットリストです。
“ 標準 ” を選択した場合、カラー調整の編集はできません。
カラー編集を行う場合は、新規にカラー調整セットを作成します。（☞ P.81）

調整を行うタブをクリックします。
濃度（☞ P.83）
インクカーブ（☞ P.85）
K-CMY 比率（☞ P.92）



設定内容にカラー調整セット名を付けて登録したり、削除する際に使用します。
（☞ P.81）

設定内容を選択中のカラー調整セットに適用します。

カラー調整セットを作成する

カラー調整セットは、プロファイル毎に作成します。

1 [印刷条件] メニューをクリックします。

カラー調整セットを作成するプロファイルをクリックします。

重 要！
- カラー調整セットは、プロファイル毎に作成します。
- カラー調整セットを使用して印刷する場合、カラー調整セットを作成した時のプロファイルを選択してください。

2 [カラー編集] メニューをクリックします。

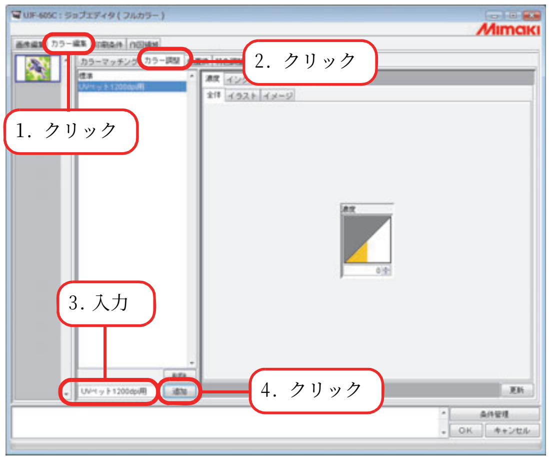
[カラー調整] メニューをクリックします。

カラー調整セット名を入力します。

重 要！
カラー調整セット名に下記の半角文字は使用できません。
\ / : * ? “ < > I

[追加] ボタンをクリックします。

すでに同じ名前のカラー調整セットがある場合は、上書きの確認メッセージを表示します。



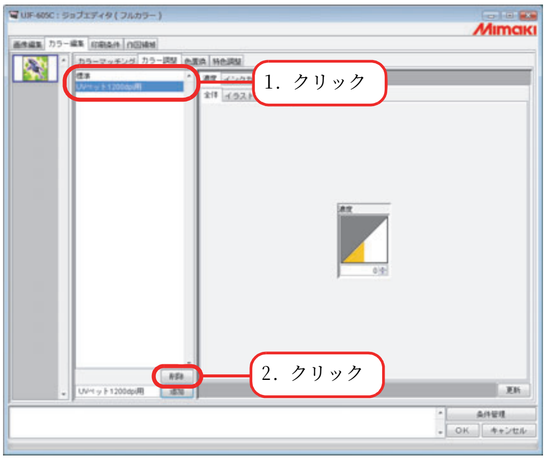
- 新規にカラー調整セットを作成する場合は、“ 標準 ” を選択します。その後、セット名を入力して [追加] ボタンをクリックします。
- 登録済みのカラー調整セットを複製する場合は、編集するセットを選択し、セット名を変えた後に [追加] ボタンをクリックします。

カラー調整セットを削除する

登録したカラー調整セットをクリックします。

［削除］ボタンをクリックすると、選択したカラー調整セットを削除できます。

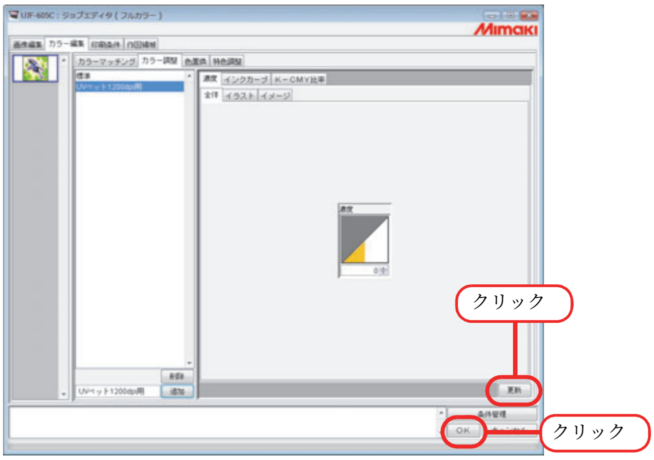
重要！ “標準”セットは、削除することはできません。



カラー調整セットを更新する

設定したカラー調整情報を更新するには、

［更新］ボタンをクリックするか、［OK］ボタンをクリックし、“ジョブエディタ”を終了させます。

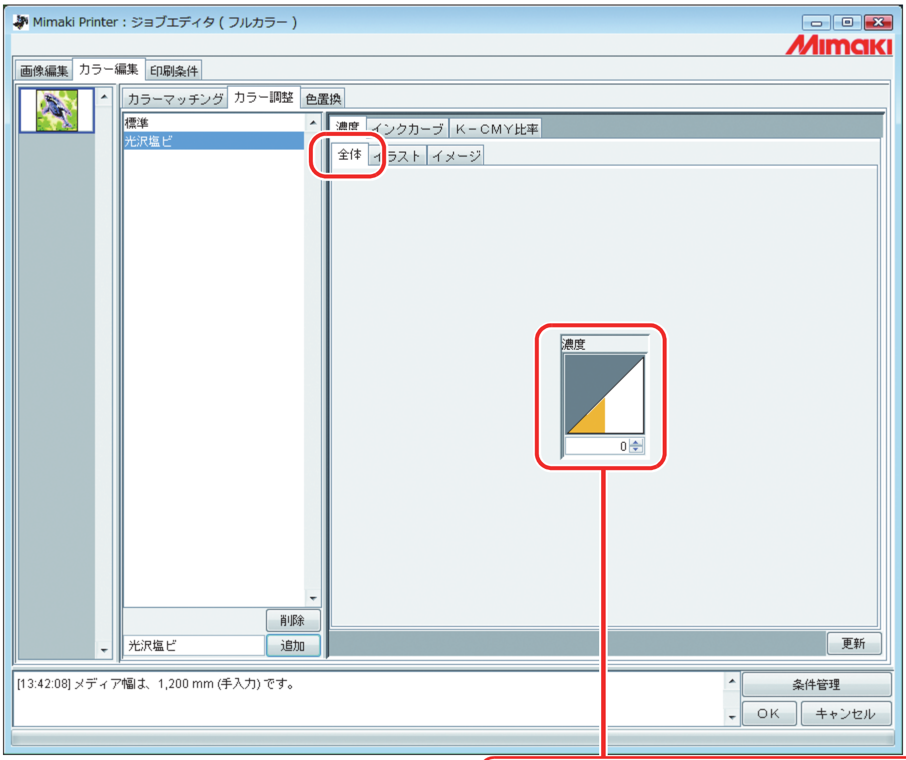


インク濃度の調整

全てのインク濃度を調整する

全てのインクの最大使用量を調整します。

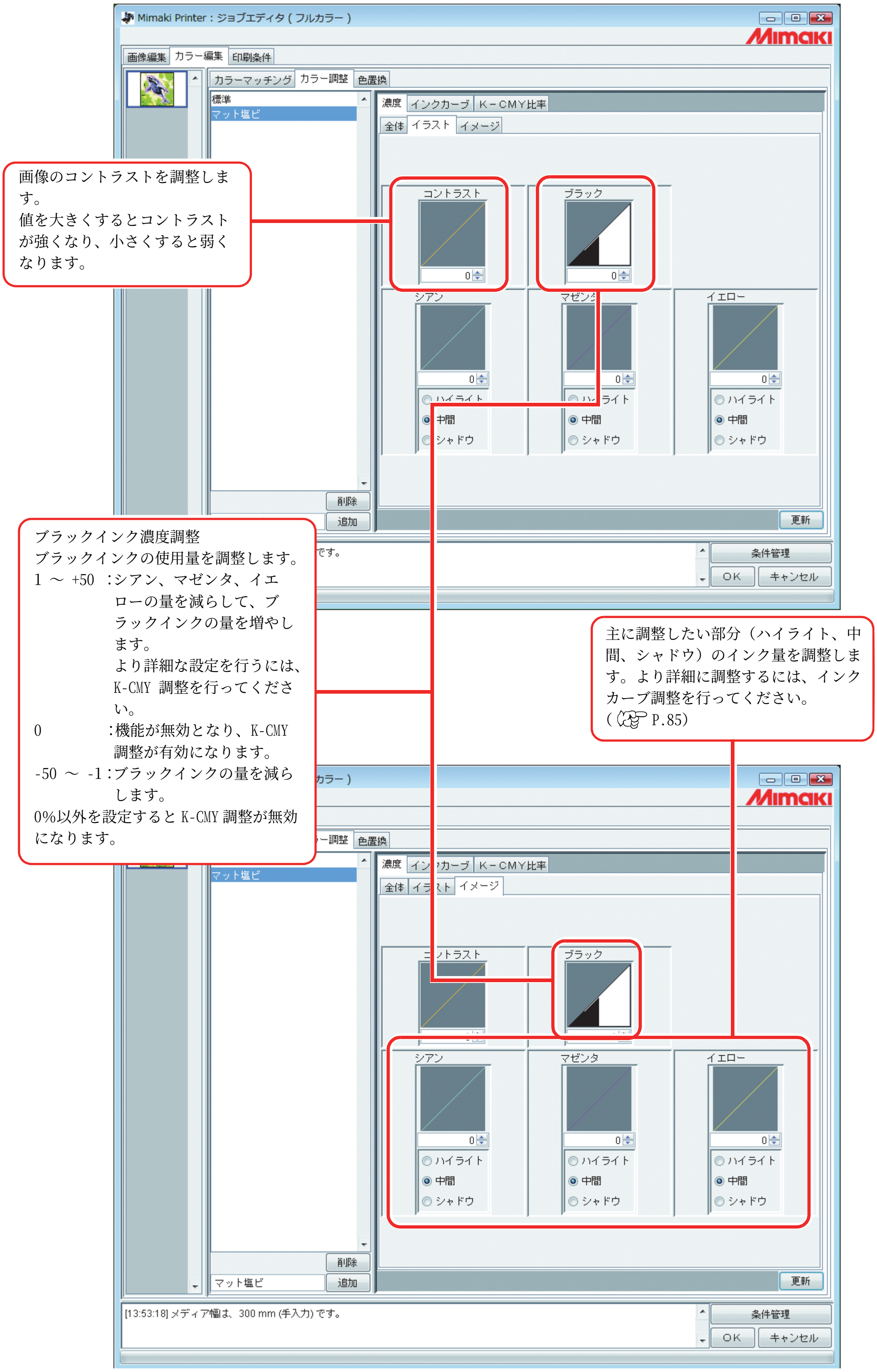
▲、または ▼ をクリックすると、５単位で数値が変わります。また、数値ボックスに直接数字を１単位で入力することができます。値は -50% から +50% までの範囲で設定できます。



全てのインクの最大使用量を調整します。
この調整は、イラストとイメージの区別なく反映します。
全体の濃度をプラス値に設定すると、各色のインクリミット値を超えて印刷できます。

イラスト部分、イメージ部分のインク濃度を調整する

1 ファイル中の、イラスト部分とイメージ部分の各インク量の調整を行います



より詳細にカラー調整をするには（インクカーブ）

インク濃度を変更しても思い通りの色で出力できない場合は、各インクのインクカーブを調整します。

インクカーブの調整方法はデバイスプロファイルのバージョンによって異なります。

バージョン 1.0、2.0 のデバイスプロファイル

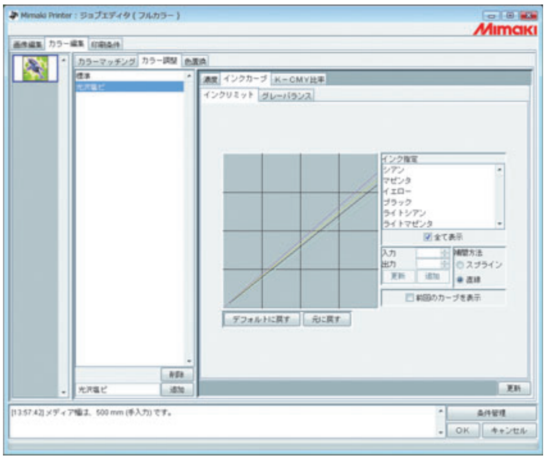
インクリミット : 全色のインクに対してインク濃度を調整します。

グレーバランス : ブラック、シアン、マゼンタ、イエローの 4 色のみを使用してインク濃度を調整します。
グレーバランスはバージョン 2.0 のみ有効です。

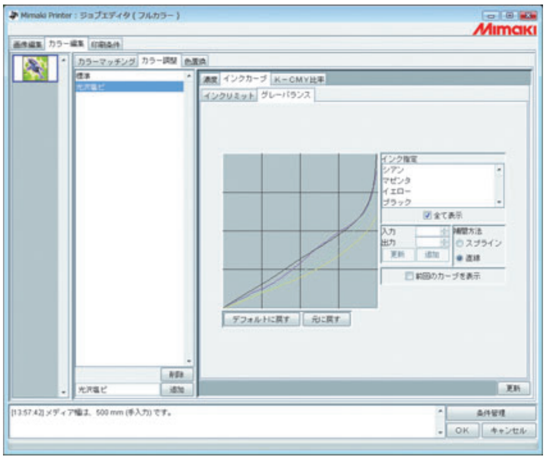
重 要 !

- “ グレーバランス ” は、“ カラーマッチング ” メニュー（☞ P.78）で、グレーバランスを選択した場合のみ有効になります。
- インクカーブは、イメージとイラストの区別なく画像全体に反映します。

“ インクリミット ” カーブ



“ グレーバランス ” カーブ

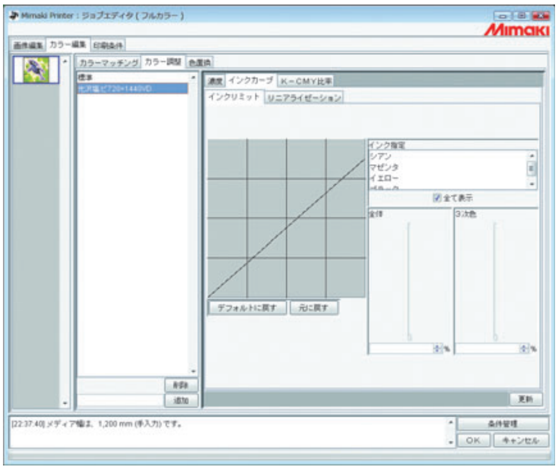


インクカーブの調整方法は、「インクカーブを調整する」（☞ P.87）を参照してください。

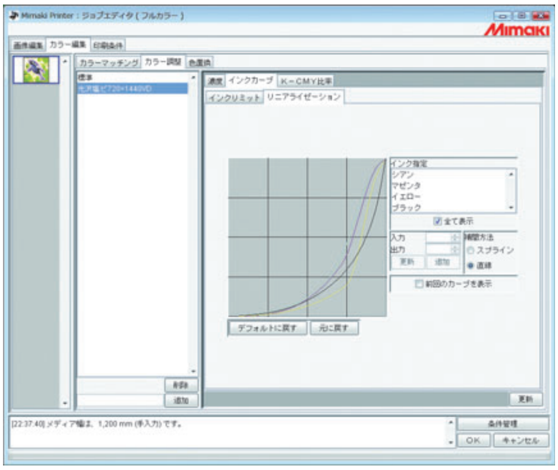
バージョン 3.0 のデバイスプロファイル

インクリミット :　　　インクの最高濃度を決めます。
リニアライゼーション : インクの全範囲での濃度を調整します。

“ インクリミット ” カーブ



“ リニアライゼーション ” カー



“ インクリミット ” カーブはスライダーで調整します。

“ 全体 ” は全色のインクに対してインク濃度を調整します。

“3 次色 ” は 3 色以上のインクが混じったときの各インクの濃度を調整します。

“ 全体 ” の濃度が “3 次色 ” の上限値になります。

“ 全体 ” のインクリミットに連動して、“3 次色 ” のインクリミットの上限値も変わります。

“ リニアライゼーション ” カーブの調整方法は、「インクカーブを調整する」（☞ P.87）を参照してください。

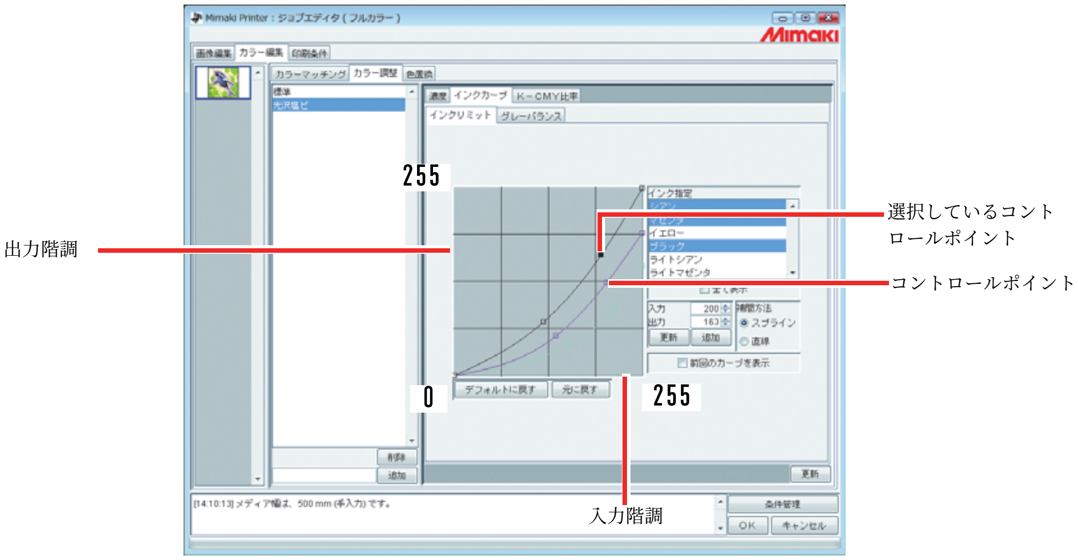
インクカーブを調整する

“ インク指定 ” リストで選択したインクのインクカーブを表示します。

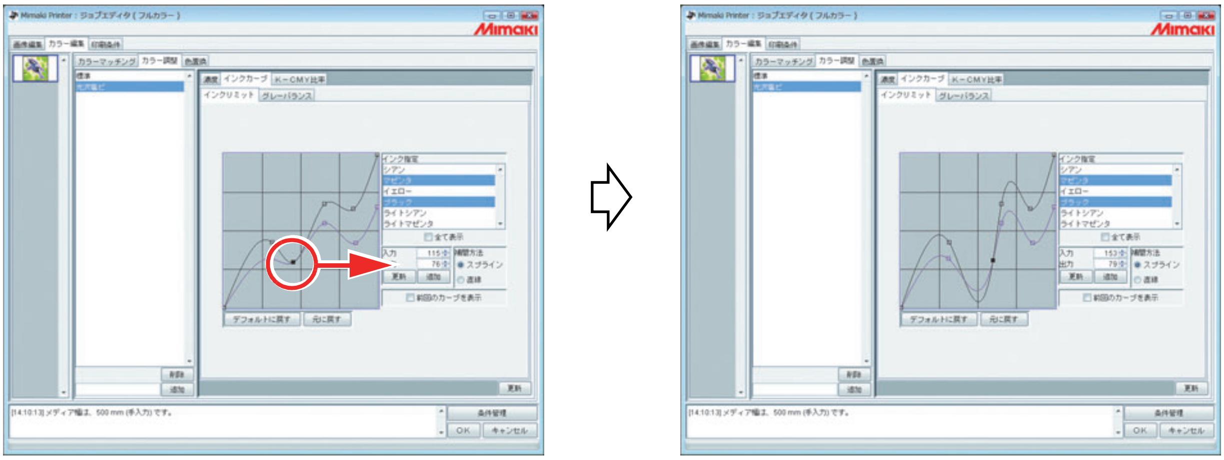
横軸に調整前のインク濃度（入力階調)、縦軸に調整後のインク濃度（出力階調）を示します。
縦軸、横軸とも 0 から 255 の範囲を表示します。

出力階調が 0 より下回る場合は、0 に設定されます。また、255 より上回る場合は、255 に設定されます。

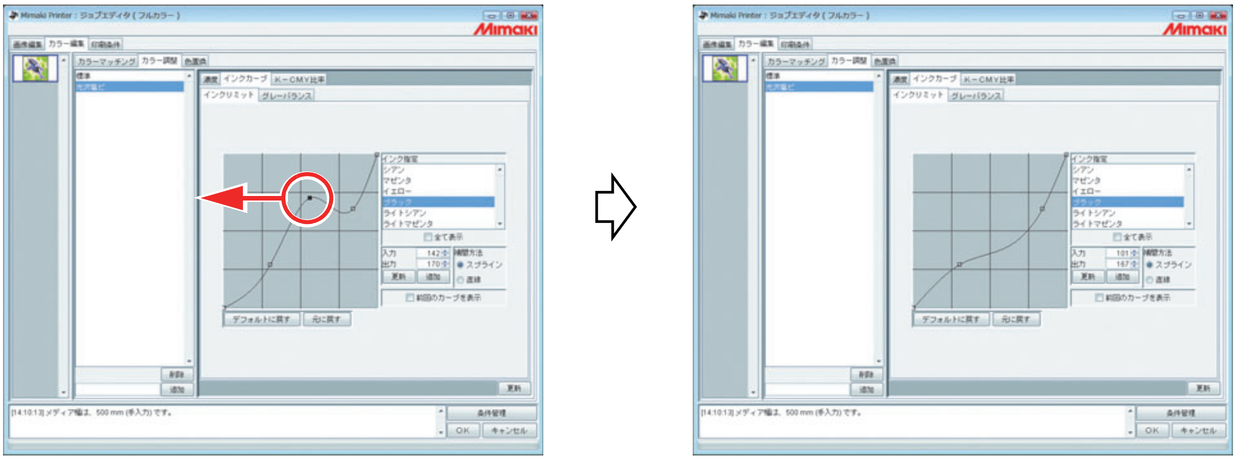
インクカーブ上の調整したいポイントをクリックすると、コントロールポイントができます。
最高 30 個まで追加できます。なお、選択しているコントロールポイントは、白抜きの矩形からインクの色で塗られた矩形に変わります。

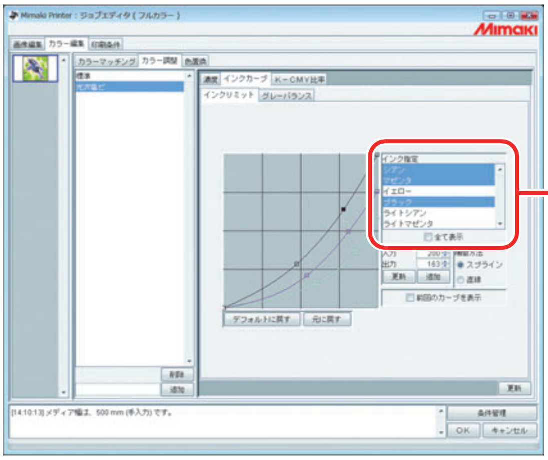


複数のインクカーブを一度に変更する場合は、各色のインクカーブが重なり合っている部分、または接近している部分をマウスでドラッグします。または、キーボードの矢印キーを押してコントロールポイントを移動します。



コントロールポイントの削除は、削除したいコントロールポイントを隣合うコントロールポイントの外側にドラッグすると削除できます。または、キーボードの Delete キー（ Back Space キー）を押します。

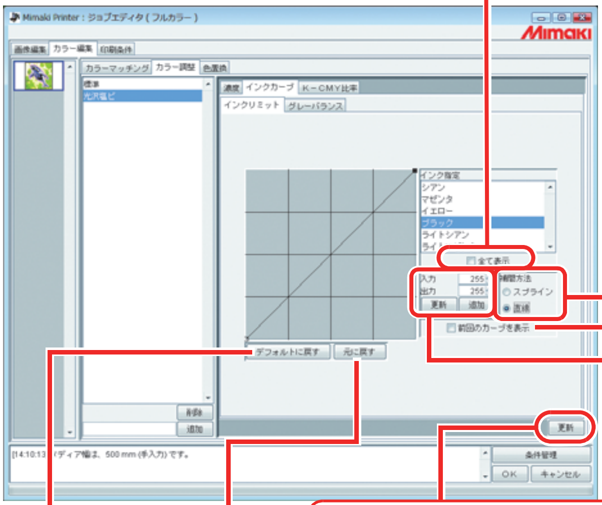




インク指定リスト：
印刷条件設定ウィンドウで選択したインクセットのインクを表示します。
複数のインクを選択する場合は、 Ctrl キーを押しながらインク名をクリックします。
選択を解除するには、もう一度インク名をクリックします。

全て表示：
全てのインクカーブを表示します。
チェックを外すと “ インク指定 ” リストで選択したインクカーブのみ表示します。

補間方法：
補間方法をスプラインにするか直線にするか選択します。
“ インク指定 ” リストのインク名をクリックすると、現在の補間方法を表示します。
複数のインクを選択し、各インクで補間方法が異なる場合は、選択しているインク指定リストの先頭のインクの補間方法を表示



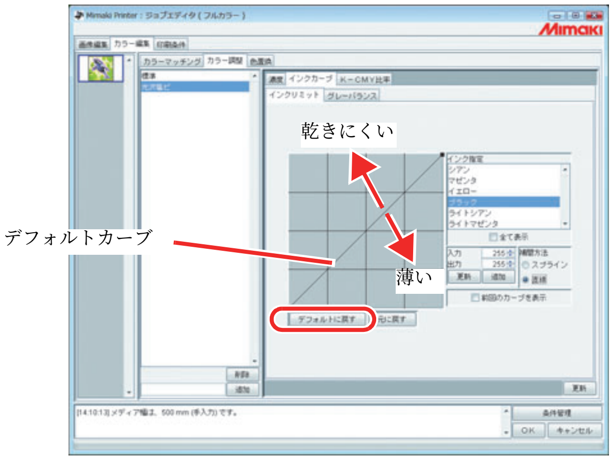
前回のカーブを表示：
変更する前のインクカーブを破線で表示します。 更新 ボタンをクリックすると変更前のインクカーブは消えます。

入力階調と出力階調の数値を入力してコントロールポイントを調整します。コントロールポイントを追加する場合は、数値を入力して 追加 ボタンをクリックします。
コントロールポイントの位置を変更する場合は、変更するコントロールポイントを選択し、数値を入力した後に 更新 ボタンをクリックします。
ただし、変更する入力コントロールポイントは、隣り合うコントロールポイントを超えて設定することはできません。

更新 ボタン：
変更したインクカーブを登録します。

元に戻す ボタン：
“ インク指定 ” リストで選択中のインクカーブを更新する前のカーブに戻します。

デフォルトに戻す ボタン：
“ インク指定 ” リストで選択したインクのリミット値を読み込みます。
リミット値より低い値を設定すると色が薄く印刷されます。
高い値を設定すると色が濃くなり、乾きにくくなります。



キーボードによるインクカーブの設定

インクカーブの調整は、コントロールポイントをマウスでドラッグする他に、キーボードで調整することができます。

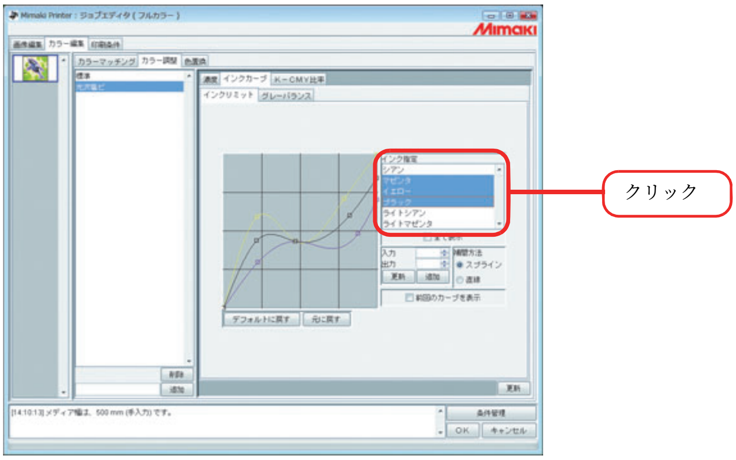
以下のキーを使用します。

- Z キー：左方向へコントロールポイントを選択していきます。
- X キー：右方向へコントロールポイントを選択していきます。
- Delete キー／ Back Space キー：コントロールポイントを削除します。
- ←、→、↑、↓：矢印方向へコントロールポイントを移動します。

複数のインクカーブが重なっている（または接近している）コントロールポイントをまとめて調整する場合、キーボードで調整すると便利です。

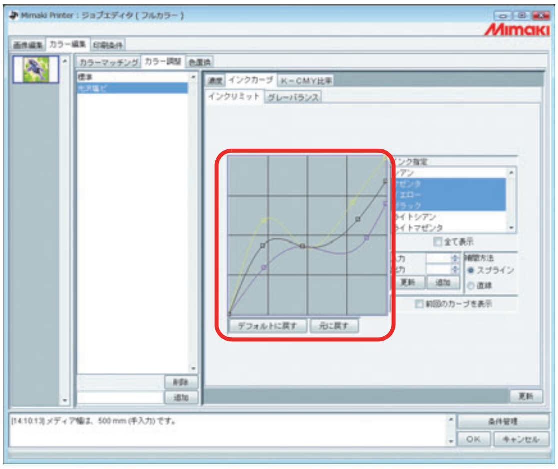
ここでは、複数のインクカーブを調整する方法を説明します。

1 “ インク指定 ” リストで調整するインクを選択します。



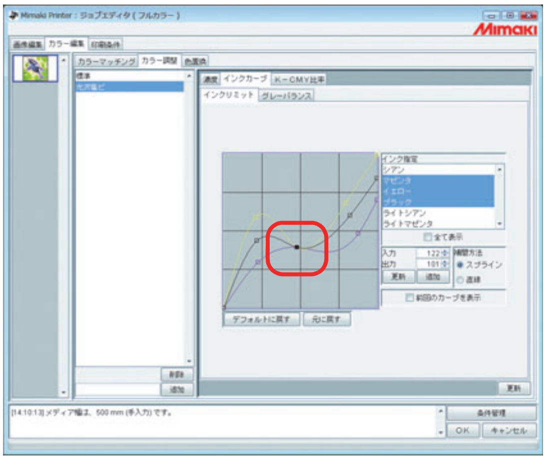
2 インクカーブエリアをマウスでクリックします。

インクカーブエリアが青い枠で囲まれているとインクカーブエリアが選択されています。

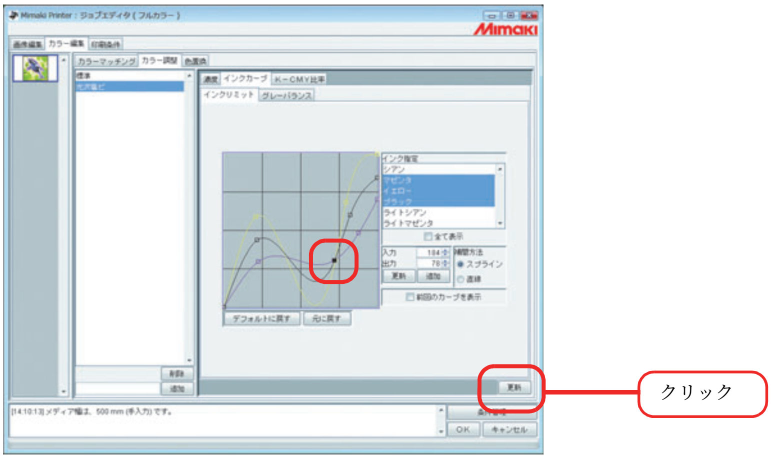


3 [Z] キーまたは [X] キーでコントロールポイントを選択します。

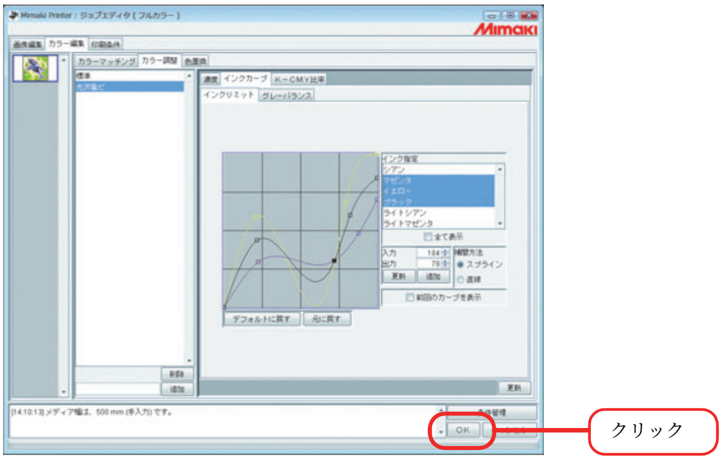
重 要!
キーを押してもコントロールポイントが選択できない場合は、次の点を確認してください。
- インクカーブエリアが選択されていますか ?



4 矢印キーでコントロールポイントを調整します。
[更新] ボタンをクリックします。
インクカーブを更新します。



5 [OK] ボタンをクリックします。
カラー調整セットを更新して " ジョブエディタ " を終了します。

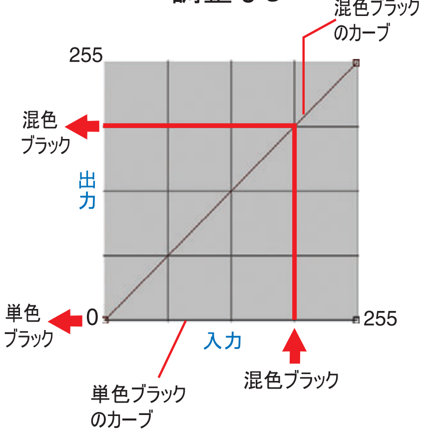


K-CMY 比率調整

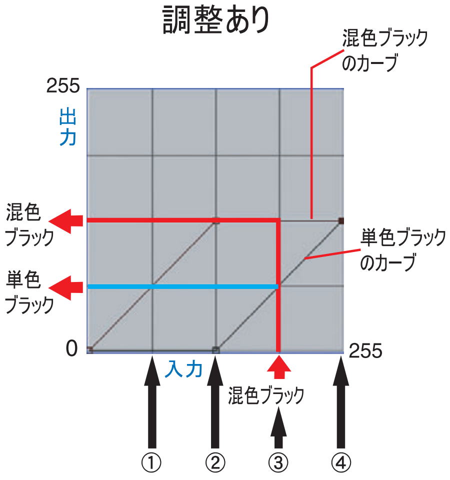
シアン、マゼンダ、イエローでブラック（混色ブラック）を表現している部分を、単色ブラックに置き換えます。
イラスト・イメージ別に調整可能です。

次の場合に効果があります。
① RGB 画像のインク濃度を低減させる
② RGB 画像で、黒にしまりのある印刷をする

調整なし



調整あり



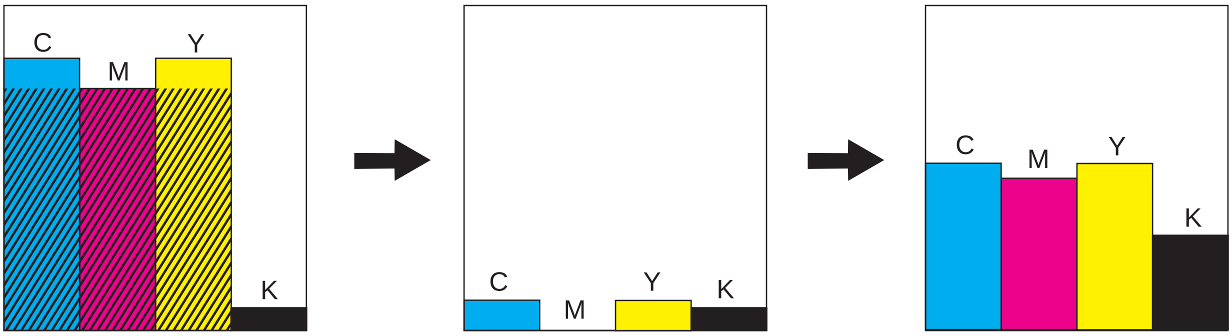
調整方法はインクカーブと同様です。
例）

調整したカーブの値

	入力色				混色ブラック		単色ブラック		出力色				説明
	A			B									
	C	M	Y	K	入力	出力	入力	出力	C	M	Y	K	
①	64	85	64	5	64	64	64	0	64	85	64	5	変わらない
②	128	150	160	5	128	128	128	0	128	150	160	5	変わらない
③	200	192	200	5	192	128	192	64	136	128	136	69	CMY の一部が K に変わる
④	255	255	255	5	255	128	255	128	128	128	128	133	CMY の一部が K に変わる

③の計算

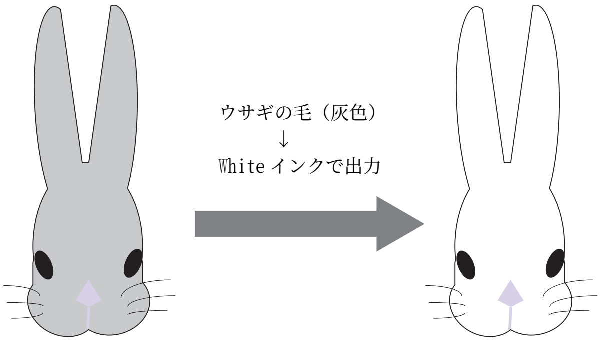
C　200 - 192 + 128 = 136
M　192 - 192 + 128 = 128
Y　200 - 192 + 128 = 136
K　5 + 64　= 69



斜線部が CMY の混色ブラック　　CMY から混色ブラックの入力を取り除く　　CMY に混色ブラックの出力を加える。
K に単色ブラックの出力を加える。

色置換

元画像の特定の色に対して、使用するインク色とインク濃度を設定し出力する機能（色置換）について説明します。



重 要！

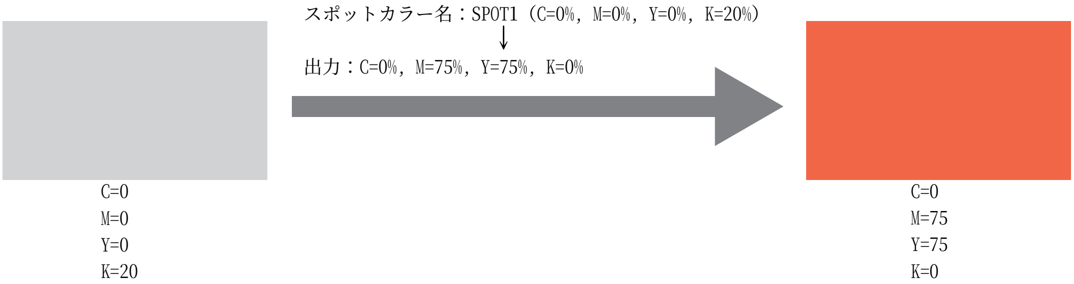
ダイアログについて
このマニュアルは UJF-605C の画面を元に作成していますが、この章では説明に他機種の画面を使用している場合があります。
ご使用のプリンタ名に置き換えてご覧ください。

色置換の方法

色置換の方法は 4 種類あります。

スポットカラー名に対して色置換する

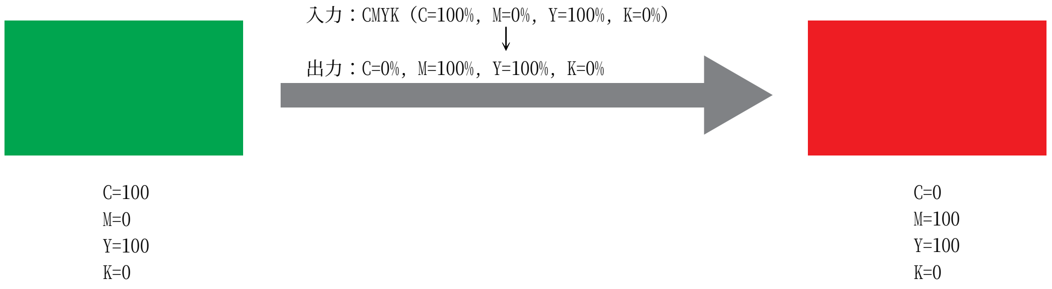
Adobe Illustrator などでは、“ スポットカラー ” または “ 特色 ” と呼ぶ特別な色を作成することができます。
スポットカラーには、必ず名前を付けます。RasterLinkPro5 IP では、この名前に対してインク色と濃度を指定します。



CMYK に対して色置換する

ベクタオブジェクトの CMYK 色を他のインク色に置換できます。

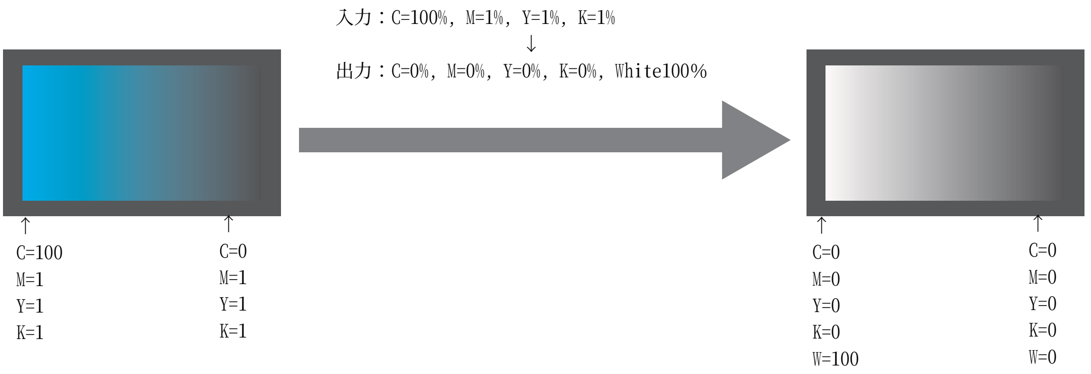
画像の他のベクタオブジェクトで同じ色が使用されている場合、その色も変更されるので、注意が必要です。



グラデーションに対して色置換する

グラデーションに対してインク色と濃度を指定します。

例えば、シアンのグラデーションをホワイトのグラデーションに色置換する濃度を指定します。



CMYK どれか 1 色を複数のインクへ色置換する

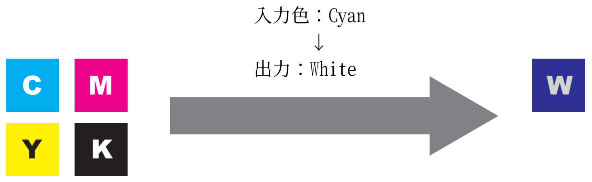
CMYK カラーモードの画像で、CMYK のどれか 1 色だけを指定したインクで印刷します。

指定インクは複数選択できます。ただし、ライトインクは指定できません。

このモードでは、ラスタ画像も色置換可能です。

画像全体を特定のインクだけで印刷する場合に使用します。

例えば、モノトーン画像を白インクで印刷する場合に便利です。



色置換画像の作成方法

色置換可能な画像の条件

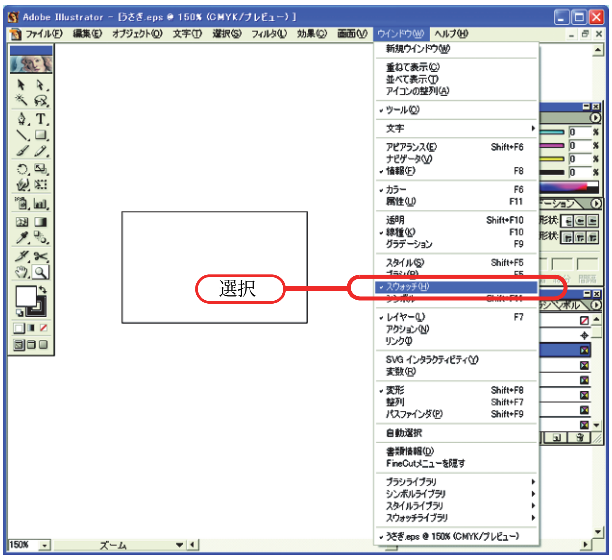
色置換可能な画像には条件があります。
画像のカラーモードは CMYK のみ対応しています。

	画像フォーマット	置換できる部分
スポットカラーに対して色置換	EPS，PS，PDF	ベクタオブジェクトのみ
CMYK カラーに対して色置換	EPS，PS，PDF	ベクタオブジェクトのみ
グラデーションに対して色置換	EPS，PS，PDF	ベクタオブジェクトのみ
CMYK 内の 1 色を複数のインクへ置換	EPS，PS，PDF，TIFF	ベクタ、ラスタ

スポットカラーの作成

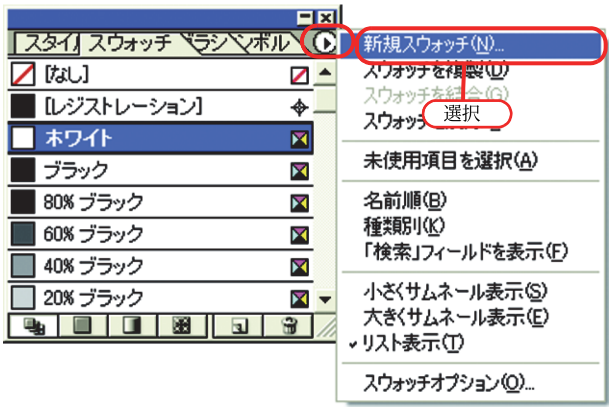
Adobe Illustrator 10 でスポットカラーを作成する方法と使用方法について説明します。
詳細は、Adobe Illustrator のマニュアルをご覧ください。

1 編集する画像を Adobe Illustrator で開きます。
スウォッチウィンドウを表示していない場合、[ウィンドウ] - [スウォッチ] メニューを選択するとスウォッチウィンドウを表示します。



2 をクリックし、メニューから“新規スウォッチ”を選択します。

新規スウォッチウィンドウを表示します。



3 “名前”を入力します。

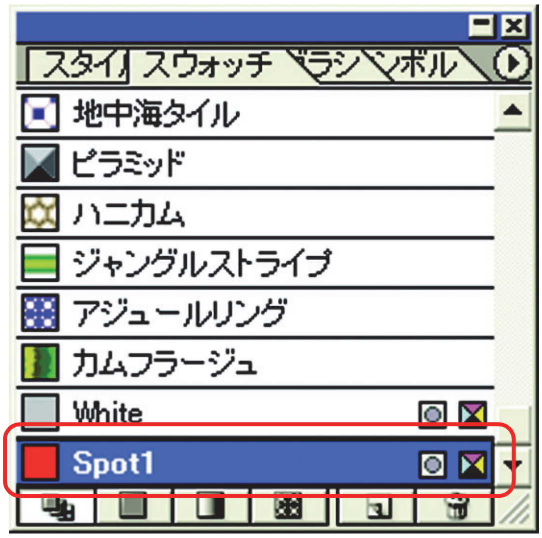
“カラータイプ”に“スポットカラー”を選択します。

Adobe Illustrator CS では“特色”を選択します。

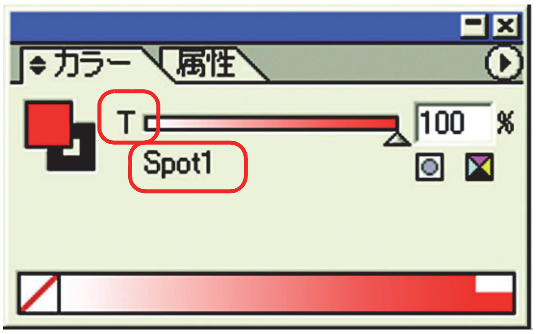
“カラーモード”に“CMYK”を選択し、表示色を指定します。

OK をクリックします。

4 新規スウォッチが作成されました。
使用する際は、スウォッチウィンドウから作成したスウォッチを選択します。



カラーウィンドウでは、スウォッチは [色名] と [T] で表示されます。

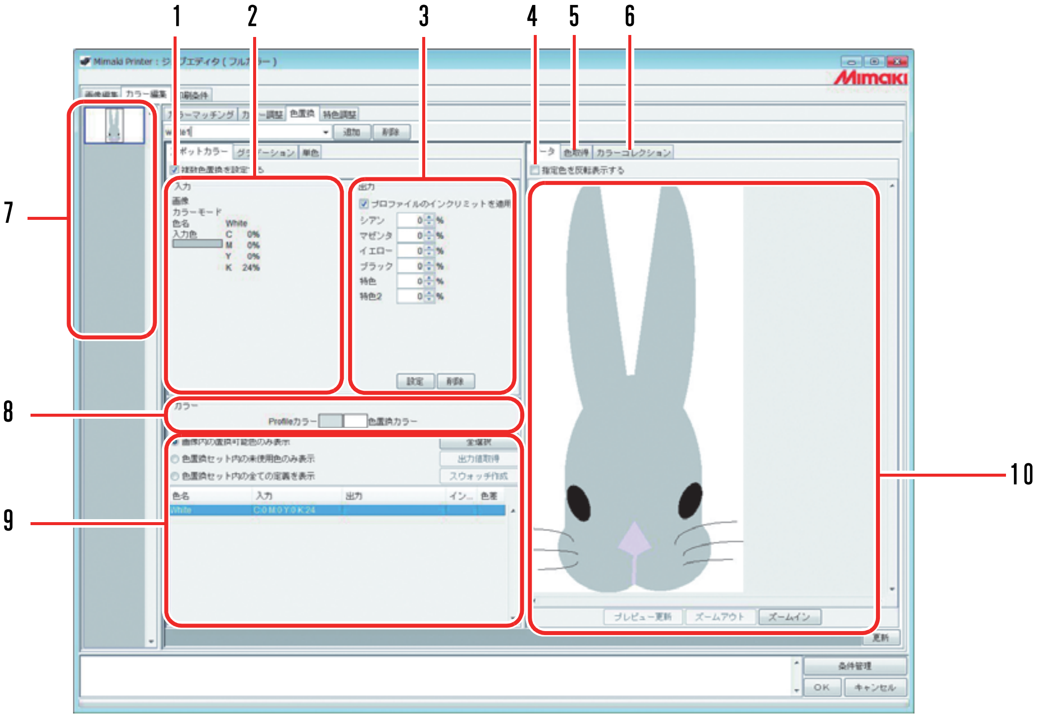


色置換画面

色置換画面には [スポットカラー]、[グラデーション]、[単色] の 3 種類あります。

スポットカラー

スポットカラーおよび CMYK カラーの色置換を設定します。



1. 複数色置換を設定する

複数色置換をできるように設定します。スポットカラーとグラデーションの色置換が可能になります。

2. 入力情報

プレビュー画面上にマウスカーソルを置いた際、カーソル位置の色情報を表示します。
または、置換情報一覧から選択された情報を表示します。

3. 出力情報

現在 “ 入力 ” 情報に表示されている色に対する、置換後のインク濃度を入力設定します。
また、[プロファイルのインクリミットを適用] をチェックをしておくと、印刷時のインクあふれを緩和させるために、自動的に設定値よりも低い値に変換して印刷を行います。チェックを外すと、指定した色成分値どおりに印刷を行いますが、インクあふれによるにじみなどの印刷不良が出やすくなります。できるだけ［プロファイルのインクリミットを適用］をチェックした状態でお使いください。

4. 指定色を反転表示する

チェックすると現在編集可能状態になっている色を、プレビュー上で点滅表示します。

5. 色取得

カンプなどの原稿の一部分の色をスキャナで読み取り、色を近付けます。

6. カラーコレクション

DIC、PANTONE のカラー情報を表示します。ただし、PANTONE のカラー情報は、印刷条件件画面で PANTONE の認定を取得したデバイスプロファイルを選択している場合に表示します。

7. サムネイル

編集対象のジョブをサムネイル画像で一覧表示します。複数のジョブを同時に編集している場合や、複数ページのジョブの場合、サムネイルリストから選択された画像がプレビュー画面に表示されます。置換情報一覧の情報も、選択画像の情報を表示します。

8. カラー

現在 “ 入力 ” 情報に表示されている色のプロファイルカラー（色置換しないで出力した場合の色）と、色置換カラー（色置換した場合の色）を表示します。

9. 置換情報一覧

置換元（入力）の色と置換後（出力）のインク情報を表示します。

表示する情報は、リスト上部にあるラジオボタンで選択します。

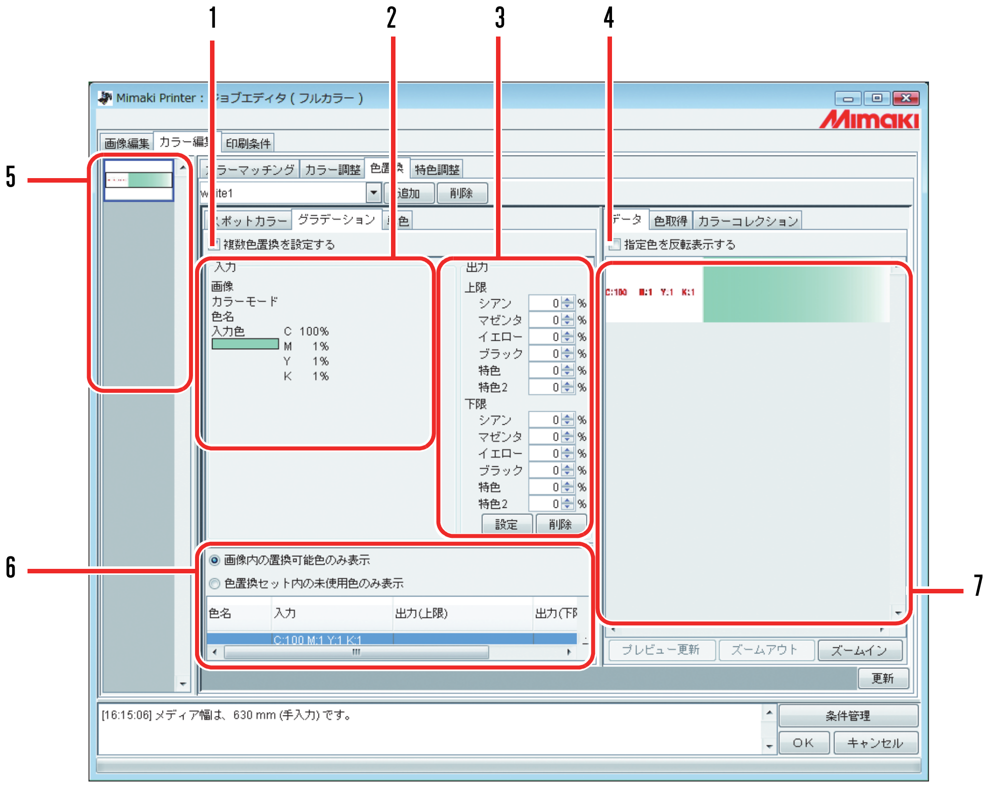
また、置換後（出力）のインク情報を、カラーコレクションから取得します。

10. プレビュー画面

画像のプレビューを表示します。マウスカーソルでプレビュー上をなぞると、“ 入力情報 ” にピクセル情報を表示します。マウスでクリックすると、そのピクセルの色が編集可能になります。

グラデーション

グラデーションの色置換を設定します。



1. 複数色置換を設定する

複数色置換をできるように設定します。スポットカラーとグラデーションの色置換が可能になります。

2. 入力情報

プレビュー画面上にマウスカーソルを置いた際、カーソル位置の色情報を表示します。

または、置換情報一覧から選択された情報を表示します。

3. 出力情報

現在 “ 入力 ” 情報に表示されている色に対する、置換後のインク濃度を入力設定します。

グラデーションの最も色の濃い箇所の色と最も色の薄い箇所の色をそれぞれ指定できます。

4. 指定色を反転表示する

チェックすると現在編集可能状態になっている色の最高濃度部分を、プレビュー上で点滅表示します。

5. サムネイル

編集対象のジョブをサムネイル画像で一覧表示します。複数のジョブを同時に編集している場合や、複数ページのジョブの場合、サムネイルリストから選択された画像がプレビュー画面に表示されます。置換情報一覧の情報も、選択画像の情報を表示します。

6. 置換情報一覧

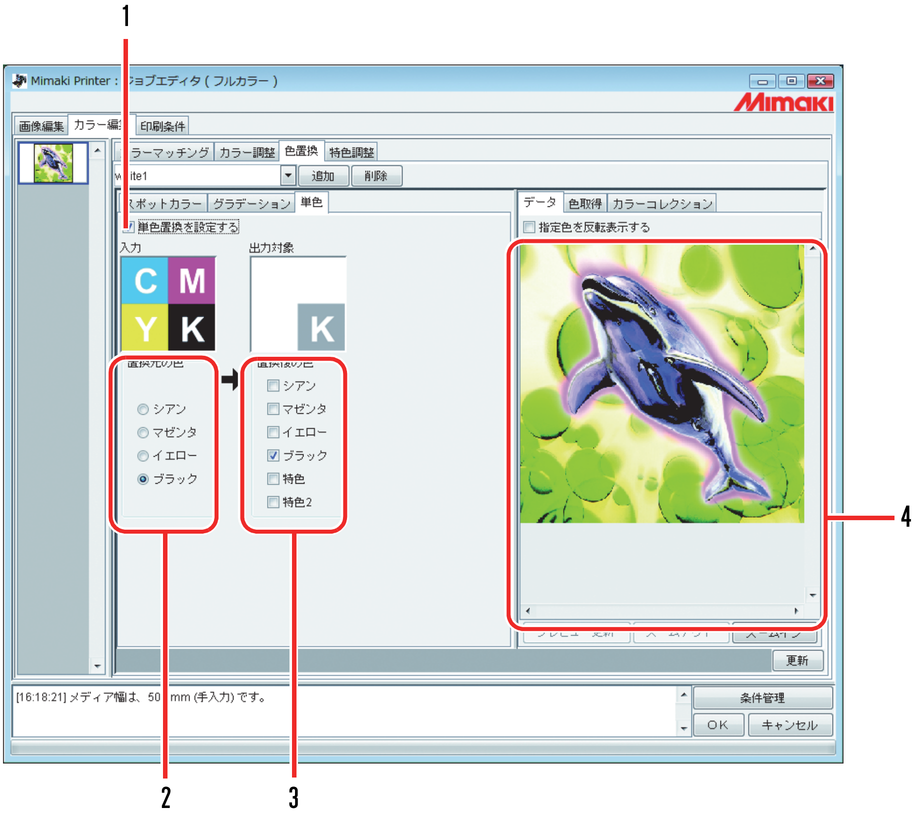
置換元（入力）の色と置換後（出力）のインク情報を表示します。表示する情報はリスト上部にあるラジオボタンで選択します。

7. プレビュー画面

画像のプレビューを表示します。マウスカーソルでプレビュー上をなぞると、“ 入力 ” 情報にピクセル情報を表示します。

単色

単色の色置換を設定します。



1. 単色置換を設定する

単色置換を設定できるようにします。

チェックすると、入力 CMYK のいずれか 1 色を、指定されたインクに割り当てます。

ライトインクは指定できません。

2. 置換元の色

画像内で置換する色を指定します。

3. 置換後の色

置換後に使用するインク色を指定します。

4. プレビュー画面

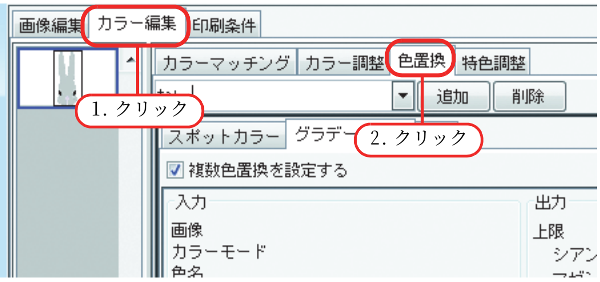
画像のプレビューを表示します。

色置換セットの作成

1 [印刷条件] メニューをクリックします。
色置換セットを作成するプロファイルを選択します。
選択機種が特色スロットを持っている場合、[特色カラーセット] を選択します。
特色カラーセットについては、☞ P.148 をご覧ください。

> 色置換セットはプロファイルと、特色カラーセットの組み合わせごとに作成します。

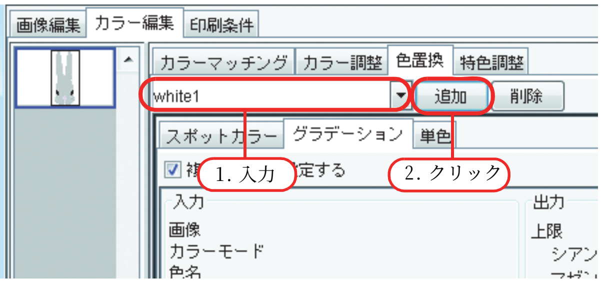
2 [カラー編集] メニューをクリックします。
[色置換] メニューをクリックします。



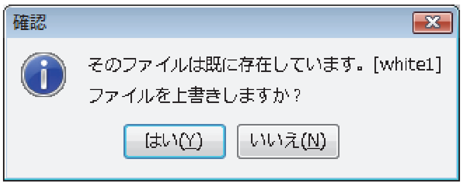
3 色置換名入力欄に色置換セット名を入力します。

> **重 要!** 色置換セット名に下記の半角文字は使用できません。
> \ / : * ? “ < > I

追加 をクリックします。

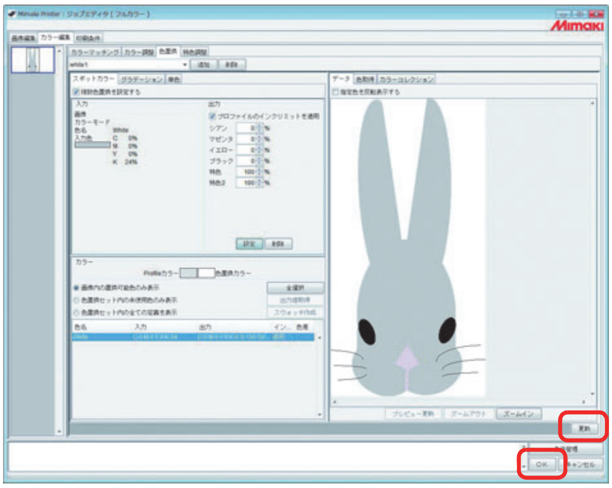


既に同じ名前の色置換セットがある場合、上書き確認メッセージを表示します。



色置換セットの更新

設定した置換情報を更新するには、 更新 をクリックするか、 OK をクリックし、“ジョブエディタ”を終了させます。



色置換セットの選択

[色置換] メニュー上部の色置換名入力ボックスの をクリックし、リストを表示・選択します。

色置換セットの削除

1 ジョブの “ ジョブエディタ ” を開き、[色置換] メニューを開きます。

削除する色置換セットを選択します。

2 削除 をクリックします。

3 削除されます。

スポットカラー・CMYK カラーの置換

スポットカラー・CMYK カラーの置換方法を説明します。

> **重 要!**
> - CMYK カラーを色置換する場合、同じ色が他のベクタオブジェクトに使用されていると、その色も変わります。
> - Adobe Illustrator のドロップシャドウ / 透明 / ボカシのようなフィルタ効果をかけた色は、正しく色置換できません。

置換する元の色を指定

指定方法は 2 種類あります。

置換する元の色を指定すると、置換情報設定画面が編集可能になります。

複数色を置換する場合は、“ 複数色置換を設定する ” をチェックします。

① 置換情報リストから選択する

色置換したい色の色名をリストから見て選択します。

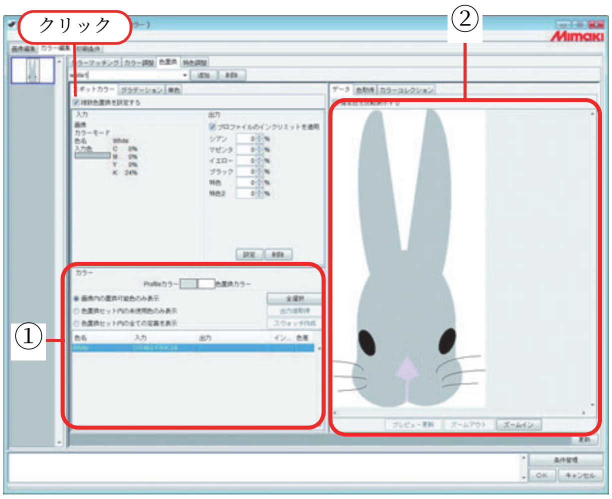
スポットカラーまたは登録済みの CMYK カラーが表示されます。

② プレビュー画面上から選択する

マウスカーソルをプレビュー画面上に置き、色置換したい場所をクリックします。

CMYK カラーは最初、置換情報リストに表示されないので、この方法を選択します。

> **重 要!**
> 一度色を選択すると、解除するまでプレビュー上のマウスで指定した色情報を入力画面に表示することができません。



置換する元の色の選択を解除

選択解除の方法は 2 種類あります。

① 置換情報リストが選択状態になっているとき、[Esc] キーを押します。

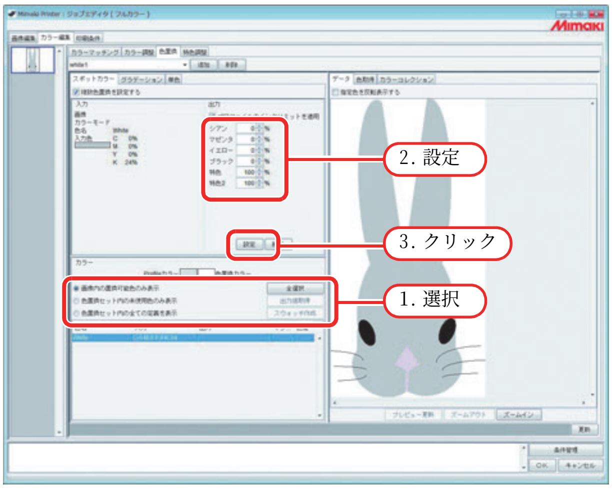
② プレビュー上にマウスカーソルを置き、右クリックします。

置換後のインク情報の作成

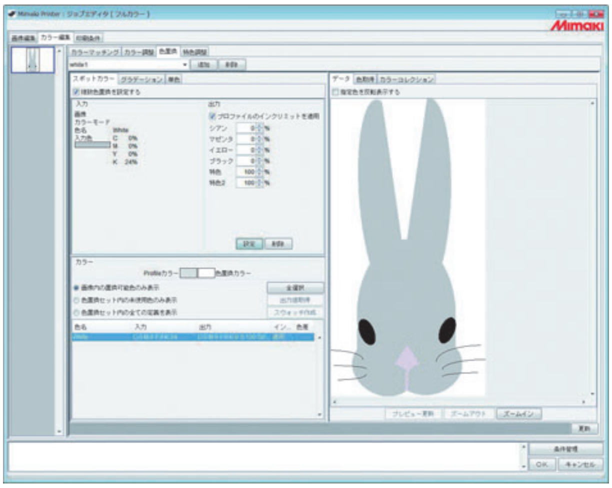
置換後のインク情報の作成方法は、インク濃度を手入力する方法とカラーコレクションから取得する方法があります。

インク濃度を手入力する

1 置換元の色を選択します。
出力情報画面で、使用するインク色のインク濃度を入力します。
［設定］をクリックします。



2 色置換情報が設定されます。

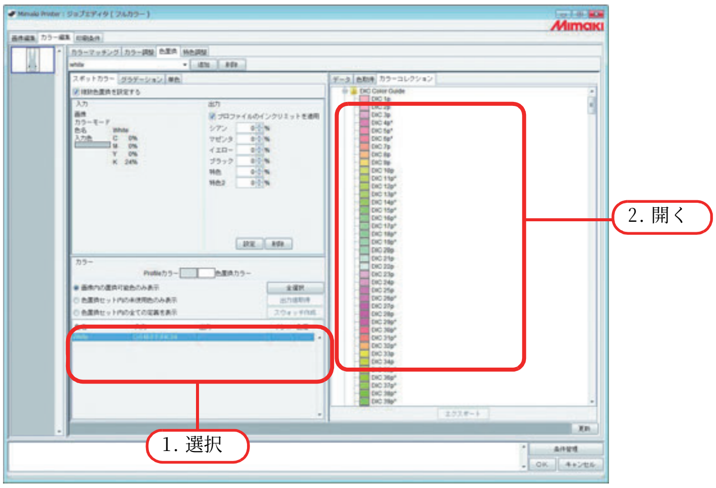


> **重 要！**
>
> カラーコレクションの DIC、PANTONE のカラー（出力値）は、現在選択しているデバイスプロファイルによって、色の再現性に差があります。
>
> - 高精度色置換情報を含むバージョン 3.0 のデバイスプロファイルの場合：
>   DIC、PANTONE カラーに近似した色が再現可能です。
> - 上記以外のデバイスプロファイルの場合：
>   色の再現が正確でない可能性があります。

カラーコレクションから取得する１

1 置換元の色を選択します。

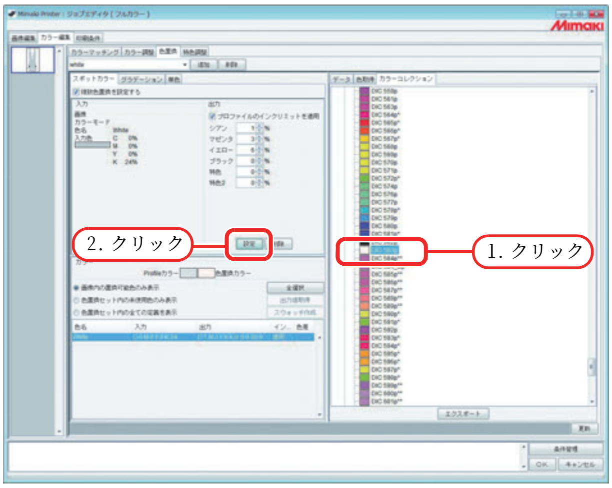
カラーコレクション画面で、色置換したいカラーコレクションのフォルダを開きます。



2 カラーパッチを選択します。

設定 をクリックします。

色置換情報が設定されます。



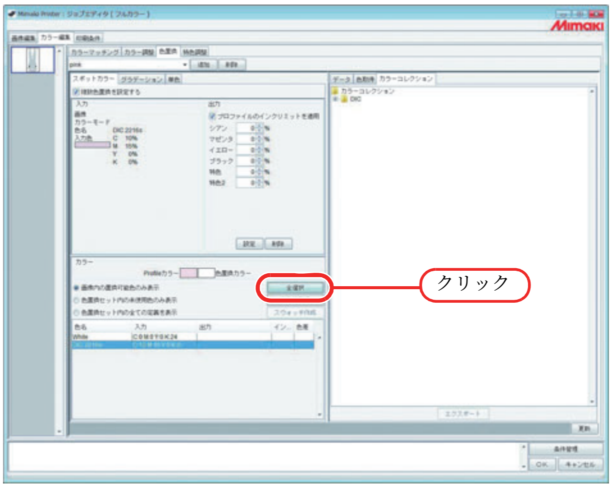
カラーコレクションから取得する 2

重 要！ 印刷条件画面で PANTONE の認定を取得したデバイスプロファイルを選択している場合のみ、PANTONE カラーをカラーコレクションに表示します。

置換する元の色が、カラーコレクションに登録されている DIC、PANTONE カラーのスポットカラーの場合、出力値を個別設定することなく、カラーコレクションから自動で出力値を取得できます。

1 [全選択] ボタンをクリックします。

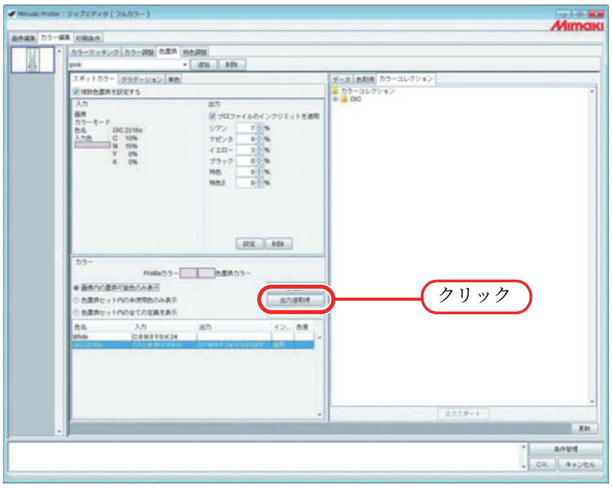
リストから置換したい任意の色を個別に選択することも可能です。



2 [出力値取得] ボタンをクリックします。

置換する元の色が DIC カラーで、置換後の色がプリンタの色再現範囲外のカラーの場合、置換する元の色と置換後の色との色差を表示します。

→ DIC カラーが再現できないことを示しています。



色置換情報が設定されます。

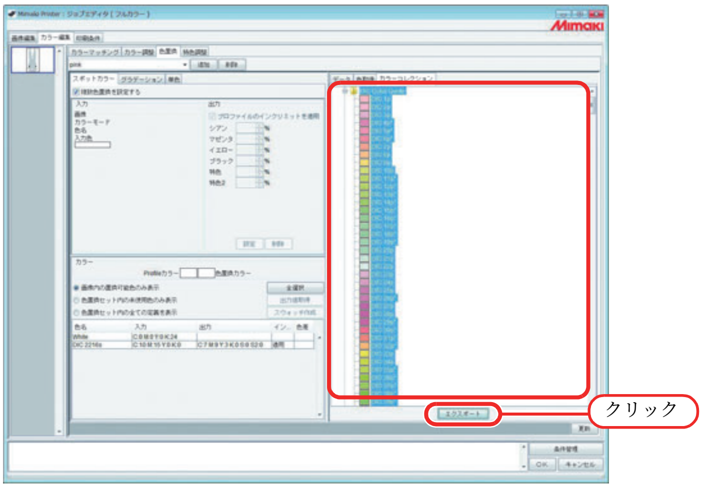
カラーコレクションから取得する 3

重要！ 印刷条件画面で PANTONE の認定を取得したデバイスプロファイルを選択している場合のみ、PANTONE カラーをカラーコレクションに表示します。

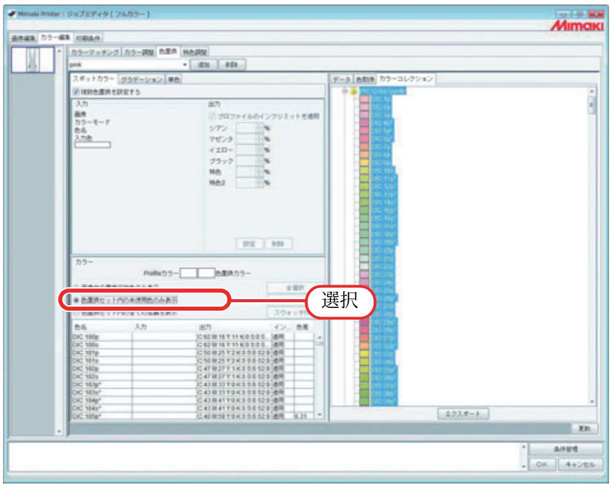
現在の色置換定義ファイルに、画像内の DIC、PANTONE カラー以外の色もカラーコレクションから取得して登録できます。

この作業は、画像内の DIC、PANTONE カラーが色置換定義ファイルに登録されたスポットカラーと一致した場合、この色置換定義ファイルを使用すると、個別に色置換の設定をする手間を省力します。

1 カラーコレクション画面で色置換したいカラーコレクションのフォルダを開きます。
任意のカラーパッチを選択します。
キーボードで Ctrl キー＋A キーを押します。（Ctrl キーを押しながら任意のパッチを複数選択することも可能です。）
エクスポート ボタンをクリックします。



2 色置換セット内の未使用色のみ表示を選択します。
画像内にないスポットカラーの出力値が設定されています。



重 要!

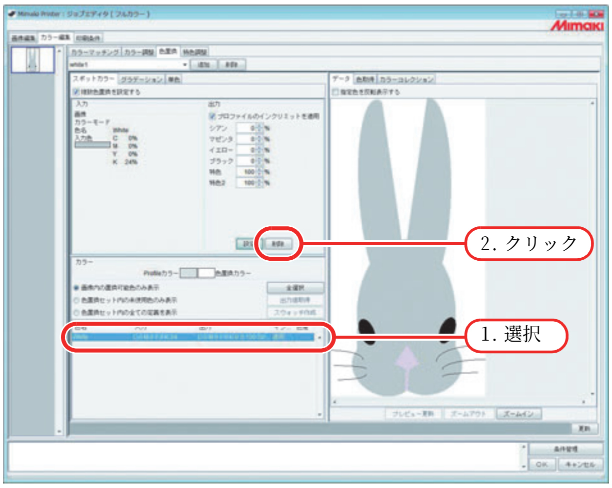
画像内で、スポットカラーの濃度を変えて使用しているときの注意点は以下のとおりです。

- RasterLinkPro5 では、スポットカラーの濃度は 100% に対してインク濃度を設定します。スポットカラーの濃度にしたがって、インク濃度が自動的に計算されます。
  例)
  Illustrator で Spot(表示色 C=100,M=0,Y=0,K=0) という特色が 100% で塗られているところと、50% で塗られているところがあったとき、RasterLinkPro5 で Spot をインク濃度 C=0,M=80,Y=20,K=0 とした場合、Spot の 100% で塗られている部分のインク濃度は C=0,M=80,Y=20,K=0、Spot の 50% で塗られている部分のインク濃度は C=0,M=40,Y=10,K=0 となります。
- 置換情報一覧に表示されるスポットカラーの色が Illustrator で指定した表示色と異なる場合があります。
  これは、置換情報一覧に表示されるスポットカラーの入力色は RasterLinkPro5 が画像上で最初に発見したスポットカラーの濃度に合わせた表示色を表示するためです。
  例)
  Illustrator で Spot(表示色 C=100,M=0,Y=0,K=0) という特色が 100% で塗られているところと、50% で塗られているところがあったとき、RasterLinkPro5 が先に Spot が 50% で塗られているところを発見した場合、色置換情報一覧の Spot の表示色は C=50,M=0,Y=0,K=0 となります。
- プレビュー画面でスポットカラーをマウスカーソルでなぞった場合、「入力情報」にはマウスカーソル下のスポットカラーの濃度に合わせた表示色が表示されますが、クリックした場合、「入力情報」にはクリックした場所のスポットカラーの濃度に関係なく、置換情報一覧に表示されている内容が表示されます。

置換後のインク情報の削除

置換する色置換情報を持つ色を選択します。

出力情報画面の 削除 をクリックします。
色置換情報が削除されます。



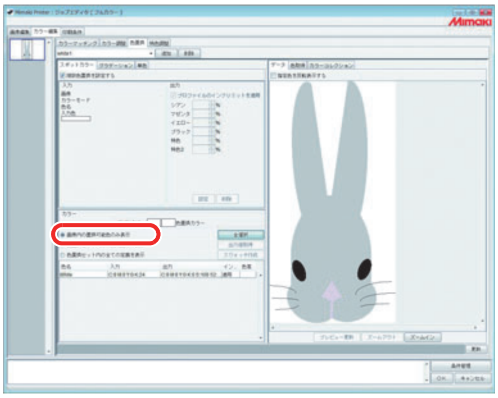
表示の切り替え

置換情報一覧

置換情報一覧は次のように表示を変更することができます。

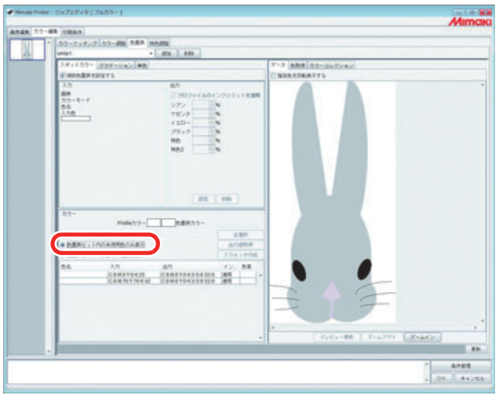
画像内の置換可能色のみ表示

色置換セット内で色置換指定可能な色置換定義を表示します。



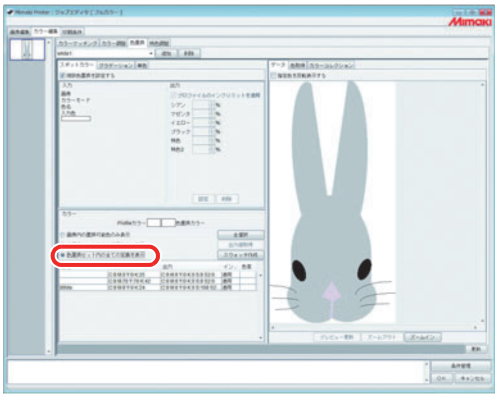
色置換セット内の未使用色のみ表示

色置換セット内で色置換指定不可能な色置換定義を表示します。



色置換セット内の全ての定義を表示

色置換セット内の色置換定義情報を全て表示します。

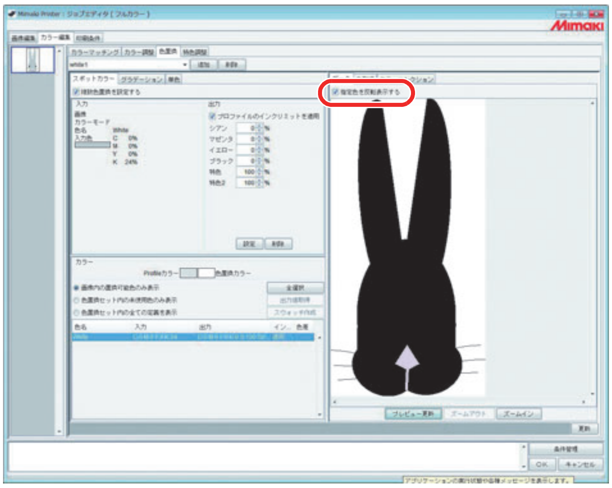


プレビュー

[指定色を反転表示する] をチェックすると、現在編集可能状態の色がプレビュー上で点滅します。

重 要！

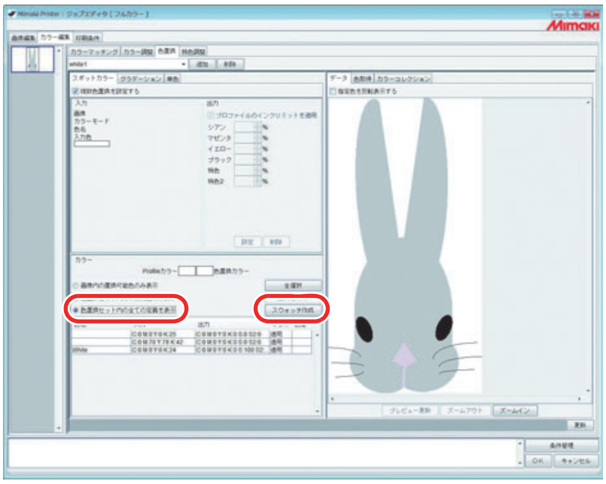
- ［指定色を反転表示する］がチェックされた状態で編集対象の色を変更しても、以前に選択された色を点滅表示します。
  点滅表示箇所を変更するには、 プレビュー更新 をクリックします。または［指定色を反転表示する］をチェックしなおします。
- グラデーション置換に対して反転表示させた場合、高濃度部分のみ反転表示します。



スウォッチライブラリを作成する

スウォッチ作成 ボタンをクリックすると、「色置換セット」に登録されている内容を使って、スウォッチライブラリを作成できます。

作成方法は、リファレンスガイド　プリンタ共通編「スウォッチライブラリを作成する」（☞ P.114）をご覧ください。



グラデーション置換をするには

色置換できるグラデーションの制約

色置換できるグラデーションには、以下の制約があります。

- Illustrator で作成したベクタオブジェクトのみ
- Illustrator で作成したグラデーションに、次の操作をしたものは色置換できません
  「分割・拡張」操作したもの
  ラスタライズしたもの
- PhotoShop で作成したグラデーションや、ラスタライズしたグラデーションは色置換できません

指定可能なグラデーションの色は以下のとおりです。
グラデーションの最高濃度と最低濃度の組み合わせは以下の通りです。

最高濃度（%）

C	M	Y	K
100	1	1	1
1	100	1	1
1	1	100	1
1	1	1	100

最低濃度（%）

C	M	Y	K
0	1	1	1
1	0	1	1
1	1	0	1
1	1	1	0

重 要！

- グラデーションの、最高濃度と最低濃度の間に中間点を挿入して色を変更した場合、色置換はできません。
- クリッピングパスを数多く含むグラデーションは、正しく色置換できない場合があります。
- イラストレータのドロップシャドウ／透明のようなフィルタ効果を用いたグラデーションは正しく色置換できません。
- グラデーションに含まれる色と同じ色を持つイラストも置換されます。
  例）
  最高濃度　C=100，M=1，Y=1，K=1
  最低濃度　C=0，M=1，Y=1，K=1
  C=50，M=1，Y=1，K=1 のイラストがデータ中にあった場合、このイラストも色置換されます。
- 画面上でグラデーション置換の設定を行うことができても、データによって置換されない場合があります。必ず、事前に縮小印刷して置換されるか確認してください。
- Illstrator の設定で「コンパチブルグラデーション＆グラデーションメッシュ」にチェックが入っていると、グラデーション置換の設定ができません。

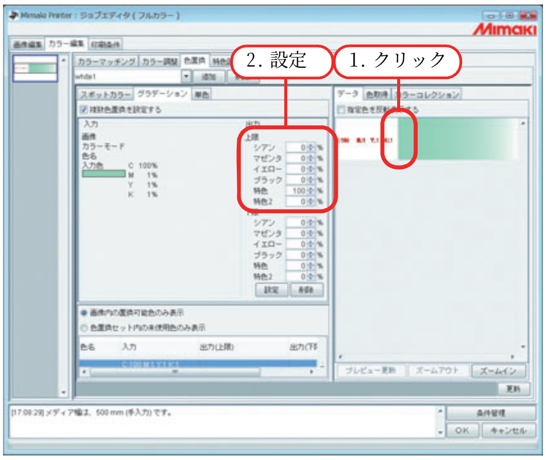
グラデーション置換の設定

グラデーションの色置換は、スポットカラーと同様の設定を行います。

1 グラデーションの最高濃度部分をクリックします。

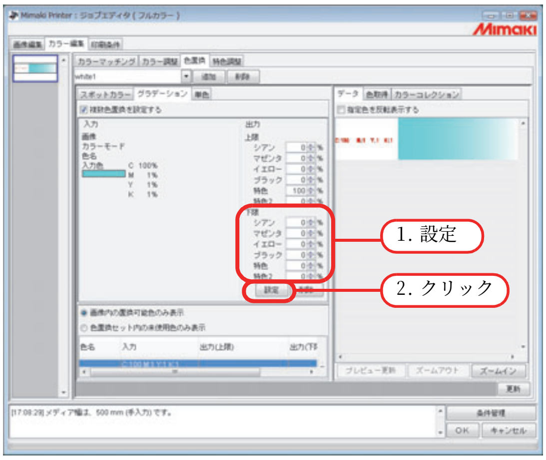
置換情報一覧の選択色を反転表示します。

置換後の最高濃度部のインク色のインク濃度を入力します。

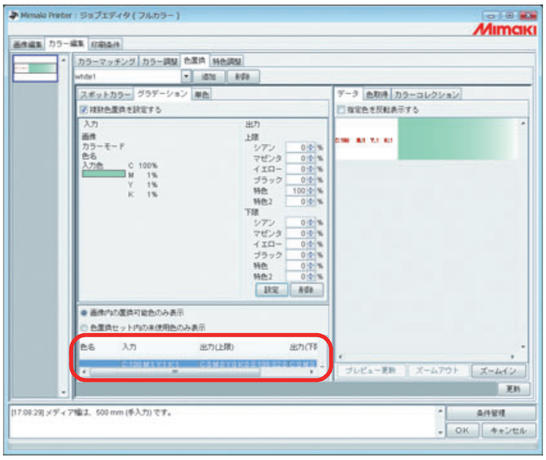


2 続いて、置換後の最低濃度部のインク色のインク濃度を入力します。

設定 をクリックします。



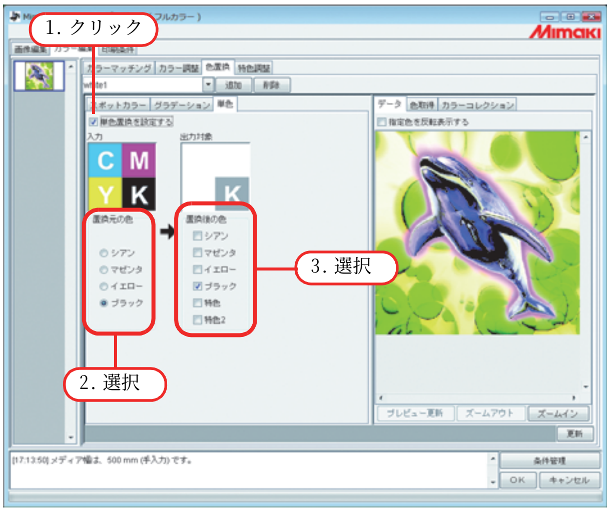
3 色置換情報が設定されます。



単色の置換

“ ジョブエディタ ” を開き、[カラー編集] - [色置換] - [単色] メニューを表示します。

“ 単色置換を設定する ” をチェックします。
“ 置換元の色 ” から、置換する色を選択します。
“ 置換後の色 ” から、出力で使用するインク色を選択します。



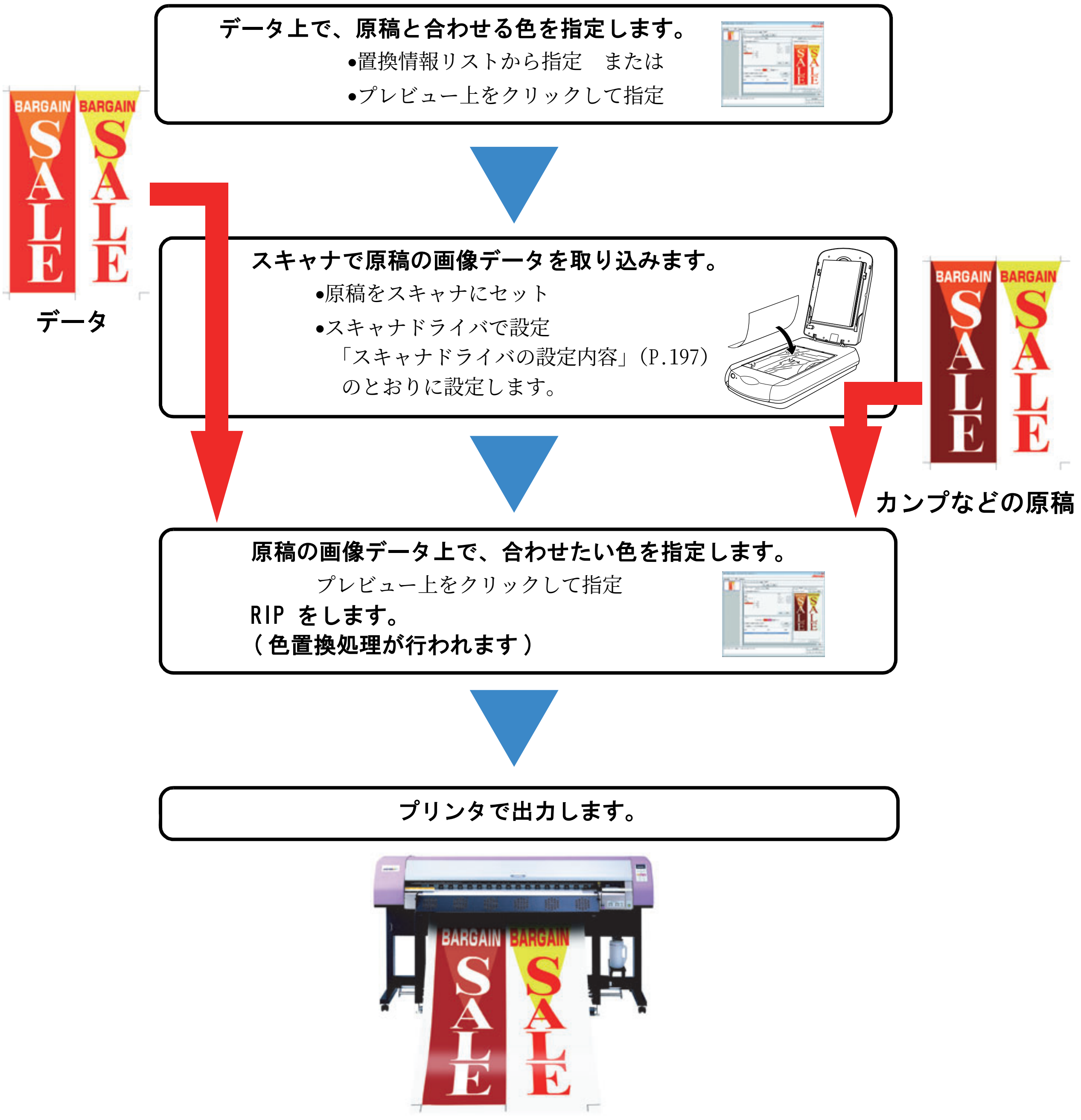
原稿の色を取得する(色取得)

色置換の置換後の色指定にスキャナーを使用できます。使用可能なスキャナは「色取得機能と対応スキャナについて」(P.196)を参照してください。

> 重要!
> - 本機能ではスキャナーで読み取った色に色味が近付くことを保証することはできません。必ず小さなサンプル等で色味を確認してください。
> - 原稿により、スキャナで正しく色が読み取れない場合があります。
> - 近付ける色味の範囲は、印刷条件(プロファイル)により異なります。
> - スポットカラー・CMYK カラーに対してのみ色置換可能です。

色取得の流れ

色取得の手順は以下のようになります。



色取得

色取得はスポットカラー置換の 1 つの機能として動作します。スポットカラー置換では、置換元の色に対して置換後のインク濃度を数値指定しますが、本機能では、置換後のインク濃度の設定の代わりにスキャナから取り込んだ色情報を設定します。

1 [スポットカラー] メニューをクリックします。

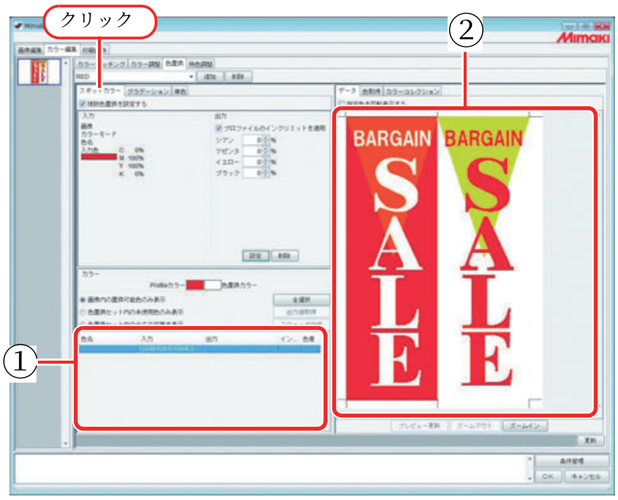
色置換を行う色を選択します。

① 置換情報リストから選択する

色置換したい色の色名・CMYK 値をリストから見て選択します。

② プレビュー画面上から選択する

マウスカーソルをプレビュー画面上に置き、色置換したい場所をクリックします。

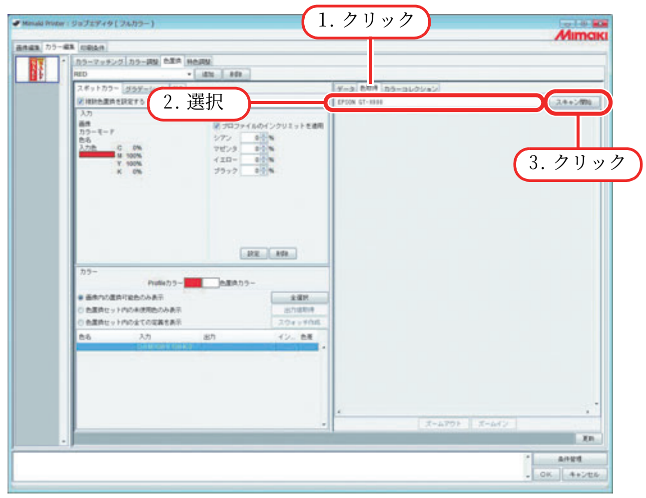


2 [色取得] メニューをクリックします。

使用するスキャナの機種を選択します。

スキャナの電源がオンになっていることを確認し、スキャン開始 をクリックします。

スキャナドライバ画面（TWAIN 画面）が表示されます。

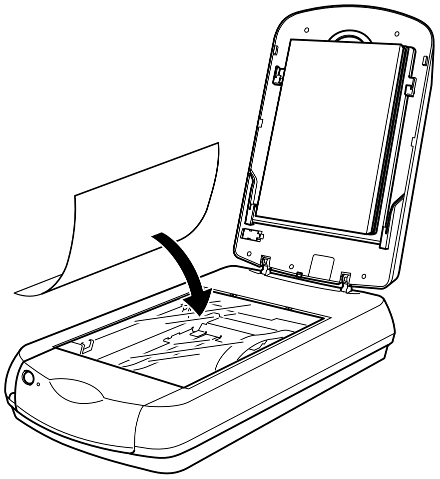


3 スキャナに原稿をセットして、画像データを取り込みます。

「スキャナドライバの設定内容」(P.197)を参照し、スキャナドライバの設定をして、原稿の画像データを取り込みます。

重要!

- 画像データを取り込むときには、スキャナドライバ画面(TWAIN 画面)で色取得のために決まった設定を行って取り込む必要があります。設定の内容は、スキャナの機種により異なります。詳しくは、「色取得機能と対応スキャナについて」(P.196)をご覧ください。
- スキャナの操作方法については、スキャナに同梱の取扱説明書を参照してください。



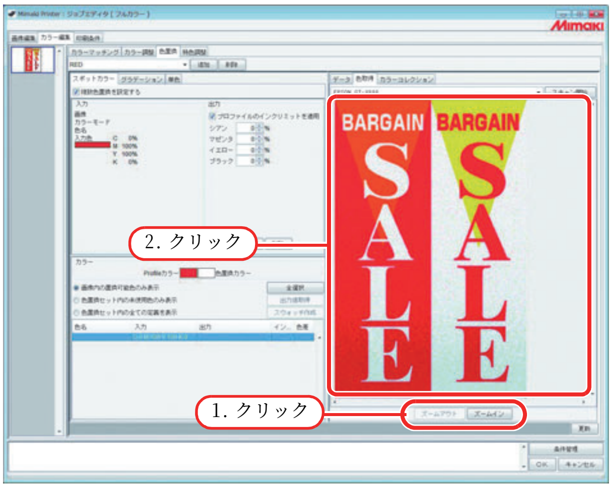
4 取り込んだ画像データがプレビュー表示されます。

[ズームイン] または [ズームアウト] をクリックして色取得を行う色の部分を表示し、クリックします。

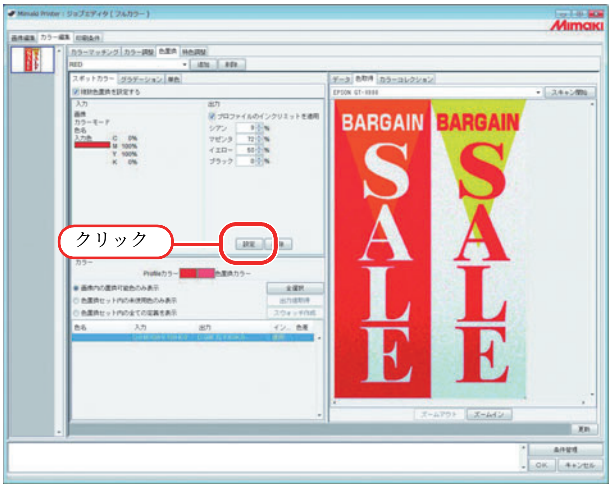
値を置換後のインク濃度に設定します。

重要!

色が一定した部分をクリックしてください。



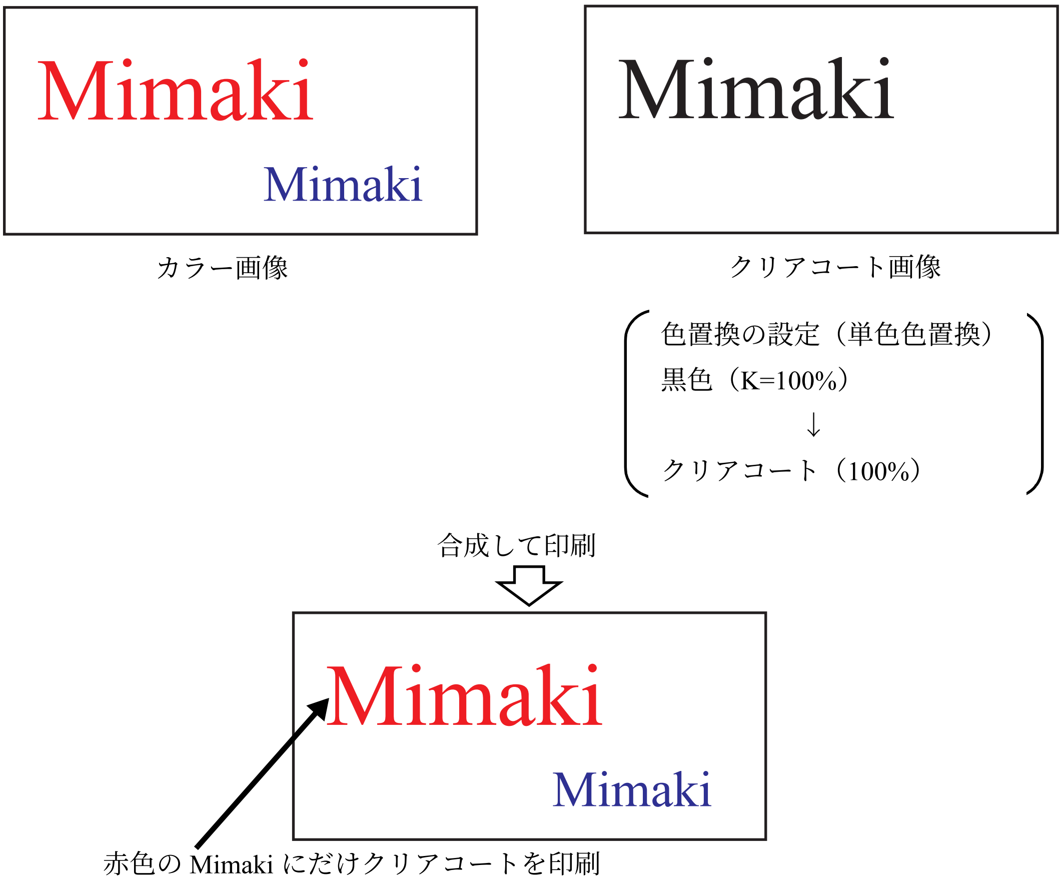
5 設定 をクリックして色取得情報を設定します。



クリアコートを色置換で使うには

クリアコートを色置換で使う場合、カラー画像とクリアコート画像のジョブを合成し、クリアコート画像のジョブは、クリアコートへの色置換を設定して印刷します。

例）



重要！

- カラー画像、クリアコート画像の順序で印刷するには、サムネイルリストでカラー画像、クリアコート画像の順番になるようにジョブを並べてください。
- 合成ジョブのクリアコート画像は、クリアコート以外のインク出力がある場合でも、印刷モードで指定した UV 照射方法で印刷されます。

クリアコートをカラーに重ねて印刷する場合、カラーの UV 照度を弱めに設定し、完全に硬化させない状態にしておくと、クリアコートの定着性が向上します。（☞ P.150）

カラーコレクション

DIC カラーガイドに近似させて印刷する

RasterLinkPro5 で DIC カラーガイドに近似させて印刷する場合の、Adobe Illustrator でのデータ作成方法と、RasterLinkPro5 の設定方法を説明します。

設定の流れ

1. Adobe Illustrator でスポットカラーのデータ作成

Adobe Illustrator でスウォッチライブラリから DIC カラーガイドを指定してデータを作成

▼

2. RasterLinkPro5 の設定

Adobe Illustrator で作成した DIC カラーガイドのスポットカラーを RasterLinkPro5 で色置換するための設定

Adobe Illustrator でスポットカラーのデータを作成

> **重 要!** 説明は Adobe Illustrator10 を使用していますが、8、9、CS、CS2、CS3、CS4、CS5 も設定方法は同じです。

1 スポットカラー指定するデータを Adobe Illustrator で開きます。

メニューの [ウィンドウ] ー [スウォッチライブラリ] ー [DICcolor] を選択し、DIC カラーガイドのスウォッチライブラリ一覧を表示します。

> - Adobe Illustrator CS2 の場合、メニューから [ウィンドウ] ー [スウォッチライブラリ] ー [DIC カラーガイド] を選択します。
> - Adobe Illustrator CS3 ～ CS5 の場合、メニューから [ウィンドウ] ー [スウォッチライブラリ] ー [カラーブック] ー [DIC カラーガイド] を選択します。

2 DIC のカラーを設定するアートワークを選択し、DIC カラーガイドのスウォッチライブラリ一覧から任意の色を選択します。

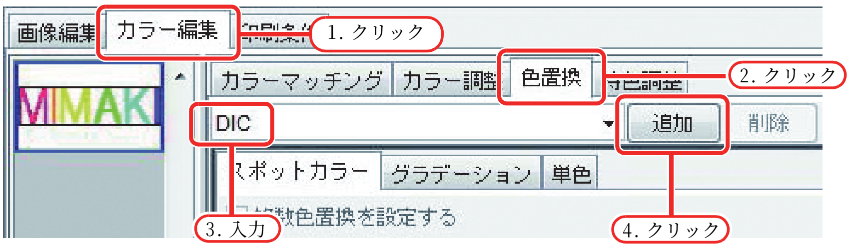
3 プリンタドライバ出力、もしくは EPS で保存し、ホットフォルダにデータをコピーします。

RasterLinkPro5 の設定

Adobe Illustrator で DIC カラーガイドのスポットカラー指定されたデータを、RasterLinkPro5 で色置換して印刷します。

1 データを RasterLinkPro5 にスプールし、ジョブエディタを開きます。

2 [カラー編集] タブの [色置換] タブを開き、色置換セットを作成します。

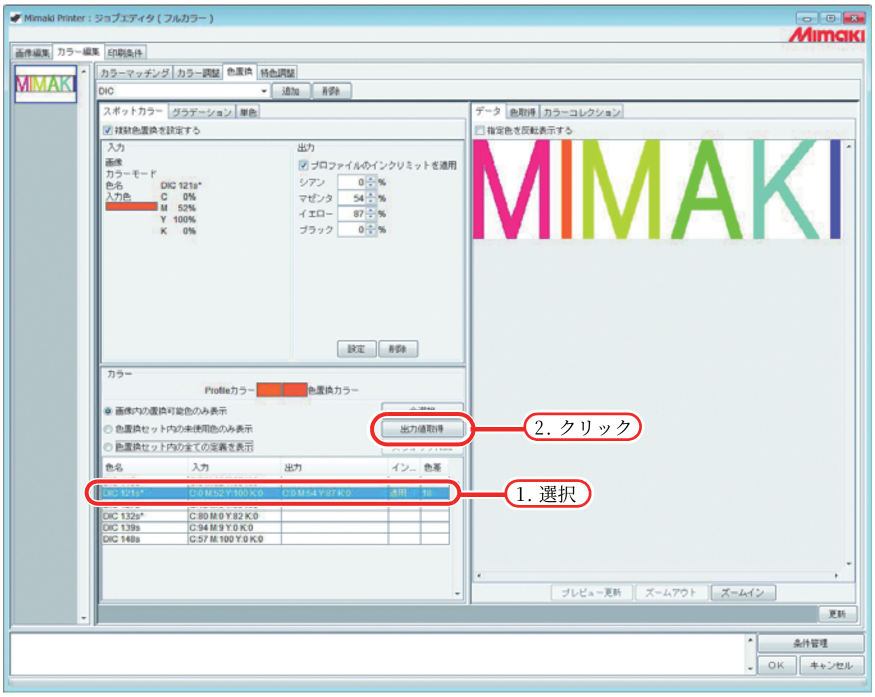


3 色置換情報を設定します。

- 選択した色名を色置換する場合

（☞「カラーコレクションから取得する 2」（P.108））

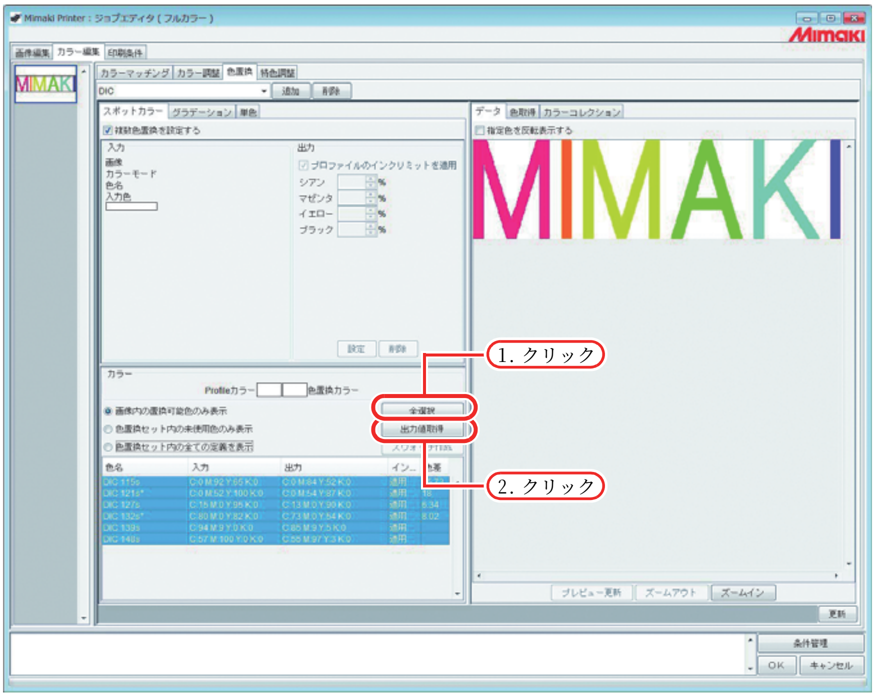
色置換する色名を選択し、**出力値取得** ボタンをクリックします。



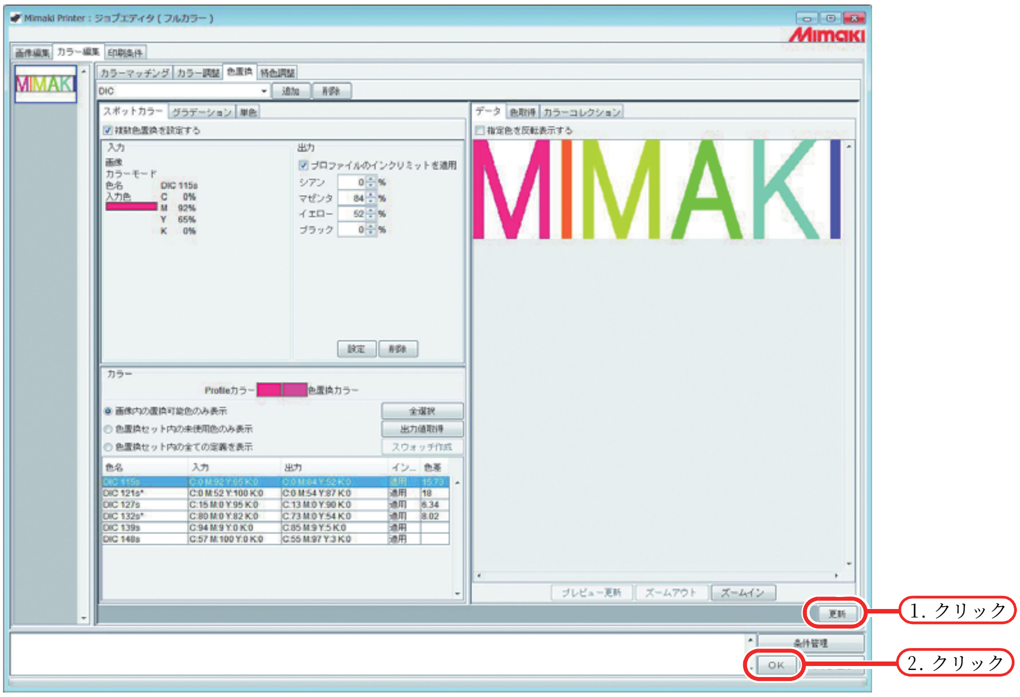
- 表示されている全ての色名を色置換する場合

（☞「カラーコレクションから取得する 2」（P.108））

全選択 ボタンをクリックした後、**出力値取得** ボタンをクリックします。



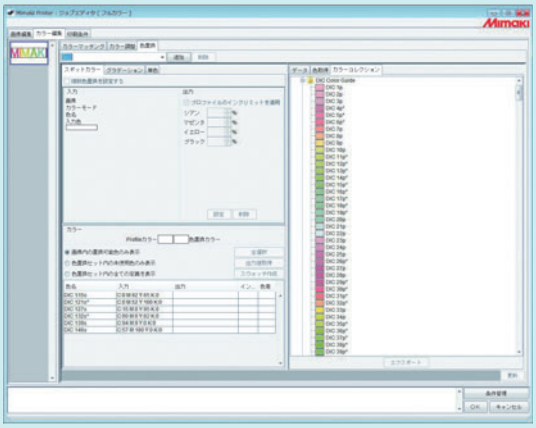
4 更新 ボタン、OK ボタンをクリックしてジョブの設定を保存します。



5 印刷を実行します。

RasterLinkPro5 では Adobe Illustrator の DIC カラーガイドに対応して 4 つのカラーコレクションを保有しています。カラーコレクションの詳細は、[カラー編集] ー [色置換] ー [カラーコレクション] を選択して確認できます。

Adobe Illustrator バージョン	DIC カラーガイド名	カラーコレクション名
8 ～ CS	DIC Color Guide	DIC 1p ～ DIC 654p*
	DIC Color Guide PART2	DIC 2001p ～ DIC 2638p
CS2 ～ CS5	DIC Color Guide CS2	DIC 1s ～ DIC 654s*
	DIC Color Guide PART2 CS2	DIC 2001s ～ DIC 2638s



PANTONE カラーチップに近似させて印刷する

RasterLinkPro5 IP で PANTONE カラーチップに近似させて印刷する場合の、Adobe Illustrator でのデータ作成方法と、RasterLinkPro5 IP の設定方法を説明します。

> **重 要!**
>
> PANTONE カラーチップに対応している製品は、RasterLinkPro5 IP だけです。RasterLinkPro5 SG、RasterLinkPro5 TA のカラーコレクションは PANTONE カラーに対応していません。また、RasterLinkPro5 IP を使用する場合でも、以下の条件を満たす場合だけ PANTONE カラーチップに対応したカラーコレクションを使用することが可能です。
>
> - プリンタ管理機能で UJF-605CII を機種登録して使用する場合
> - 「UJF605CIIUV_PET_F101171.cot」プロファイルを選択している場合
>   (1200x1200ND CMYKLcLm UV ペット 1 レイヤー 双方向 16 パス 高速印刷 ON Version2.0)

設定の流れ

1. Adobe Illustrator でスポットカラーのデータ作成

Adobe Illustrator でスウォッチライブラリから PANTONE のカラーチップを指定してデータを作成

▼

2. RasterLinkPro5 IP の設定

Adobe Illustrator で作成した PANTONE のスポットカラーを RasterLinkPro5 IP で色置換するための設定

Adobe Illustrator でスポットカラーのデータを作成

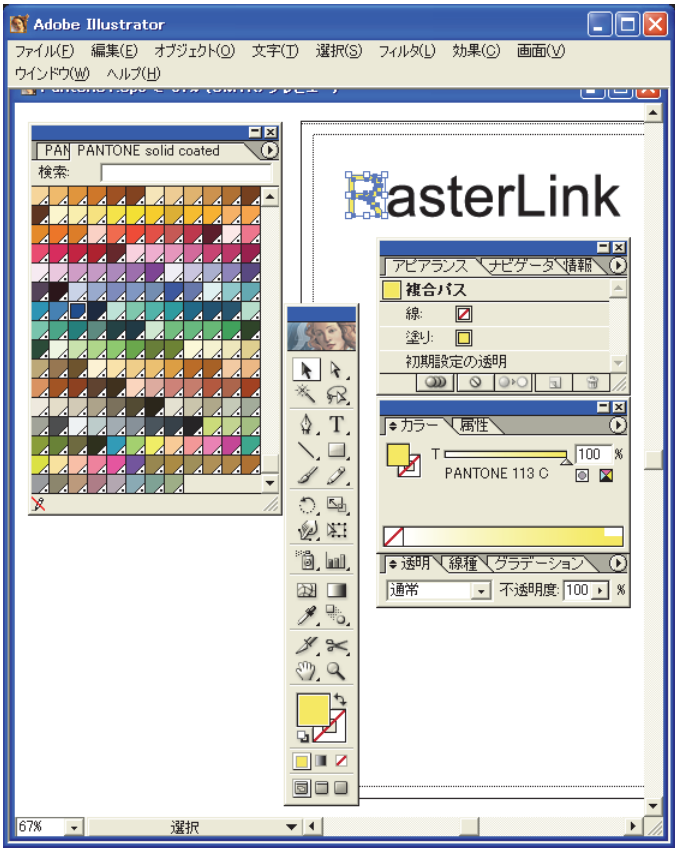
重 要！　説明は Adobe Illustrator10 を使用していますが、8、9、CS、CS2、CS3、CS4、CS5 も設定方法は同じです。

1 スポットカラー指定するデータを Adobe Illustrator で開きます。

メニューの [ウィンドウ] － [スウォッチライブラリ] － [PANTONE solid coated] を選択し、PANTONE カラーチップのスウォッチライブラリ一覧を表示します。

Adobe Illustrator CS3 の場合、メニューから [ウィンドウ] － [スウォッチライブラリ] － [カラーブック]－ [PANTONE solid coated] を選択します。

2 PANTONE のカラーチップを設定するアートワークを選択し、PANTONE カラーチップのスウォッチライブラリ一覧から任意の色を選択します。



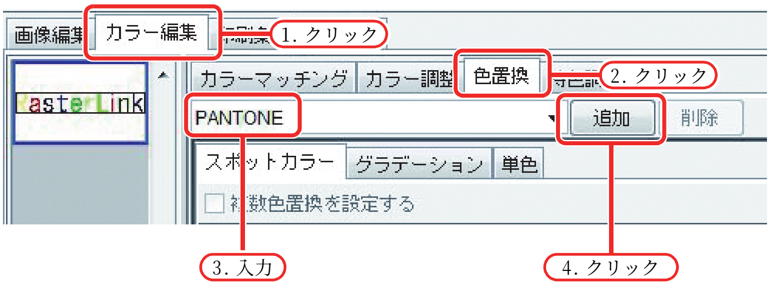
3 プリンタドライバ出力、または EPS で保存し、ホットフォルダにデータをコピーします。

RasterLinkPro5 IP の設定

Adobe Illustrator で PANTONE カラーチップのスポットカラー指定されたデータを、RasterLinkPro5 IP で色置換して印刷します。

1 画像を RasterLinkPro5 IP にスプールし、ジョブエディタを開きます。

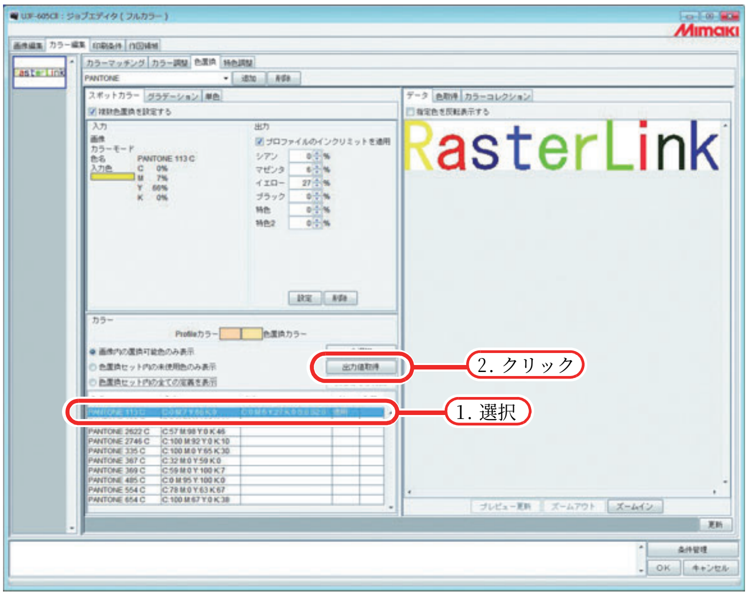
2 [カラー編集] タブの [色置換] タブを開き、色置換セットを作成します。



3 色置換情報を設定します。

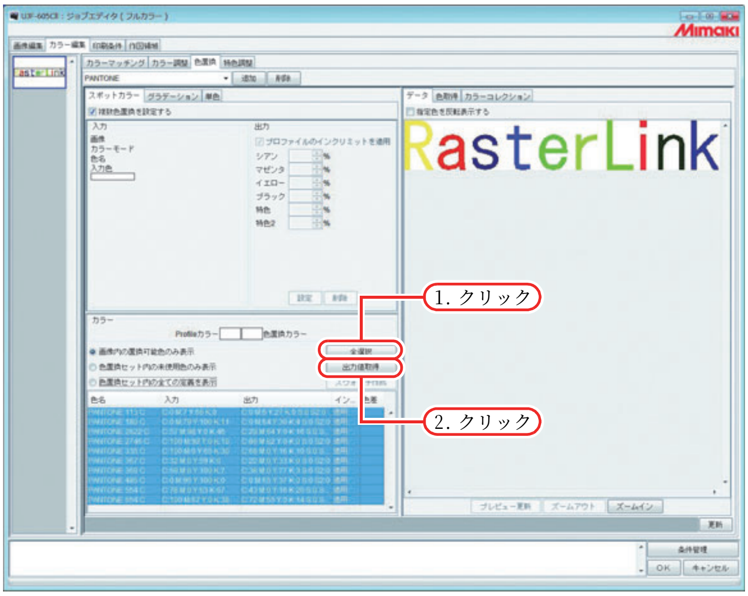
- 選択した色名を色置換する場合

（☞ リファレンスガイド　各シリーズ編「カラーコレクションから取得する 2」）
色置換する色名を選択し、**出力値取得**ボタンをクリックします。

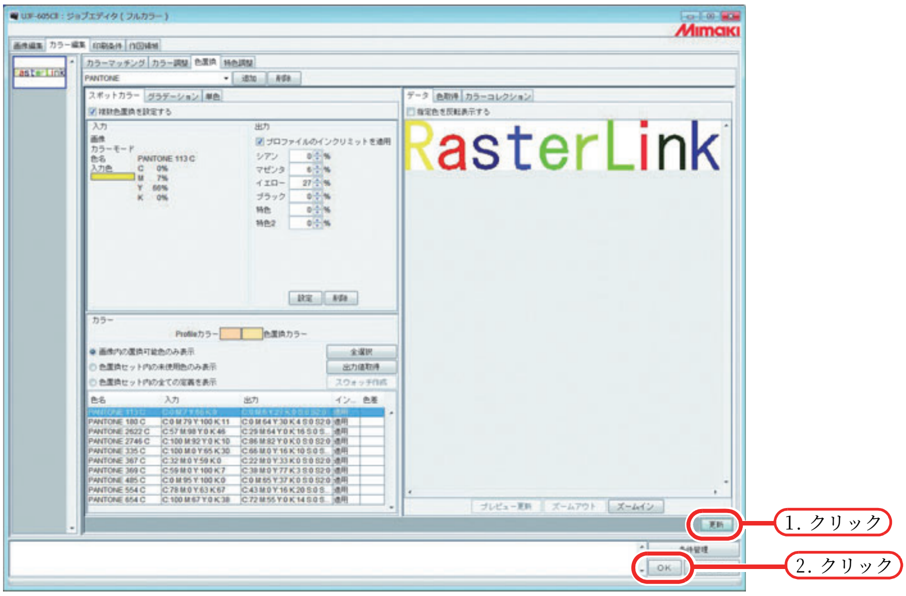


- 表示されている全ての色名を色置換する場合

（☞ リファレンスガイド　各シリーズ編「カラーコレクションから取得する 2」）
全選択ボタンをクリックした後、**出力値取得**ボタンをクリックします。



4 更新 ボタン、 OK ボタンをクリックしてジョブの設定を保存します。

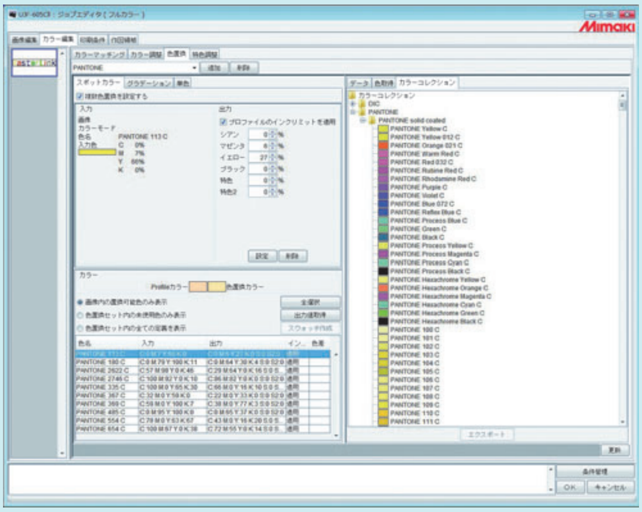


5 印刷を実行します。

RasterLinkPro5 IP では Adobe Illustrator の PANTONE カラーチップの中で「Solid coated」に対応しています。カラーコレクションの詳細は、[カラー編集] ー [色置換] ー [カラーコレクション］ を選択して確認できます。

カラーコレクション名

PANTONE solid coated：PANTONE 100 C ～ PANTONE 8321 C 等



PANTONE カラーコレクション

本システムは、PANTONE Color Look-up Table © Pantone, Inc., 2007 を搭載しています。

生成される PANTONE® カラーは、パントーン識別標準と合致しない場合があります。正確なカラーに関しては現行のパントーン刊行物をご覧ください。PANTONE® および他のパントーン社の商標はパントーン社の資産です。© Pantone, Inc., 2007

本システムに搭載されている PANTONE Color Look-up Table © Pantone, Inc., 2007 は RasterLinkPro5 IP および UJF-605C Ⅱで作成されたものです。

UJF-605C Ⅱによって生成される色の再現プロセスには下記を含む多くの変数があり、そのどれもがパントーン・カラーのシミュレーションの品質に影響を及ぼす可能性があります。

- 使用ドライバまたは RIP のタイプ
- 使用する用紙のタイプ
- 使用するインク、トナーもしくは着色剤のタイプ
- 有効最終解像度
- ドット構成 / ハーフトーン / スクリーニング
- プリント・エンジン

最善の結果を得るために、以下のカラープロファイルおよび材料を使用してください。

1. カラープロファイル：UJF-605CII UV PET F101171.cot
2. 表示メディア名：　UV- ペット V2-1(1L-16pUH)
3. 印刷条件：　1200x1200 ND, 16pass, 片方向印字 , Vi 拡散 (8bit レンダリング)
4. インク：　UV6 色 (SPC-0371K, SPC-0371C, SPC-0371M, SPC-0371LC, SPC-0371LM, SPC-0404HY)
   白下地 (SPC-0371W-3)
5. メディア：　PET フィルム (HK-42WF, 東山フィルム株式会社製)

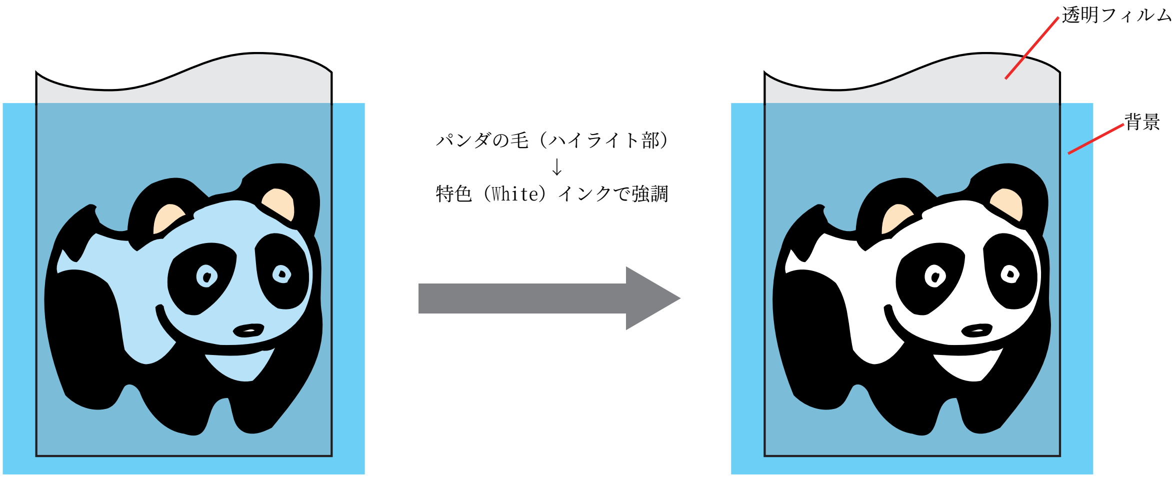
特色調整

特色調整を行うには、［印刷条件］－［印刷モード］－［特色カラーセット］が選択されている必要があります。

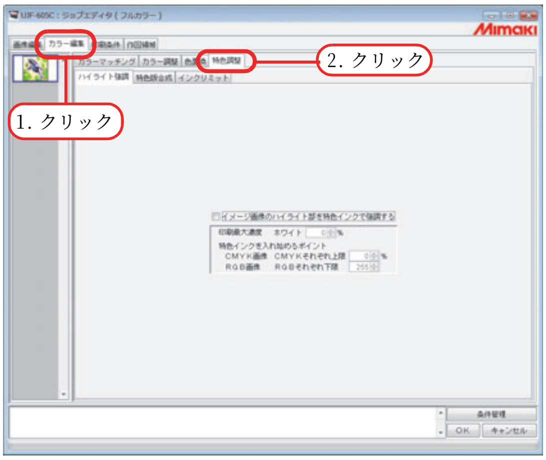
ハイライト部を特色で強調する

画像のハイライト部を、特色インクで強調することができます。透明フィルムなどに印刷するときに、ハイライト部を目立たせたい場合に効果があります。

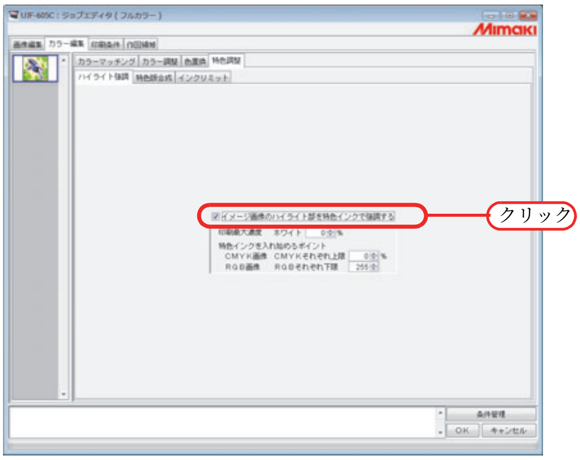
CMYK 画像、RGB 画像のどちらでも調整可能です。



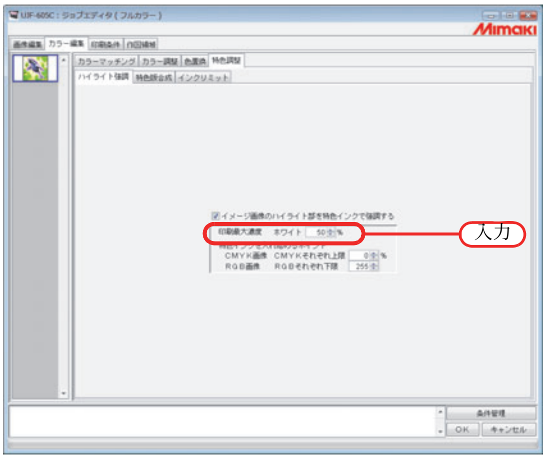
1 ［カラー編集］メニューをクリックします。
［特色調整］メニューをクリックします。



2 ［イメージ画像のハイライト部を特色インクで強調する］をチェックします。



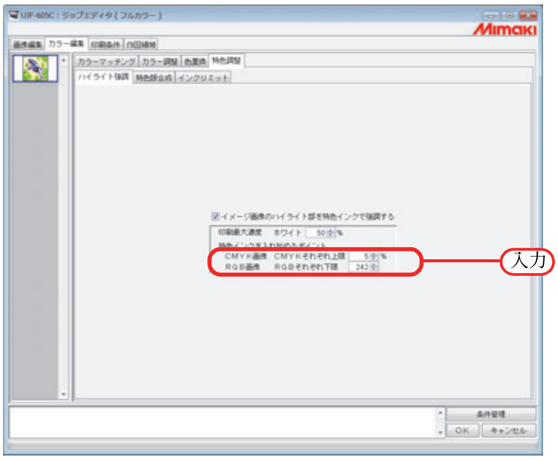
3 ハイライト部に印刷する特色インクの最大濃度を 0 ～ 100%の範囲で指定します。
印刷最大濃度は、特色カラーセットで選択された特色インクの数だけ指定できます。



> ここで指定した最大濃度は、ハイライト部で最もインク量が少ない箇所の濃度になります。特色インクの濃度は、ハイライト部のインク量にしたがって自動的に計算して調整します。

4 特色インクを印刷し始めるハイライト部のポイントを指定します。

CMYK 画像は、上限として 0 ～ 20%の範囲内で指定します。CMYK 各色がこの値より小さいハイライト部に特色インクが印刷されます。
RGB 画像は、下限として 204 ～ 255 の範囲内で指定します。RGB 各色がこの値より大きいハイライト部に特色インクが印刷されます



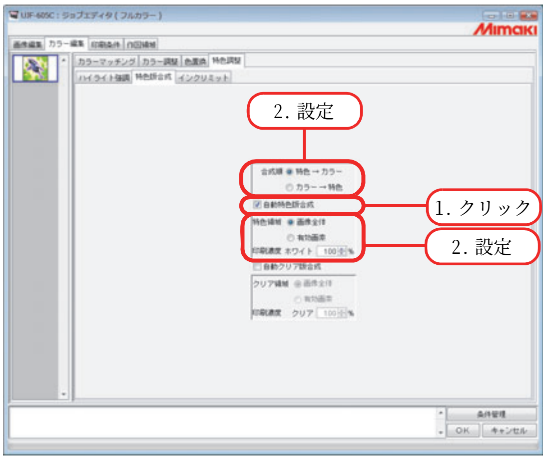
特色版を自動的に作成する（自動特色版合成）

“カラー画像”と“カラー画像を元にして自動作成した特色インク単色画像（特色版）”を重なるように印刷します。

重 要！

次の条件を設定しているジョブは、自動特色版合成の設定ができません。
- パネリング
- グループ化
- 複数ページ

合成方法を設定します。



［合成順］

特色→カラー：
特色版を出力してから、その上にカラー版を出力します。

カラー→特色：
カラー版を出力してから、その上に特色版を出力します。

［特色領域］

画像全体：
レイアウトプレビューの画像を囲む点線と、同じ大きさ・形の特色版を出力します。

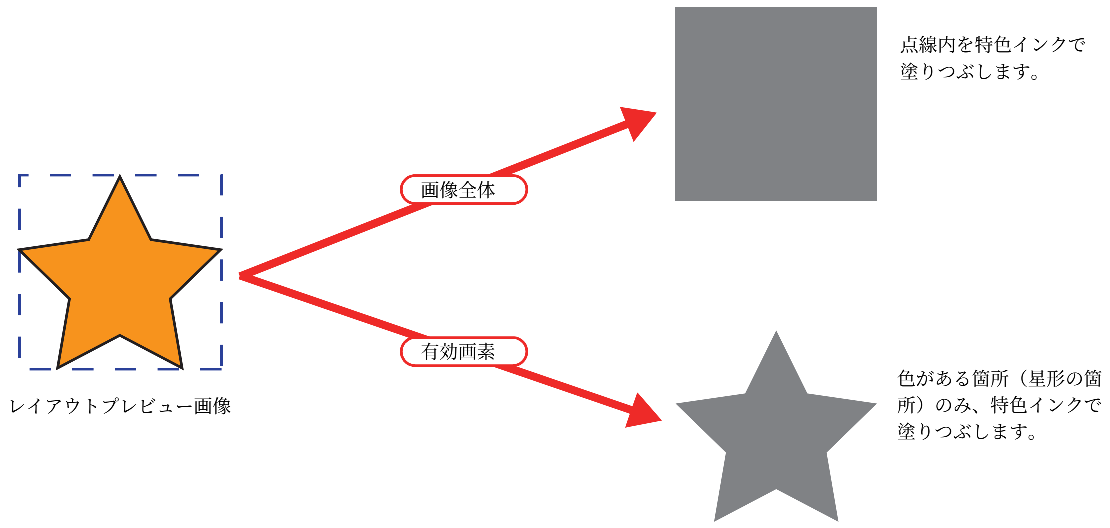
有効画素：
画像内の色がある部分のみの特色版を出力します。

［印刷濃度］

特色版に出力する特色インクの濃度 0 ～ 100%の範囲で指定します。印刷濃度は、特色カラーセットで選択された特色インクの数だけ指定できます。

自動特色版合成例

レイアウトプレビューで下のように表示している画像を、それぞれ設定し出力した例です。



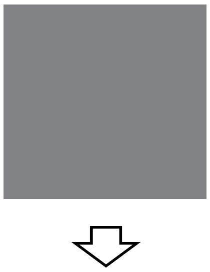
> **重 要！** “ 有効画素 ” を指定して、写真画像の一部に空白（色がないハイライト部分）がある場合、空白部分に特色は印刷されません。
> この場合、ハイライト部を特色で強調する機能（☞ P.132）と併用してください。

合成順例

“ レイアウトプレビュー ” で下のように表示している画像を、次のように出力します。

“ 特色領域 ” . . . 画像全体
“ 合成順 ” . . . . . 特色→カラー

レイアウトプレビュー画像



[1]
“ レイアウトプレビュー ” で表示している点線内を特色インクで
四角形に塗りつぶしてプリントします。

[2]
特色インク版に重なるように、カラー版をプリントします。

クリア版を自動的に作成する

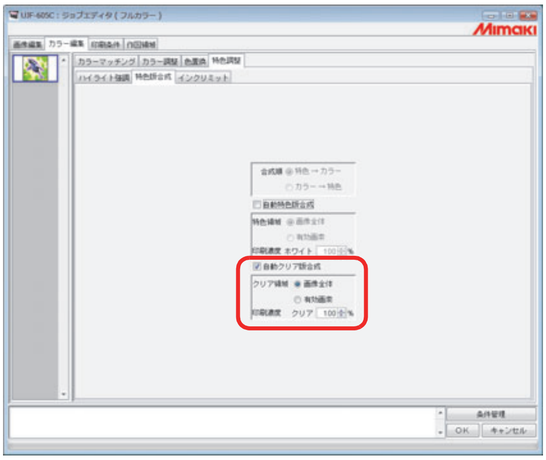
クリア版を自動で作成するには、[印刷条件] ─ [印刷モード] メニュー─ [特色カラーセット] で、クリアコート (CI) を選択する必要があります。
“ カラー画像 ” と “ カラー画像を元にして自動作成したクリアコート単色画像(クリア版)” を重なるように印刷します。

重 要 !

次の条件を設定しているジョブは、自動クリア版合成の設定ができません。

- パネリング
- グループ化
- 複数ページ

合成方法を設定します。



[クリア領域]

画像全体:レイアウトプレビューの画像を囲む点線と、同じ大きさ・形の特色版を出力します。

有効画素:画像内の色がある部分のみの特色版を出力します。

[印刷濃度]

クリア版に出力するクリアコートの濃度 0% ~ 100% の範囲で指定します。印刷濃度は、特色カラーセットで選択されたクリアコートの数だけ指定できます。

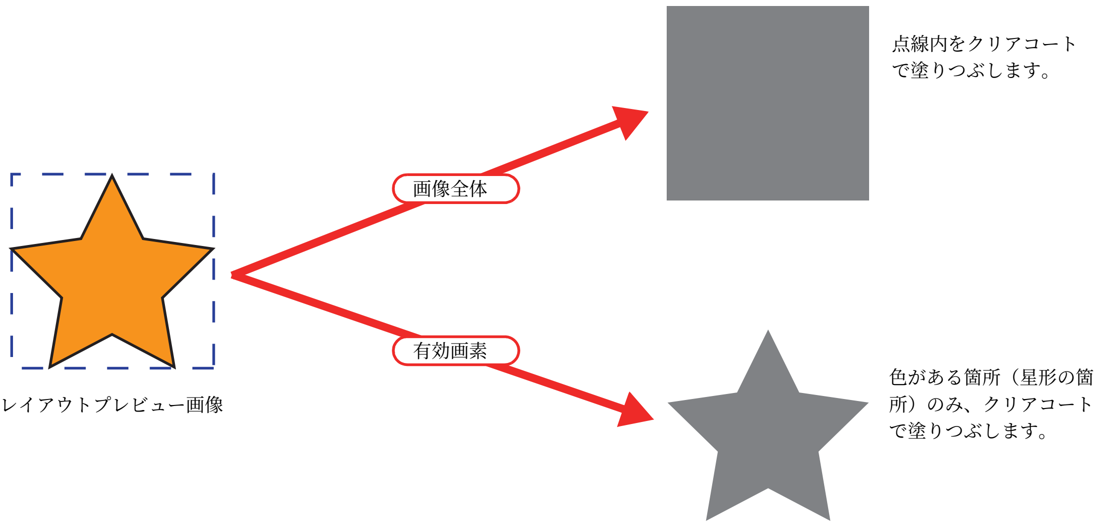
重 要 !

クリア版の印刷時は、印刷条件で UV 照射の方法も指定する必要があります。(☞ P.150)

- 合成順は、カラー→クリア版固定です。
- クリアコートをカラーに重ねて印刷する場合、カラーの UV 照度を弱めに設定し、完全に硬化させない状態にしておくと、クリアコートの定着性が向上します。(☞ P.150)

自動クリア版合成例

レイアウトプレビューで下のように表示している画像を、それぞれ設定し出力した例です。



レイアウトプレビュー画像

インクリミットを編集する

特色のインク量を調整します。調整した値は、特色調整セットとして登録できます。

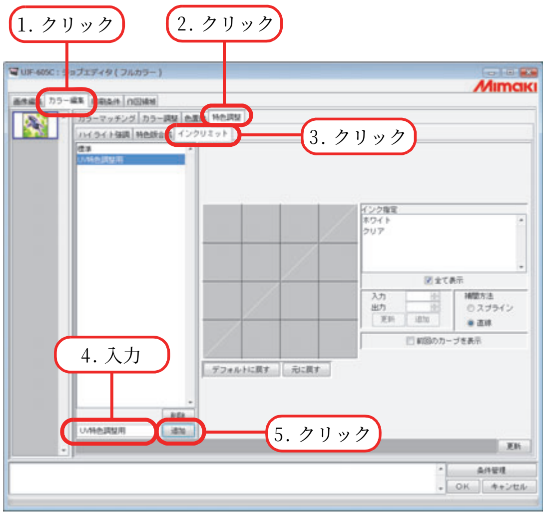
特色調整セットを作成する

特色調整セットは、特色カラーセットごとに作成します

1 ［カラー編集］メニューをクリックします。
［特色調整］メニューをクリックします。
［インクリミット］メニューをクリックします。
特色調整セット名を入力します。

> **重要！** 特色調整セット名に下記の半角文字は使用できません。
> \ / : ? " < > |

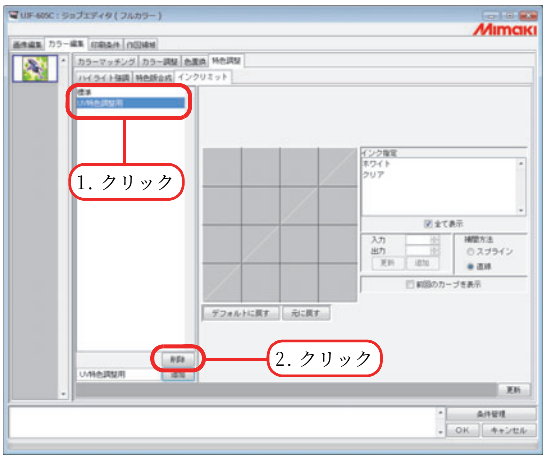
追加 ボタンをクリックします。
すでに同じ名前の特色調整セットがある場合は、上書きの確認メッセージを表示します。



- 新規に特色調整セットを作成する場合は、“ 標準 ” を選択します。その後、セット名を入力して 追加 ボタンをクリックします。
- 登録済みの特色調整セットを複製する場合は、編集するセットを選択し、セット名を変えた後に 追加 ボタンをクリックします。

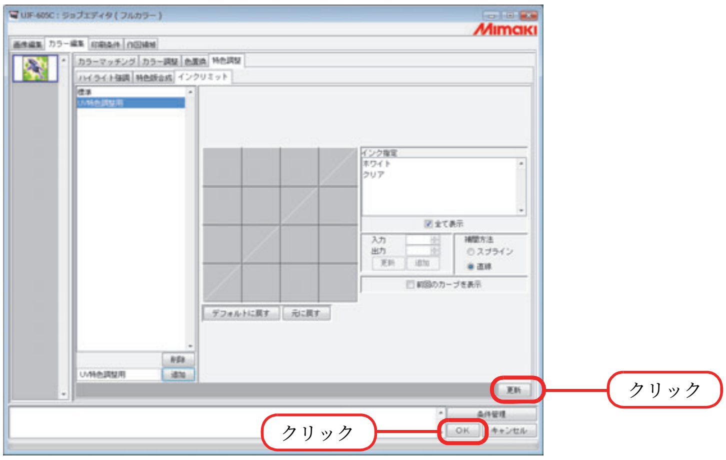
特色調整セットを削除する

登録した特色調整セットをクリックします。
削除 ボタンをクリックすると、選択したカラー調整セットを削除できます。



特色調整セットを更新する

設定した特色調整セットを更新するには、
更新 ボタンをクリックするか、OK ボタンをクリックし、ジョブエディタを終了します。



重 要！

特色調整セットを更新すると、同じ特色調整セットを使用している別のジョブにも変更内容が適用されます。既に RIP 済みデータがある別のジョブに変更内容が適用された場合、“ 印刷のみ ” を実行すると印刷結果が異なることがあります。もう一度 RIP し直すか、特色調整セットの更新または新規作成を行ってください。

インクカーブを調整する

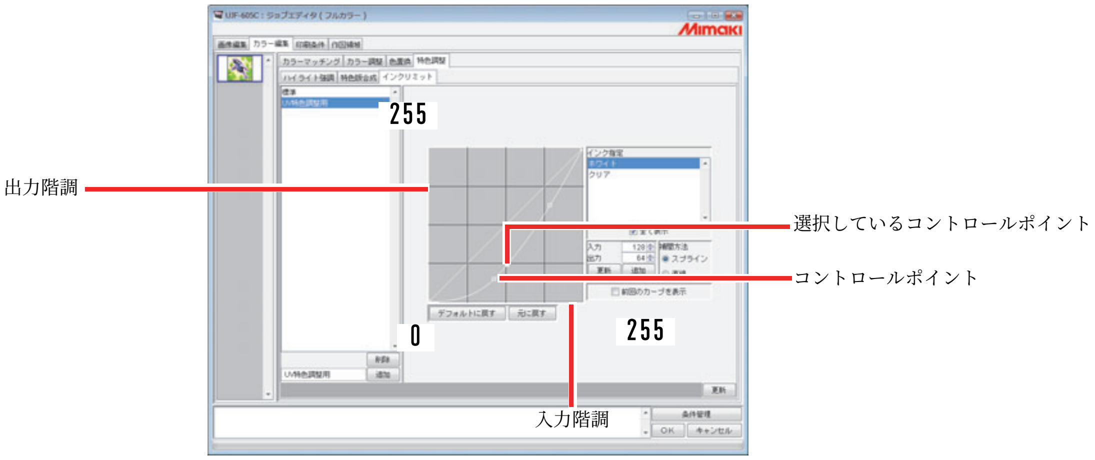
“特色カラーセット”で選択した特色インクカーブを表示します。横軸に調整前のインク濃度（入力階調）、縦軸に調整後のインク濃度（出力階調）を示します。縦軸、横軸とも 0 から 255 の範囲を表示します。

出力階調が 0 より下回る場合は、0 に設定されます。また、255 より上回る場合、255 に設定されます。

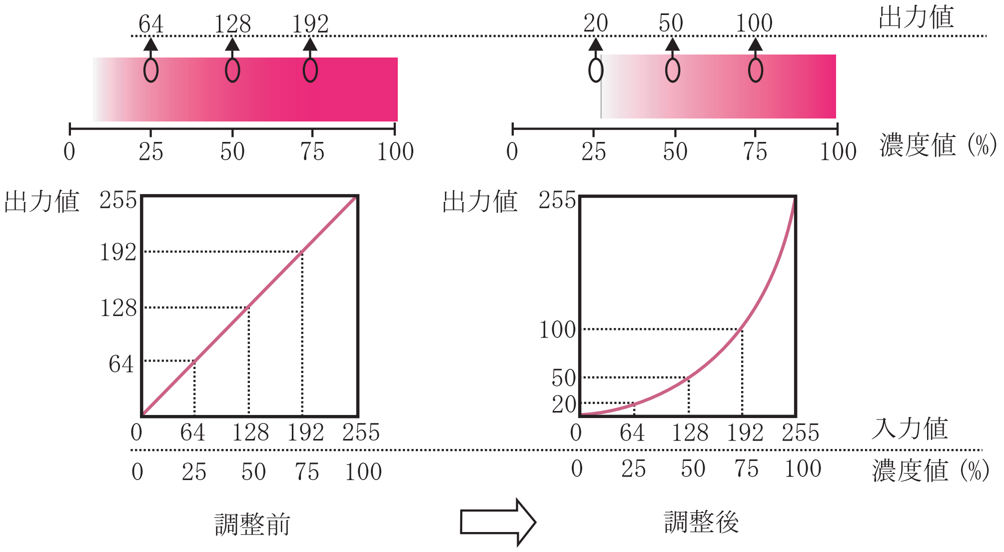
インクカーブ上の調整したいポイントをクリックすると、コントロールポイントができます。最高 30 個まで追加できます。なお、選択しているコントロールポイントは、白抜き矩形から塗りつぶされた矩形に変わります。

> インクカーブの設定に関する操作は、CMYK インクと同様です。（☞ P.87）

> **重 要!** 特色のインクカーブは色置換にだけ適用されます。自動特色版合成、自動クリア版合成、ハイライト強調には適用されません。



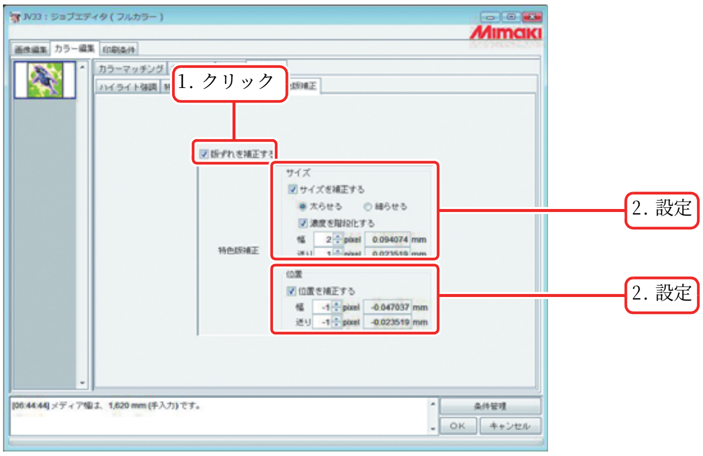
グラデーションの色置換で特色インクを使用した場合のインクカーブ適用例



特色版補正機能

以下のような問題を改善したい場合、特色版補正機能を設定します。

- 特色 (ホワイト･クリアコート) とカラー画像を重ねて印刷する場合､特色版とカラー画像が若干ずれて印刷されることがあり、これを補正したい。
- カラー画像を若干覆うようにクリアコートを塗布したい。
- ベースに印刷したホワイトインクがカラー画像からはみ出て印刷されるので、ホワイトインクの画像を若干小さめに印刷したい。

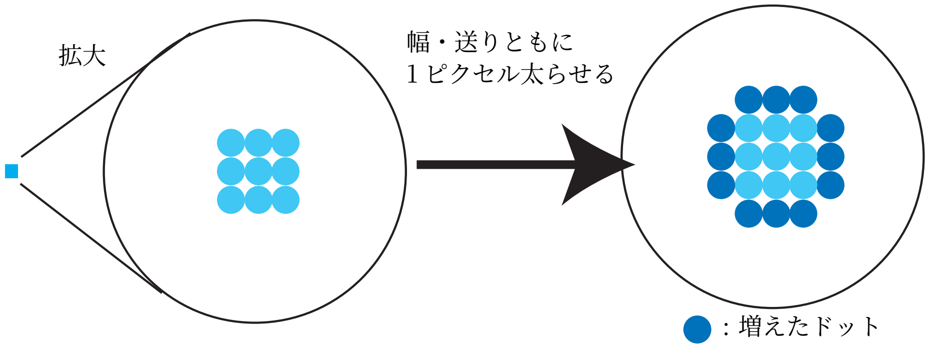


[サイズを補正する]

特色版の大きさを補正します。

太らせる	:	特色版を指定した幅および送りのピクセル数分大きくします。
細らせる	:	特色版を指定した幅および送りにピクセル数分小さくします。
濃度を階段化する	:	[太らせる] を選択したときに有効になります。太らせた部分のインク濃度が、グラデーション状に外に向かって変化します。

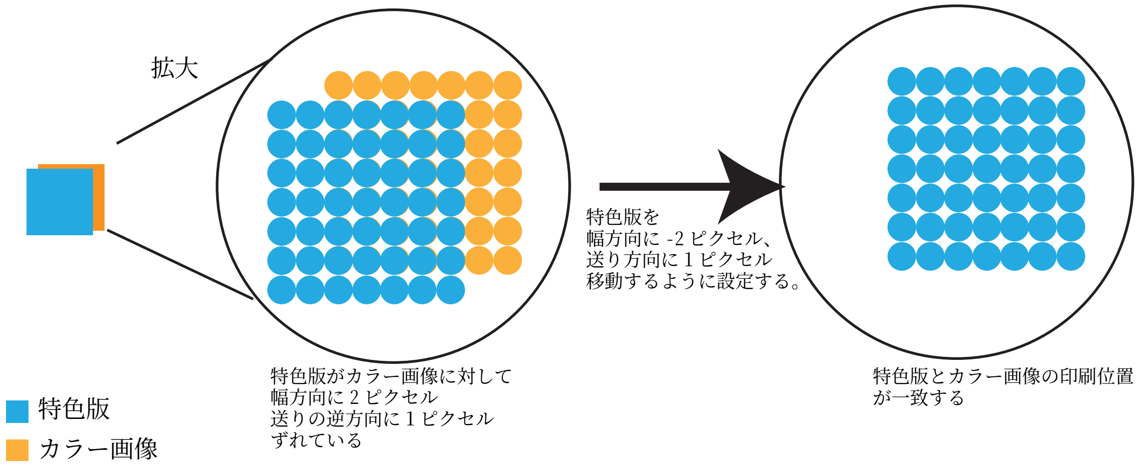
例 : 特色版を幅、送りと共に 2 ピクセル太らせる設定にした場合



[位置を補正する]

特色版の位置を指定した幅および送りのピクセル数分移動させせます。

例：カラー画像と特色版が以下のようにずれていた場合



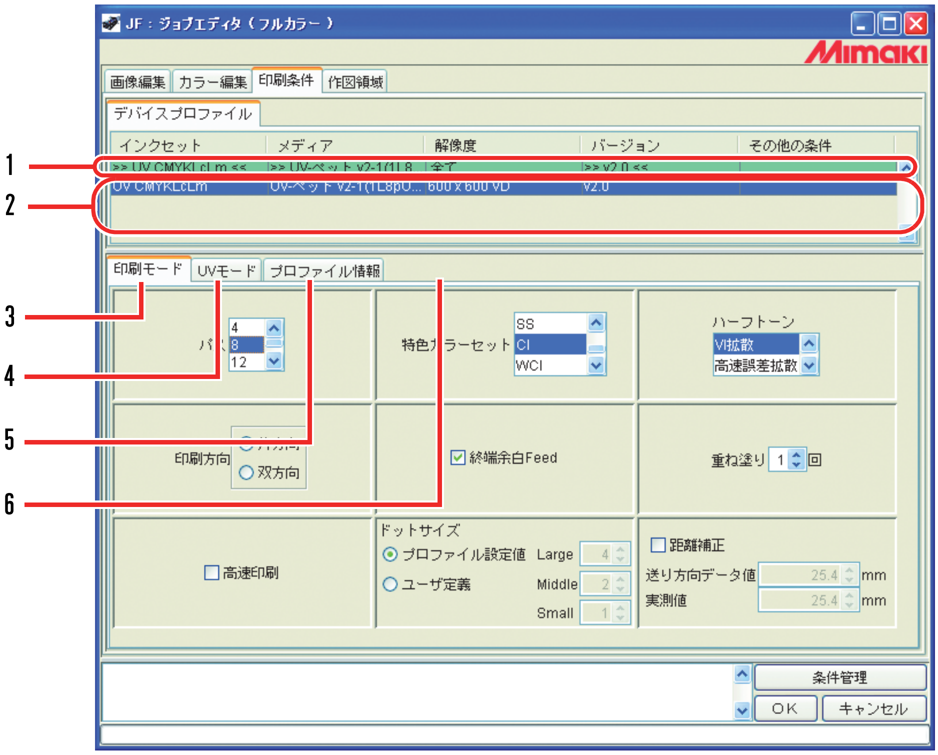
重要!

- 特色 (ホワイト) とクリアを同時に使用する特色インクセットを選択している場合､特色版とクリア版を別々に指定できます。トグルスイッチで選択してください。
- 画像編集画面で以下の設定を行っている場合、特色補正は行えません。
  コピー、カットライン印刷、トンボ印刷、パネリング
- 複数ページあるジョブでは特色補正は行えません。
- 特色補正の値は画像編集画面のプレビューには反映されません。

印刷条件の編集

印刷条件を設定します。

> **重 要!**
> - 複数のジョブをグループ化している場合、すべてのジョブが同じ出力条件になります。
> - RasterLinkPro5 IP で設定した印刷条件を使って印刷する場合、必ずプリンタ本体の「優先順位」の設定を “ ホスト ” にしてください。「優先順位」の設定を “ パネル ” にしていると、RasterLinkPro5 IP で設定した印刷条件は無視され、プリンタ側で設定した印刷条件を使って印刷を行います。(「優先順位」の設定方法について、詳しくはプリンタの取扱説明書をご参照ください。)

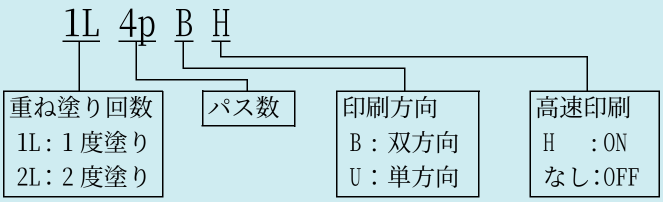


1. デバイスプロファイルの絞込み

デバイスプロファイルを絞込み表示します。（☞ P.146）

2. デバイスプロファイルリスト

最適な印刷を行うためのデバイスプロファイルを表示します。
使用するデバイスプロファイルをクリックして選択します。

> **重 要!**
>
> - 出力できる解像度は、インストールされているデバイスプロファイルに依存します。
>   出力したい解像度がない場合、対応するプロファイルをインストールしてください。（対応するプロファイルは用意されていない場合もあります。）
> - デバイスプロファイルには推奨の印刷条件設定（パス数 / 重ね塗り回数 / 印刷方向 / 高速印刷の有無）があります。それ以外の条件で印刷すると適切な画質を得られません。
>   デバイスプロファイルはメディア毎に適した条件で作成しているので、使用するメディアのデバイスプロファイルをご使用ください。メディアとデバイスプロファイルが合っていない場合、適切な画質が得られないことがあります。
>   デバイスプロファイルの推奨値は以下の手順で、印刷条件に設定します。
>   プロファイルバージョンが V3 の場合：
>   プロファイルを選択することで自動的に推奨値が設定されます。
>   プロファイルバージョンが V2 の場合：
>   プロファイルを選択すると初期値が設定されます。これは、プロファイルの推奨値ではありません。メディア名に推奨値が記載されているプロファイルでは、下記の説明に従い、推奨値を印刷条件に設定してください。
>
>   例 1）メディア名が「UV- ペット v2(1L4pBH)」の場合、括弧の中が推奨値となります。
>
> 
>
>
>   ※ 重ね塗り回数とパス数の間に -(ハイフン) がついているものもありますが、基本的には上記と同じです。
>
>   例 2）メディア名が「光沢塩ビ（1Layer）」の場合、括弧内は重ね塗り回数を表します。
>   1Layer：1 度塗り
>   2Layer：2 度塗り
>
>   メディア名に推奨値が記載されていないプロファイルの場合、初期設定値でテストプリントを行い、画質が悪いと判断された場合は印刷条件設定を変更してください。

3. [印刷モード] サブメニュー

印刷モードを設定します。（☞ P.147）

4. [UV モード] サブメニュー

UV 照射するときの方法や照度を設定します。（☞ P.150）

5. [プロファイル情報] サブメニュー

デバイスプロファイルの情報を表示します。（☞ P.152）

6. [キャリブレーション] サブメニュー（☞ P.153）

現在選択しているバージョン 3.0 のデバイスプロファイルが " キャリブレーション情報 "、" イコライゼーション情報 " を含む場合、" キャリブレーション " メニューを表示します。
RIP 時にキャリブレーション情報、イコライゼーション情報を適用する／しないを選択します。

キャリブレーション (情報)： . . . 現在のプリンタの色みを、プリンタ初期状態など特定の状態の色みに近似させるための調整（情報）

イコライゼーション (情報)： . . . 現在のプリンタの色みを、対象となるプリンタの色みに近似させるための調整（情報）

重 要！ この機能を使用する場合、弊社のプロファイル作成専用ソフトウェア「MimakiProfileMaster II」で作成した " キャリブレーション情報 " または " イコライゼーション情報 " を含むバージョン 3.0 のデバイスプロファイルが必要です。
弊社が提供するバージョン 3.0 のデバイスプロファイルには、" キャリブレーション情報 " と " イコライゼーション情報 " は含まれていません。

プロファイルの絞込み表示

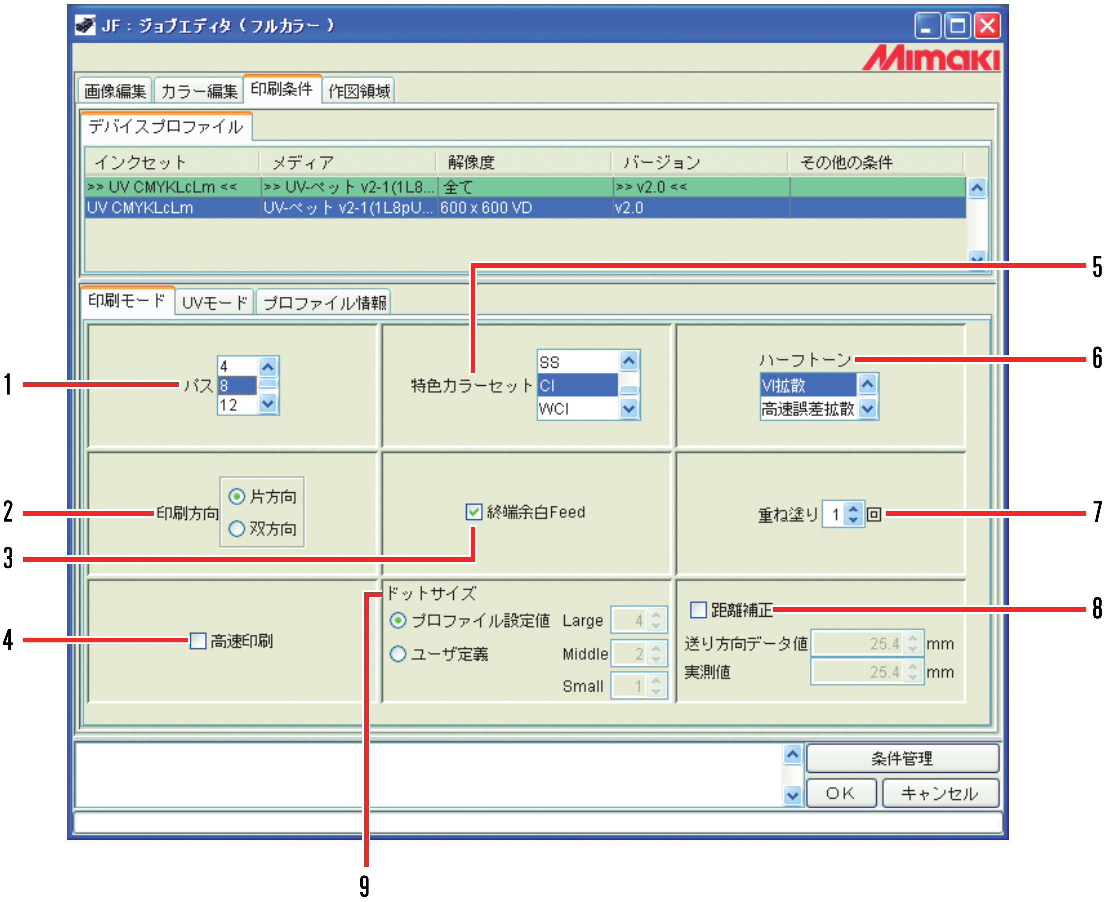
デバイスプロファイルをインクセット、メディア、解像度、バージョン、プロファイルに含まれるその他の条件でプロファイルを絞込み表示します。

リスト１行目の緑色の行で絞込み条件を指定します。

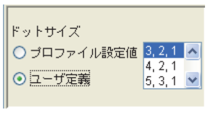
［メディア］が UV ペット V2（1Layer）のプロファイルを絞り込んだとき

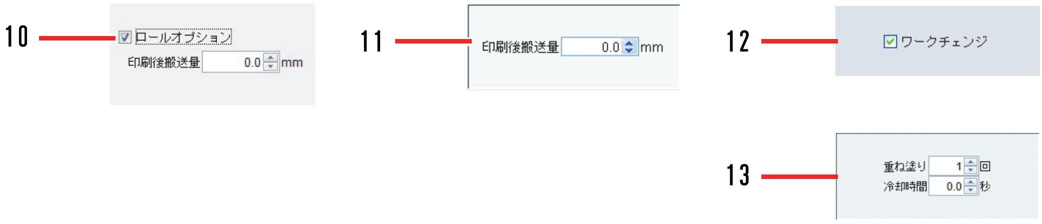
［印刷モード］サブメニュー

印刷モードを設定します。



表示内容は、接続しているプリンタによって異なります。
上の画面は、UJF-3042(FX)/3042HG 以外のプリンタを接続しているときの表示内容です。
UJF-3042(FX)/3042HG を選択しているときの表示内容





1. パス

1 バンドを何分割で印刷するか指定します。

数が大きいほど綺麗に印刷できますが、印刷時間は長くなります。

2. 印刷方向（JF シリーズ /JFX シリーズ）

片方向. . . . . ヘッドが右から左へ移動する際にインクを吐出して印刷します。“ 双方向 ” よりもきれいに印刷できますが、印刷時間は長くなります。

双方向. . . . . ヘッドが左右に移動する際にインクを吐出して印刷します。“ 片方向 ” よりも画質が落ちますが、印刷時間は早くなります。

3. 終端余白 Feed

画像の終端（元画像の上部）に空白があった場合、その空白部分をフィードするかどうかを設定します。

4. 高速印刷

印刷時間を短くするために、高速で印刷することができます。

ただし、通常の印刷より画質が落ちます。

5. 特色カラーセット

色置換で使用する特色インクを選択します。

特色インクの種類には次の 4 種類があります。

S	W	Cl	P
特色	ホワイト	クリアコート	プライマー

お使いになっているプリンタのインクスロットにセットしている特色インクの組み合わせに適した、特色カラーセットを選択してください。

例) “SS” を選択した場合は、特色インク 2 つを使用します。

“WCl” を選択した場合は、ホワイトとクリアコートを 1 つずつ使用します。

重 要 !

特色カラーセットでクリアコートを選択した場合の制限事項

特色カラーセットでクリアコートを選択した場合、次の操作ができません。

- “ 自動クリア版合成 ” が指定されている場合を除き、“ RIP& 印刷 ” は実行できません。“ RIP 後印刷 ” のみ実行できます。クリアコート以外の特色カラーセットを選択した場合、“ RIP& 印刷 ” と “ RIP 後印刷 ” は実行できます。
- ジョブの面付けは実行できません。ジョブの合成は実行できます。

6. ハーフトーン

プリントの階調表現を指定します。

VI 拡散............. ベタ塗りが多い画像向きです。

高速誤差拡散 .... 小さな文字にシャープさを求める場合選択します。ベタ塗りが多い画像ではシマが出てしまうため不向きです。

ILL 拡散............ バージョン 3 デバイスプロファイルで選択できます。淡い色の再現性にすぐれ、グラデーションが多い画像向きです。

7. 重ね塗り

発色を強くしたい場合に設定します。

重ね塗り用の出力プロファイル（2Layer 用）を使用する場合は、重ね塗りの回数には “ 2 ” を入力してください。

8. 距離補正(JF シリーズ、JFX シリーズ、UJF-605C/CⅡ/R、UJF-706)

データ値と実測値から自動で送り方向の印刷サイズ、移動値、コピー余白を補正して印刷します。

送り方向データ値 ... 作成したデータの送り方向のサイズを指定します。

実測値 .... 距離補正しないでデータ値のサイズを印刷したときの実測値を指定します。

データ値と実測値を入力した場合、条件管理でこの値を保存することで、データ値と実測値を毎回入力する必要がなくなります。（176 ページ「条件管理について」）

9. ドットサイズ

メディアのドットゲインに合わせて任意にドットサイズを指定できます。

ND プロファイル選択時は、Large ドットの指定のみ可能です。
また、お使いのプリンタによって、“ ユーザ定義 ” の選択方法が異なります。次の内容を確認し、プリンタに合わせた選択を行ってください。

プロファイル設定値 . . プロファイル作成時のドットサイズを指定して印刷します。

ユーザー定義 . . . . ［**UJF-605C、UJF-605CII、JF シリーズ、JFX シリーズ、UJF-706 の場合**］
Large, Middle, Small ドットのサイズ（ショット数）を任意に指定します。
ただし、各ドットは、Large ≧ Middle ≧ Small の制限があります。

［**UJF-3042(FX)/3042HG の場合**］
リストより、使用するドットサイズを指定します。ND プロファイル選択時は Large ドットのみ、VD プロファイル選択時は、Large,Middle,Small のドットサイズの組み合わせから選択します。

重 要 ! UJF-605C のファームウェアバージョンが 3.10 以降になっていることが必要です。
UJF-605CII のファームウェアバージョンが 1.80 以降になっていることが必要です。

10. ロールオプション(JFX シリーズ /UJF-706)

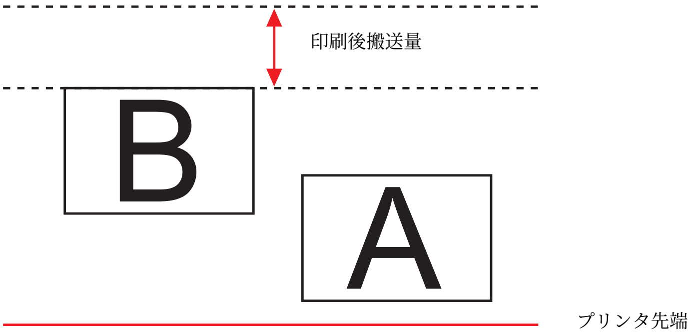
ロールオプションが搭載されており、ロールメディアを使用する場合に使用します。

11. 印刷後搬送量(UJF-605R, JFX シリーズ /UJF-706(ロールオプション使用時))

印刷後のメディア送り量を設定します。

送り量は、画像終端からの量になります。

複数ジョブをグループ化して出力する場合、後端画像の終端からの量になります。



12. ワークチェンジ (UJF-706)

“ ジョブ一覧 ” 画面で複数回の印刷回数を指定している時、1 回の印刷が終了する毎にプリンタをローカルモードに戻してワークの交換をすることができます。プリンタをリモートモードにセットすると、印刷を再開します。(☞ リファレンスガイド共通編 94 ページ「印刷回数を指定して印刷」)

重 要 ! UJF-706 のファームウェアバージョンが、1.40 以降になっていることが必要です。

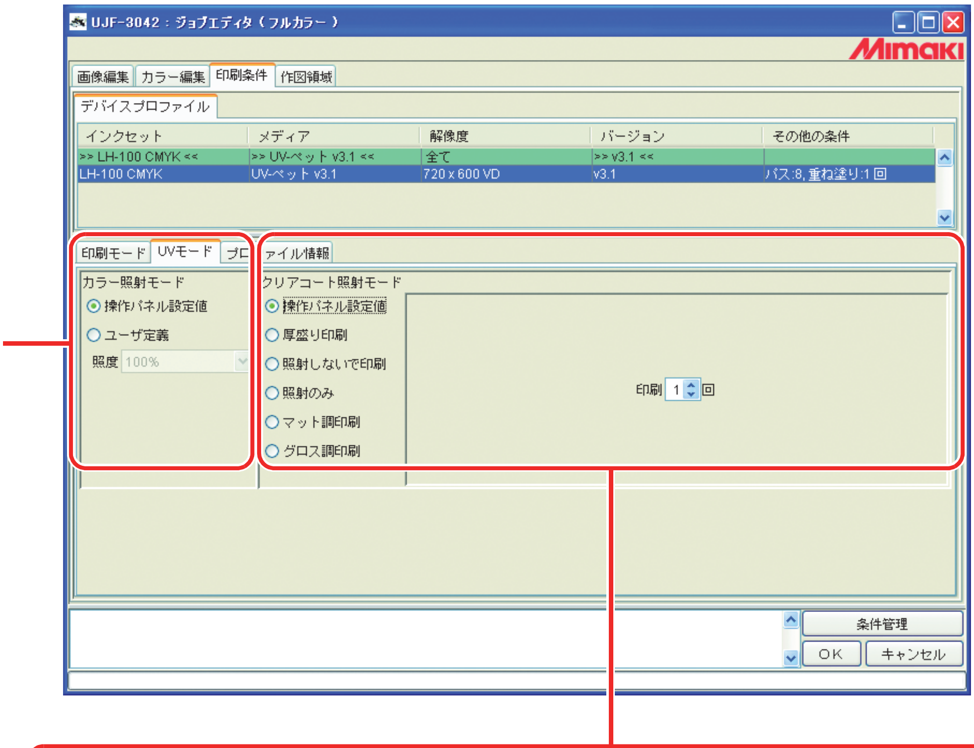
13. 冷却時間 (UJF-706)

ヘッドが 1 スキャンする度に停止する時間を設定します。
熱によるメディアの変形具合を目安に設定してください。

[UV モード] サブメニュー

UV 照射するときの方法や照度を設定します。

1



2 (指定した照射モードにより設定項目が異なります。)

操作パネル設定値

厚盛り印刷

照射しないで印刷

照射のみ

マット調印刷

グロス調印刷

1. カラー照射モード

カラーで印刷した部分への UV 照射方法を設定します。

操作パネル設定値 . . . プリンタの操作パネルに設定されている UV 照射モードを使用します。

ユーザ定義 . . . . 印刷と同時に UV 照射を実施します。
ユーザ定義をチェックすると、任意の照度を指定できます。

2. クリアコート照射モード

クリアコート (Cl) を含む特色カラーセットを選択した場合に設定できます。
クリアコート照射モードでは次の 6 つの照射方法から選択できます。
選択した印刷方法により、設定項目は異なります。

照射方法		設定項目 印刷	照度	照射 追加照射	照射 1 ～ 3 の照度
操作パネル設定値	パネルに設定されている UV 照射モードを使用します。	○			
厚盛り印刷	指定された回数クリアコートを印刷し、印刷と同時に UV 照射を実施します。(プリンタが UJF-3042(FX)/3042HG の場合、最後の印刷はグロス調で印刷します。) 追加照射を設定しておけば、印刷と照射が終了した後に、設定した回数だけ追加照射を行います。	○	○	○	○
照射しないで印刷	まず、指定された回数クリアコートの印刷のみ行い、その後、指定回数の UV 照射を行います。 (印刷と同時に UV 照射は行いません。) 印刷が終了してから UV 照射を行うことにより、グロス調の光沢のある仕上がりになります。	○		○	○
照射のみ	指定された回数の UV 照射のみ行います。 (クリアコートの印刷は行いません。)			○	○
マット調印刷	1 回だけクリアコートを印刷し、印刷と同時に UV 照射を行います。 その後、指定された回数の UV 照射を行います。		○	○	○
グロス調印刷	1 回だけクリアコートを印刷し、印刷から若干遅れて UV 照射を行います。その後、指定された回数の UV 照射を行います。(UJF-3042(FX)/3042HG)			○	○

- グロス調印刷では、プリンタ原点の逆方向から印刷を行います。

各設定項目については、次のようになります。

印刷.................... 印刷回数を指定します。
照度...................................... “ 厚盛り印刷 ”“ マット調印刷 ” の場合、印刷と同時に照射する UV 照度を指定します。
照射 または 追加照射.... 照射する回数 (1 ～ 3 回) または追加照射する回数 (0 ～ 3 回) を指定します。
照射 1 ～ 3 の照度....... 照射または追加照射するときの照度を指定します。照度は 1 ～ 3 回の照射を個別に指定できます。
[照射 1 回目の照度] : 1 回目の照度を指定します。
[照射 2 回目の照度] : 2 回目の照度を指定します。
[照射 3 回目の照度] : 3 回目の照度を指定します。

重 要!

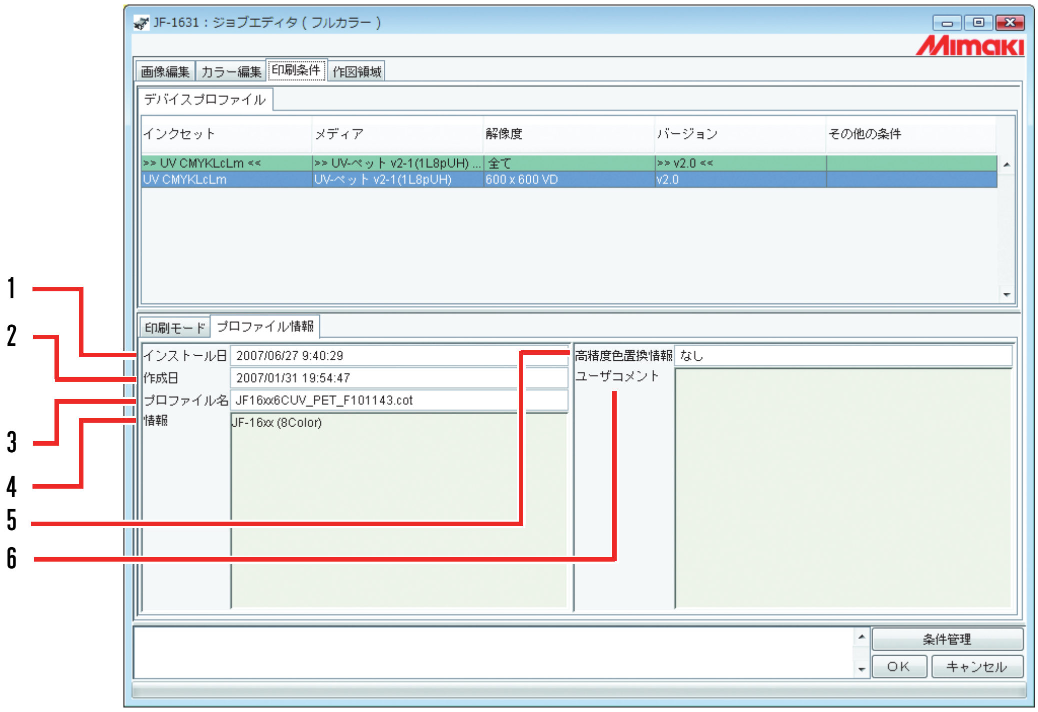
UJF-706,UJF-3042(FX)/3042HG の場合
自動クリア版合成の印刷及び、カラー画像とクリアコートだけの画像を合成して印刷する場合、以下の条件でカラー画像と同時にクリアコートだけの画像を印刷します。

- “ クリアコート照射モード ” が [マット調印刷] のとき
- “ クリアコート照射モード ” が [厚盛り印刷] で最初のクリアコート印刷のとき

また、カラー画像と同時にクリアコートだけの画像を印刷する場合、クリアコートの UV 照度を使用します。
特色版 (ホワイト) は、カラーの照度を使用します。

[プロファイル情報]サブメニュー

デバイスプロファイルの情報を表示します。



1. インストール日

選択したプロファイルのインストール日を表示します。

2. 作成日

選択したプロファイルの作成日を表示します。

3. プロファイル名

選択したプロファイルのファイル名を表示します。

4. 情報

選択したプロファイルの情報を表示します。

5. 高精度色置換情報

デバイスプロファイル内の、高精度色置換情報の有無を表示します。

6. ユーザコメント

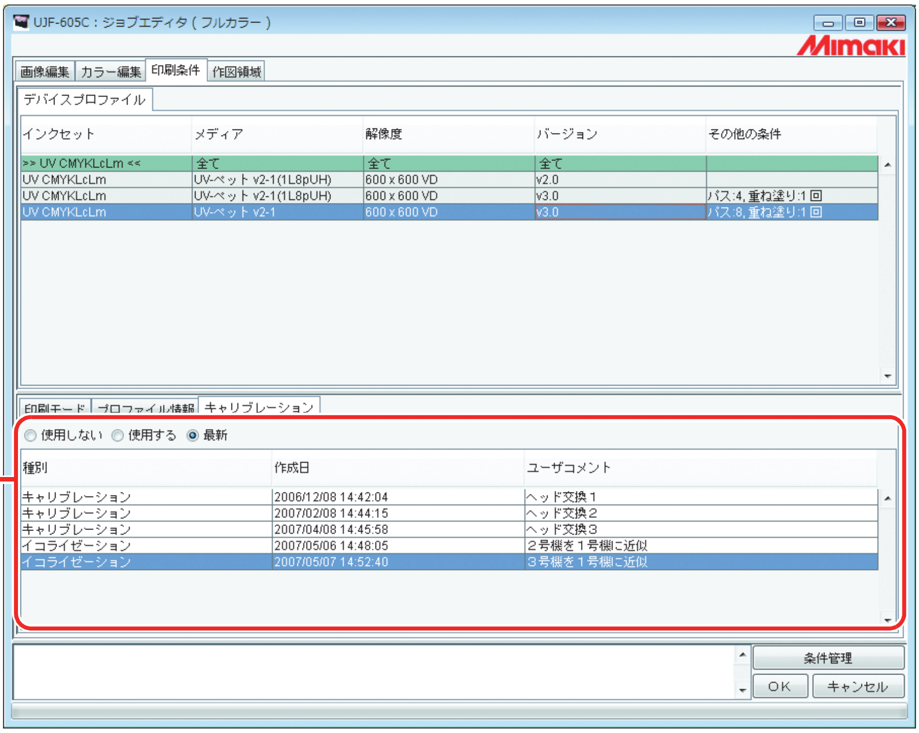
プロファイルに対してコメントを書き込むことができます。

プロファイルを選択すると、ユーザーコメント欄に書き込んだコメントを表示します。

［キャリブレーション］サブメニュー

“キャリブレーション”“イコライゼーション”の使用の有無を設定します。

> ［キャリブレーション］サブメニューは、キャリブレーション情報があるバージョン 3.0 のデバイスプロファイルを選択すると表示されます。
> デバイスプロファイルにキャリブレーション情報を追加するには、弊社のプロファイル作成ソフト「MimakiProfileMaster II」をご使用ください。



1

1. キャリブレーション

［使用する］．．．．．．．．．．リストから選択されたキャリブレーションもしくはイコライゼーション情報を使用して RIP します。

［使用しない］．．．．．．．．キャリブレーション、イコライゼーション情報を使用しません。

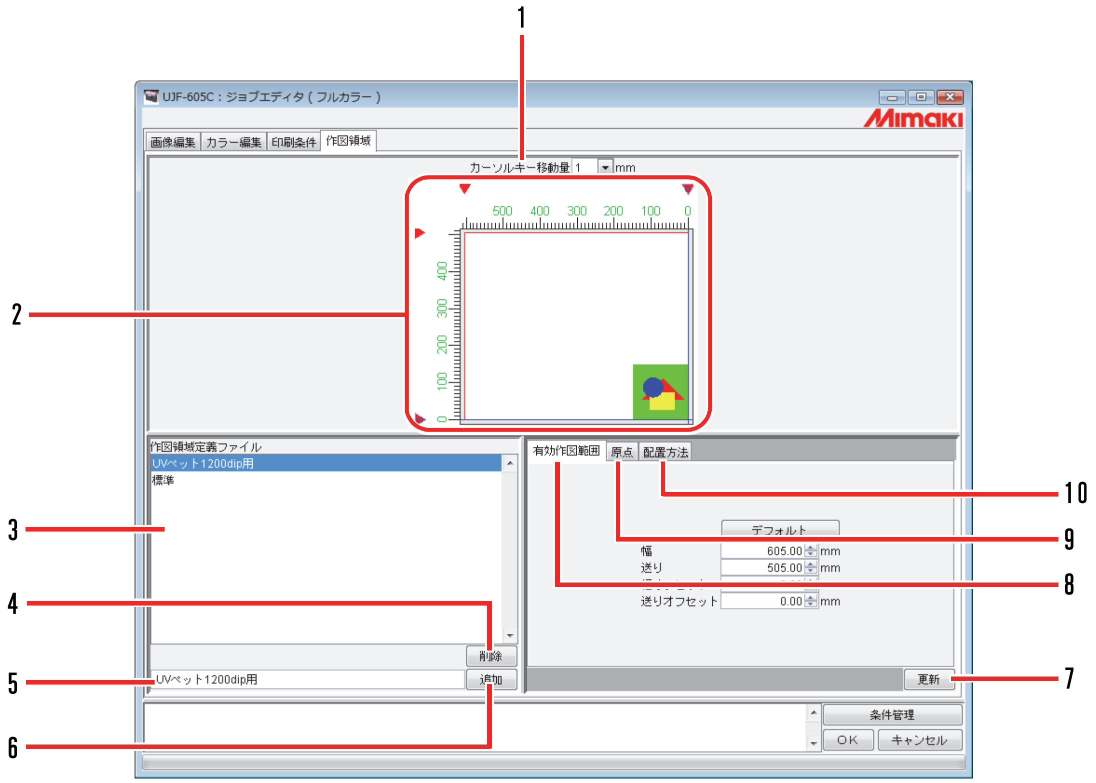
［最新］．．．．．．．．．．．．．常に作成日が最も新しいキャリブレーションもしくはイコライゼーション情報を使用して RIP します。キャリブレーション情報を日々追加して運用する場合、毎回選択する手間を省略します。

作図領域の編集

印刷するメディアのサイズに合わせて有効作図領域を登録します。
有効作図領域を登録すると、画像を配置する際の目安になります。
また、メディアの外に印刷してしまうのを防ぎます。

［作図領域］メニュー

有効作図領域に関係する設定を行います。



1. カーソルキー移動量

キーボードの矢印キーを押して原点の位置を移動するときの単位を選択します。(☞ P.163)

2. プリントエリアビュー

[作図領域] メニューで設定した内容を表示します。(☞ P.156)

3. 作図領域定義ファイル

登録されている作図領域定義ファイルを表示します。

作図領域定義ファイルとは、[有効作図範囲]、[原点]、および [配置方法] サブメニューで設定した値を名前を付けて登録したファイルです。

印刷をする場合は、作図領域定義ファイルを選択する必要があります。

(☞ P.167)

4. 削除

作図領域定義ファイルを削除します。

ただし " 標準 " の作図領域定義ファイルは削除できません。(☞ P.167)

5. 作図領域定義ファイル名入力ボックス

現在選択されている作図領域定義ファイル名を表示します。新規に登録する場合は、新しいファイル名を入力します。

重要！ 作図領域定義ファイル名に下記の半角文字は使用できません。
\ / : * ? " < > I

6. 追加

新規に作図領域定義ファイルを作成します。また、登録済みの作図領域定義ファイルの設定条件を変更して上書きできます。(☞ P.166)

7. 更新

選択中の作図領域定義ファイルを、" 作図領域 " メニューで設定した値で更新します。

8. [有効作図範囲] サブメニュー

有効作図範囲を設定します。(☞ P.158)

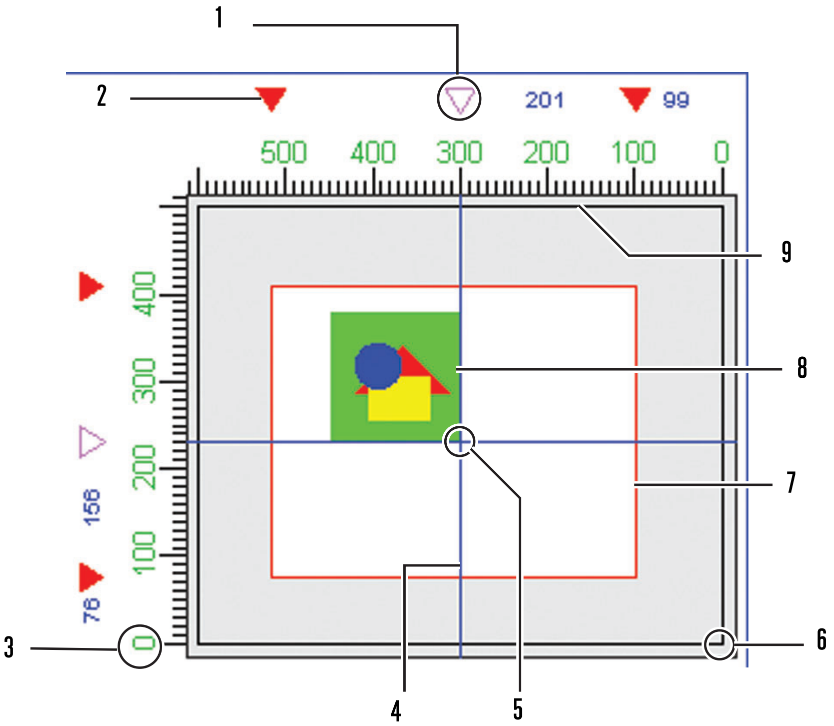
9. [原点] サブメニュー

有効作図範囲上に原点を設定します。(☞ P.162)

10. [配置方法] サブメニュー

原点に対する画像の配置方法を設定します。(☞ P.164)

プリントエリアビュー



1. 原点ガイド

原点ガイドライン（青）を移動する場合にドラッグします。

UJF-605R では表示しません。

2. 有効作図範囲の端面

４個の▼マークで有効作図範囲の境界を示します。

3. 最大作図エリアの先端

最大作図エリアの先端を０で表示します。

4. 原点ガイドライン

縦の青いガイドラインは幅方向の原点を示します。横の青いガイドラインは送り方向の原点を示します。

5. 原点

画像を配置するための原点を２本の青いガイドラインの交点で示します。(☞ P.159、P.161)

6. プリンタ原点、初期原点

プリンタの電源を入れた時に設定される初期原点です。(☞ P.159、P.161)

作図領域の初期原点です。(☞ P.159、P.161)

7. 有効作図エリア

[有効作図範囲] サブメニューで設定した有効作図範囲を赤い矩形で表示します。

(☞ P.159、P.161）

赤い矩形内をマウスでドラッグすることにより、プリンタのテーブル上の任意の位置に作図エリアを配置できます。

8. 画像の配置方法

原点との画像の配置方法を示します。

実際の画像のサイズを表すものではありません。また、画像の正確な配置位置を表すものでもありません。

画像サイズを確認する場合は、“ ジョブエディタ ” で確認できます。

(☞ P.22)

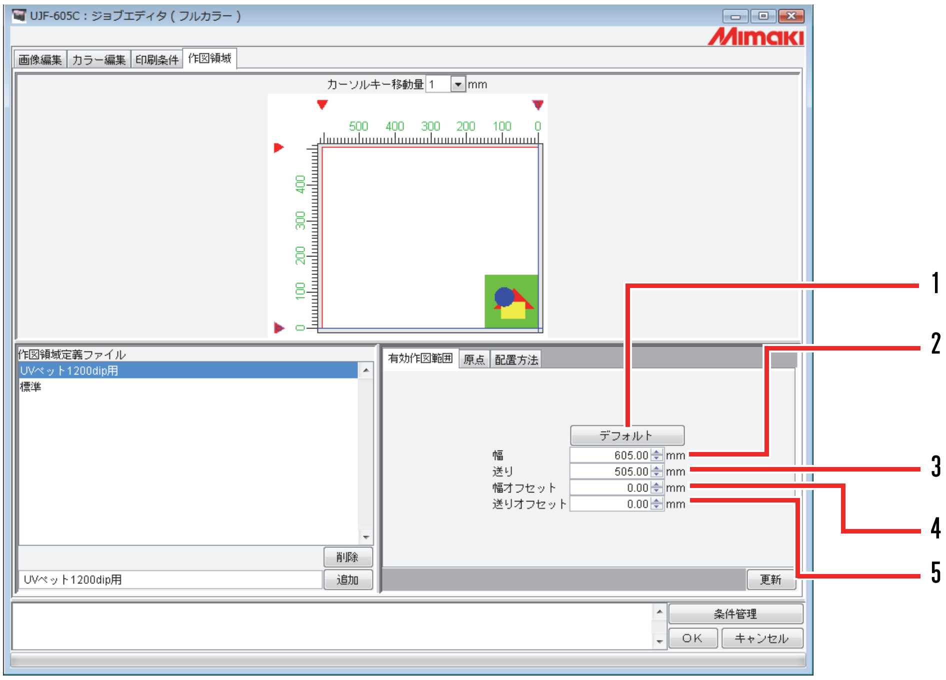
9. 最大作図エリア

最大作図エリアです。

［有効作図範囲］サブメニュー

プリンタのテーブル上に有効作図領域を設定します。

JF シリーズ、JFX シリーズ、UJF-605C



1. デフォルト

有効作図範囲を最大に設定し、原点の位置をプリンタの初期原点の位置に設定します。

2. 幅：

有効作図範囲の幅を入力します。

3. 送り：

有効作図範囲の高さを入力します。

4. 幅オフセット：

プリンタのプリンタ原点から幅方向への移動距離を入力します。

5. 送りオフセット：

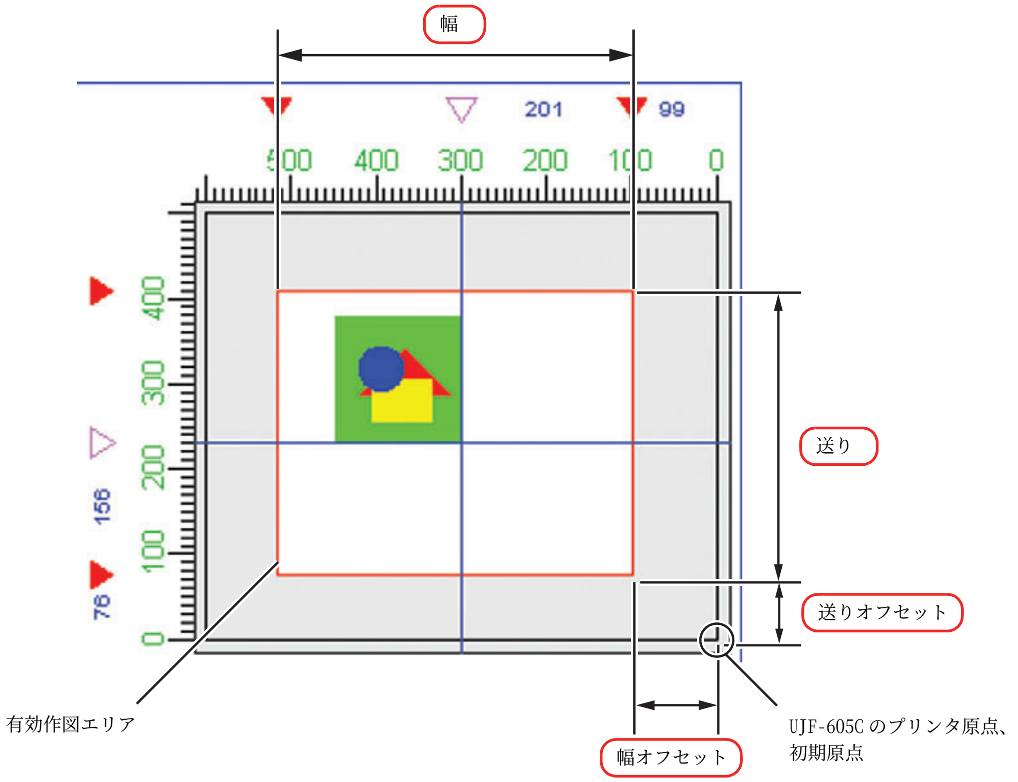
プリンタのプリンタ原点から送り方向への移動距離を入力します。

有効作図範囲の設定

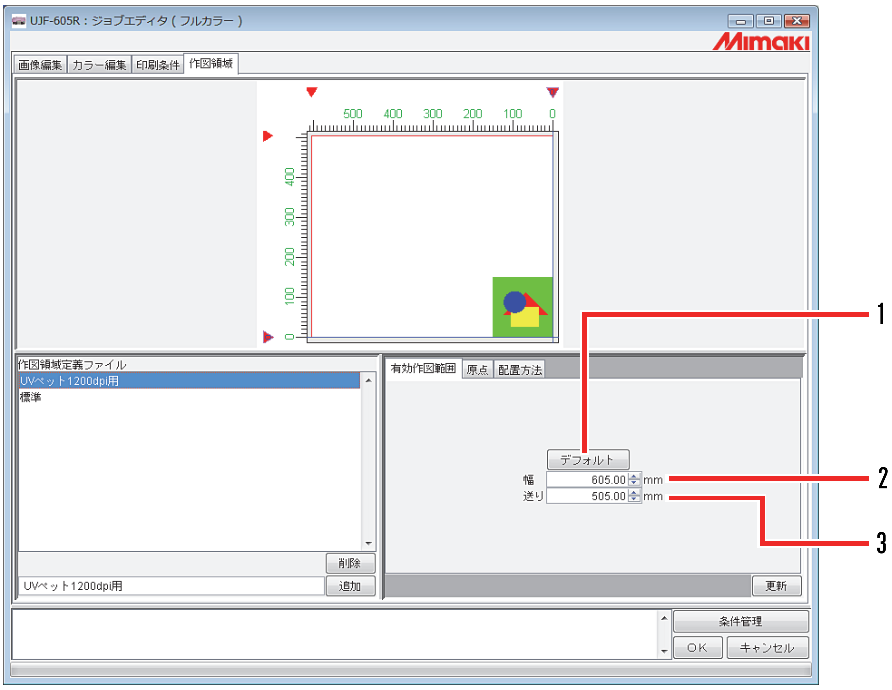
有効作図範囲は、赤い矩形で表示します。

有効作図範囲からはみ出した画像は、印刷しません。

- 赤い矩形の四隅をマウスでドラッグしても有効作図範囲のサイズを変更できます。
- 有効作図範囲内をマウスでドラッグすると、有効作図範囲の“ 幅オフセット ”と“ 送りオフセット ”を変更することができます。



UJF-605R



1. デフォルト：

有効作図範囲を最大に設定し、原点の位置を右下に設定します。

2. 幅：

有効作図範囲の幅を入力します。幅方向の中心が基準になります。

3. 送り：

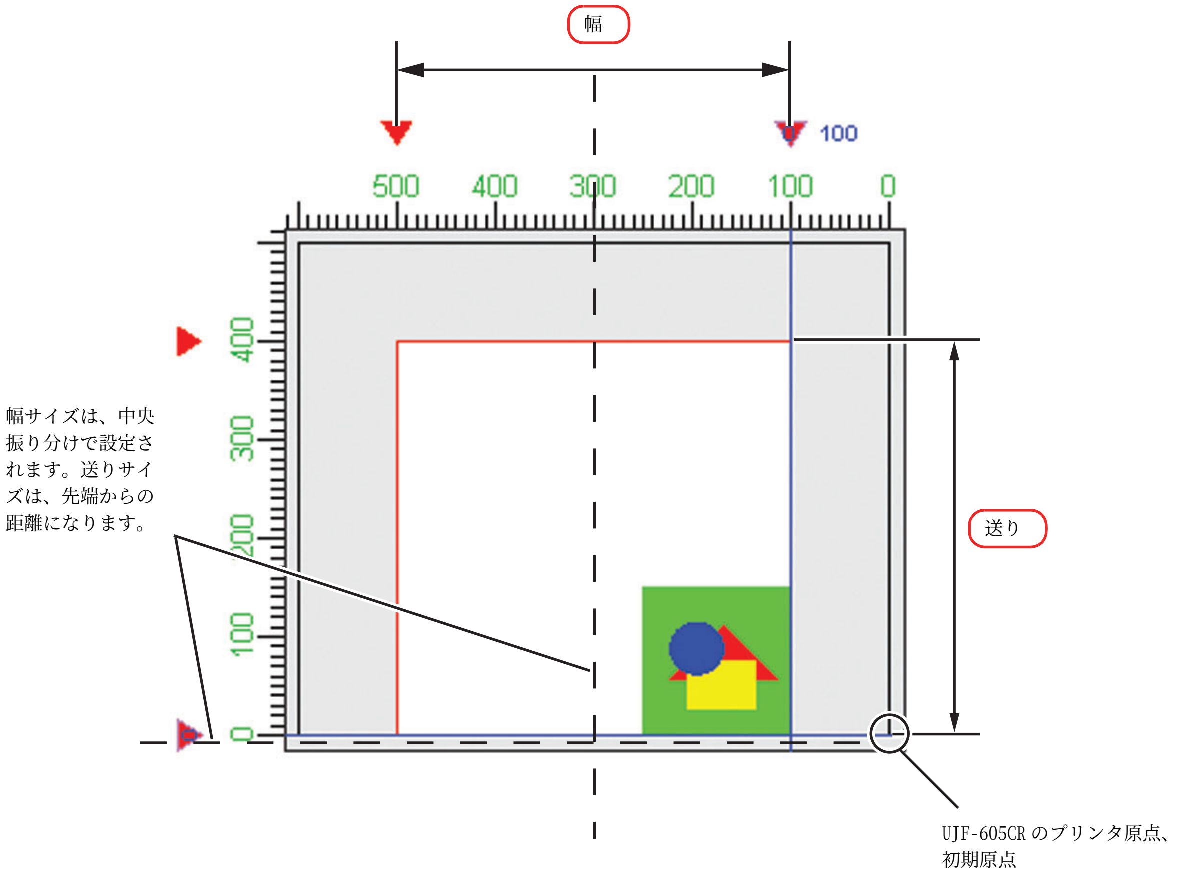
有効作図範囲の高さを入力します。先端部分が基準になります。

有効作図範囲の設定

有効作図範囲は、赤い矩形で表示します。

有効作図範囲からはみ出した画像は、印刷しません。

- 赤い矩形の四隅をマウスでドラッグしても有効作図範囲のサイズを変更できます。
- 有効作図範囲内をマウスでドラッグすると、有効作図範囲の " 幅オフセット " と " 送りオフセット " を変更することができます。

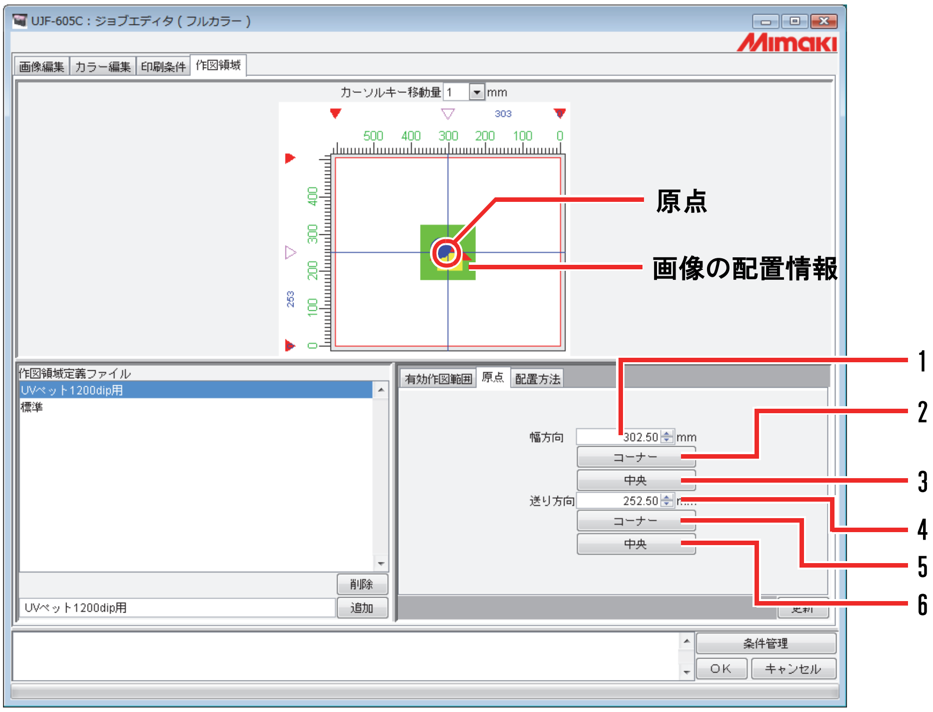


［原点］サブメニュー

画像を配置するための基準となる原点を設定します。

2 本の青いガイドラインの交点が原点になります。

原点の位置は、有効作図範囲の右下隅からのオフセットを幅方向および送り方向について設定します。



1. 幅方向：

有効作図範囲右端から幅方向へのオフセット量を入力します。

2. 幅：コーナ

原点を有効作図範囲の幅方向の右端に配置します。

3. 幅：中央

原点を有効作図範囲の幅方向の中央に配置します。

4. 送り方向：

有効作図範囲下線から送り方向へのオフセット量を入力します。

5. 送り方向：コーナ

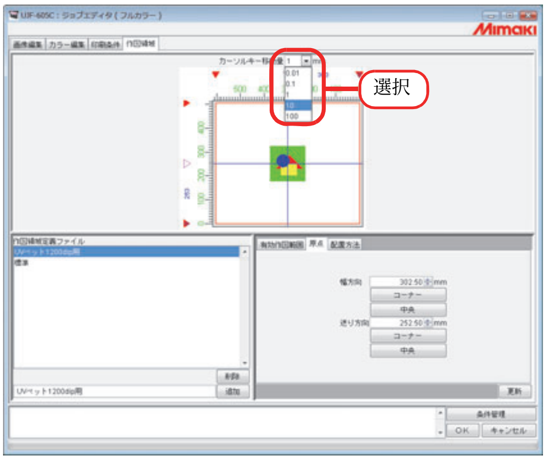
原点を有効作図範囲の下線に配置します。

6. 送り方向：中央

原点を有効作図範囲の送り方向の中央に配置します。

キーボードによる原点の移動

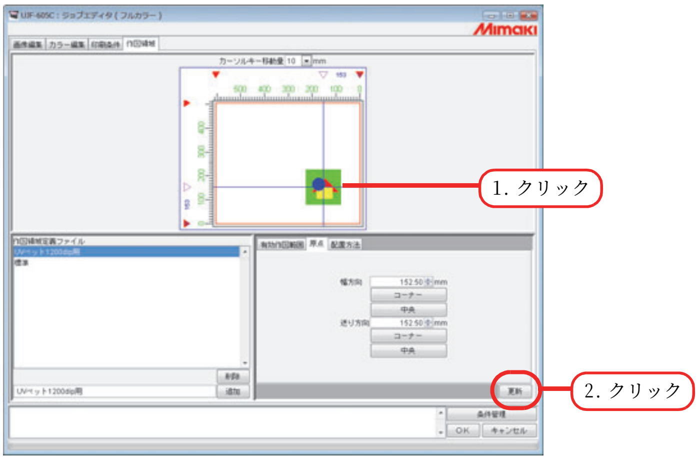
1 “カーソルキー移動量”でキーボードの矢印キーを押したときの移動量を選択します。



2 作図領域内をマウスでクリックし、プリントエリアビューをアクティブにします。
プリントエリアビューの枠が青く変わります。
キーボードの Tab キーを数回押しても配置ビューをアクティブにできます。

キーボードの矢印キーを押して原点を移動します。

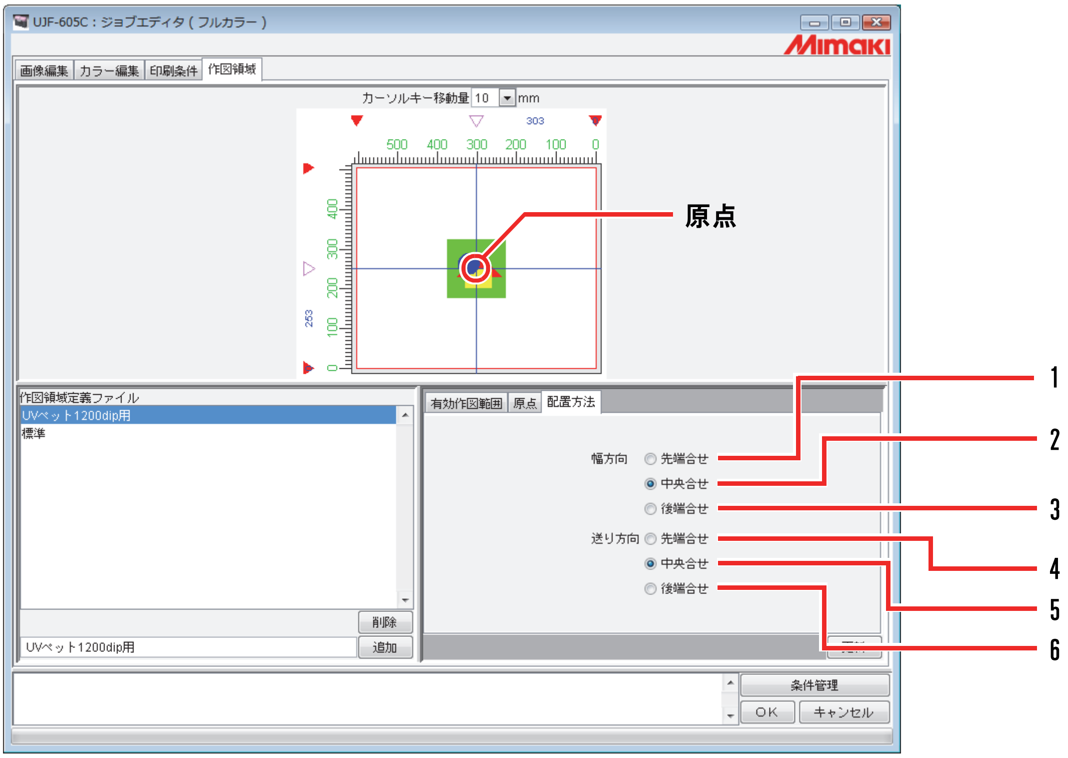
更新 ボタンをクリック します。



［配置方法］サブメニュー

画像を原点の中央に配置するか、先端または後端配置するかを設定します。

> **重 要！**
> 画像の配置は、［原点］設定と組み合わせて、適切な位置に設定してください。
> 組み合わせが適切でない場合は、画像が作図領域からはみ出す場合があります。作図領域からはみ出した画像は、印刷されません。



1. 幅方向： 先端合わせ

画像の幅方向の先端を原点に合わせます。

2. 幅方向： 中央合わせ

画像の幅方向の中央を原点に合わせます。

3. 幅方向： 後端合わせ

画像の幅方向の後端を原点に合わせます。

4. 送り方向： 先端合わせ

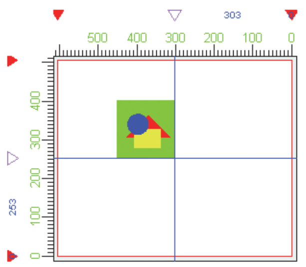
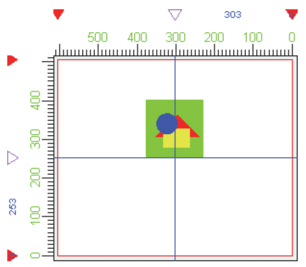
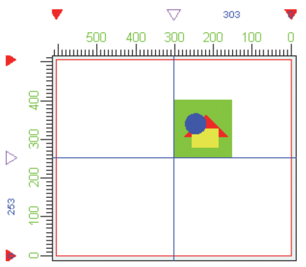
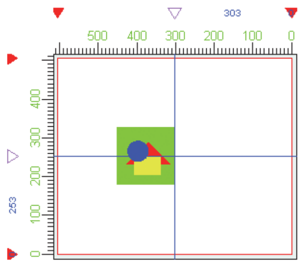
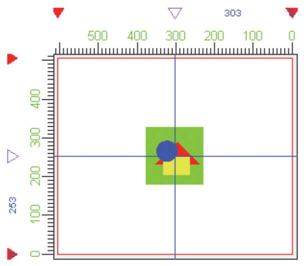
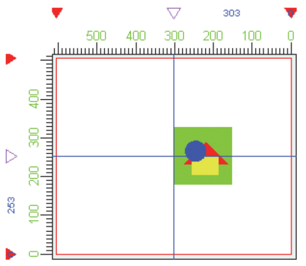
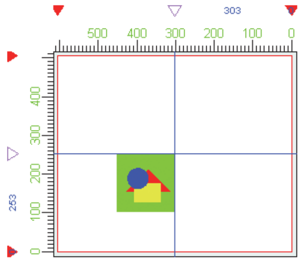
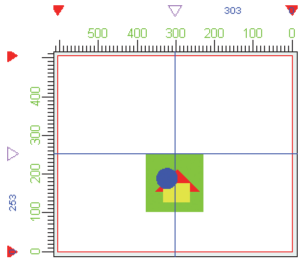
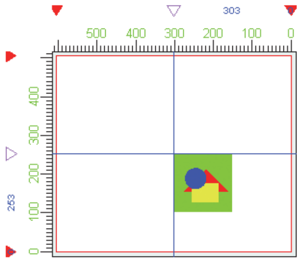
画像の送り方向の先端を原点に合わせます。

5. 送り方向： 中央合わせ

画像の送り方向の中央を原点に合わせます。

6. 送り方向： 後端合わせ

画像の送り方向の後端を原点に合わせます。

幅方向 / 送り方向	先端合せ	中央合せ	後端合せ
先端合せ			
中央合せ			
後端合せ			

UJF-605R の場合、幅方向、送り方向ともに先端合わせになります。

作図領域定義ファイルの登録

[作図領域] で設定した原点・配置位置の作図領域定義ファイルを登録します。

印刷する際は、必ず作図領域定義ファイルを選択してください。

> **重 要！** “ 標準 ” の作図領域定義ファイルは、有効作図範囲・原点位置・オフセットの変更はできません。新規に作図領域定義ファイルを作成してから、有効作図範囲などの変更をします。

作図領域定義ファイルを作成する

作図領域定義ファイルは追加登録することができます。

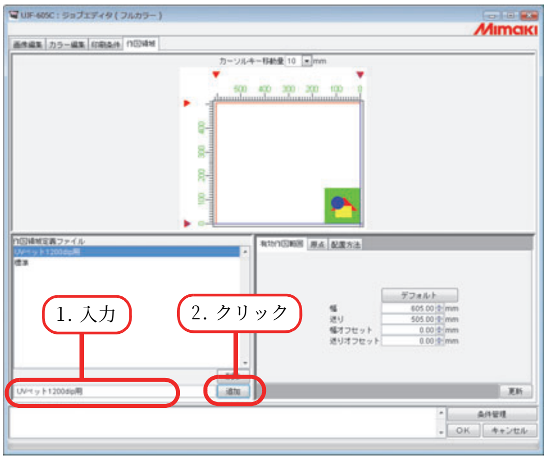
登録名を入力します。

登録名は、有効作図範囲、原点の位置、および画像の配置方法がわるような名称にします。

> **重 要！** 作図領域定義ファイル名に下記の半角文字は使用できません。
> \ / : * ? “ < > I

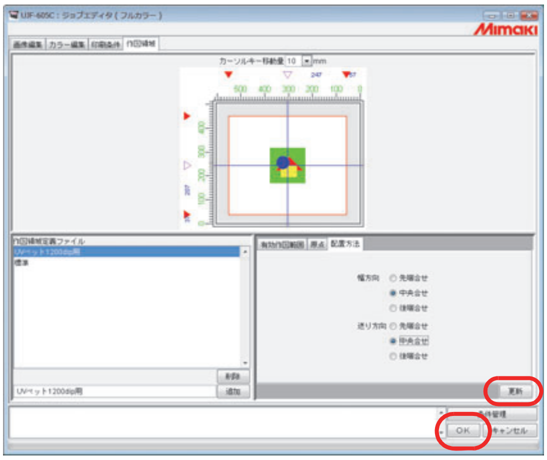
[追加] ボタンをクリックします。

新しい名称のファイルが、作図領域定義ファイルリストに表示します。



作図領域定義ファイルの更新

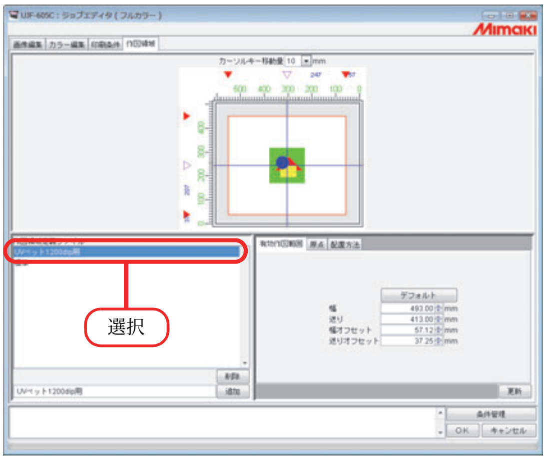
設定した作図領域定義情報を更新するには [更新] をクリックするか、[OK] をクリックし、“ ジョブエディタ ” を終了させます。



作図領域定義ファイルの選択

登録されている作図領域定義ファイルの情報を表示します。

適用する作図領域定義ファイルをクリックします。



作図領域定義ファイルの削除

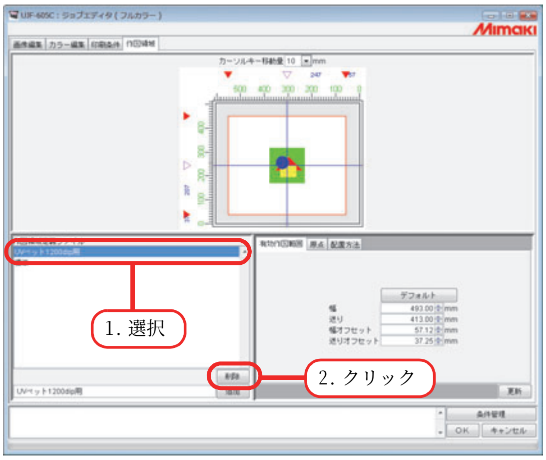
登録してある作図領域定義ファイルを削除します。

削除する作図領域定義ファイルをクリックします。

削除 ボタンをクリックします。

重 要 !

- “ 標準 ” の作図領域定義ファイルは削除できません。
- 複数のジョブに同じ作図領域定義ファイルを設定している場合、作図領域定義ファイルの削除には注意してください。
  他のジョブで作図領域定義ファイルを削除すると、同じ作図領域定義ファイルを設定しているジョブを印刷するときエラーになります。
  またこのジョブを “ ジョブエディタ ” で表示した場合、情報表示欄にエラーログを表示します。作図領域定義ファイルは、自動的に “ 標準 ” が選択されます。



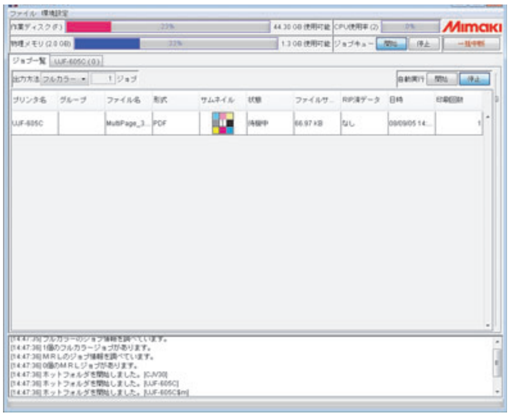
複数ページのジョブ

1 つのファイルで複数の画像を持つファイルを、「複数ページ」画像と呼びます。
RasterLinkPro5 IP では、複数ページ画像の全てのページを同時に出力することができます。

重 要!　画像サイズが違うページのある複数ページ画像には対応していません。

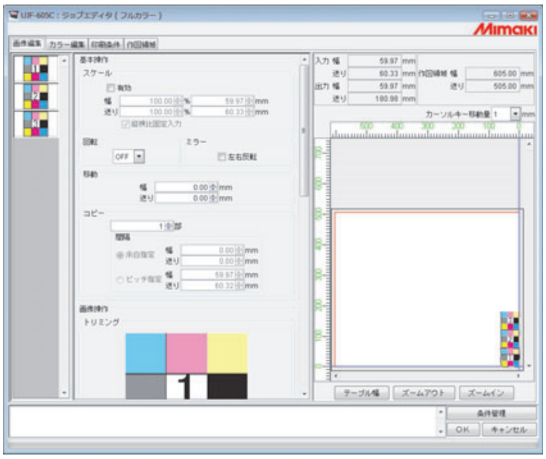
メインウィンドウについて

サムネイルには、1 ページ目の画像のみ表示します。



“ジョブエディタ” について

“ジョブエディタ”には、全てのページを表示します。



“ ジョブエディタ ” の全ての設定は、全ページ共通です。

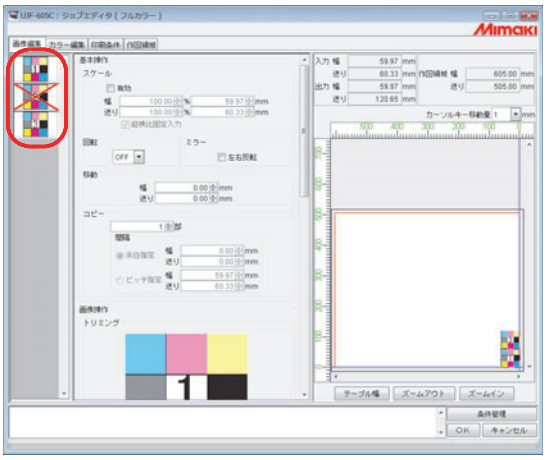
ジョブの編集（画像編集）

出力ページの決定

編集対象のジョブの全ページをサムネイル画像で一覧表示します。
出力するページを選択することができます。

サムネイルリストから印刷しない画像をクリックします。

サムネイルに × マークが付き、プレビュー画像からも消えます。



- × の付いている画像（プレビューにない画像）は印刷しません。
- 印刷しないように設定した画像を再度印刷するように設定するには、× 印の付いているサムネイルをクリックします。

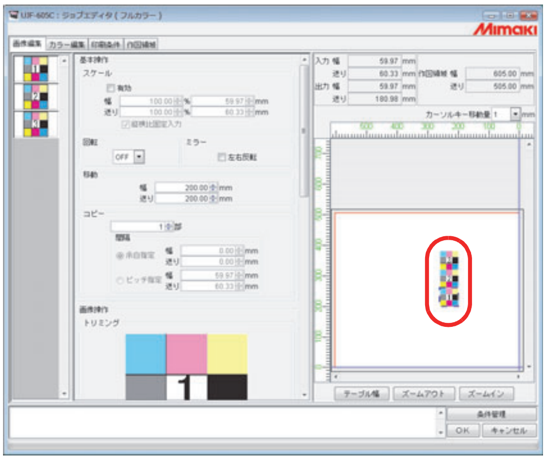
重 要！

全てのページを印刷対象から外すことはできません。

移動

全てのページを 1 つのオブジェクトとして移動します。

マウスでドラッグアンドドロップするか、幅・送りの移動量を入力します。

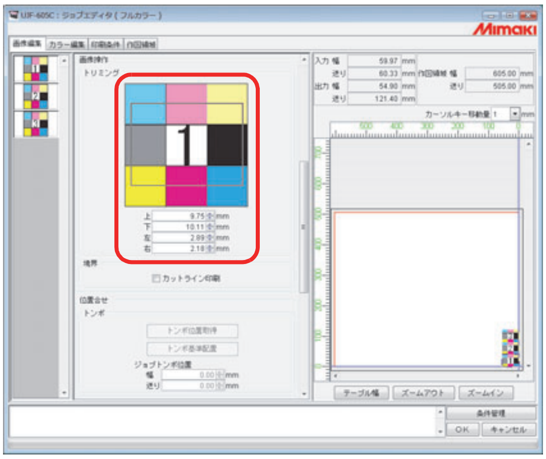


各ページバラバラに配置することはできません。

トリミング

全てのページをトリミングします

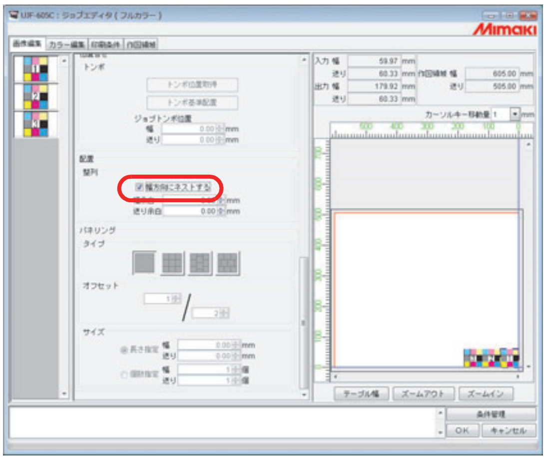
トリミングプレビューには、出力対象の先頭ページを表示します。



整列

各ページの間隔を指定します。

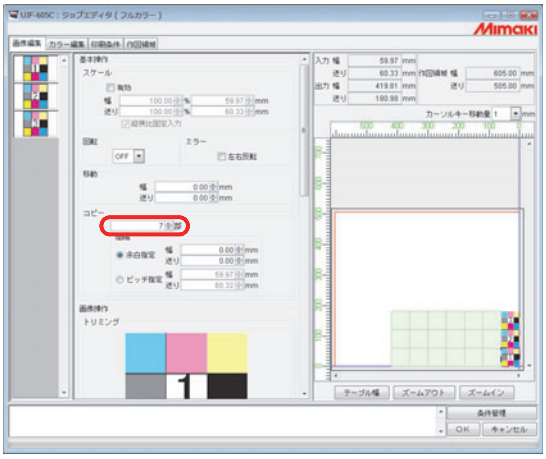
“幅方向にネストする”をチェックすると、横方向に整列します。



コピー

各ページをコピーします。

> **重要!**　“ 幅方向にネストする ” と “ コピー ” は同時に指定できません。



> **重要!**　複数ページでは、パネリングの設定を行うことができません。

ノズルリカバリ（JFX シリーズ）

ノズルリカバリとは

不良ノズルで吐出できなかった分の作画データをリカバリ可能なスキャンで吐出してリカバリする機能です。

本機能は JFX シリーズのでのみ使用できます。

使い方

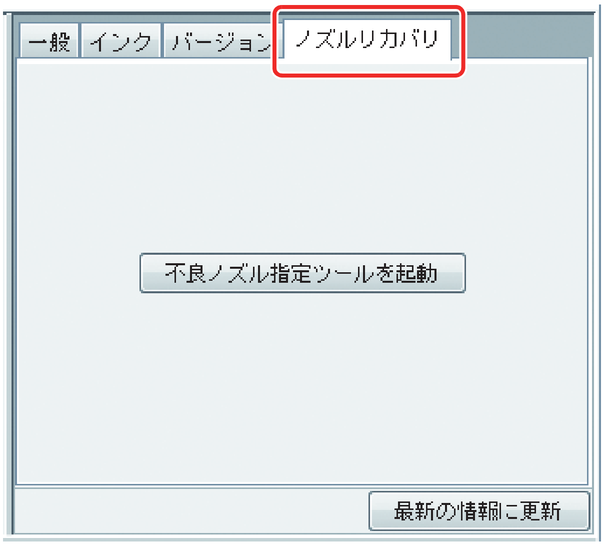
次の手順でノズルリカバリを行います。

(1) 不良ノズルチェックパターンの印刷→不良ノズルの目視確認
(2) 不良ノズル情報の入力
(3) ノズルリカバリ印刷

(1) 不良ノズルチェックパターンの印刷→不良ノズルの目視確認

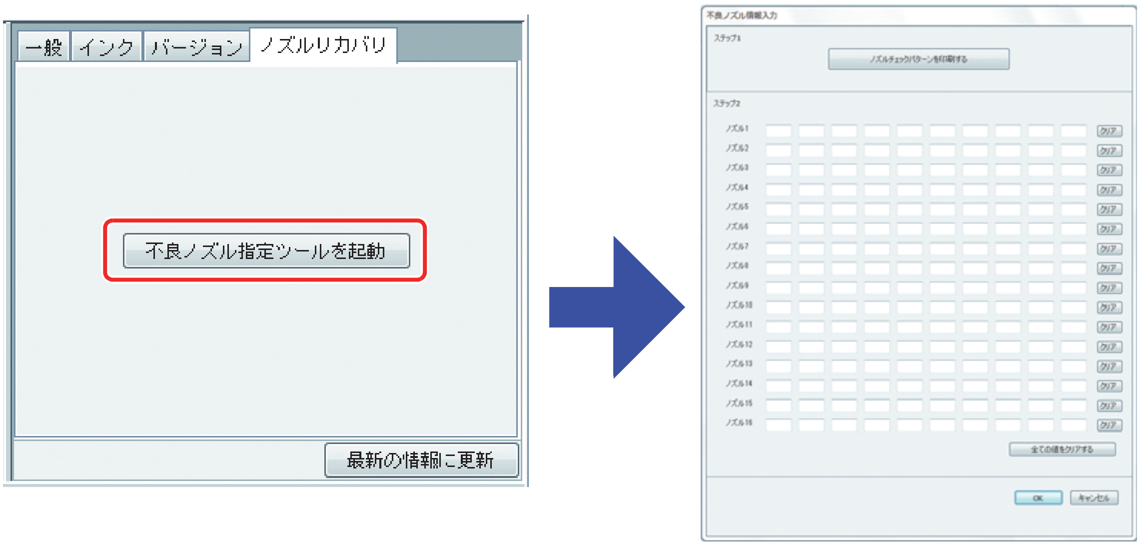
1 ノズルリカバリを実行する「登録済みのプリンタ」タブを選択します。

2 「ノズルリカバリ 」タブを選択します。



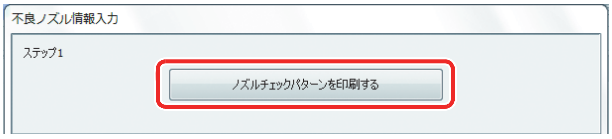
＊ 選択したプリンタがファイルへ出力の場合、「ノズルリカバリ」タブを表示しません。

3 ［不良ノズル指定ツールを起動］ボタンを押します。［不良ノズル情報入力］ダイアログが起動します。

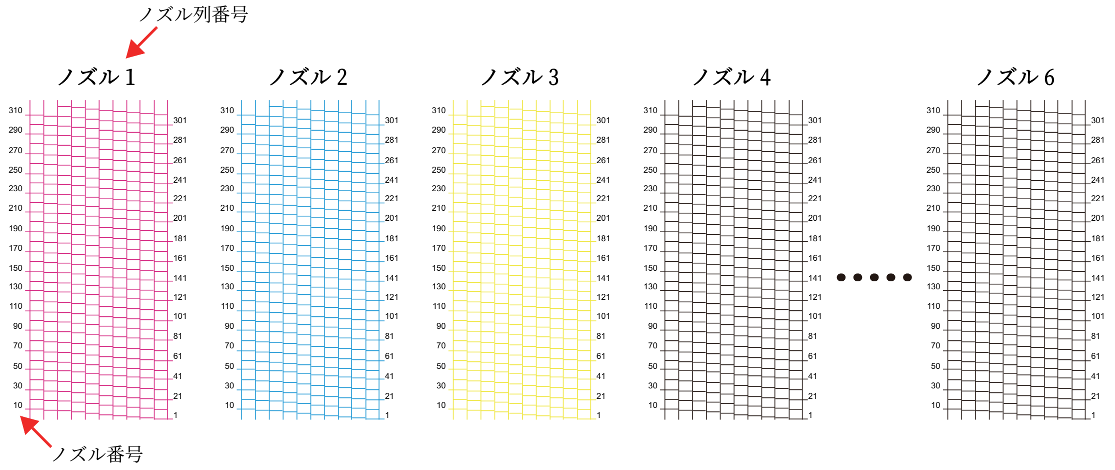


4 JFX 本体の [REMOTE] キーを押して、リモートにしてください。

5 [ノズルチェックパターンを印刷する] ボタンを押します。

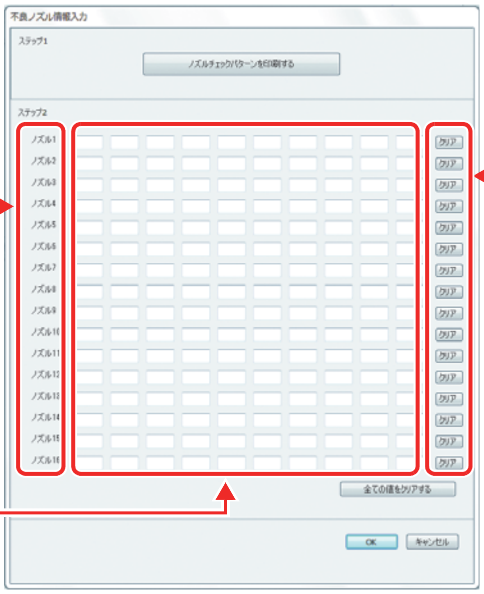


次のようなノズルチェックパターンが印刷されます。

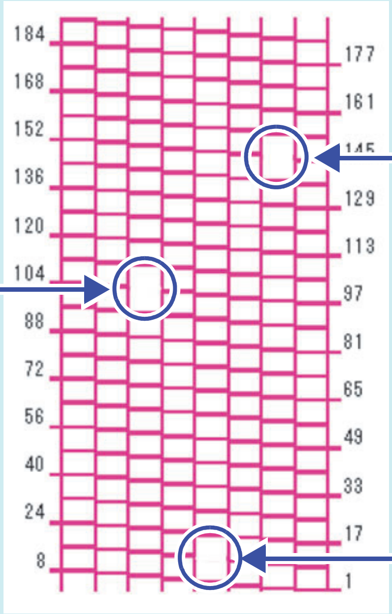


(2) 不良ノズル情報の入力

1 不良ノズル入力ツールの「ステップ 2」欄に不良ノズル (チェックパターン内で、印刷されないノズルの番号) を入力します。



ノズルリカバリ登録例

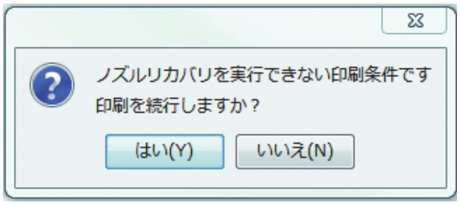


2 設定を保存して終了する場合、[OK] ボタンを押し終了します。
変更を適用しない場合、[キャンセル] ボタンを押し終了します。

(3) ノズルリカバリ印刷

不良ノズル情報を入力している場合、RasterLinkPro5 の通常の印刷方法 (RIP& 印刷 /RIP 後印刷 / 印刷のみ) を実行するとノズルリカバリ印刷を自動的に行います。

不良ノズルの番号の組み合わせにより、一部のノズルのリカバリができないことがあります。この場合、RIP もしくは印刷前に次のメッセージボックスを表示します。



ノズルリカバリ可能なノズルのみで印刷する場合、「はい (Y)」を選択してください。

印刷しない場合は、「いいえ (N)」を選択してください。

重 要 !

- ノズルリカバリは画質を保証するものではありません。
- ヘッドを交換した場合、不良ノズルの情報が変わります。不良ノズル情報を入力しなおしてからお使いください。また、JFX を使用されている間にもノズルの状態は変化していきます。定期的にノズルチェックパターンを印刷し、不良ノズル情報を更新してください。
- ノズルリカバリ機能を使用したくない場合、以下の手順により、不良ノズル情報を削除してください。
  (1) [不良ノズル情報入力] ツールを起動する。
  (2) [全ての値をクリアする] ボタンを押す。
  (3) [OK] ボタンにてツールを終了する。

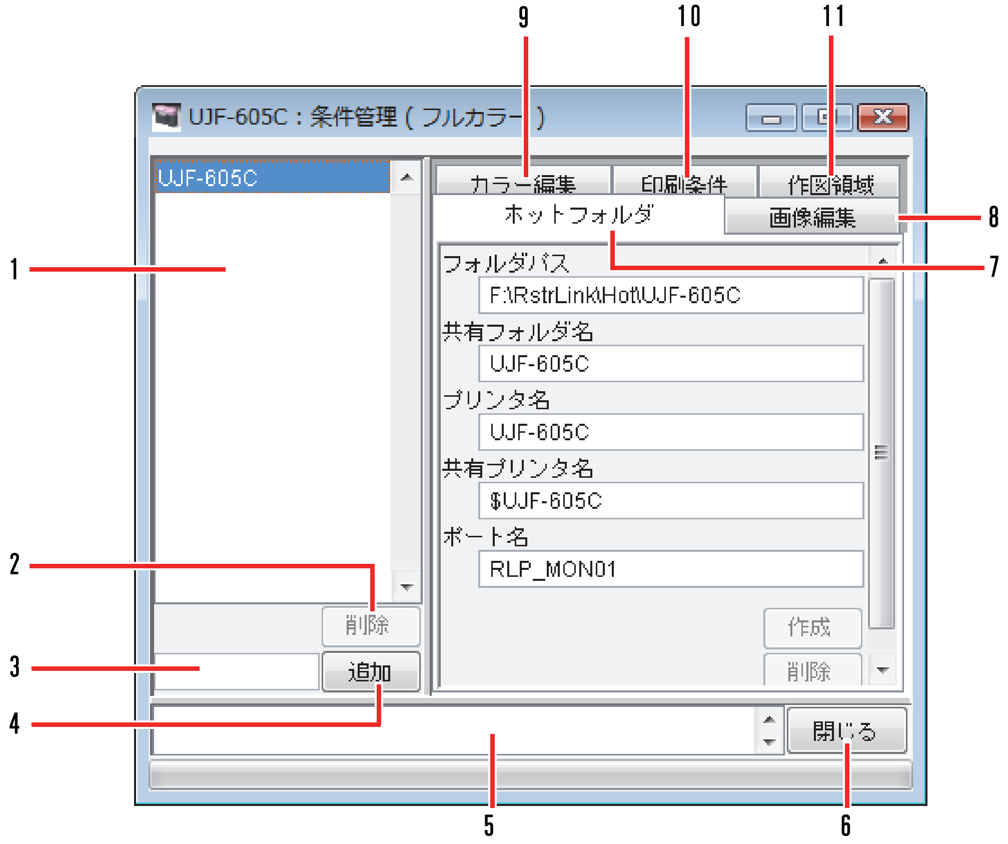
条件管理について

ジョブの実行に必要な各種条件（印刷条件、画像編集、など）を、一つの「条件セット」として管理します。

条件管理の機能は以下の通りです。

1) 編集中のジョブに、条件セットを適用することができます。

2) 条件セットごとにホットフォルダとプリンタを作成することができます。作成したホットフォルダまたはプリンタでスプールしたジョブの初期値は、対応する条件セットの設定値になります。



1. 条件リスト

条件セットの一覧を表示します。

2. 削除

選択した条件を削除します。デフォルトで作成された条件は削除できません。

3. 条件名入力ボックス

新規に条件を登録する場合、新しい名称を入力します。

> **重要!** 条件名に下記の半角文字は使用できません。
> \ / : * ? “ < > I ! ,

4. 追加

新規に条件を登録します。

5. 情報表示

条件管理の処理状況を表示します。

6. 閉じる

条件管理ウィンドウを閉じます。

7. [ホットフォルダ] サブメニュー

ホットフォルダとプリンタドライバを作成します。（☞ P.178、P.188）

8. [画像編集] サブメニュー

画像編集の条件を設定します。（☞ P.179）

9. [カラー編集] サブメニュー

カラー編集の条件を設定します。（☞ P.180）

10. [印刷条件] サブメニュー

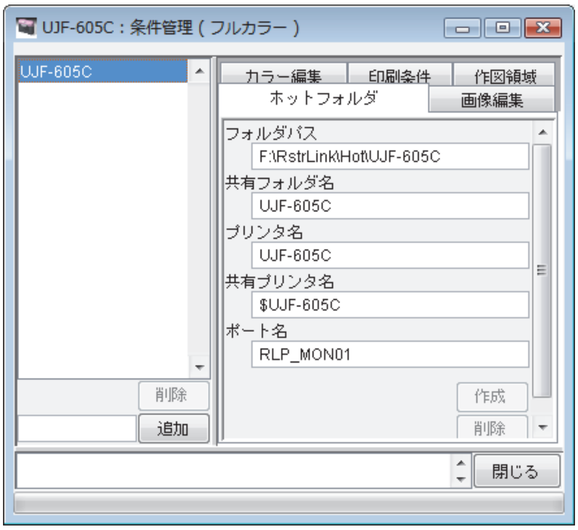
印刷条件を設定します。（☞ P.181）

11. [作図領域] サブメニュー

作図領域の条件を設定します。（☞ P.182）

［ホットフォルダ］サブメニュー

ホットフォルダとプリンタドライバの追加と削除を行います。ホットフォルダとプリンタドライバの追加と削除方法は、☞ P.188 を参照してください。

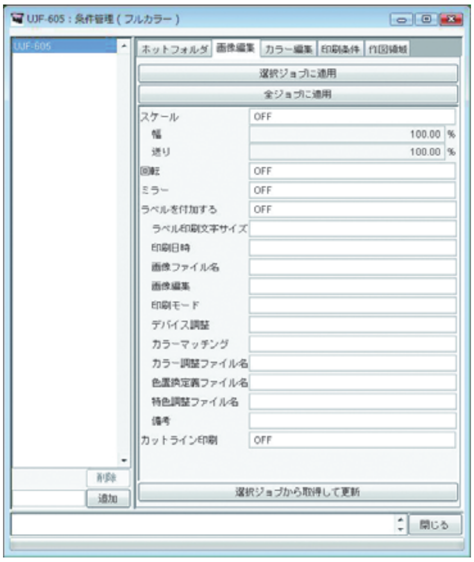


［画像編集］サブメニュー

画像編集のパラメータを設定します。パラメータの設定方法は、☞ P.184 を参照してください。

設定可能なパラメータは次の通りです。

スケール、回転、ミラー、カットライン印刷、印刷情報ラベル



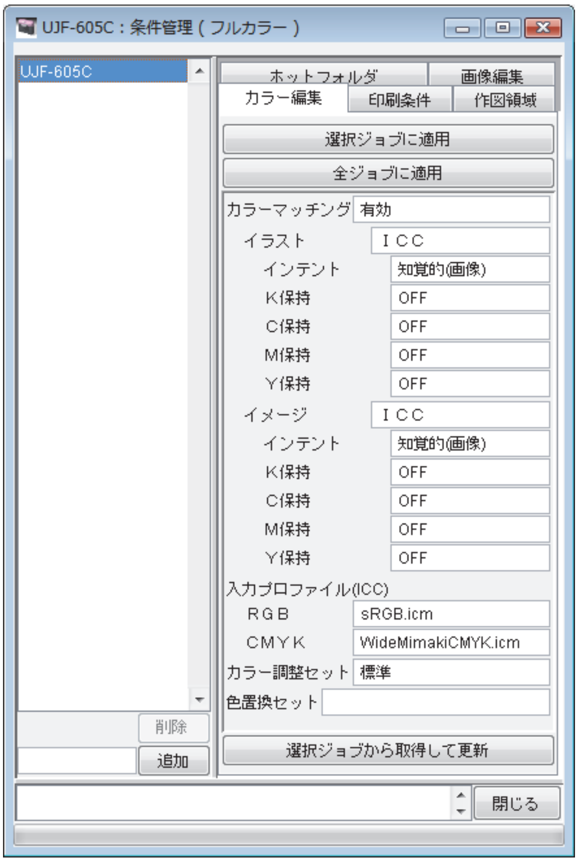
重 要! パネリングを設定しているジョブには、条件を適用できません。

［カラー編集］サブメニュー

カラー編集のパラメータを設定します。パラメータの設定方法は、☞P.184 を参照してください。

設定可能なパラメータは次の通りです。

カラーマッチングの全てのパラメータ、カラー調整セット、色置換セット、特色調整設定

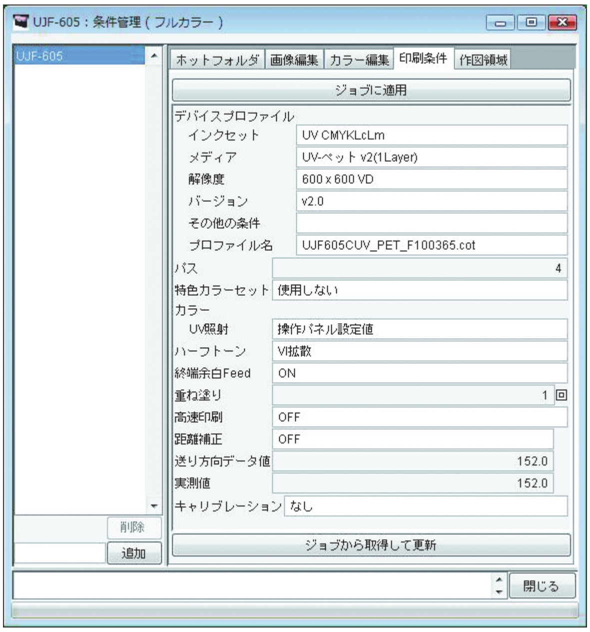


［印刷条件］サブメニュー

印刷条件のパラメータを設定します。パラメータの設定方法は、☞P.184 を参照してください。

設定可能なパラメータは次の通りです。

デバイスプロファイル、印刷モードの全てのパラメータ

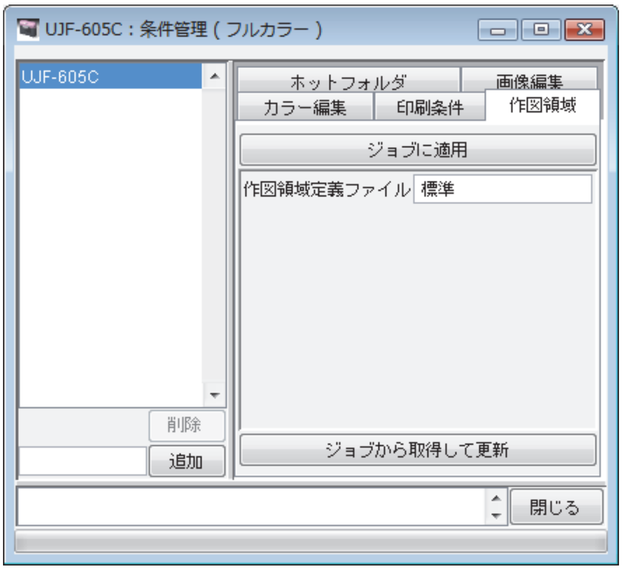


［作図領域］サブメニュー

作図領域のパラメータを設定します。パラメータの設定方法は、P.184 を参照してください。

設定可能なパラメータは次の通りです。

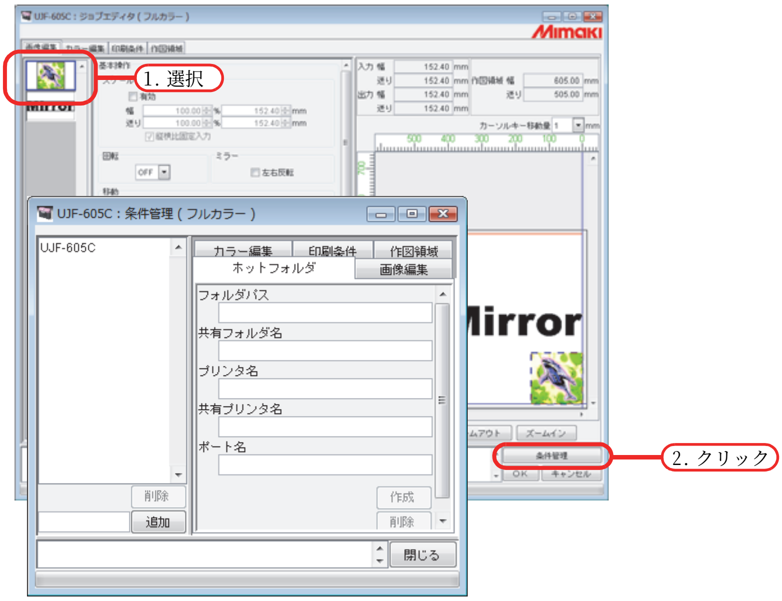
作図領域定義ファイル



条件管理ウィンドウを表示する

条件を設定するジョブを 1 画像選択し、[条件管理] ボタンをクリックします。

“ 条件管理 ” ウィンドウを開きます。



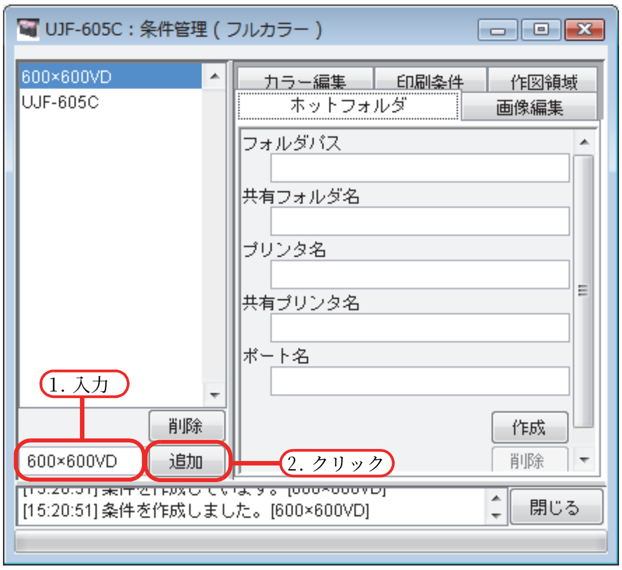
条件セットの新規作成

条件名を入力します。

重 要 !　条件管理名に下記の半角文字は使用できません。
\ / : * ? “ < > I ! ,

[追加] ボタンをクリックします。

条件リストに追加します。

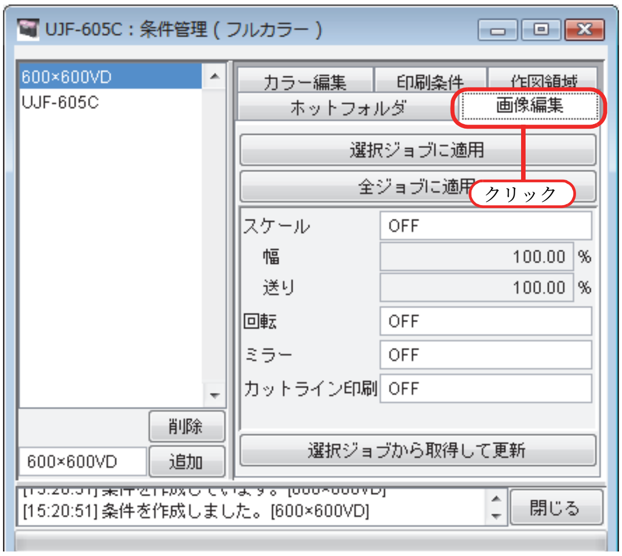


登録済みの条件セットを編集して別名で登録する場合は、編集するセットを選択し、セット名を変えた後に [追加] ボタンをクリックします。

条件の設定値を変更する

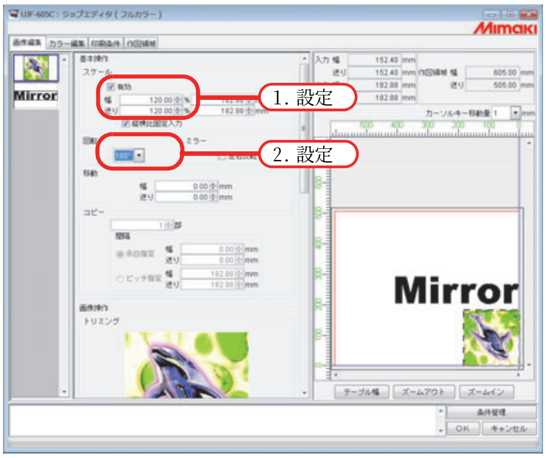
各条件（画像編集、カラー編集、印刷条件、作図領域）の設定値を変更します。
現在 “ ジョブエディタ ” で編集中のジョブから値を取得します。
画像編集と作図領域は単独で、カラー編集と印刷条件はセットで設定が変更されます。

1 条件管理ウィンドウを開きます。
変更する条件のサブメニューを開きます。
ここでは [画像編集] を開きます。
“ ジョブエディタ ” も [画像編集] を表示します。



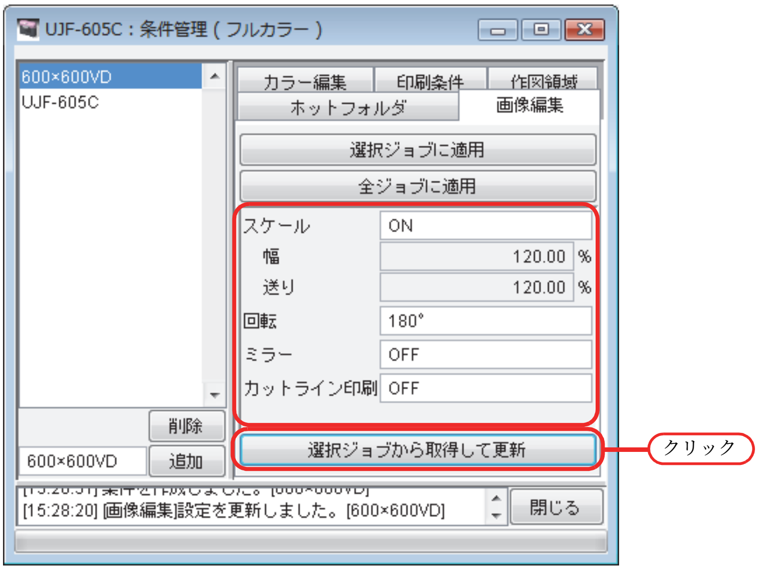
条件管理ウィンドウで表示したサブメニューに合わせて、“ ジョブエディタ ” のメニューも切り替わります。

2 “ ジョブエディタ ” で、パラメータの設定を行います。
例では以下のように設定しています。
スケール　　　：120%
回転　　　　　：180°



3 条件管理ウィンドウの 選択ジョブから取得して更新 ボタンをクリックします。

“ジョブエディタ”で設定したパラメータを取得し、表示します。



条件をジョブに適用する

条件管理で設定した条件を、ジョブに適用します。

画像編集と作図領域は単独で設定が変更されます。カラー編集と印刷条件はセットで設定が変更されます。

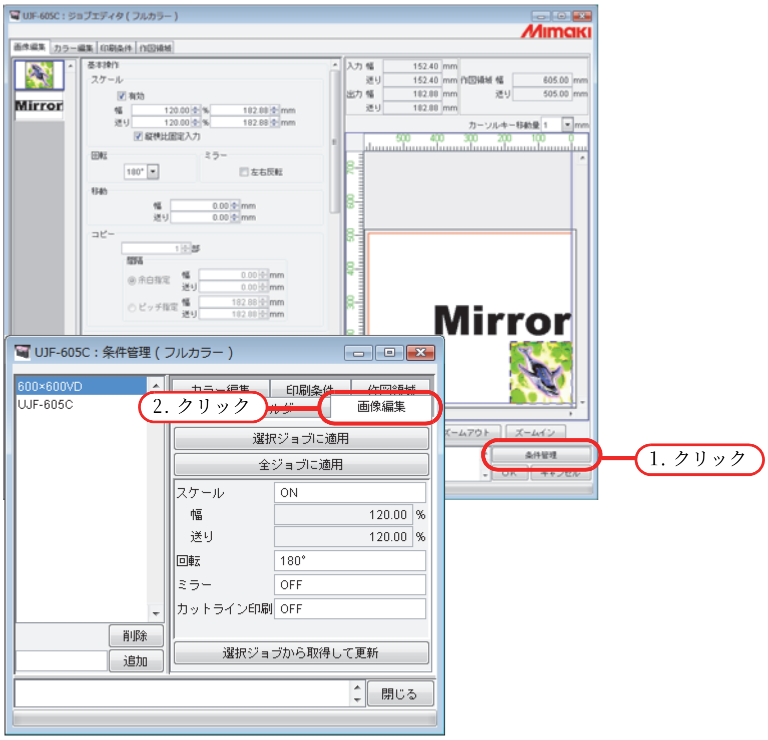
画像編集の条件は、“ 画像編集 ” のサムネイルリストで選択している 1 つ以上のジョブ、または全てのジョブに適用します。

カラー編集の条件は、“ カラー編集 ” のサムネイルリストで選択しているジョブにだけ、または全てのジョブに適用します。

印刷条件と作図領域の条件は、グループ化している全てのジョブに適用します。

1 条件管理ウィンドウを開きます。
変更する条件のサブメニューを開きます。
ここでは [画像編集] を開きます。

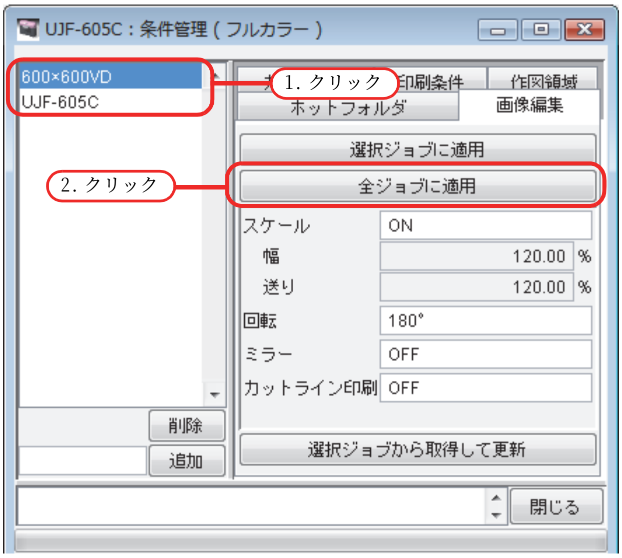
“ ジョブエディタ ” も [画像編集] を表示します。



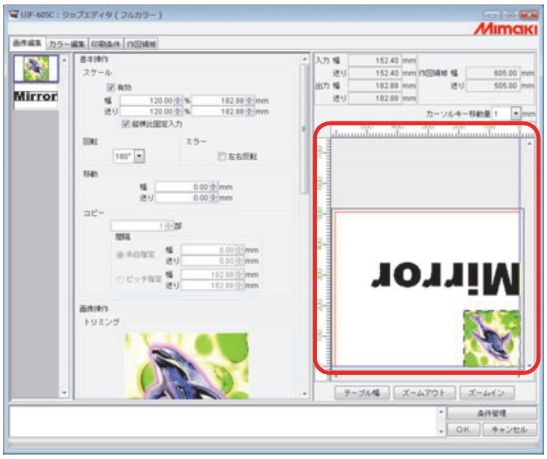
条件管理で表示したメニューに合わせて、“ ジョブエディタ ” のメニューも切り替わります。

2 適用する条件を選択します。
適用ボタンをクリックします。

ここでは 全ジョブに適用 ボタンをクリックします。



3 “ジョブエディタ”の全ジョブに適用します。



［ホットフォルダ］サブメニュー

ホットフォルダとプリンタドライバを作成します。

1 つの条件セットに対し、1 つのホットフォルダとプリンタドライバを作成します。

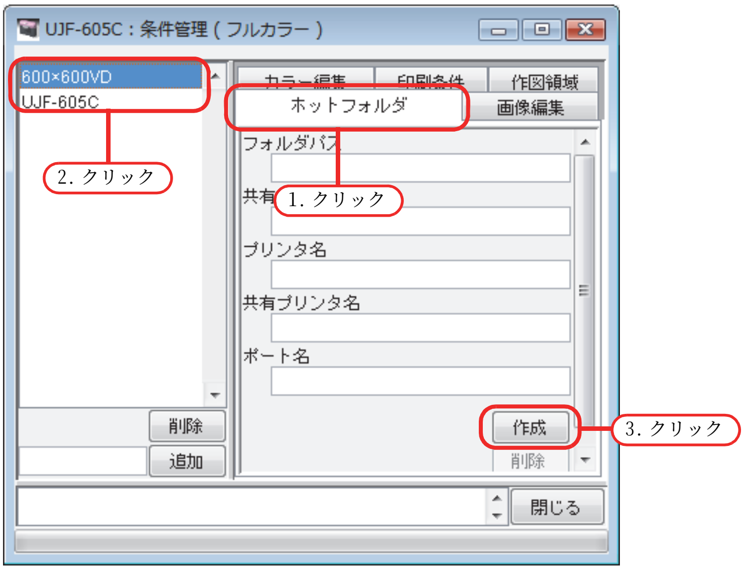
作成したホットフォルダ・プリンタドライバを使用してスプールしたジョブの各条件には、条件管理で設定した条件が反映されます。

ホットフォルダとプリンタドライバの作成

1 条件管理ウィンドウを開き、[ホットフォルダ] メニューを開きます。
ホットフォルダを作成する条件セットを選択します。
作成 ボタンをクリックします。

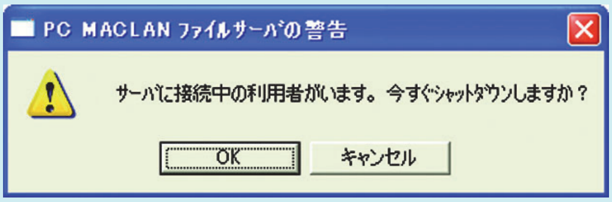
重要！

- ホットフォルダやプリンタドライバの作成中に RasterLinkPro5 IP を強制終了しないでください。
- Windows Me 以前の古い OS の PC からホットフォルダ・共有プリンタにアクセスする場合、条件セット名を半角で 11byte 以内にしてください。



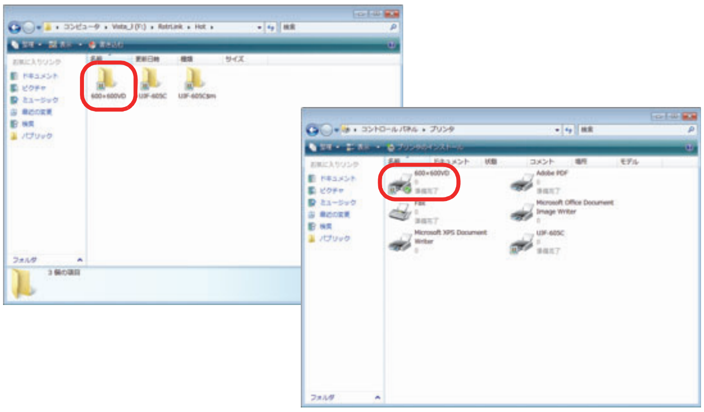
重要！

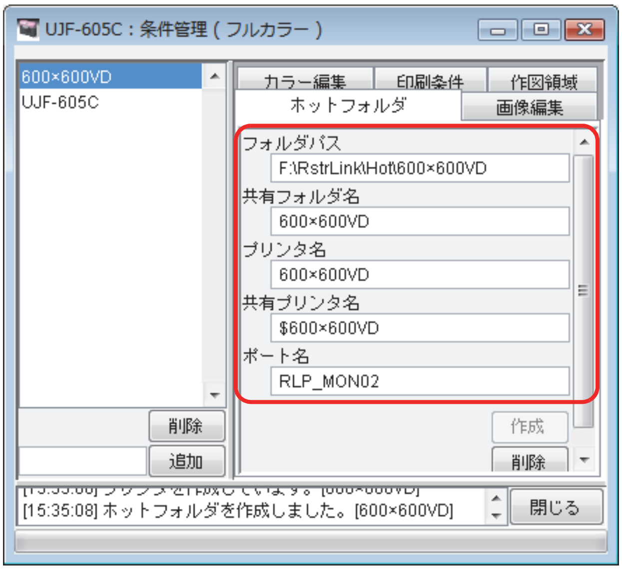
RasterLinkPro5 IP PC に PC MACLAN がインストールされている場合、ホットフォルダの作成途中で [PC MACLAN ファイルサーバの警告] 画面が表示されることがあります。 OK ボタンをクリックして PC MACLAN ファイルサーバを停止してください。PC はシャットダウンされません。



2 ホットフォルダとプリンタドライバが作成されます。
ホットフォルダとプリンタドライバの情報を表示します。

> **重要!**
> - RasterLinkPro5 IP で作成したホットフォルダに対し、以下のことは絶対に行わないでください。アンインストールできなくなります。
>   フォルダ名の変更、共有名の変更、共有の解除、ホットフォルダの削除
> - RasterLinkPro5 IP で作成したプリンタドライバに対し、以下のことは絶対に行わないでください。アンインストールできなくなります。
>   名前の変更・削除、共有名の変更、共有の解除





PC MACLAN の自動設定について

RasterLinkPro5 IP に PC MACLAN がインストールされている場合、ホットフォルダとプリンタドライバの作成を行うと、自動的に PC MACLAN の設定が行われます。
この際、自動的に以下の名称が付けられます。

PC MACLAN ファイルサーバ

ファイルサーバ名称： RasterLinkPro5 IP PC のホスト名
共有フォルダ名 ： 条件セット名

PC MACLAN プリントサーバ

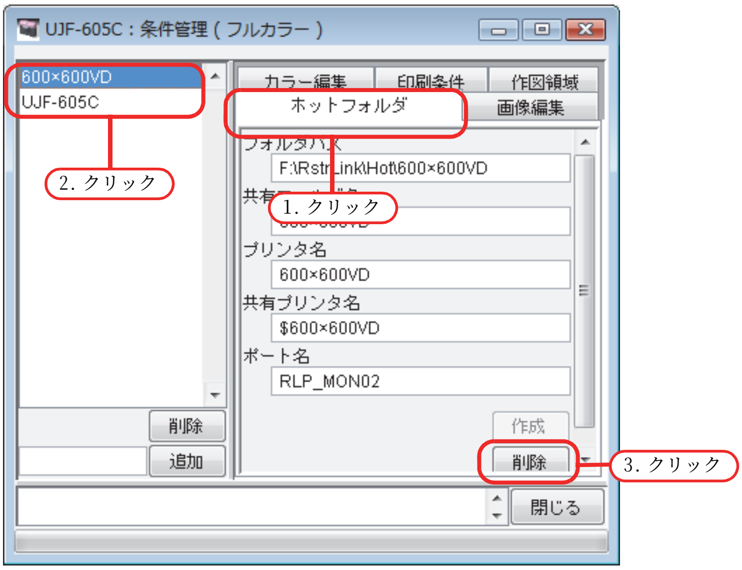
スプーラ名 ： 条件セット名 _RasterLinkPro5 IP PC のホスト名

重要！
- PC MACLAN プリントサーバのスプーラ名は、仕様上最大 27byte となっています。
  条件セット名またはホスト名が長い場合、28byte 目以降は切り捨てられます。
  Macintosh からプリンタドライバ出力される場合は、あまり条件セット名を長くしないことをお奨めします。
- ホットフォルダとプリンタドライバの作成時に、RasterLinkPro5 IP は PC MACLAN を再起動させます。この際一時的に Macintosh クライアントとの接続が絶たれるため、ホットフォルダ内に削除できないファイルが残る等の問題が発生します。
  ホットフォルダとプリンタドライバの作成は、Macintosh でマウントしたホットフォルダをアンマウントしてから行ってください。

ホットフォルダとプリンタドライバの削除

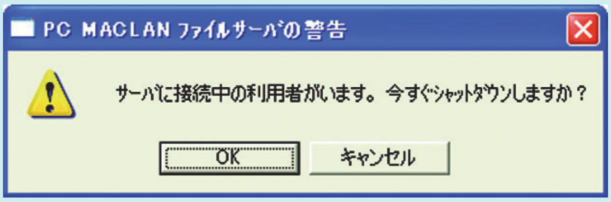
1 条件管理ウィンドウを開きます。
[ホットフォルダ] メニューを開きます。
ホットフォルダを削除する条件セットを選択します。
削除 をクリックします。

重要！ ホットフォルダやプリンタドライバの削除中に RasterLinkPro5 IP を強制終了しないでください。



重要!

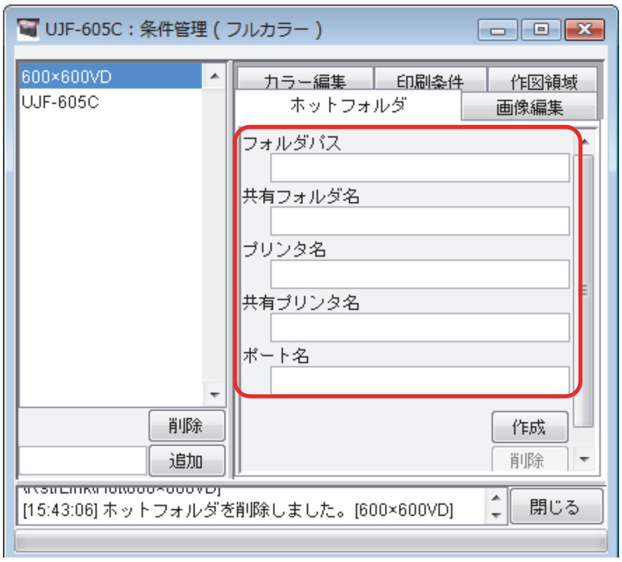
RasterLinkPro5 IP PC に PC MACLAN がインストールされている場合、ホットフォルダの削除途中で [PC MACLAN ファイルサーバの警告] 画面が表示されることがあります。 OK を クリックして PC MACLAN ファイルサーバを停止してください。PC はシャットダウンされません。



2 ホットフォルダとプリンタドライバが削除されます。

重要!

Macintosh から AppleShare で RasterLinkPro5 IP のホットフォルダを共有している場合、ホットフォルダを削除できない場合があります。
この場合、Macintosh でマウントした共有ボリュームをアンマウントしてから 削除 を クリックしてください。



PC MACLAN の設定解除について

RasterLinkPro5 IP に PC MACLAN がインストールされている場合、ホットフォルダとプリンタドライバの削除を行うと、自動的に PC MACLAN の設定が解除されます。

重要!

- ホットフォルダとプリンタドライバの削除時に、RasterLinkPro5 IP は PC MACLAN を再起動させます。この際一時的に Macintosh クライアントとの接続が絶たれるため、ホットフォルダ内に削除できないファイルが残る等の問題が発生します。
  ホットフォルダとプリンタドライバの削除は、Macintosh でマウントしたホットフォルダをアンマウントしてから行ってください。
- PC MACLAN ファイルサーバのボリューム情報は自動的に削除されません。
  PC MACLAN ユーザガイドの、PC MACLAN ファイルサーバの使用法の章に従い、[ボリューム情報を削除] を行ってください。

プリンタステータス表示機能

“プリンタステータス”では、接続されたプリンタの状態表示や、プリンタ固有の設定を行います。

出力ポートごとに表示する内容が異なります。

“プリンタステータス”は、各プリンタの実行中ジョブ画面に表示されます。

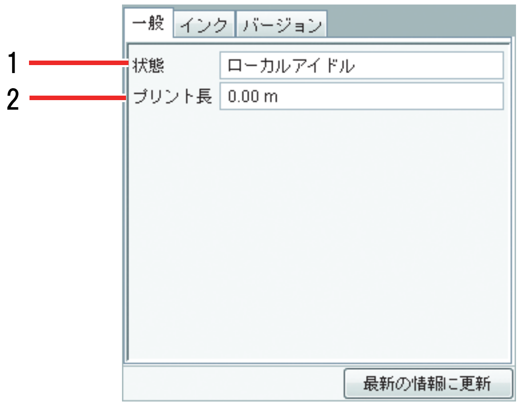
重 要!

- プリンタステータスは自動的に更新表示されません。最新の状態を確認したい場合は [最新の情報に更新] ボタンをクリックしてください。
- 印刷中に [最新の情報に更新] ボタンをクリックすると、表示が更新されるまでに時間がかかります。

出力ポートが IEEE1394、USB2.0 の場合

“一般” 情報

現在のプリンタの状態を表示します。



1. 状態

現在のプリンタの状態です。

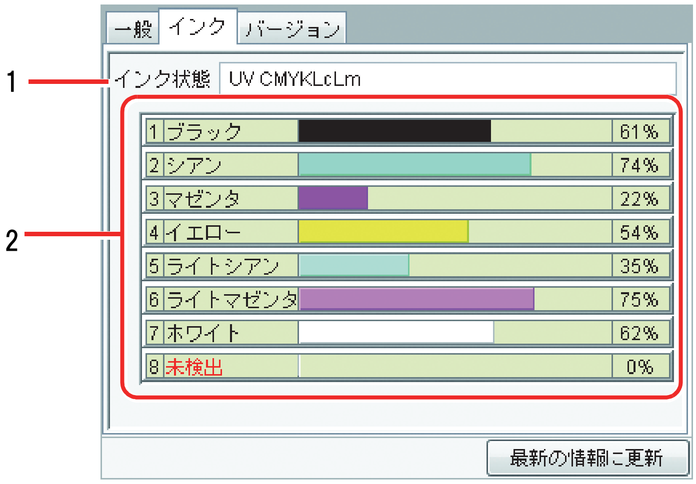
状態	内容
ノットレディ	プリンタ起動時に行う初期動作中です。この状態の時はプリンタに出力しないでください。
カバーオープン	プリンタのフロントカバーが上がっています。フロントカバーを閉めてください。
ローカルアイドル	プリンタがローカル状態です。この状態でプリンタに出力しても、印刷を開始しません。出力する場合、プリンタをリモートモードにしてください。
ローカルアクティブ	プリンタがクリーニングやテストプリントを実行中です。この状態でプリンタに出力しても、印刷を開始しません。出力する場合、プリンタをリモートモードにしてください。
リモートアイドル	プリンタがリモート状態です。この状態でプリンタに出力すると、印刷を開始します。
リモートアクティブ	印刷中です。

2. プリント長

出力最中の実際にプリントされた長さを表示します。

“インク” 情報

プリンタにセットしてあるインクの情報を表示します。



重要!

プリンタ本体にインクカートリッジが挿入されていない場合、インク情報を正しく表示できない場合があります。
インク情報を表示するには、プリンタ本体にインクカートリッジを正しく挿入してください。

1. インク状態

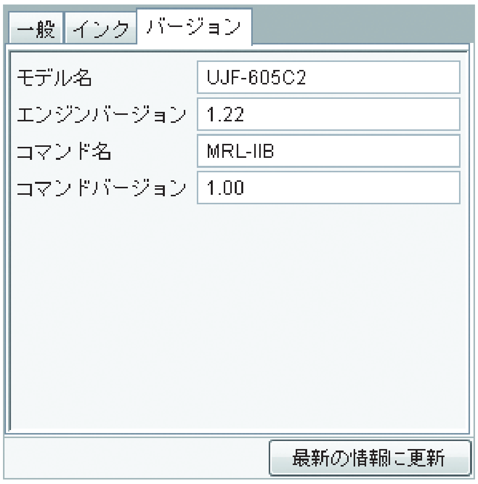
インクセット名を表示します。

2. 各スロットのインク色と残量

各スロットのインク色名と残量を表示します。

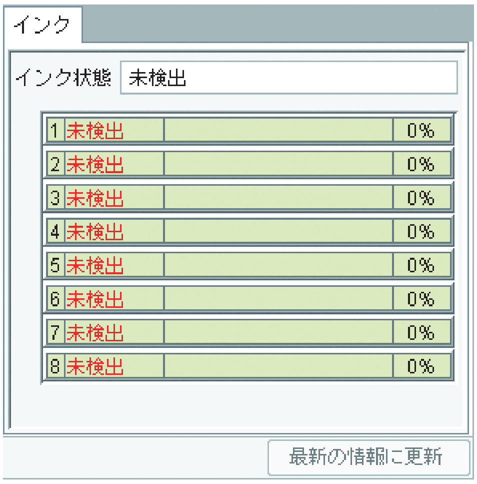
“バージョン” 情報

プリンタのバージョン情報などを表示します。



出力ポートが IEEE1394、USB2.0 以外の場合

“インク” 情報



付録

色取得機能と対応スキャナについて

スキャナを使ってカンプなどの原稿とデータの色味を合わせて出力（色取得機能）することができます。

ここでは、色取得機能を使用するときにスキャナドライバで設定する項目ついて説明します。お使いになるスキャナの機種に応じて、本書で説明しているスキャナドライバの設定を行ってください。

対応スキャナ

色取得機能では、以下のスキャナに対応しています。

EPSON GT-X800

重 要！

- スキャナ本体、およびスキャナドライバの操作方法や注意事項については、スキャナに同梱の取扱説明書を参照してください。
- 色取得機能を使用する場合、本書に記載された設定値を使用してください。
  取得される色の精度に影響が出ます。
- スキャナを本ソフトウェアの色取得機能以外に使用している場合、スキャナドライバのデフォルト設定値が変更されています。
  本ソフトウェアの色取得機能で使用する場合、設定値の確認をしてください。

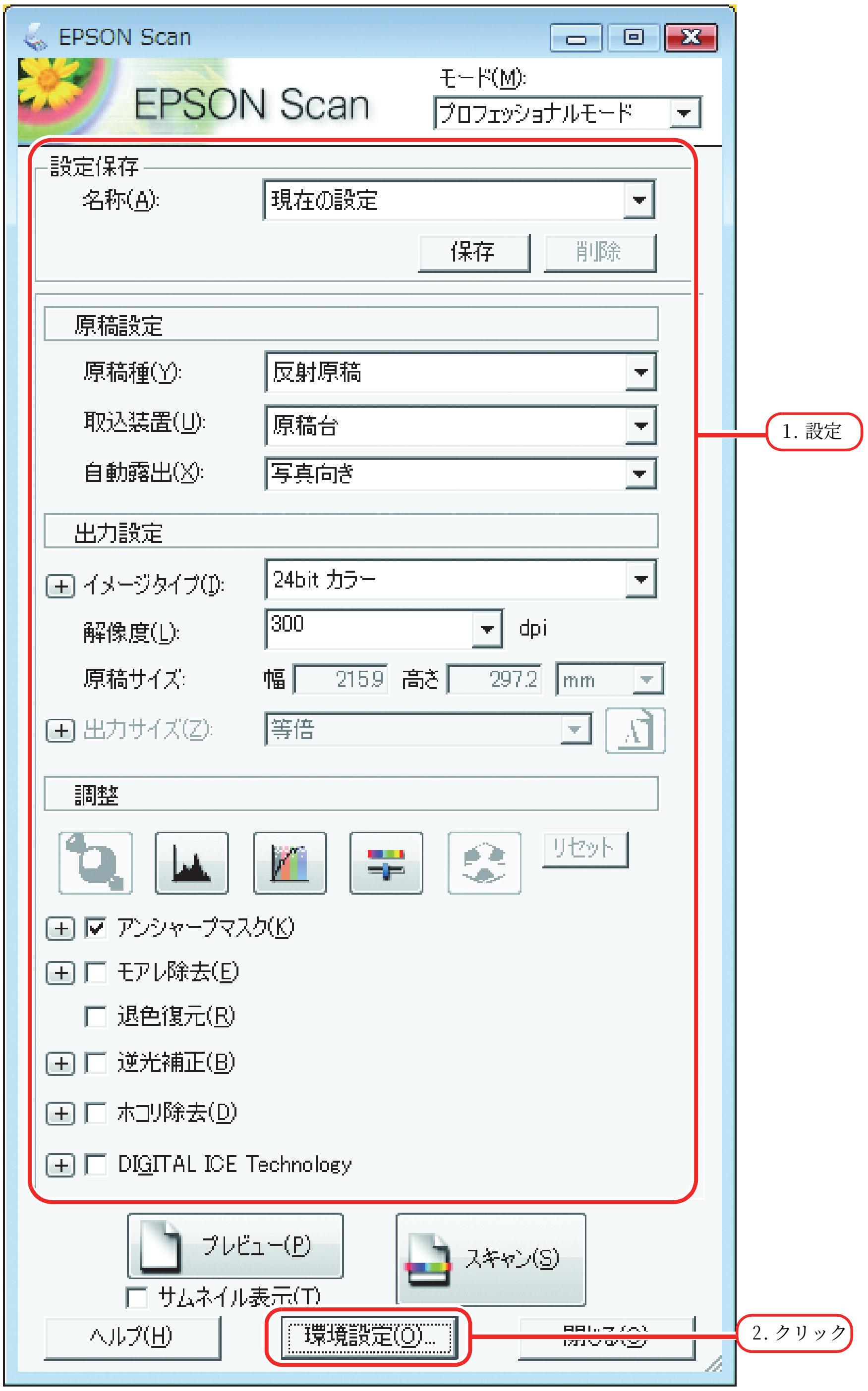
スキャナドライバの設定内容

色取得機能で使用するスキャナの機種を選択し、スキャン開始 をクリックすると、スキャナドライバの画面が表示されます。

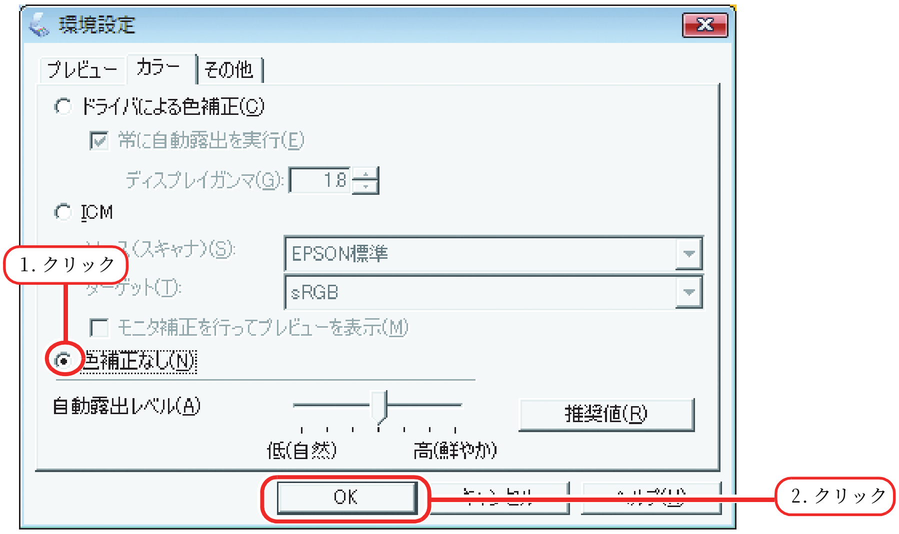
以降で説明する設定で画像データの取り込みを行ってください。

EPSON GT-X800 をお使いの場合

1 スキャナの動作が始まってから、しばらくするとスキャナドライバの画面が表示されます。以下のような設定をして、環境設定 をクリックします。

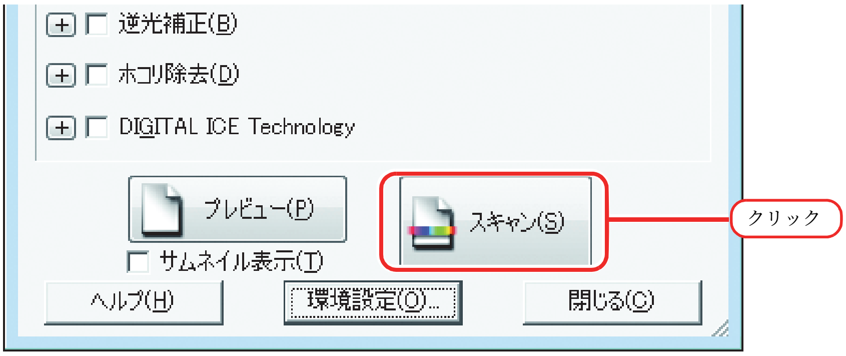


2 ［環境設定］画面の［カラー］メニューで［色補正なし］を選択して、 OK をクリックします。



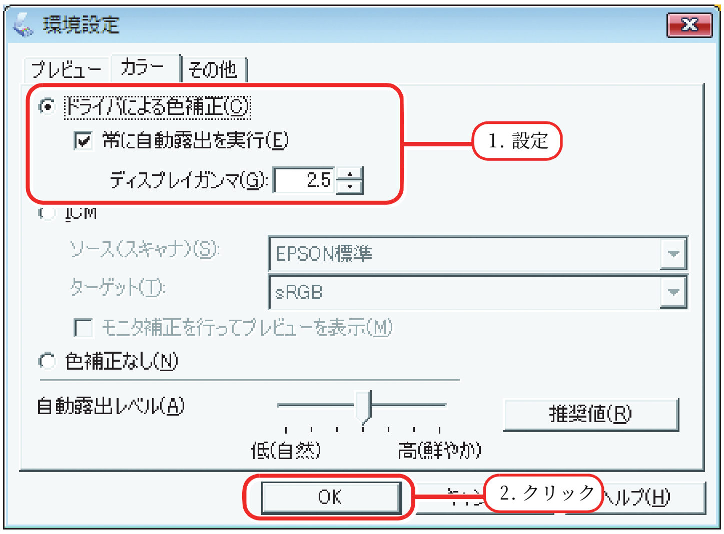
3 スキャン をクリックします。

画像の取り込みが始まります。



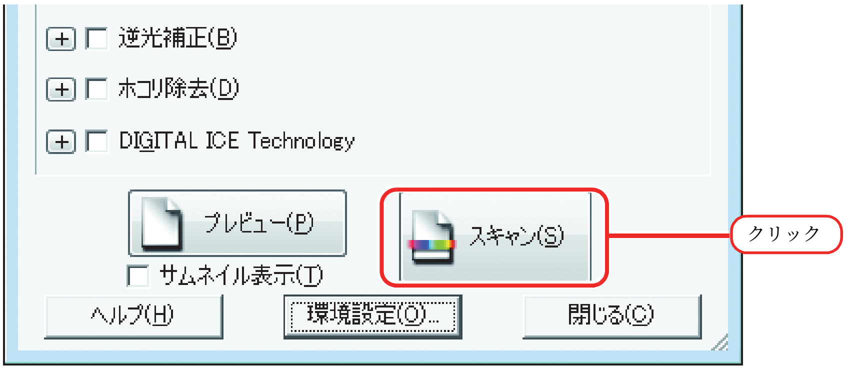
4 画像の取り込みが終わると、再度スキャナドライバの画面が表示されます。そのままの設定で 環境設定 をクリックします。

5 ［環境設定］画面の［カラー］メニューで以下のような設定をして、 OK をクリックします。



6 スキャン をクリックします。

再度画像の取り込みが始まります。



以上でスキャナの操作は終了です。

「原稿の色を取得する（色取得）」（P.116）を参照して、色取得機能の操作を進めてください。

索引

記号

.... 112

B

Back Space キー 88

C

CMYK 94
CMYK カラー 105
C 保持 79

D

Delete キー 88
DIC カラーガイド 121

I

ICM 79
IEEE1394 192
ILL 拡散 148

K

K 保持 79

M

M 保持 79

P

PANTONE カラーチップ 126

S

S 148

U

UV モード 144, 150

V

VI 拡散 148

Y

Y 保持 79

あ

青いガイドライン 162
赤い矩形 157, 159, 161

い

イコライゼーション (情報) 145
“ 一般 ” 情報 192
移動 18, 169
イメージ 79
イメージ画像のハイライト部を特色インクで強調する 133
イメージ全体 37
イラスト 79
色取得 98, 116
色置換 93
色置換セットの更新 103
色置換セットの削除 104
色置換セットの作成 102
色置換セットの選択 104
インクカーブ 85, 87, 90
インク指定リスト 88
インク状態 193
“ インク ” 情報 193, 195
インク濃度の調整 83
インクリミット 85, 86
インクリミット値 83
印刷時に位置合わせをする 26
印刷条件 177, 181
印刷条件の編集 143
印刷情報ラベル印刷 30
印刷濃度 134
印刷モード 144, 147

お

送り 158, 160
送りオフセット 158
送り方向 162, 164

か

カーソルキー移動量 10, 154
回転 16
各スロットのインク色と残量 193
重ね代 44
画像サイズ表示 10
画像の配置情報 162
画像の配置方法 157
画像編集 177, 179
カットライン 24

カットライン印刷 49
カバーオープン 192
カラー 99
カラーコレクション 99, 121
カラー調整 80
カラー調整セット 81
カラー調整セット名 81
カラー編集 78, 177, 180
カラーマッチング 78

き

キーボード 90
キーボードによる画像の移動 19
キーボードによる原点の移動 163
キャリブレーション 145, 153
キャリブレーション、イコライゼーション 153
キャリブレーション（情報） 145

く

偶数列反転 53
グラデーション 94, 100, 113
グラデーション置換 113
グループ化 60
グレーバランス 79, 85

け

原点 155, 156, 162
原点ガイド 156
原点ガイドライン 156

こ

コーナ 162
更新 89, 155
更新ボタン 89
合成した複数ジョブの出力順設定 70
合成順 134
合成順例 135
合成に固有の機能 71
合成の指定方法 69
高速誤差拡散 148
後端合わせ 164
この取扱説明書について 4
コピー 20, 171
コピー間隔 21
個別指定 40, 41
コントラスト 84
コントロールポイント 87, 88, 90

さ

サイズ変更 41
最大作図エリア 157
最大作図エリアの先端 156
彩度（グラフィック） 79
削除 155, 176
作図タイル選択 50, 51
作図領域 154
作図領域定義ファイル 154
作図領域定義ファイルの削除 167
作図領域定義ファイルの選択 167
作図領域定義ファイルの登録 166
作図領域定義ファイル名入力ボックス 155
作図領域表示 10
サムネイル 99, 100
サムネイルリスト 10, 11, 169

し

指定 51
指定順クリア 51
指定色を反転表示する 98, 100, 112
自動特色版合成 134
出力階調 89
出力情報 98, 100
出力ポートが IEEE1394、USB2.0 以外の場合 195
出力ポートが IEEE1394、USB2.0 の場合 192
順次 67
条件管理 176
条件管理ウィンドウを表示する 183
条件セットの新規作成 183
条件の設定値を変更する 184
条件名入力ボックス 176
条件リスト 176
条件をジョブに適用する 186
状態 192
情報表示 177
初期原点 156
“ジョブ一覧” 上で面付けする 61
ジョブの編集 169
ジョブの編集中に面付けするジョブを追加する 63

す

スウォッチライブラリを作成する 112
スケール 14
全て表示 89
スポットカラー 93, 95, 105
スポットカラー・CMYK カラーの置換 105

せ

整列 67, 170
整列方法 54
絶対的な色域を維持 79
設定画面 10
前回のカーブを表示 89
全ジョブに適用 187
全タイルに適用 39
先端合わせ 164

そ

相対的な色域を維持 79

た

タイリング解除 36
タイリングプレビュー 34
タイリング編集 31, 36
タイル設定の前に画像編集をする 36
タイルの印刷順序を設定する 50
タイルのオプションを設定する 44
タイル番号印刷 48
タイルを印刷する 58
タイルを順次印刷する 50
タイルを分割する 39
タイルをレイアウトする 53
縦横比固定入力 14
単色 101
単色置換を設定する 101
単色の置換 115

ち

知覚的（画像） 79
置換後の色 101
置換情報一覧 99, 100, 111
置換元の色 101
中央 162
中央合わせ 164

つ

追加 89, 155, 176

て

デバイスプロファイル 146
デフォルト 158, 160
デフォルトカーブ 89
デフォルトに戻す 89
デフォルトに戻すボタン 89

と

等間隔 39
特色カラーセット 148
特色調整 132
特色調整セットを更新する 139
特色調整セットを削除する 139
特色版補正機能 141
特色領域 134
閉じる 177
ドットサイズ 149
トリミング 23, 170
トリミング印刷 23
トンボ 26

に

入力階調 87, 89
入力情報 98, 100
入力プロファイル 79
任意の場所に配置する 54

ね

ネスト 67

の

ノズルリカバリ 172
ノットレディ 192

は

“バージョン”情報 194
配置 67
配置 - 整列 67
配置方法 155, 164
配置方法とネストの関係について 22
パネリング 28
パネリング印刷 28
幅 158, 160, 162
幅オフセット 158
幅方向 162, 164

ひ

ピッチ指定 21

ふ

複数印刷 20
複数色置換を設定する 98, 100
複数ジョブの入れ替え 12
複数のジョブを一度に印刷する 60
複数ページ 168
プリンタ原点 156
プリンタステータス 192
プリントエリアビュー 154, 156
プリント長 193
プレビュー 112
プレビュー画面 100, 101
プロファイル情報 144, 152
プロファイルの絞込み 146
プロファイルリスト 144
分割位置の微調整 42
分割間隔 34
分割線を点線で印刷 47
分割マーク 34

ほ

補間方法 89
ホットフォルダ 177, 178, 188
ホットフォルダとプリンタドライバの削除 190
ホットフォルダとプリンタドライバの作成 188
本文中の表記について 4

ま

マークについて 4

み

右下コーナー 38
ミラー 17

め

面付けジョブ編集中の面付け解除 66
面付けの解除 65
面付けの指定方法 61

も

元に戻す 89
元に戻すボタン 89

ゆ

有効 78
有効作図エリア 157
有効作図範囲 155, 158
有効作図範囲の設定 159, 161
有効作図範囲の端面 156

よ

用語について 4
余白指定 21

り

リニアライゼーション 86
リモートアイドル 192
リモートアクティブ 192

れ

レイアウト設定 35
レイアウトプレビュー 10, 13, 35
冷却時間 149
レンダリング 78

ろ

ローカルアイドル 192
ローカルアクティブ 192
ロールオプション 149

わ

ワークサイズの設定 37
ワークチェンジ 149
ワークの移動 38
ワークの設定をする 37
ワーク枠 34

D202034-20-30082014

© 2014 MIMAKI ENGINEERING CO., LTD. All rights reserved.

NH

SW: 4.3